

令和 6 年度

笠岡市施策評価報告書

令和 6 年 9 月

笠岡市施策評価委員会

笠岡市の施策評価の実施にあたって、施策評価委員会による評価を行い、その結果を報告書としてとりまとめましたので、報告します。

笠岡市長 栗 尾 典 子 殿

令和 6 年 9 月 3 日

笠岡市施策評価委員会
委員長 小 林 正 和

1 笠岡市の行政評価について

笠岡市では、行政サービスに対する市民ニーズが多様化・高度化する中で、行政が進める政策を実現するための施策について、客観的な指標等をもとに行政評価（施策評価）を実施し、事業効果の検証や進行管理を行うことで、施策の見直しや改善につなげています。

行政評価制度を確実に実施することにより、指標実現に向け職員自らが取り組む業務を常に見直し、自らが課題を見つけ、そして改善に繋げ、行政運営全体の質的な向上が大きく促進されます。そして結果を公表して説明責任を果たすことで行政活動の透明性が高まり、市民の満足度の向上へとつながります。

2 施策評価について

平成 19 年度から施策評価を導入し、総合計画とも連携した新たな仕組みづくりが進められ、平成 23 年度から、施策評価委員会を設置して施策評価を実施しています。

平成 30 年度から始まった第 7 次笠岡市総合計画では、市民意識調査の満足度・重要度の調査結果を踏まえ、施策ごと、目標ごとに、計画期間中に実現を目指す指標を設定し、PDCA サイクルを確立して適切な進捗管理を行うことにしています。施策評価では、指標を評価の核として、その達成状況から結果にこだわって施策の進捗状況をチェックし、各施策の方針や今後の展開を明確にしていくこととしています。

3 施策評価委員会の設置について

(1) 目的

施策の実施担当部局が行った自己評価に基づき、有識者及び市民の代表者と行政組織の職員により、総合計画の進捗状況を市民の目線で評価していただくことで、施策評価の妥当性・透明性を確保し、信頼性を高めることを目的としています。

(2) 委員構成

施策評価に対する共通認識を深めるため、外部委員と内部委員の混合で構成します。(合計 8 名)

外部委員：

第 7 次総合計画審議会の会長・委員，笠岡市人権施策推進委員会の委員長
(計 4 名)

内部委員：

まると支援推進課長，商工観光課課長補佐，政策部長，総務部長
(計 4 名)

委員名簿は別紙のとおり

4 評価対象施策について

施策評価は，第 7 次笠岡市総合計画の基本計画を構成する 36 施策を評価対象としています。

- 経営戦略： 6 施策
- 活性化戦略： 8 施策
- 未来戦略： 6 施策
- 安定戦略： 12 施策
- 計画推進戦略： 4 施策

5 評価の方法等について

(1) 評価の方法

① 評価の方法

令和 4 年度における取組について，施策実施担当部局が作成した施策評価シート及び関係資料に基づく書面評価と，委員会でのヒアリングを実施しました。

②評価の観点

施策評価の仕組みをより信頼性の高いものとするため、

- ・指標の達成状況から見た現状分析が妥当であるか
- ・施策を構成する事業の進行状況の現状認識が妥当であるか
- ・これらを踏まえた改善策が適切に方向付けされているか
- ・総合評価としての認識が妥当であるか

といった視点で評価を行いました。

③委員会の開催結果

日 時	内 容
7月23日(火)	施策評価委員会（1日目） 評価方法及び進め方等の確認 施策評価シートヒアリング及び評価
7月25日(木)	施策評価委員会（2日目） これまでの委員会を踏まえての協議・まとめ

(2)評価の結果

①総評

委員会としては、

A：計画どおり進行している。

B：おおむね計画どおり進行している。

C：計画より一部遅れている。

D：計画より遅れている。

の4段階で評価を行いました。

ヒアリングした施策は15施策中、A評価が1、B評価が12、C評価が2、D評価が0であり、ヒアリングをしなかった施策は書面だけで行い、21施策中、A評価が4、B評価が17、C評価が0、D評価が0となりました。この結果、全36施策中、A評価が5、B評価が29、C評価が2、D評価が0となりました。

(評価結果一覧表は別紙のとおり)

今年（令和 5 年度の施策評価）のヒアリング施策の選定方法は、下記の 2 つで行いました。

a) ヒアリングの日程

ヒアリングの日程については、昨年は 1 日間 10 施策で行いましたが、今年は 1 日では短いということで、2 日間の日程 15 施策（一昨年は 3 日間 17 施策）で実施することになりました。

b) ヒアリング施策の選定方法

ヒアリング施策の選定方法については、ここ 2 年間ヒアリングをしなかった施策、重要度が高い施策、さらに新市長による公約の内重要な施策を中心に 15 施策を選定しました。

この 15 施策のうち、新たな施策は 7 つ（1-6 干拓地農業の活性化、2-5 離島振興、2-7 多様な交流の促進、3-3 生涯学習の推進、3-5 歴史の継承・文化の振興・カブトガニの保護と活用、4-3 医療・救急体制の整備、5-2 健全な財政運営）、残り 8 施策は昨年に引き続いての施策でした。

また書面審査は 21 施策と昨年 26 施策（一昨年 19 施策）と比べ少なくなりましたが、日程の都合上仕方のない面があります。

今年は第 7 次笠岡市総合計画の 6 年目の中間評価となっており、施策評価シートは今年も非常に見やすいものになっています。

またヒアリングでの事業説明はポイントを掴んでの発表で、持ち時間 5 分程度でほとんどの施策は終わりました。またその後の質疑も概ね 20 分の時間内で終わり、活発な質疑となりました。

各施策に対する意見等は、それぞれの評価シートに記載のとおりです。

今年は、全 36 施策の内、A 評価は 5 施策、B 評価が 29 施策、C 評価は 2 施策となりました。

昨年は、A 評価は 5 施策、B 評価が 31 施策、C 評価は 0 施策となっており、比較すると A 評価は同数、B 評価は 2 つ減少、さらに C 評価が 2 つ増加となり、少し低い評価結果になりました。

A評価は次の5施策です。

i)「2-8 広域連携の推進」(昨年A), ii)「3-4 スポーツの振興」(昨年A),
iii)「3-5 歴史の継承・文化の振興・カブトガニの保護と活用」(昨年A), iv)
「4-7 身近な上水道」(昨年A), v)「4-8 健全な下水道運営」(昨年B)
昨年と同じA評価が4施策あり,引き続き頑張っていると考えます。

また昨年から評価が上がった施策と下がった施策は,以下の通りです。

○評価が上がった施策:1施策(B評価からA評価への「4-8」)

○評価が下がった施策:3施策(A評価からB評価へは1施策「2-3」,
B評価からC評価へは2施策「1-6」,「2-2」)

今回,最終的な協議で各委員の評価が分かれたのは,次の5施策です。

1)から5)までは評価点が1点違えば,評価が変わる施策でした。審議をした結果,すべての施策の評価は変わりませんでした。

『評価点が1点違えば,評価が変わる施策』

1) 1-6「干拓地農業の活性化」(ヒアリング審査):C評価

B評価が3人,C評価が3人で,B評価に近いC評価でした。昨年も評価が分かれ,A評価からB評価になった施策です。

良い意見:i)サラの事業に見るように活気がみえる。

悪い意見:i)数値は達成しているものもあるが,多くの数値は達成していないという意見が多い。ii)牛の臭気が前回は気にならないと聞いていたのに,今回は臭気が問題になっている。iii)寺間遊水地のCODの数値の悪化等が問題となっている。

このような意見がありましたが,結果は変わらずC評価となりました。

2) 2-2「定住・住宅対策」(ヒアリング審査):C評価

B評価が3人,C評価が3人で,B評価に近いC評価でした。

良い意見:i)職員はやることをやっており,しっかり仕事をしている。

悪い意見:i)数値は達成しているものもあるが,多くの数値は達成していな

いという意見が多い。ii) 地域おこし協力隊の定住率が悪い。iv) 結婚応援事業をしているが、カップリングが少ない。

このような意見がありましたが、結果は変わらずC評価となりました。

3) 2-3「道路ネットワークおよび港湾・漁港の整備」(書面審査): B評価

A評価が2人、B評価が4人で、A評価に近いB評価でした。昨年も評価が分かれ、A評価のままになった施策です

良い意見: i) 数値はおおむね達成しており、事業は進捗している。ii) 国道2号バイパス工事の盛り土の亀裂は、国の事業なので担当課のせいではない。

悪い意見: i) 国道2号バイパス工事の盛り土の亀裂はショッキングだった。

ii) AかBか迷ったが、書面審査なのでもう少し詳しいことが知りたかった。

このような意見がありましたが、結果は変わらずB評価となりました。

4) 3-6「人権・男女共同参画・平和」(書面審査): B評価

A評価が2人、B評価が4人で、A評価に近いB評価でした。

良い意見: i) 人権推進を中心によく行事に取り組んでいる。ii) LINEを使って人権イベントにしっかり取り組んでいる。iii) スマホで情報発信をしている。iv) ウクライナ避難民を受け入れているのはタイムリーである。

悪い意見: i) 吉田文化会館の利用者が減少している。ii) 審議会委員に占める女性の割合がもう少し上がってもよいのではないかな。

このような意見がありましたが、結果は変わらずB評価となりました。

5) 4-8「健全な下水道運営」(書面審査): A評価

A評価が3人、B評価が3人で、B評価に近いA評価でした。

良い意見: i) 数値はほぼ達成している。

悪い意見: i) 数値は達成しているが、担当部署自己評価はB評価になっている。ii) この指標に現れていない下水道管の交換費用が大きいと思うので、それが心配。

このような意見がありましたが、結果は変わらずA評価となりました。

しかし、今回は書面審査だったので、来年はヒアリング審査をしていただき

たいとの要望がありました。

また自部署の評価についてですが、

A評価をしたのは、1 部署「2-8」（昨年2 部署「1-6」「2-8」）

B評価は、34 部署（昨年は33 部署）

C評価は、1 部署「2-2」（昨年は1 部署「4-3」）

となっていました。

多くの部署がB評価に集中していますが、最終的にA評価が5つとなっているため、もっと自信をもって評価をしていただきたいと思います。なお、この自部署の評価結果も、最終的な評価決定に若干影響があったかと考えます。

特にC評価をした部署は、自信を持って上位の評価をつけることができるように、今後も取り組みに頑張っていただきたいと思います。

②改善を望む項目等

【評価シート】

1) シートの作成にあたって

今回使用の施策評価シートは、引き続き見やすいものになってきています。さらに、的確に事業内容等が書かれていることなどは、評価できると考えます。

【評価の方法】

評価にあたっての総括、課題は、下記の項目が挙げられます。

1) 施策評価が若干下がった

A評価が5 施策（昨年5 施策）、B評価が29 施策（昨年31 施策）、C評価が2 施策（昨年0 施策）と、若干下がったことが挙げられます。さらに頑張りたいと思います。

2) 書面評価が多く、直接説明が聞けない

書面評価の施策がやはり多く、直接説明が聞けないため、評価が難しいことが挙げられます。

3) 昨年は目標・実績達成率の数値が逆になっている例が多かったが、今年は少ない

昨年は目標・実績達成率の数値が、単純にエクセルで計算しているため、実際には悪い数値なのに良い数値（逆もあり）になっていることがありましたが、今年はよく計算されていました。

今年は第7次笠岡市総合計画の6年目ですが、今回の点を勘案して、来年は今年以上に上位の評価になるように、引き続き施策の充実に積極的に取り組んでいただくよう期待します。

施策評価結果

■ 経営戦略

1－1	企業誘致の推進と雇用創出		B		
1－2	農業振興		B		
1－3	商工業振興		B		
1－4	水産業振興		B		
1－5	観光振興		B		
1－6	干拓地農業の活性化			C	

■ 活性化戦略

2－1	魅力的で快適に暮らせる都市形成		B		
2－2	定住・住宅対策			C	
2－3	道路ネットワーク及び港湾・漁港の整備		B		
2－4	利用しやすい公共交通システムの構築		B		
2－5	離島振興		B		
2－6	市民参画・協働の推進		B		
2－7	多様な交流の促進		B		
2－8	広域連携の推進	A			

■ 未来戦略

3－1	子ども・子育て環境の整備		B		
3－2	学校教育の充実		B		
3－3	生涯学習の推進		B		
3－4	スポーツの振興	A			
3－5	歴史の継承・文化の振興・カブトガニの保護と活用	A			
3－6	人権・男女共同参画・平和		B		

■ 安定戦略

4－1	地域福祉の推進		B		
4－2	健康づくり		B		
4－3	医療・救急体制の整備		B		
4－4	障がい者・障がい児福祉の充実		B		
4－5	高齢者福祉・介護の充実		B		
4－6	社会保障		B		
4－7	身近な上水道	A			
4－8	健全な下水道運営	A			
4－9	消防体制の整備		B		
4－10	地域防災の推進		B		
4－11	防犯・交通安全の環境づくり		B		
4－12	廃棄物・環境保全		B		

■ 計画推進戦略

5－1	情報・プロモーションの推進		B		
5－2	健全な財政運営		B		
5－3	財源の確保		B		
5－4	計画管理		B		

計 5 29 2 0

A：計画どおり進行している
 B：おおむね計画どおり進行している
 C：計画より一部遅れている
 D：計画より遅れている

令和 6 年度 施策評価委員名簿

役 職	氏 名	団体・役職等	備考
委員長	小 林 正 和	元福山大学 教授 第 7 次笠岡市総合計画審議会 会長	外部委員
	高 田 正 宏	笠岡市人権施策推進委員会 委員長	外部委員
	玉 置 裕 美	第 7 次笠岡市総合計画審議会 委員	外部委員
	東 山 琴 子	笠岡市教育委員会委員 第 7 次笠岡市総合計画審議会 委員	外部委員
	村 上 佳 代	笠岡市まると支援推進課 課長	
	藤 川 博 敏	笠岡市商工観光課 課長補佐	
オブザーバー	大 須 賀 寿 樹	笠岡市政策部長	
オブザーバー	辻 田 尚 史	笠岡市総務部長	
事 務 局	茂 見 一 壽	笠岡市政策部企画政策課長	
〃	関 麻 美	笠岡市政策部企画政策課課長補佐(兼)係長	
〃	関 藤 文 弘	笠岡市政策部企画政策課主事	

施 策 評 価 シ ー ト

令和 6 年 9 月

笠 岡 市

施策評価シート目次

経営戦略“稼ぐ”

1-1 企業誘致の推進と雇用創出	1
1-2 農業振興	6
1-3 商工業振興	15
1-4 水産業振興	20
1-5 観光振興	26
1-6 干拓地農業の活性化	33

活性化戦略“賑わう”

2-1 魅力的で快適に暮らせる都市形成	38
2-2 定住・住宅対策	45
2-3 道路ネットワーク及び港湾・漁港の整備	52
2-4 利用しやすい公共交通システムの構築	58
2-5 離島振興	62
2-6 市民参画・協働の推進	67
2-7 多様な交流の促進	72
2-8 広域連携の推進	77

未来戦略“輝く”

3-1 子ども・子育て環境の整備	81
3-2 学校教育の充実	95
3-3 生涯学習の推進	107
3-4 スポーツの振興	113
3-5 歴史の継承・文化の振興・カブトガニの保護と活用	118
3-6 人権・男女共同参画・平和	125

安定戦略 “安らぐ”

4-1	地域福祉の推進	133
4-2	健康づくり	139
4-3	医療・救急体制の整備	145
4-4	障がい者・障がい児福祉の充実	153
4-5	高齢者福祉・介護の充実	159
4-6	社会保障	164
4-7	身近な上水道	171
4-8	健全な下水道運営	176
4-9	消防体制の整備	181
4-10	地域防災の推進	190
4-11	防犯・交通安全の環境づくり	196
4-12	廃棄物・環境保全	200

計画推進戦略

5-1	情報・プロモーションの推進	206
5-2	健全な財政運営	213
5-3	財源の確保	218
5-4	計画管理	224

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	1－1	施策名	企業誘致の推進と雇用創出	主 担 当 課	商工観光課
戦略の柱	経営戦略 “稼ぐ”				
基本 方針	“地元で働けるまち”を目指し、企業誘致等により雇用の場を拡大・確保するとともに、こうした市内の雇用の場と市民とのマッチングを推進します。			関 係 課	建設管理課 建設事業課 農政水産課 都市計画課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
1億円以上の設備投資企業数	単位	目標			33	36	38	40
	企業／年	実績	29	24	28	22	—	—
		達成率			84.8%	61.1%	—	—
床面積1,000㎡以上の建物を新たに取得した企業数	単位	目標			8	9	9	10
	企業／年	実績	6	3	2	4	—	—
		達成率			25.0%	44.4%	—	—
「企業誘致・雇用の創出」の満足度 (市民意識調査)	単位	目標			△ 20.0	—	△ 18.0	△15.0(R6)
	%	実績	△ 24.8	—	△ 29.5	—	—	—
		達成率			67.8%	—	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】企業誘致の推進(※①②③④)

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
県営笠岡港(港町地区)工業用地での新規操業 開始企業数(企業誘致に関する奨励金等交付 企業数)	単位	目標		1	1	1	1	1
	企業／年	実績	1	1	1	2	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	200.0%	—	—
その他の場所での新規操業開始企業数 (企業誘致に関する奨励金等交付企業数)	単位	目標		2	1	1	1	1
	企業／年	実績	1	1	0	0	—	—
		達成率		50.0%	0.0%	0%	—	—
事業用地造成促進奨励金支給件数	単位	目標		1	1	1	1	1
	件	実績	0	0	0	1	—	—
		達成率		0.0%	0.0%	100%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	159,490	千円	203,161	千円	185,989	千円	140,502	千円
うち 一般財源	159,490	千円	203,161	千円	184,989	千円	140,502	千円

1	企業誘致促進事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
企業		市民の働く場所を確保するために、市内の適地に優良企業を誘致する。				・企業誘致を積極的に推進する。 ・企業誘致促進のための助成制度、優遇措置等を充実するとともに、企業誘致体制の強化を図る。						
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		●県営笠岡港(港町地区)への優良企業誘致 ●民間活力を活用した工業団地造成 新設土地造成促進奨励金等のPRと活用 ・笠岡市企業立地ガイドの作成 <企業立地促進奨励金交付件数:6件>		⇒ ⇒ ⇒ <企業立地促進奨励金交付件数:5件>			⇒ ⇒ ⇒ <企業立地促進奨励金交付件数:5件> ・広域交通結節拠点周辺開発・整備構想検討業務委託の実施			⇒ ⇒ ⇒ <企業立地促進奨励金交付件数:3件> ・庁内チームによる土地利用の検討		
直接事業費	決算額	149,776	千円	決算額	158,026	千円	決算額	129,590	千円	決算額	74,880	千円
	うち一般財源	149,776	千円	うち一般財源	158,026	千円	うち一般財源	128,590	千円	うち一般財源	74,880	千円

2		創 新設工場等設置奨励事業												
事務事業の目的							事務事業の内容							
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)											
企業			市民の働く場所を確保するため、市内の適地に優良企業を誘致する。				企業誘致をした後の企業に対する経営負担を軽減する。							
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		●民間活力を活用した工業団地の造成 新設工場等の奨励金のPR ●優遇制度のPR 笠岡市のホームページに掲載とパンフレットによるPR活動 ＜補助金交付件数:6件＞			⇒ ⇒ ＜補助金交付件数:13件＞			⇒ ⇒ ＜補助金交付件数:15件＞			⇒ ⇒ ＜補助金交付件数:15件＞			
直接事業費		決算額	9,005	千円	決算額	44,426	千円	決算額	55,690	千円	決算額	64,913	千円	
		うち一般財源	9,005	千円	うち一般財源	44,426	千円	うち一般財源	55,690	千円	うち一般財源	64,913	千円	

3	創 ☆企業・雇用情報の提供システム構築事業												
事務事業の目的							事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)										
市内に住居及び就職先を探している人、企業進出を検討している企業			市内企業の情報を公開することで、①移住・定住を希望する利用者の利便性が向上し、定着人口の増につながる。②企業の活性化、企業誘致につながる。				市内の企業の企業情報、雇用情報を公開する。						

【達成目標2】 地元での就業機会の拡大(※④)

達成目標2の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
笠岡市の年間有効求人倍率(就業地別)	単位	目標		1.40	1.35	1.55	1.40	1.40
	倍	実績	1.05	1.39	1.52	1.27	—	—
		達成率		99.3%	112.6%	81.9%	—	—
高校生出張企業ガイダンス参加企業数	単位	目標		60	37	45	45	40
	社	実績	55	55	44	44	—	—
		達成率		91.7%	118.9%	97.8%	—	—

達成目標2の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	44,919	千円	40,247	千円	33,335	千円	34,258	千円
うち 一般財源	44,883	千円	39,851	千円	33,335	千円	34,258	千円

4	勤労者福祉事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市内勤労者		社会環境の整備及び福祉の向上				労働者福祉センター(サンライフ笠岡)及び勤労青少年ホーム(バグース笠岡)でのスポーツ・レクリエーション、文化教養サークル活動の育成、充実を図る。勤労者の生活の安定と福祉の増進を図るため、笠岡市勤労者融資貸付事業を実施する。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●3館の利用の促進 スポーツやレクリエーション、文化教養サークル活動のPR活動を行う			⇒ サンライフ笠岡Wi-Fi設置 労働福祉会館閉館(R3年度末)			労働者福祉センター(サンライフ笠岡)及び勤労青少年ホーム(バグース笠岡)の利用促進 勤労青少年ホーム(バグース笠岡)廃止。サンライフ笠岡の多目的ホールとして設置(R4年度末)			サンライフ笠岡の利用促進		
直接事業費	決算額	44,883	千円	決算額	40,236	千円	決算額	33,335	千円	決算額	34,258	千円
	うち一般財源	44,883	千円	うち一般財源	39,840	千円	うち一般財源	33,335	千円	うち一般財源	34,258	千円

5	地元企業雇用促進事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市内の高校生 市内の事業者		高校1年生の生徒に対して企業説明を行うことにより、市内事業所の認知度向上を図るとともに、今後の進路選択及び就職先選択をする際の一助とする。また、地域産業の担い手の発掘につなげる。					笠岡市内の高等学校に在学する1年生を対象に、市内事業所の企業ガイダンスを行う。会場は各高等学校とし、事業者が高校に赴いて、企業説明を行う。					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●出張企業ガイダンス事業 ＜参加高校:3校, 参加事業所:延べ55社＞			⇒ ＜参加高校:3校, 参加事業所:延べ55社＞			⇒ ＜参加高校:3校, 参加事業所:延べ44社＞			⇒ ＜参加高校:2校, 参加事業所:延べ44社＞		
直接 事業費	決算額	36	千円	決算額	11	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円
	うち 一般財源	36	千円	うち 一般財源	11	千円	うち 一般財源	0	千円	うち 一般財源	0	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	204,409	千円	243,408	千円	219,324	千円	174,760	千円
うち一般財源	204,373	千円	243,012	千円	218,324	千円	174,760	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

経営戦略”稼ぐ”にご尽力いただきありがとうございます。新設工場等設置奨励事業では補助金交付数が15件にのぼり、市民に優良企業を誘致していただきありがとうございます。県営笠岡港(港町地区)工業用地も完売されたとのことで、広報にも掲載されておりこれからは楽しみに感じました。一方で企業誘致はどのくらい継続される予定なのか。また、就職されている人は増えているのか。地元企業用促進事業の参加事業所が減っている。しっかりと企業の良さが伝わるように。最終的には転出抑制につながっているので数値を明確にしていきたい。企業のご感想も収集するなどして取り組んでいきたい。	→	企業誘致は、新設工場の建設による固定資産税増等の自主財源確保や、雇用の拡大・確保等にもつながることから、引き続き推進します。また、市内企業全体の従業員数では、平成28年度と比較して令和4年度は、約1,800人増加しており、新たな雇用の創出が図られております。さらに、令和6年度に企業見学バスツアーを中高校生やその保護者に対して実施することで、地元企業を周知し、笠岡に就職していただけるよう努めます。企業の声としましては、企業誘致に係る補助金に魅力を感じたことや、令和7年度末頃に予定されている国道2号笠岡バイパスや山陽自動車道の(仮称)篠坂パーキングエリア・スマートインターチェンジの完成による市内の交通インフラの充実を見越して立地を決めたとの声を聞いております。
有効求人倍率が伸びていますが、正社員としての雇用が増えているのでしょうか。	→	「正社員」区分の求人(笠岡公共職業安定所で受理した求人を対象とした数)について、令和4年度は、対前年比で10か月が増(4.0～11.0%の増)、2か月のみ減(1.6%と4.6%の減)となっております。年間通じて対前年比で増加の月が多い状況でした。 令和5年度は、対前年比で1か月のみ増(1.8%の増)、11か月が減(1.8～14.9%の減)となっております。対前年比で減少の月が多い状況でした。
今後、企業誘致を進めていくということなので、その推移を見守りたいと思います。 また年間有効求人倍率が大きくなってきているので、就職希望者にとって良いのですが、企業にとっては人材の確保が難しくなっています。	→	企業誘致を推進し、引き続き自主財源の確保と働く場所の確保等に努めます。 また、企業の人材確保についても、令和6年度に企業見学バスツアーを中高校生やその保護者に対して実施することで、地元企業を周知し、笠岡に就職していただけるよう努めます。
市民意識調査「企業誘致・雇用の創出」の満足度がR2より下がりました。関係課との連携体制で進められる広域交通結束拠点周辺の土地利用や企業誘致により、市民の満足度が上がることを望みます。企業誘致と雇用の相関関係・税収の増加なども今後分かれれば評価しやすいかと思いがいかがでしょうか。また、県外大学生のUターン、Iターン就職も促進し、定住にも繋がればと思います。若者、まだまだお元気で働きたい高齢者、育児中の隙間時間に働きたい方、障害者の雇用など、ニーズに合った細かなサポートがあれば良いと思います。	→	広域交通結節拠点を中心とした将来の土地利用の在り方を検討し、産業系土地利用等の検討を進めます。また、新たな指標の導入については、時期総合計画の策定に合わせて検討します。 また、国、県等からの、若者、高齢者、障がい者等の雇用や労働に関する最新の情報の提供に努めます。
篠坂パーキングのスマートインターの設置が決まり、早数年たちます。工事開始の促進と、今、調査検討されている周辺の工場誘致、団地造成などの計画も推進していったほしい。	→	現在、庁内の土地利用検討チームで検討していますが、引き続き具体的な土地利用の変更等について検討していきます。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

<7.未達成の指標への対応策>

未達成 指標 への 対応策	引き続き、土地利用変更等の協議を進めることで、産業系土地等の確保に努めるとともに、企業誘致を推進し、新たなサプライチェーンを構築することで、設備投資や工場等の設置が進むよう取り組みます。 高校生出張企業ガイダンス事業については、開催案内等により事業実施の目的をご理解いただくこと等を通じて、市内の事業者の参加数が増えるよう努めます。
------------------------	---

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・1億円以上の企業誘致が昨年度は少なくなっていますが、床面積1000m²以上の建物取得企業は増えています。民間主導ということですが、今後大型企業の誘致を進めていただきたいと思います。 ・また年間有効求人倍率が前回より下がっていますが、まだ求人がしやすい状況です。今後初任給上昇や賃金上昇圧力が強くなっているので、推移を見守りながら雇用を進めていただきたいと思います。 ・企業誘致が自主財源の確保や市民の雇用の拡大につながるからとの理由で推進しておられますが、そんなに単純なものなのかと少し疑問があります。 ・篠坂スマートインター設置の計画を聞き、大変うれしく思っています。ただ、導入道路、周辺の土地利用について、調査中と報告を受けました。進捗状況が伝わってきませんが、どんな状況なのでしょう。か・「庁内チームによる土地利用の検討」は企業誘致、住宅整備の促進のためご尽力いただいていると思いますが、進捗状況を教えてください。 ・全国的にも低下の傾向だったようですが、市年間有効求人倍率が前年度よりも下がっている理由は何でしょうか。 ・地元企業ガイダンス事業の参加高校が3校から2校に減っています。市外高校からの参加希望はないのでしょうか。また6年度にされる企業見学バスツアーは面白い試みだと思います。こちらについても来年度評価シートにご報告をお願いします。 ・地元で働ける街を目指し、雇用拡大・確保と市民とのマッチングにご尽力いただきありがとうございます。総合指標は伸び悩んでいるように見えますが、市民意識調査での満足度が低く、広報等で少しずつ若者が笠岡の企業で働いている様子が見えますが、もっとアピールしていただきたいです。それに伴い、創設された企業・雇用情報の提供システムの構築事業では大いに期待をしていますが、見せ方も大切だと思います。公開するだけでなく、結果に結びつく声かけと告知、企業との信頼関係を育み、積極的な取り組みにより見直し、生かしていただきたいと思います。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	1－2	施策名	農業振興	主 担 当 課	農政水産課
大項目	活気あるまちづくり				
基本 方針	笠岡市の特色や強みを活かした第1次産業の活性化に向けて、農業・畜産業の振興に関わる多様な支援を行うとともに、新たな担い手の確保、農業用地・施設の適正な維持管理、鳥獣被害対策等に取り組めます。			関 係 課	定住促進センター 地域福祉課 建設管理課 建設事業課 商工観光課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
市内農業産出額(農水省市町村農業産出額推計)	単位	目標	669	1,026	1,026	1,026	1,026	1,026
	千円/年	実績	870	942	972	未公表	—	—
		達成率	130.0%	91.8%	94.7%	—	—	—
「農業振興」の満足度(市民意識調査)	単位	目標	△ 16.0	—	△ 19.0	—	△ 17.0	—
	%	実績	△ 21.0	—	△ 26.2	—	—	—
		達成率	76.2%	—	72.5%	—	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】地域の特色を活かした農業・畜産業の活性化(※①②)

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
市内農作物の産出額(野菜・果実) (農水省市町村農業産出額推計)	単位	目標		289	289	289	289	289
	千円/年	実績	124	120	138	未公表	—	—
		達成率		41.5%	47.8%	—	—	—
市内農作物の産出額(花き) (農水省市町村農業産出額推計)	単位	目標		17	15	15	16	17
	千円/年	実績	13	13	14	未公表	—	—
		達成率		76.5%	93.3%	—	—	—
市内農作物の産出額(米) (農水省市町村農業産出額推計)	単位	目標		45	45	45	45	45
	千円/年	実績	37	31	36	未公表	—	—
		達成率		68.9%	80.0%	—	—	—
牛の飼養頭数(笠岡市内全体/乳用牛・肉用牛)	単位	目標		10,000	10,000	10,000	10,000	10,100
	頭	実績	9,564	10,169	10,571	10,512	—	—
		達成率		101.7%	105.7%	105.1%	—	—
採卵鶏の飼養羽数	単位	目標		642,000	642,000	642,000	642,000	650,000
	羽	実績	609,362	642,137	622,134	616,654	—	—
		達成率		100.0%	96.9%	96.1%	—	—
かさおかブランド「食品部門」認定件数 (笠岡産農水産物による)	単位	目標			13	15	16	16
	件/年	実績	11	17	15	15	—	—
		達成率			115.4%	100.0%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	40,523	千円	33,600	千円	76,442	千円	121,574	千円
うち 一般財源	32,688	千円	25,617	千円	21,243	千円	21,867	千円

[illegible]

2	畜産業振興事業												
事務事業の目的							事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
干拓地内の畜産農家		・定期的な環境巡回調査を行い、適切な糞尿処理や水質浄化を指導する。 ・干拓地臭気対策チームによる検討会を開催し、干拓地内の糞尿や堆肥による悪臭対策を検討する。 ・パーラー排水などの畜産排水について、現状把握と排水対策を検討し、浄化施設の設置に向けて検討を行う。					・環境巡回指導 ・干拓地内における悪臭対策の検討 ・干拓地内における畜産排水浄化処理施設設置の検討 ・畜産クラスター事業の実施						
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●環境巡回指導			⇒			⇒			⇒			
	・県と合同による環境巡回指導の実施。			⇒			⇒			⇒			
	創 ●悪臭対策の具体化検討及び「臭気対策研究会」の設置にかかる協議。			⇒			⇒			⇒			
	●笠干資源循環型農業推進事業			⇒			⇒			⇒			
	●粗飼料基地の貸付			⇒			⇒			⇒			
	●排水浄化施設設置の推進施設設置のための方策を検討。			⇒			⇒			⇒			
	●新造共同堆肥舎の堆肥を有効運用し、完熟した良質な堆肥の生産を促進するとともに、併せて臭気対策も図る。			⇒			⇒			⇒			
	●干拓地の各畜産農家が臭気低減資材を使用することにより、地域一体で臭気低減を図る。			⇒			⇒			⇒			
	●笠岡市酪農・肉用牛近代化計画の策定(H27～R7)			⇒			⇒			⇒			
	●悪臭対策に向けた環境改善検討会の設置			⇒			⇒			⇒			
●畜産クラスター事業による、牛舎及び鶏舎の規模拡大			⇒			⇒			⇒				
						●飼料高騰対策支援事業			⇒				
直接事業費	決算額	4,357	千円	決算額	2,845	千円	決算額	29,665	千円	決算額	83,071	千円	
	うち一般財源	2,506	千円	うち一般財源	2,341	千円	うち一般財源	3,343	千円	うち一般財源	4,663	千円	

【達成目標2】 農業者の担い手・後継者の確保と育成(※③)

達成目標2の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
認定農業者数	単位	目標		90	90	90	90	90
	人	実績	90	90	88	86	—	—
		達成率		100.0%	97.8%	95.6%	—	—

達成目標2の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	14,398	千円	16,346	千円	38,006	千円	195,086	千円
うち 一般財源	3,215	千円	6,561	千円	4,057	千円	1,847	千円

3 農業振興事業

事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
農業者新規就農希望者		農業者の規模拡大、経営の効率化を図る。 新規就農者により農業人口を増加させる。			認定農業者制度を活用した農家の育成 干拓地を生かした大規模農業の推進							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組 内容	○農産物のブランド化 ○認定農業者認定・支援事業 ○担い手確保・育成・支援事業 ○新規就農者支援事業 ●農道離着陸場の多面的利用 延べ日数 174日			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 延べ日数 178日			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 延べ日数 246日 ・産地パワーアップ事業 ・肥料価格高騰対策支援事業 ・燃料価格高騰対策支援事業			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 延べ日数 196日 ⇒ ・強い農業づくり総合支援事業 ・資材価格高騰対策支援事業 ・農業経営収入保険加入補助事業		
直接 事業費	決算額	14,398	千円	決算額	16,346	千円	決算額	38,006	千円	決算額	195,086	千円
	うち 一般財源	3,215	千円	うち 一般財源	6,561	千円	うち 一般財源	4,057	千円	うち 一般財源	1,847	千円

【達成目標3】 農業用地・施設の維持管理(※④⑤)

達成目標3の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
市内耕作放棄地面積	単位	目標		337	335	333	331	329
	ha	実績	339	719	743	798	—	—
		達成率		46.9%	45.1%	41.7%	—	—
中山間地域等直接支払制度 協定締結面積	単位	目標		15.9	15.9	15.9	15.9	15.9
	ha	実績	15.9	17.1	17.5	17.6	—	—
		達成率		107.5%	110.1%	110.7%	—	—
多面的機能支払交付金事業を活用する 認定農用地面積	単位	目標		756.7	808.8	808.8	808.8	808.8
	ha	実績	808.8	809.8	818.0	817.9	—	—
		達成率		107.0%	101.1%	101.1%	—	—

達成目標3の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	204,601	千円	249,334	千円	295,325	千円	1,435,275	千円
うち 一般財源	87,518	千円	90,328	千円	87,800	千円	111,384	千円

4	農業用施設維持管理業務																			
事務事業の目的						事務事業の内容														
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)																		
農業用施設利用者		農業用施設利用者が安全・安心して利用できるようにする。				・農林水産業施設管理事業 ・農林水産業施設維持事業 ・農林水産施設(単独)災害復旧事業														
令和2年度												令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●農業水利施設整備事業 ・ため池ハザードマップ作成(防災重点ため池10カ所) ・国営応急対策事業(寺間排水機場) ・排水機場事業計画書作成(北川第1) ・農道橋梁点検					⇒ ・ため池ハザードマップ作成(防災重点ため池14カ所) ⇒ ・農道橋事業計画書作成(笠岡湾干拓2号橋)			⇒ ・ため池ハザードマップ作成(防災重点ため池14カ所) ⇒ ・笠岡湾干拓地内排水路設置			⇒ ・ため池ハザードマップ作成(防災重点ため池8カ所) ⇒ ・農道橋補修(尾坂川6号橋)								
	決算額		120,976		千円	決算額		137,507		千円	決算額		198,561		千円	決算額		215,859		千円
直接事業費	うち一般財源	77,069		千円	うち一般財源	71,861		千円	うち一般財源	69,731		千円	うち一般財源	75,761		千円				

5	農業振興地域整備関連業務												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民		農業振興地域整備計画を見直し、都市的土地需要との土地利用調整を行う。				農業振興地域の整備に関する法律(昭和44年法律第58号)に基づき、国・県及び市町村が一体となって農業振興を図るべき地域の整備や保全を図る。							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	○農業振興地域整備事業 ・農業振興地域整備計画見直し業務 ・農業振興地域農用地区域図面作成業務			⇒			⇒(令和5年度へ繰越)			○農業振興地域整備事業 ・農業振興地域整備計画書策定業務 ・農業振興地域農用地区域図面作成業務			
	決算額	130	千円	決算額	2,237	千円	決算額	0	千円	決算額	4,906	千円	
直接事業費	うち一般財源	130	千円	うち一般財源	2,237	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	4,906	千円	

6	農業委員会業務												
事務事業の目的				事務事業の内容									
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民		農業生産の基盤となる優良農地の保全、有効利用するための取り組み、耕作放棄地、遊休農地の解消			農業委員会の開催(12回)。農地法に基づく農地の利用状況等調査等。農地法関連業務。広報紙等による啓発。農業者年金制度の普及啓発。								
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	●農地法の厳格な運用 ●農地利用状況調査の実施 ●農地利用意向調査の実施			⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒			
	決算額	11,820	千円	決算額	16,710	千円	決算額	18,632	千円	決算額	20,072	千円	
直接事業費	うち一般財源	7,160	千円	うち一般財源	11,001	千円	うち一般財源	11,924	千円	うち一般財源	12,762	千円	

7	耕作放棄地解消事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
農地所有者		農業者の高齢化・後継者不足により耕作放棄地が増えつつある中、担い手への農地集積を進め、農地の荒廃化を防ぐ。				中間管理機構を通じた利用権の設定等により、担い手への農地の集積・集約化を促進する。 ほ場整備等、集積した田を整備することにより、大型農業機械の利用促進を図る。							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	●中間管理事業 ●耕作条件改善事業			⇒ ⇒			⇒			⇒			
直接事業費	決算額	2,137	千円	決算額	1,200	千円	決算額	1,200	千円	決算額	1,200	千円	
	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	

8	農業用施設新設改良事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
農業従事者及び関係者		農産物生産の向上と安定化及び農地の保全				ため池、井堰、用・排水路の整備及び農道の新設改良を行うための計画、調査、設計、積算、工事監督を行う。							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	●農業用施設改良事業 ・非補助農道改良事業 ・非補助農道舗装事業 ・非補助かんがい排水事業 ・単市土地改良事業 ・団体営かんがい排水 ・団体営ため池整備事業(岩神池) ・ため池防災環境整備事業(行長池・コウセンボウイケ)			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ・ため池防災環境整備事業(コウセンボウイケ) ・団体営かんがい排水事業 ・緊急水管理システム整備事業			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ・ため池防災環境整備事業(当摩上池) ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ・団体営ため池整備事業(岩神池) ⇒ ・ため池防災環境整備事業(当摩上池・昭和池・次郎兵衛谷池)			
直接事業費	決算額	69,346	千円	決算額	91,599	千円	決算額	76,808	千円	決算額	143,117	千円	
	うち一般財源	2,967	千円	うち一般財源	5,148	千円	うち一般財源	6,021	千円	うち一般財源	17,834	千円	

9		① バイオマスタウン推進事業											
事務事業の目的							事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
笠岡湾干拓地 営農者 市民		笠岡湾干拓地の特性を生かしたバイオマス資源の利活用を図りながら、地域農業の活性化を目指すとともに、環境にやさしい農業を推進し、持続可能な循環型社会の形成に資する。					笠岡湾干拓地域バイオマスタウン構想のもと、バイオマス資源の利活用について、産学官による協議を行い、牛ふん堆肥の利活用などに取り組む。						
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		・牛ふん堆肥の利活用の検討 ・畜産クラスター協議会活動			⇒			⇒ ・バイオガス発電施設整備計画への支援			⇒バイオガス発電施設整備計画への支援(ふるさと融資の実行)		
直接事業費		決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	1,050,000	千円
		うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円

10	創 笠岡湾干拓地水質浄化対策事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
笠岡湾干拓地 営農者 市民			笠岡湾干拓地の水環境を改善する取組を行うとともに、環境にやさしい農業を推進し、持続可能な循環型社会の形成に資する。				笠岡湾干拓地及び周辺地区の農業関係者、市民及び行政が連携して環境負荷の低減に努め、干拓地の水質保全対策の推進を図る。					
令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組 内容	・負荷削減活動の推進			⇒			⇒			⇒		
	・耕畜連携による堆肥の適正処理			⇒			⇒			⇒		
	・茂平地区下水道の整備			⇒			⇒			⇒		
直接 事業費	決算額	192	千円	決算額	81	千円	決算額	124	千円	決算額	121	千円
	うち 一般財源	192	千円	うち 一般財源	81	千円	うち 一般財源	124	千円	うち 一般財源	121	千円

11	農業生産継続支援事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
農地 営農者		農地の保全及び農業用施設(ため池、水路等)の維持管理活動を通じて、農業生産活動の継続に資する。				農業者を中心とした活動組織が行う、農地の保全及び農業用施設(ため池、水路等)の維持管理や農業生産に係る活動に対して補助金を交付するもの。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組 内容	中山間直接支払制度事業 多面的機能支払交付金事業			⇒ ⇒			⇒ ⇒			⇒ ⇒		
直接 事業費	決算額	37,212	千円	決算額	33,438	千円	決算額	33,749	千円	決算額	31,844	千円
	うち 一般財源	9,443	千円	うち 一般財源	7,551	千円	うち 一般財源	8,441	千円	うち 一般財源	8,018	千円

【達成目標4】鳥獣被害の減少と森林整備の推進(※⑥)

達成目標4の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
防護柵補助件数	単位	目標		30	200	100	100	100
	件/年	実績	310	168	167	108	—	—
		達成率		560.0%	83.5%	108.0%	—	—
駆除班員数	単位	目標		26	21	25	25	20
	人	実績	21	21	24	23	—	—
		達成率		80.8%	114.3%	92.0%	—	—
地域住民組織数	単位	目標		16	16	20	20	18
	件	実績	12	16	18	18	—	—
		達成率			112.5%	90.0%	—	—
捕獲頭数(市全体)	単位	目標			750	1000	1000	750
	頭	実績	747	829	1574	1658	—	—
		達成率			209.9%	165.8%	—	—

達成目標4の事業費			令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費			17,716	千円	10,238	千円	7,318	千円	6,383	千円
うち 一般財源			671	千円	9,074	千円	2,130	千円	1,256	千円

12	森林保全事業											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
森林所有者及び 周辺住民 農林業者等		松くい虫による被害防止とともに、森林資源 の保全と国土の保全を図る。 農作物の被害の防止及び生活環境の改善。		・ヘリコプターによる薬剤の空中散布及び地上散布。また、空中・地上散布区 域周辺の伐倒駆除及び道路沿いの危険木処理。 ・有害鳥獣の駆除。								
令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取 組 内 容	危険木伐倒駆除 ・道路沿線における危険木の伐 倒駆除を行う。 市内5か所 80.00㎡ ●有害獣被害防止対策事業 ・有害獣による農作物の被害防 止のための柵等の設置に補助金 を支給する。 補助件数310件 合計補助金額14,195,172円 ●笠岡市森林整備計画 ・私有林人工林の現状を把握 し、現地調査及び意向調査行う。 市内2か所 6.7ha			危険木伐倒駆除 ・道路沿線における危険木の伐 倒駆除を行う。 市内9か所 30.00㎡ ⇒ ・有害獣による農作物の被害防 止のための柵等の設置に補助金 を支給する。 補助件数168件 合計補助金額8,793,623円 ⇒ ・私有林人工林の現状を把握 し、現地調査及び意向調査行う。 市内2か所 15.5ha			危険木伐倒駆除 ・道路沿線における危険木の伐 倒駆除を行う。 市内4か所 10.00㎡ ⇒ ・有害獣による農作物の被害防 止のための柵等の設置に補助金 を支給する。 補助件数167件 合計補助金額7,024,926円 ⇒ ・私有林人工林の現状を把握 し、意向調査及び集積計画策定 を行う。 市内2か所 9.3ha			危険木伐倒駆除 ・道路沿線における危険木の伐 倒駆除を行う。 市内4か所 8.00㎡ ⇒ ・有害獣による農作物の被害防 止のための柵等の設置に補助金 を支給する。 補助件数108件 合計補助金額6,146,211円 ⇒ ・私有林人工林の現状を把握 し、集積計画策定を行う。 市内1か所 6.3ha		
	決算額 17,716 千円			決算額 10,238 千円			決算額 7,318 千円			決算額 6,383 千円		
	うち 一般財源 671 千円			うち 一般財源 9,074 千円			うち 一般財源 2,130 千円			うち 一般財源 1,256 千円		

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	277,238	千円	309,518	千円	417,091	千円	1,758,318	千円
うち 一般財源	124,092	千円	131,580	千円	115,230	千円	136,354	千円

＜5.前年度の委員コメントに対する対応・回答＞

委員コメント	対応・回答
活気あるまちづくりにご尽力いただきありがとうございます。達成目標の地域の特色を生かした農業・畜産業の活性化の、市内農産物の産出額(野菜・果実)についてです。その他の花き・米も同様に数値が出ていませんが、昨年度を見ても野菜と果実が半分以下であること。こちらは目標設定が高すぎるのか、コロナの影響があるのでしょうか。ふるさと納税でも米に次いで人気のある果物と聞かれています。農作物のブランディングも必要で並行していただき、作られている方や作りたくなる若者を高校生などにもお声掛けしていただきたいです。また採卵鶏の飼養羽数についてです。鳥インフルエンザが毎年猛威を振っており、笠岡の美味しい卵を増やすためにもそこにもご尽力いただけたらと思います。前任者のことでわからないかもしれませんが、すみませんが真摯に答えようとしていただきたいです。	指標につきましては、農水省等の公表する数値を用いた場合、どうしても1から2年遅れてしまいます。目標設定については、目標値と実態がかけ離れているので、今後見直していきたいと考えております。 また、ふるさと納税を起爆剤として、本市の農産物を宣伝していくほか、まずはJAなどの関係機関の協力を得て、新規就農者に向けた就農体制を整えていきたいと考えております。 → 採卵鶏の飼養羽数について、説明不足があり申し訳ございませんでした。畜産業においては飼料価格高騰の中で大変厳しい状況にある中で、本市の養鶏業者はそれぞれ独自の取り組みで経営安定が図られているところです。今後も、安定的な卵の供給に向け、クラスター事業等の補助金を活用しながら、施設整備・機械導入等による労力軽減・規模拡大への支援をしてまいります。 併せて、鳥インフルエンザ対策についても、県と連携して対策に取り組んでまいります。
牛の臭気対策、鳥インフル、鳥獣被害、耕作放棄地の増大など、多くの課題を抱え、日々奮闘しておられると感じています。少しでも苦労が軽減されることを願います。	→ ありがとうございます。今後も本市の農業振興に向けて精進してまいります。
・牛の臭気対策は進んでいると思いますが、引き続き対策をお願いします。 ・鳥獣被害については、捕獲頭数が増加しているので、今後も引き続き対策をお願いします。	→ 臭気対策については、ハードソフト問わず、取り組むことができるものは積極的に取り組み、臭気低減に努めてまいります。令和5年度のイノシン捕獲頭数は、過去最多の1,658頭となっております。引き続き捕獲をはじめとした有害鳥獣対策を進めてまいります。
増え続ける市内耕作放棄地を更なる体験型農園、市民農園として活用することは難しいのでしょうか。R3で就労継続新事業所と連携している(農福連携)の農業者数が10箇所あるようになっていますが、目標値に達成していないところをみるとご苦労があるのかと思います。高齢者のデイサービスや福祉団体との更なる連携、また健康目的や生きがい目的として農作業を活用したいといった新たなニーズはないのでしょうか。	→ 耕作放棄地となる主な理由として、農地の不在地主化や高齢化・後継者不足による管理力不足が原因と考えており、農園として活用する場合、管理・運営するための労力の確保が課題になってくるかと思われます。市内各地で抱える耕作放棄地の問題の解消に向けて、ご提案いただいた新たなニーズの活用についても検討してまいりたいと思います。
耕作放棄地もよく見かけますが、地域によっては、まちづくりの一環として、耕作努力しているのも見かけます。また、防災の視点からも地域で草刈をして焼畑にする活動も見かけます。悪臭対策の努力は見えるものの、天候によっては、市街地や城見地域にまで及んでいます。一層の努力をお願いします。	→ 今後とも、市としても耕作放棄地の解消を推進していきます。

＜6.令和5年度の振返り＞(担当部署自己評価)

施策の進捗度 A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
---	-----------------

<7.未達成の指標への対応策>

未達成 指標 への 対応策	【採卵鶏の飼養羽数】 ・機械導入等による労力軽減化を推進し経営の効率化と飼養羽数の増加を図る。 【認定農業者数】 ・高齢化や後継者不在による廃農により認定農業者数が減少しているケースが多い。新規就農者の掘り起こしを行い、補助制度の活用による支援を行っていく。 【市内耕作放棄地面積】 ・地域の担い手となる農業者へ集積を促進するほか、草刈用農機具の貸付事業を進め、耕作放棄地の解消を推進していく。
------------------------	--

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・牛の臭気対策は進んでいると思いましたが、まだ臭気の問題は継続しているようです。是非とも臭気が少なくなるよう進めてください。 ・鳥獣被害については、捕獲頭数が増加しているので、今後も引き続き対策をお願いします。 ・農業振興の施策の1番最初に出てくる事業は「道の駅整備・運営事業」ではなく、「農業振興事業」であってほしいと感じます。 ・バイオガス発電施設の建設も始まり、牛ふん堆肥の有効活用が図られることは、念願の臭気対策にもなり、期待しています。 ・道の駅も観光事業として年間70万人の集客とか、これから先箱ものの整備も必要かと。 ・耕作放棄地対策に関心のある地域おこし協力隊を募集している市もあるようです。農業活性化推進業務として現状の課題解決に向け生産者と連携した取り組みを行ってくれる人材が集まると何か動き出さないでしょうか。 ・農業委員会の事業費が年々増加しています。担い手となる若い委員もいらっしゃいますか。 ・農業用施設新設改良事業費がかなり増えていますが、農地は減っても不要となるため池はないのでしょうか。 ・市内農業産出額が目標には達していませんが、増加傾向です。今後も農地保全と住宅・産業地開発のバランスが難しいと思いますが、さらなる農業振興に期待しています。 ・活気あるまちづくりのためにご尽力いただきありがとうございます。笠岡市の第一次産業は円安が進み、資材の価格高騰など厳しくなることが多い中で、農業の位置づけが近年変わってきているように思います。山形県の桃農家の若者のSNS発信など、本気で変えたいとかっこいい農業も発信されています。笠岡で頑張られている若者は1人もいないのでしょうか。またサポートして差し上げることや生み出すことは考えてくださっていると思いますが、現在どうでしょうか。次に繋がっているのでしょうか。今まで築き上げてくださった先駆者から学ぶことも必要だと考えます。人件費に結構な予算が投資されていますが、次に繋がる調査や行動になっているのか気になります。また道の駅に関しては笠岡の特産品や市民の農作物など循環してもらえないのでしょうか。道の駅で笠岡産のもので埋め尽くしていただきたいです。そしてイノシシ対策ですが地域により、まだまだ収穫物全部食べられたりあじさいも根ごと引き倒していることも続いています。市民が協力してできることには限りがあります。しっかりとした現状把握を行っていただき、まだまだ増え続けている鳥獣被害のサポートをお願いします。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	1-3	施策名	商工業振興	主担 当課	商工観光課
戦略の柱	経営戦略 “稼ぐ”				
基本 方針	行政、市民、事業者及び笠岡商工会議所等の協働による商工業の振興を進めるとともに、既存の事業者・新規創業者の自助努力、創意工夫及びデジタルトランスフォーメーション(DX)の推進を支援します。			関係課	

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
総人口1人当たりの市民所得	単位	目標		2,700	2,700	2,810	2,810	2,830
	千円	実績	2,711	2,784	2,805	2,855	—	—
		達成率		103.1%	103.9%	101.6%	—	—
従業員4人以上の製造業の事業所数 (工業統計調査)	単位	目標		110	110	110	110	110
	事業所	実績	廃止	廃止	廃止	廃止	—	—
		達成率		—	—	—	—	—
従業員4人以上の製造業の従業者数 (工業統計調査)	単位	目標		5,266	5,300	5,300	5,300	5,300
	人	実績	廃止	廃止	廃止	廃止	—	—
		達成率		—	—	—	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	生産・販売力の強化(※①②③⑤)
---------	------------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
従業員4人以上の製造品出荷額等 (工業統計調査)	単位	目標		205,183	170,000	170,000	170,000	170,000
	百万円	実績	廃止	廃止	廃止	廃止	—	廃止
		達成率		—	—	—	—	—
従業員4人以上の粗付加価値額 (工業統計調査)	単位	目標		61,554	54,000	54,000	54,000	54,000
	百万円	実績	廃止	廃止	廃止	廃止	—	廃止
		達成率		—	—	—	—	—
かさおかブランド「産業・技術部門」認定件数	単位	目標		2	5	4	3	6
	件/年	実績	4	3	1	0	—	—
		達成率		150.0%	20.0%	0.0%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	4,562	千円	4,860	千円	44,688	千円	156,707	千円
うち 一般財源	4,562	千円	4,860	千円	4,199	千円	8,222	千円

1	商工業振興事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
市内企業・商店			企業・商店が活発に活動・発展することにより、市内環境や市民生活を活性化する。			・工業振興において、経営の近代化や情報通信技術の活用等による円滑な発展に努める。 ・中小企業の経営の安定化を図るため、小規模企業対策資金保証融資制度の充実を図る。						
令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	●笠岡市小規模事業者対策資金保証融資制度			⇒			⇒			⇒		
	●中小企業信用保険法に基づく認定			⇒			⇒			⇒		
	●産業活動の支援			⇒			⇒			⇒		
	●新たな産業づくりへの支援			⇒			⇒			⇒		
	●創・小規模事業者経営改善資金利子補助金			⇒			⇒			⇒		
<補助金交付件数:108件,新規25件,継続83件>			<補助金交付件数:72件,新規8件,継続64件>			<補助金交付件数:52件,新規4件,継続48件>			<補助金交付件数:36件,新規8件,継続28件>			
・笠岡市中小企業支援資金融資制度に係る保証料補給金			⇒			⇒			⇒			
<融資利用件数:7件>			<融資利用件数:30件>			<融資利用件数:25件>			<融資利用件数:21件>			
									●貨物自動車運送事業者燃料価格高騰対策事業補助金			
									交付件数:1件			
									●プレミアム付商品券事業			
									●エネルギー価格等高騰対策支援金			
									交付件数:130件(法人49件・個人事業主81件)			
									●第3次笠岡市産業振興ビジョン策定事業			
直接事業費	決算額	4,562	千円	決算額	4,860	千円	決算額	44,688	千円	決算額	156,707	千円
	うち一般財源	4,562	千円	うち一般財源	4,860	千円	うち一般財源	4,199	千円	うち一般財源	8,222	千円

【達成目標2】創業・事業承継の支援(※④⑤)

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指標名			R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	R7目標
創業支援・空き店舗等活用事業費補助金(新規創業)認定件数	単位	目標		8	3	3	3	3
	件/年	実績	3	5	4	4	—	—
		達成率		62.5%	133.3%	133.3%	—	—
創業支援・空き店舗等活用事業費補助金(空き店舗等活用)認定件数	単位	目標		1	1	1	1	1
	件/年	実績	4	1	1	1	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%	—	—
事業承継支援補助金交付件数	単位	目標		2	1	1	廃止	廃止
	件/年	実績	0	0	0	0	—	—
		達成率		0.0%	0.0%	0.0%	—	—
笠岡商工会議所青年部の会員数	単位	目標		74	71	72	72	74
	人	実績	69	72	72	67	—	—
		達成率		97.3%	101.4%	93.1%	—	—

達成目標2の事業費

令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
直接事業費	9,742	千円	12,038	千円		8,994	千円		7,330	千円	
うち一般財源	7,382	千円	3,897	千円		1,043	千円		3,953	千円	

2	商店街振興事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市内商店・商店街		市内商店・商店街の発展を支援することで、市内環境や市民生活の活性化を図る。				市内商店・商店街の振興を図る。							
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		●各種イベントの開催 ●空き店舗の有効利用 中心市街地空き店舗登録件数：12件 空き店舗補助金申請件数：4件（新規1件，継続3件） ・新型コロナによりいちよう祭り中止 ・代替事業として，ぐるぐる商店街の実施			⇒ ⇒ 中心市街地空き店舗登録件数：13件 空き店舗補助金申請件数：2件（新規1件，継続1件）			⇒ ⇒ 中心市街地空き店舗利用促進補助金（店舗賃借料補助）交付件数1件 空き店舗等活用事業費補助金交付件数 1件 ・いちよう祭り			⇒0件 ・いちよう祭り		
直接事業費		決算額	5, 529	千円	決算額	4, 599	千円	決算額	5, 945	千円	決算額	4, 437	千円
		うち一般財源	3, 169	千円	うち一般財源	2, 239	千円	うち一般財源	643	千円	うち一般財源	1, 060	千円

3		創 起業支援											
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
新規創業者		新規創業者に対して、市内産業の振興、雇用の促進及び定住を勧める。				これから市内で起業する人を対象に、起業にかかった経費の一部を事後的に補助する。新規起業者を支援することで市内産業の振興・雇用創出を図る。							
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		・創業サポートセンターかさおか創業サロンの運営補助 ＜補助金交付件数:新規3件＞ ＜サロン来客数:282人＞		⇒ ＜補助金交付件数:新規5件＞ ＜サロン来客数:504人＞ 創業サポートセンターかさおか創業サロンの運営補助終了			⇒ ＜新規創業者支援事業 補助金交付件数:新規4件＞			⇒ ＜新規創業者支援事業 補助金交付件数:新規4件＞			
直接事業費		決算額	3,813	千円	決算額	7,039	千円	決算額	2,649	千円	決算額	2,493	千円
		うち一般財源	3,813	千円	うち一般財源	1,258	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	2,493	千円

4		創 創業塾支援事業											
事務事業の目的							事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
笠岡商工会議所		笠岡商工会議所が主催する創業塾を笠岡市が支援することで、より内容の充実した創業セミナーを開催することが可能となる。その結果として、起業予定者の起業の実現性を増大させ実際の起業へとつながることを目的とする。					笠岡商工会議所が行う「かさおか創業塾」に対し、運営費の一部を補助し、内容の充実した創業塾とさせる。						
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		・インターネット、チラシによる受講者募集のPRを行う。 <受講者数:14人>			⇒ <受講者数:16人>			⇒ <受講者数:25人>			⇒ <受講者数:16人>		
直接事業費		決算額	400	千円	決算額	400	千円	決算額	400	千円	決算額	400	千円
		うち一般財源	400	千円	うち一般財源	400	千円	うち一般財源	400	千円	うち一般財源	400	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	14,304	千円	16,898	千円	53,682	千円	164,037	千円
うち一般財源	11,944	千円	8,757	千円	5,242	千円	12,175	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
経営戦略”稼ぐ”にご尽力いただきありがとうございます。とても分かりやすい説明で助かりました。笠岡商工会議所が実施されている創業塾などについては、しっかりと情報共有と今後の考察に繋がるようにお願いしたいです。また総合指標2の指標が廃止ばかりだとせっかくの努力が数値化されませんので、第7次総合計画に準じたものでぜひ時代に合わせた指標に変更をお願いします。事業継承補助金ですが、ご家族はでないのは残念だと思いました。事業を継承するのは他人も家族も同じようにハードルが高いように思います。継続してほしい笠岡ラーメンの食文化など廃れていただいたら困るものたくさんあります。ご検討の程お願いしたいです。また観光協会との役割の分業化と観光とともに笠岡ブランドの周知や継承に繋げていただけたらと思います。	→ 笠岡商工会議所が開催するかさおか創業塾について、補助を行っております。補助金交付先の笠岡商工会議所ときちんと情報共有を行い、新規創業予定者の支援を通じて、市内産業の振興・雇用創出に努めます。また、指標については、令和5年度に策定しました第3次笠岡市産業振興ビジョンの指標で進捗を確認することとし、総合計画の指標については、次期計画でお示ししたいと思います。
進捗状況が把握しやすい指標の設定をぜひお願いします。	→ 進捗状況が把握しやすい指標の設定を検討します。
・最近の電気代等の高騰によりエネルギー対策費が大幅に増えていますが、仕方のないことだと思います。今後も着実に進めていただくようお願いします。	→ 令和5年度においても、令和4年度と同様に、エネルギー価格等高騰対策支援金の交付により、エネルギー価格の高騰等による影響を受けている市内の事業者の経済的負担を軽減し、地域経済の安定を図りました。
かさおかブランドの認定件数が伸び悩んでいます。認定されるメリットが企業側にあまりないのでしょうか？例えば消費者からすると「笠岡 土産 特産」と検索し、まとめて画面が出てくると、笠岡市の公認商品なのだと理解し購入に繋がります。販売に繋がると認定者にとっても「かさおかブランド」の価値が上がり登録数も必然的に増えるのではないのでしょうか。市民も他市町の方に聞かれた時、即答でお勧めできる「かさおかブランド」となればと思います。また「笠岡 土産 特産」の検索でヒットする市役所HPの画面があまりインパクトがないので、例えば「FUKUYAMA BRAND」「あさくちブランド 浅口の幸」(商工会)のようにイメージアップをされると良いと思います。みよしブランドについては「認証品カタログ」など作成していますので参考にされてはいかがでしょうか。	→ かさおかブランドに認定された商品等については、毎年行われる各種物産展での笠岡市が出展するブースにおいて、販売やPRを行っており、これがブランド認定されることのメリットの一つであると考えています。また、御意見いただきましたとおり、「かさおかブランド」をより広く周知できるように、他自治体のHPや取組を参考にしながら、HPの更新や笠岡市独自の取組も検討します。
商業対策には発想の転換をして、いろんな事例を研究してみることも必要ではないか。他都市へ出向いての研修も計画してほしい。観光地と商業地の連携を図り、それぞれの相乗効果を期待したい。	→ 商工業振興事業の全般について、他の自治体の事例等の研究に努めます。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

<7.未達成の指標への対応策>

	未達成指標については、企業訪問、よろず相談、広報紙、ウェブサイトを通じて周知を図るとともに、制度の見直しも含めて検討したいと考えています。
--	---

<8.委員による評価結果>

総合評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・笠岡商工会議所青年部の会員数が昨年と比べて減少しているのが気がかりです。 ・また、かさおかブランドの「産業・技術部門」認定件数が0件だったのですが、企業の発掘をお願いします。 ・商工業振興は事業者の努力なくてはなし得ないもので、その後押しの役割が市に与えられていると思いますので、事業者のニーズを改めて確認したいところです。 ・創業予定支援を行った関係会社とのその後の動静について、把握はできているのでしょうか。継続的な支援が大切だと思います。 ・かさおかブランドの認定件数がR5年度は0でしたが、R6年度では増えるとのこと市民としても嬉しいことです。個人的にも市外の方への贈り物にも利用しています。 ・事業承継は何年も0のままですが、数字に見えない部分で動いてくださっているのだと思います。全国に誇る事業もあると以前お聞きしましたが、廃ることのないよう願います。 ・商店街は土曜夜市ではかなりの賑わいを見ることができました。電車から降りて来られる観光客や学生がぶらっと立ち寄り、楽しめる雰囲気になれば良いと思います。 ・制度の見直しも含め検討されるとのこと、決まりましたら市民に分かりやすくお知らせください。 ・経営戦略で“稼ぐ”行政、市民事業者および笠岡商工会議所等の協働による商工業の産業・技術また、部門はR4年度1件でその後実績がありませんが認定は難しいですか。また笠岡ブランドの認定に関しても広報でお知らせするのはいかがでしょうか。市民がしっかりと愛着を持てるように。また市民も買いたくなるようになるといいなと思います。事業継承補助金についてです。市民としては継承してもらいたいけど後を継ぐ人がいないため潰れるお店が並ぶのを見る方がつらいです。親子でも後を継ぐのを嫌がるのは様々な理由があると思いますが、親子も対象にしてもらいたいです。起業支援についても笠岡ブランドと同様に市民で育てる、応援するつもりで広報などに乗せていただきたいです。商業地のコラボレーションが流っていますが、笠岡はされないのでしょうか。商業と観光も結びつけた活性化を楽しみにしています。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	1-4	施策名	水産業振興	主 担 当 課	農政水産課
戦略の柱	経営戦略 “稼ぐ”				
基本 方針	海に臨む笠岡市の特色ある産業として水産業を振興するため、水産資源の増加、担い手の育成とともに、安くて新鮮な笠岡の水産物を広く提供するための取組を進めます。			関 係 課	

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
漁獲量(海面漁業)	単位	目標		500	500	500	500	500
	t/年	実績	未公表	493	398	392	—	—
		達成率		98.6%	79.6%	78.4%	—	—
漁獲量(養殖漁業)	単位	目標		500	500	500	500	500
	t/年	実績	未公表	396	713	505	—	—
		達成率		79.2%	142.6%	101.0%	—	—
「水産業の振興」の満足度(市民意識調査)	単位	目標		—	△ 8.5	—	△ 7.0	△ 7.0(R6)
	%	実績	△ 16.5	—	△ 21.7	—	—	—
		達成率		—	39.2%	—	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	水産資源の回復(※①②)
---------	--------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
漁獲量(海面漁業)	単位	目標		500	500	500	500	500
	t/年	実績	未公表	493	398	392	—	—
		達成率		98.6%	79.6%	78.4%	—	—
漁獲量(養殖漁業)	単位	目標		500	500	500	500	500
	t/年	実績	未公表	396	713	505	—	—
		達成率		79.2%	142.6%	101.0%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	5,791	千円	5,574	千円	5,750	千円	9,380	千円
うち 一般財源	5,041	千円	4,824	千円	5,000	千円	6,205	千円

1	水産業振興事業											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
漁業者及び市民		漁家経営が安定及び維持できるよう事業実施を行い、漁業振興を図る。		・漁業振興特別対策事業 ・海洋牧場管理運営に対する補助 ・漁業近代化資金に対する利子補給 ・漁船保険に対する補助								
令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度				
取組内容	★○漁業振興特別対策事業 ・大島美の浜漁協へ漁船漁具保全施設(船台)を設置 ・大島人工干潟におけるアサリ増殖調査事業 ・漁業者の研修会実施(テーマ:「里海シンポジウム」) ※コロナにより延期		⇒ ⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ・漁業者の研修会実施(テーマ:「里海シンポジウム」)					
	・浜の活力再生プラン前年度評価、実施、及び中間報告 ・広域浜プランでの取組 ・播種法を用いたアマモ場造成(市内2漁協による取組)		⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒	⇒ ⇒ ⇒					
	美しく豊かな海づくりに関する協定の締結(H28.5.26) ★○漁業近代化資金に対する利子補給 ・件数 延べ4件 ○海洋牧場管理運営に対する補助		⇒ ⇒	⇒ ⇒	⇒ ⇒	⇒ ⇒	⇒ ⇒ ・件数 延べ1件					
	★○漁船保険に対する補助 ・件数278件(徴収保険料の25%)		⇒ ⇒	⇒ ⇒	⇒ ⇒	⇒ ⇒	⇒ ⇒ ・件数250件(徴収保険料の25%)					
	★○漁業用燃料に対する補助 ・件数50件 ★○高圧洗浄機の導入に対する補助 ・件数1件		⇒ ⇒	⇒ ⇒	⇒ ⇒	⇒ ⇒	⇒ ⇒ ★○漁業用燃料に対する補助 ・件数70件					
直接事業費	決算額	5,791	千円	決算額	5,574	千円	決算額	5,750	千円	決算額	9,380	千円
	うち一般財源	5,041	千円	うち一般財源	4,824	千円	うち一般財源	5,000	千円	うち一般財源	6,205	千円

【達成目標2】	漁業者の担い手・後継者の確保と育成(※②)
---------	-----------------------

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
新規就業者数	単位	目標		2	2	2	2	2
	人／年	実績	1	1	2	2	—	—
		達成率		50.0%	100.0%	100.0%	—	—
漁業体験者数	単位	目標		120	120	120	120	120
	人／年	実績	0	0	95	122	—	—
		達成率		0.0%	79.2%	101.7%	—	—

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	0	千円	0	千円	866	千円	1,018	千円
うち一般財源	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円

2		漁村整備・交流事業												
事務事業の目的					事務事業の内容									
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)												
漁業者及び市民(主として小学生)		漁家経営が安定及び維持できるよう事業実施を行い、漁業振興を図る。 海辺の体験学習を通じて担い手を増やす取組を進める。			・海辺の体験学習									
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		★●海辺の体験学習 ・都市漁村等交流推進事業の実施 白石島親子ふれあい地引網 参加者 0人※コロナで中止 大島海辺の教室 参加者 0人※コロナで中止			⇒ ・都市漁村等交流推進事業の実施 白石島親子ふれあい地引網 参加者 0人※コロナで中止 大島海辺の教室 参加者 0人※コロナで中止			⇒ ・都市漁村等交流推進事業の実施 白石島親子ふれあい地引網 参加者 39人 大島海辺の教室 参加者 56人			⇒ ・都市漁村等交流推進事業の実施 白石島親子ふれあい地引網 参加者 55人 大島海辺の教室 参加者 67人			
直接事業費		決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	866	千円	決算額	1,018	千円	
		うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	

【達成目標3】新鮮な地魚の提供(※③)

達成目標3の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
直売所の販売額(道の駅・大島朝市・美の浜朝市)	単位	目標		163,000	163,000	163,000	163,000	173,000
	千円	実績	147,888	145,876	164,300	145,428	—	—
		達成率		89.5%	100.8%	89.2%	—	—

達成目標3の事業費								
令和2年度			令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	400	千円	278	千円	161	千円	222	千円
うち一般財源	0	千円	278	千円	161	千円	222	千円

3	水産物流通促進事業												
事務事業の目的				事務事業の内容									
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
漁業者及び市民		漁家経営が安定及び維持できるよう、また、新鮮な魚の提供、直販体制の充実を図る。 レシピ作成を支援し、新鮮な魚による料理の普及を図る。			・新鮮な魚の販売ルート開拓、直販体制の支援 ・レシピ作成への支援								
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	★●販売ルート開拓、直販体制の支援		⇒			⇒			⇒				
	・漁協による直販体制及び魚まつり(かさおか鮮魚市かき祭り)支援		⇒			⇒			⇒				
	・笠岡市漁協荷さばき施設における笠岡諸島の漁獲物の取扱量の増加と販路拡大、「朝市」を週1回継続開設と販売促進PRの取組支援		⇒			⇒			⇒				
	・備後圏域の地魚のブランド化における広域連携推進のための協議・検討		⇒			⇒			⇒				
	・漁協イベントの支援、備後フィッシュガイドブックの配布及び「備後フィッシュの食べられる店」の登録店舗の拡大(12店舗)、備後フィッシュフェスへの出店 ※コロナで休止		⇒			⇒			⇒				
	★●レシピ作成への支援		⇒			⇒			⇒				
	・生活交流グループ協議会による魚食普及及び魚利活用メニューの検討・試作		⇒			⇒			⇒				
直接事業費	決算額	400	千円	決算額	278	千円	決算額	161	千円	決算額	222	千円	
	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	278	千円	うち一般財源	161	千円	うち一般財源	222	千円	

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
直接事業費	6,191	千円	5,852	千円	6,777	千円	10,620	千円			
うち一般財源	5,041	千円	5,102	千円	5,161	千円	6,427	千円			

＜5.前年度の委員コメントに対する対応・回答＞

委員コメント	対応・回答
経営戦略”稼ぐ”にご尽力いただきありがとうございます。総合指数の海面漁業の漁獲量に関しましては、今後もアマモ場の再生活動と共に様々な団体とともに周知や募集をかけていただき、今後もアマモ場の聖地である岡山の備前や笠岡から全国に発信できるようにお願いいたします。また市民調査での水産業の振興の満足度ですが、コロナ禍ではありましたが、数値が低いように思いますし、基本方針に書かれている安くて新鮮な笠岡水産物のイメージが市民として湧きません。コロナにおける事業の縮小は緩和されています。漁師さん主役で全国で開催されているフィッシャーメンズフェスティバルなどいかがでしょうか。積極的なPRもお願いします。2.漁村整備・交流事業に関してです。市民や子供たちが漁師さん達と触れ合う場として設けていただいております。同じ市内でも海の近くの小学校区しか体験していないこともあるように感じています。教育委員会やこども部との連携も必要かもしれませんが、地域学として近隣を知ることも大切ですが、笠岡市のよさを知れるように市内全域でも経験の機会を増やしていただきたいです。そして、そこで笠岡のお魚を食べさせてほしいです。レシピ作成への支援についてです。レシピはどこで確認できますか。市民にも共有していただける仕組みづくりがあると嬉しいです。	市民の方や子どもに笠岡の水産業に触れてもらう機会として、毎年漁業者、住民組織及び企業等と連携し、ふれあい地引網やアマモ場の再生や稚魚放流、海ゴミ回収の活動等を行っており、例年多くの方に参加していただいております。また、各漁協では朝市や季節のイベント等を開催しており、海産物の販売や料理の提供も行われています。今後も関係先と連携しながら、PRや啓発活動等を継続的にを行い、市民に限らず多くの方に笠岡の魚や水産業への興味・関心を高めてもらえるよう取り組んでまいります。
チヌによるノリの食害や、クラゲの大量発生による漁獲への影響等、様々な課題がありますが、沿岸地域や島しょ部にとって、水産業は主要産業です。引き続き水産業振興に努めてください。	島嶼部を要する本市において、水産業の振興は重要な課題であると認識しております。引き続き関係先と連携し、本市水産業の振興を進めてまいりたいと考えております。
水産業には厳しい時代だと思いますが、よく健闘されていると感じました。市民意識調査の満足度が低いのは、小売店で笠岡産の魚の存在が身近に感じにくいからでしょうか。笠岡で獲れた魚を笠岡でおいしく食すという地産地消の動きが進んでほしいです。	笠岡で獲れた海産物については、漁協での直売やベイファーム笠岡での販売等により、地産地消への取組を進めております。
・漁獲高については、海面漁業が漁獲高が少なくなり、養殖漁業の漁獲高が令和4年度はおよそ倍になっています。今後も環境変化等により海面漁業は少なくなるといいますので、養殖漁業の支援に力を入れていただきたいと思います。 ・令和3年度の評価がCだったので、新規就業者が2名と増え、漁業体験者は目標には届いていないのですが、頑張っているのではないかと思います。	本市では、漁業者、住民組織及び企業等と連携し、アマモ場の再生、稚魚放流、海ゴミ回収などの活動を通して、水産業の支援を行っております。養殖漁業についても、漁業者の意向や状況等を鑑みながら、継続して支援を行ってまいります。
海面産業の漁獲量は減りましたが、養殖漁業の漁獲量はかなり増え安心しました。市民の満足度はさらに下がりましたが、新規就業者が二人も増えたことは喜ばしいことです。コロナ収束に伴い、漁業体験者数も来年度はさらに増えることを願います。魚を食べる機会は家庭より給食の方が多いご家庭もありますので、給食時に魚（備後フィッシュ）や漁業についての紹介をしてもらい、笠岡の水産業を持続可能なものにしてほしいと思います。	備後フィッシュフェスや白石島親子ふれあい地引網、大島海辺の見える教室などの活動を通して、子どもやその保護者、学校等に笠岡の魚や水産業への興味・関心を高めてもらうことができました。引き続き、笠岡の水産業を持続可能なものにすることができるように取り組んでまいります。
笠岡市民（特に小学生）の海辺学習は推進されていますが、山村の子どもたちへの取組はできないでしょうか。県北へのプレゼンテーションを計画していただきたい。	令和8年度から、笠岡諸島における海洋学習の拠点となる、「渚の交番」プロジェクト事業が稼働する予定です。渚の交番は、現在県内2カ所（真庭市、備前市）に設立されており、今後他の拠点との相互連携を図りながら、学習支援を計画していきたいと考えております。

＜6.令和5年度の振り返り＞(担当部署自己評価)

施策の進捗度 A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--	---

<7.未達成の指標への対応策>

未達成指標への対応策	【漁獲量(海面漁業)】 「美しく豊かな海づくりに関する協定」によるアマモ場造成活動や海岸清掃活動などを通して、環境改善や水産資源の保全に努めるとともに、海洋牧場事業や稚魚放流活動等により、魚数の増加を目指していきたい。また、魚の着生や生育環境の改善に資する人口魚礁の導入を検討し、漁獲量の向上に取り組んでいきたい。 【直売所の販売額(道の駅・大島朝市・美の浜朝市)】 取組を実施している事業主体に対して、SNSやチラシ、ホームページへの掲載等を通じた販売促進を働きかけることで、直売所の知名度向上に努め、広範に消費者を呼び込むことで販売額の向上を目指していきたい。
------------	--

<8.委員による評価結果>

総合評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・また前回令和4年度の施策評価では海面漁業の漁獲高が少なくなり、養殖漁業の漁獲高が多くなったと聞いていますが、今回令和5年度は前回より養殖漁業の漁獲量が少なくなっています。今後も養殖漁業の支援に力を入れていきたいと思います。 ・海面漁業の漁獲量が年々下がっているのが気になります。 ・海面漁業が減り、養殖漁業の水揚げが増えているようですが、将来的には自然の中で人間は生きていかねばなりません。海の畑の会社が活動しているとか。行政としても支援して行くべきではないでしょうか。 ・新規就業者が2人増え、漁業体験者数も増えてきたことは喜ばしいことです。漁業体験については市内のお子さんが多いのかと思いますが、例えば海や漁業にあまり接することのない近隣市町への声かけはされているのでしょうか。 ・備後フィッシュのHPですが、最近笠岡市のHPがパソコンで見れなくなりました。古いバージョンのパソコンだからだと思いますが、福山や三原のHPは見ることができ、そこから笠岡市に飛ぶことができないのが残念です。 ・「魚がない」との漁業者の声があると聞きます。資源管理と漁場整備の両面から水産業振興を進めてください。 ・笠岡市の稼ぐ経営戦略にご尽力いただきありがとうございます。漁獲量が海面も養殖も減っていますが、温暖化などの影響で減ってきているように思われますが、諦めずアマモ場再生活動、稚魚放流、海ゴミ回収など、すぐに結果に結びつかなくても引き続きお願いいたします。備後フィッシュ縛りでSDGsの関連の食のイベントなど市民にしっかりと食べてもらえ子供たちにも意識してもらえたらと思います。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	1－5	施策名	観光振興	主 担 当 課	商工観光課
戦略の柱	経営戦略 “稼ぐ”				
基本 方針	観光振興は、本市の産業振興施策において重要な柱の1つです。「瀬戸内海・笠岡諸島」、「笠岡湾干拓地」といった本市の特徴・地域資源を活かして、本市の観光分野の魅力を発信し認知度を高めるとともに、国内観光客やインバウンドの誘致等、観光客及び交流人口の増加を図ります。			関 係 課	企画政策課 定住促進センター 建設管理課 農政水産課 生涯学習課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
観光客数(1～12月)	単位	目標		100	126	150	174	198
	万人／年	実績	98	91	103	105	—	—
		達成率		91.0%	81.7%	70.0%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	観光素材の商品化及び販売(※①②⑦)
---------	--------------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
かさおかブランド認定件数	単位	目標		39	40	35	35	43
	件	実績	38	32	31	32	—	—
		達成率		82.1%	77.5%	91.4%	—	—
カブトガニ博物館入館者数	単位	目標		45,000	56,000	65,000	65,000	70,500
	人／年	実績	32,523	38,542	59,368	59,386	—	—
		達成率		85.6%	106.0%	91.4%	—	—
竹喬美術館入館者数	単位	目標		13,000	17,000	4,000	14,000	20,000
	人／年	実績	11,767	11,333	11,439	5,882	—	—
		達成率		87.2%	67.3%	147.1%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	3,969	千円	3,142	千円	8,785	千円	7,497	千円
うち 一般財源	0	千円	0	千円	350	千円	5,045	千円

1	観光イベント開催事業																			
事務事業の目的							事務事業の内容													
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)																		
観光客 伝統芸能関係者		各イベントへの観客の増員、地域伝統芸能の継承・発展を通じて市の活性化を図る。					・笠岡湾干拓地内景観作物園場への「四季の花」の植栽事業及び花イベントの実施 ・道の駅笠岡ベイファームへの集客施策の実施。 ・市内で開催される伝統継承活動への助成。(ひったか・おしぐらんご、白石踊、大島の傘踊り) ・笠岡市観光連盟が主催するツアーへの助成。													
令和2年度												令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	新型コロナウイルスの影響により中止				⇒			市内で開催される伝統継承活動への助成(ひったか・おしぐらんご、白石踊)				⇒								
直接事業費	決算額	0		千円		決算額	0		千円		決算額	350		千円		決算額	740		千円	
	うち一般財源	0		千円		うち一般財源	0		千円		うち一般財源	350		千円		うち一般財源	0		千円	

2	創	笠岡ぐるっと博											
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民・商店街 飲食業関係者		地域の魅力(＝地域資源)を再発見するとともに、市全体がお客様をもてなす環境を作り出し、経済的な部分も含めた地域活性化を図る。				市内の飲食店を周り、スタンプを集め応募してもらう。 500円以上の飲食購入につき1つ押印 応募の際のスタンプの数は1店舗1個とする。							
		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度					
取組 内容	・街ラリー(スタンプラリー形式にて市内飲食店を周る。) ・ぐるっとガールによる笠岡ぐるっと博加盟店のSNSを用いたレポートをしてもらい積極的な情報発信を図った。 ・コロナ禍の外出自粛により打撃を受けている飲食店を支援するため、感染対策の徹底を周知するとともに、市外からの参加を促すため、新聞折込やフリーペーパーへの掲載を行った。 ＜参加店舗 94店舗、ラリー応募数 3,142通＞		⇒ ・コロナ禍の外出自粛により打撃を受けている飲食店を支援するため、感染対策の徹底を周知するとともに、市外からの参加を促すため、新聞折込やフリーペーパーへの掲載を行った。 ・ぐるっと博10周年記念として「全店舗達成賞」と「2人で仲良く70店舗ペア賞」を取り入れ、賞品の質を上げたことで、参加者増につながった。 ＜参加店舗 100店舗、ラリー応募数 3,858通＞		⇒ ・SNSで参加店舗情報を発信 ・モバイルスタンプラリーを導入 既存の冊子と併用して実施 ＜参加店舗 105店舗、ラリー応募総数 5,336件(冊子:4,966件、モバイル370件)＞		⇒ ⇒ ⇒ 既存の冊子と併用して実施 ＜参加店舗 94店舗、ラリー応募総数 4,029件(冊子:3,664件、モバイル365件)＞						
直接 事業費	決算額	3,969	千円	決算額	3,142	千円	決算額	8,435	千円	決算額	6,757	千円	
	うち 一般財源	0	千円	うち 一般財源	0	千円	うち 一般財源	0	千円	うち 一般財源	5,045	千円	

【達成目標2】	観光客受け入れ体制の整備(※②③④⑦)
---------	---------------------

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
地域産業魅力づくり応援事業 (観光商品・観光サービス開拓事業)	単位	目標		1	1	1	1	1
	件/年	実績	0	0	1	0	—	—
		達成率		0.0%	100.0%	0.0%	—	—
宿泊施設数	単位	目標		20	21	22	22	22
	軒	実績	20	20	21	22	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%	—	—

達成目標2の事業費								
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	24,704	千円	40,443	千円	17,957	千円	10,243	千円
うち 一般財源	11,193	千円	6,845	千円	3,777	千円	6,895	千円

3	観光施設整備事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
観光客		・快適な環境での海水浴 ・観光施設の安全性、快適性の確保 ・歩きやすい遊歩道の整備					・白石島、北木島海水浴場の水質検査 ・観光便所等観光施設の清掃管理 ・観光案内看板等観光資材の管理 ・神島遍路道の改修事業					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・高島港待合所トイレ洋式化 ・真鍋島ふるさと村資料館解体 ・真鍋島(本浦)観光トイレ地質調査及び測量(次年度の観光観連施設の整備に向けたもの)			・白石島観光トイレ解体事業 ・真鍋島(本浦)観光便所新築工事 ・北木島観光トイレ(金風呂)簡易水洗化			・観光駐車場舗装工事			・神島公民館トイレ改修		
直接事業費	決算額	13,470	千円	決算額	38,456	千円	決算額	15,391	千円	決算額	8,823	千円
	うち一般財源	8,034	千円	うち一般財源	6,845	千円	うち一般財源	3,774	千円	うち一般財源	5,475	千円

4		日本遺産推進事業														
事務事業の目的							事務事業の内容									
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)														
観光客 観光団体		令和元年度に日本遺産に認定された笠岡諸島の観光施設の整備、観光客の安全性・利便性の向上					・看板、トイレ等の整備 ・遊歩道の整備 ・構成市町との連携									
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度					
取組内容		・仮設トイレ設置・管理 ・景観維持管理 ・六島遊歩道整備 ・島内案内看板設置 ・せとうち備讃諸島日本遺産推進協議会への負担金			⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ・六島灯台ライトアップに伴う電気整備工事 ⇒			⇒ ⇒ ⇒					
直接 事業費	決算額	11,234		千円	決算額	1,987		千円	決算額	2,566		千円	決算額	1,420		千円
	うち一般財源	3,159		千円	うち一般財源	0		千円	うち一般財源	3		千円	うち一般財源	1,420		千円

【達成目標3】	観光情報の積極的なPR(※②⑤⑦)										
---------	-------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

達成目標3の指標				目標・実績の推移					
指標名				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
観光資料配布数	単位	目標			16,500	31,500	26,000	26,000	33,000
	部/年	実績	16,005	13,526	19,367	14,288	—	—	—
		達成率		82.0%	61.5%	55.0%	—	—	—
観光ホームページアクセス数	単位	目標		660,000	810,000	730,000	730,000	825,000	
	件/年	実績	659,871	678,598	686,077	458,841	—	—	—
		達成率		102.8%	84.7%	62.9%	—	—	—

達成目標3の事業費											
令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
直接事業費	10,514	千円	27,934	千円	41,262	千円	24,588	千円			
うち一般財源	10,453	千円	27,456	千円	19,958	千円	17,497	千円			

5	観光振興事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
観光客 観光団体			様々な地域資源の魅力を外部に発信し、地域の活性化を図る。			・観光情報を発信する。 ・観光関連団体と連携を図る。 ・修学旅行誘致を推進する。						
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●積極的な観光PR ・パンフレットの作成 各種パンフレットの改訂版の作成 ・ウェブページの改訂 ・セールス活動 修学旅行誘致活動含む ・地域ブランドによる経済活性化を図るため、地域資源の発掘・ブラッシュアップの検討等を行った。 ・笠岡駅から、カプトガニ博物館、竹橋美術館及び道の駅をめぐる「いいとこめぐりバス」を運行した。 ・かさおかブランド市民アンケートを行った。 ・笠岡諸島観光パンフレット、アクセスガイドを作成 ・観光振興ビジョン策定			⇒	⇒ 							

6	日本遺産PR事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
観光客 観光団体		令和元年度に日本遺産に認定された笠岡諸島の魅力を外部に発信し、地域の活性化を図る。					・日本遺産認定の普及啓発・情報発信をする。 ・観光関連団体と連携を図る。					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・リーフレット、クリアファイル等普及啓発物品の制作 ・日本遺産地域活性化応援事業補助金			⇒ ⇒			・リーフレット、マスキングテープ等普及啓発物品の制作 ⇒ ・観光雑誌へ日本遺産広告を掲載した。 ・笠岡諸島スタンプラリーを実施した。 ・笠岡諸島周遊ツアーを実施した。			⇒ ⇒ ⇒		
直接事業費	決算額	844	千円	決算額	779	千円	決算額	3,590	千円	決算額	1,427	千円
	うち一般財源	783	千円	うち一般財源	301	千円	うち一般財源	1,380	千円	うち一般財源	1,104	千円

【達成目標4】道の駅の効果的な運営(※⑥)

達成目標4の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
来場者数(1～12月)	単位	目標		765	780	780	780	825
	千人/年	実績	763	696	724	727	—	—
		達成率		91.0%	92.8%	93.2%	—	—
販売額(1～12月)	単位	目標		468,000	470,000	473,000	473,000	476,000
	千円	実績	466,942	421,610	465,813	452,593	—	—
		達成率		90.1%	99.1%	95.7%	—	—

達成目標4の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	36,166	千円	30,755	千円	46,777	千円	38,503	千円
うち 一般財源	30,182	千円	23,276	千円	17,900	千円	17,204	千円

7	道の駅整備・運営事業(再掲)																								
事務事業の目的 対象(誰を)				意図(どのようにしたいのか)		事務事業の内容 ①地域振興施設として道の駅を運営する。 ②道の駅周囲の農地を利用して景観作物を咲かせ、また、農業体験施設等でイベントなどを開催する。 ③道の駅の利用者を二次的に笠岡市内の施設及び飲食店等へ誘客し、経済効果を図る。																			
国道2号笠岡バイパス利用者及び道の駅利用者				道の駅の目的である休憩・道路情報の提供だけでなく、地元、笠岡市の新鮮な野菜・魚介類等の販売、地元食材を使った食事の提供、観光情報など、笠岡の良さを広範囲にPRできる一大情報発信基地とする。																					
令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度															
取組内容				⇒ ⇒ ・イベント中止 ・イベント中止 ⇒ ・道の駅展望台通路修繕工事 ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ・花の見頃に合わせ年2回イベントを実施 ⇒ ・新型コロナウイルス感染症対策のためPOSレジシステム等備品を購入 ・老朽化した展望台を作り替えた。 ・繁忙期に併せ駐車場警備員を配置 ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ・道の駅1000万人セレモニー実施															
○道の駅整備 創・景観作物の作付 ・イベント中止 ・イベント中止 ・施設の整備・管理 ・直売所等の老朽化した備品の買換え、新型コロナウイルス感染防止のため道の駅店舗レイアウト変更に伴う修繕工事実施 ・道の駅駐車場目隠しシート修繕工事 ・景観作物の栽培管理の委託 ・景観作物畑排水対策工事																									
決算額				36,166		千円		決算額		30,755		千円		決算額		46,777		千円		決算額		38,503		千円	
うち一般財源				30,182		千円		うち一般財源		23,276		千円		うち一般財源		17,900		千円		うち一般財源		17,204		千円	

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
直接 事業費	75,353	千円	102,274	千円	114,781	千円	80,831	千円
うち 一般財源	51,828	千円	57,577	千円	41,985	千円	46,641	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
経営戦略”稼ぐ”にご尽力いただきありがとうございます。かさおかブランドの認定件数が刷新されているということで今後新たな区切りから誇りをもって薦められるものを楽しみにしております。ふるさと納税と密接することになると思いますので、期待しております。カブトガニ博物館は子供のお手紙からも魅力的な告知をいただき、人気が高まっていることも肌で感じます。竹喬美術館に関しても高い数値になりますが様々なクリエイティブなイベントを開催されているので今後に期待しています。重複するかもしれませんが観光協会との役割の分業化をしていただき、観光振興ビジョンからの交通費や宿泊費の補助を行い多職種・公民一体とした連携の事業としてみんなで盛り上げられるシステムの構築をお願いしたいです。また、笠岡市内や井笠地域、日本遺産関連などの連携されたイベントを笠岡市の飲食店などと連携されるようなものを楽しみにしています。今後もウィズコロナ・アフターコロナを見越した施策に期待しています。	市内観光施設及び観光協会と連携を密にし、より一層訪れる観光客に満足していただけるようなイベントや取組を検討します。 カブトガニ博物館は、これからも、子供たちが生物に関心を持ち、自然環境の保護に興味を持てるような行事を開催します。 竹喬美術館は、笠岡市民に愛される心の安らぎの場を提供し、さらにみなさんと共に創造的な地域づくりを進めて、より多くの方にリピーターとなっていただけるような美術館を目指します。 また、今年度は宿泊費や2次利用交通促進のための助成などをを行い、観光振興ビジョンに掲げる観光客数の増加を促す取組を行いました。 今後も、笠岡市内だけではなく、近隣市町や日本遺産関係市町との連携をより強化し、観光客のニーズを的確に捉え、ブラッシュアップすることで観光客誘致を推進するとともに、観光消費額の増大を図るよう努めます。
料金を含めたサービスが充実していれば市内宿泊施設の利用が増えるようですので、今後の観光施策の立案に活かしてほしいです。	過去の実績を参考にし、また市内旅行会社とも協議を行い、市内宿泊施設の利用が増加するような取組を検討します。
・観光客数、カブトガニ博物館や竹喬美術館等の入場者数が増加しています。今後はウィズコロナによる復活に是非とも力を入れてください。	カブトガニ博物館や竹喬美術館等とも連携しながら、観光客をより増やせるような取組を検討します。
風光明媚な笠岡諸島の観光施設整備は整ったようです。市内の子ども、子育て世帯を対象にしたイベントも好評です。市外からも観光客を呼べるようなイベントで、リピーターが増えるような魅力ある観光要素(ソフト面)にも工夫していただきたいです。また効果的なPRをし笠岡ファンが増えることを願います。島一周ウォーキングやサイクリングなど運動要素と、歴史紹介など文化的要素を合体し、美味しい地場料理が食べられるようなツアーなら健康志向の高齢者にも人気かと思いますが。島内には土産を購入する場所がないのでイベント時には簡単に買えると便利かと思います。笠岡ならではのスイーツなど食べることはできるのでしょうか？楽しめる要素が増えるとういと思います。 カブトガニ博物館の入場者は目標値に達しましたが、来年度は更に高い目標値をたてられています。頑張ってください。竹喬美術館については市内の子供向けの企画は充実してきており、市民には嬉しい美術館になってきています。両館ともグッズが人気です。引き続き、市外からも継続して来館してもらえるような企画で盛り上げていただきたいと思います。	御意見をいただきましたとおり、市外からも観光客を呼べるようなイベント等について、市内観光事業者や観光協会と協議を行い、今後検討していきます。 昨年度同様に笠岡市周遊型観光ツアー造成事業、ええもん笠岡泊まって発掘クーポン事業を継続して行っていますが、事業内容をより良いものとし、観光客の誘致や地域経済の活性化につなげたいと思います。 カブトガニ博物館については、令和5年度の入館者数が目標を達成することができませんでした。さらに魅力のある企画を実施し、情報発信を行うことで、目標達成を図ります。 竹喬美術館は、小・中学校も含めた広い年代に魅力を感じてもらえるワークショップや「美術館が自分たちの居場所」となるような企画を積極的に取り入れます。 また、市外から市内や島嶼部へ訪れてもらう機会を創出するため、ウィズコロナ、アフターコロナの状況を見据えた新たな取組を今後も引き続き検討します。
北木島観光に行きました。心躍る景色に感動しましたが、案内用の小さな看板が目につきにく、手作り感があつたので、地域の方々が作られたのでしょう。一目で目立つような看板を行政の方で設置できたら、観光客もゆっくり散策できると思います。	御意見のとおり、観光に来られた方が、十分に満喫していただけるような看板の設置を今後検討します。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
---------------	--	----------

<7.未達成の指標への対応策>

未達成 指標 への 対応策	地域産業魅力づくり応援事業の採択数については、ホームページや広報紙で周知を図ることで事業実施を促し、観光商品や観光サービスの開拓に努めます。 コロナ禍の影響を払拭できていない中、ウィズコロナ及びアフターコロナを見据えた新たな施策の実施や新たなイベントの検討、既存イベントの内容をより充実させるなど、近隣市町や日本遺産関係市町、各種団体等と連携を密にし、目標の達成に向け取り組みます。 また、カブトガニ博物館等の入館者数を増やすために、SNSを中心とした情報発信を強化します。
------------------------	--

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・前回令和4年度の施策評価は観光客数、カブトガニ博物館や竹喬美術館等の入場者数が増加していましたが、今回令和5年度は竹喬美術館が休館中ということで入場者数が減少しています。今後はリニューアルをした竹喬美術館の入場者数が増えるものと確信しています。 ・笠岡ぐるっと博は、参加店舗やラリー応募数が減っていますので、テコ入れをお願いします。 ・観光ホームページのアクセス数が激減していますが、何か対策はされているでしょうか。 ・笠岡ベイファームへの集客数も上がり、カブトガニ博物館、竹喬美術館、郷土資料館にも他都市から観光客が来笠するようになりました。かさおかブランド品の認定も広がっています。今後も一層のご努力をお願いします。 ・観光協会をはじめ頑張ってくださっていると思いますが、観光客数が期待していたほど増えてないように感じました。アフターコロナで遠出をされたのか、笠岡市が観光先に選ばれなかったのが残念です。宿泊施設も増え、施設整備も進んでいます。観光地としてチョイスしてもらえるよう「体験」や「交流」といった魅力も加え、楽しんでもらえる観光地になればと思います。専門家の知見を聞いたりされているのでしょうか。 ・笠岡ぐるっと博のモバイル利用率が思うほど伸びていませんでした。(R4年度7%→5年度9%)一般財源がこれまで0だったのが500万ほどになっているのに関係しているようならばご検討いただければと思います。 ・ラータクの補助金交付をされましたが、費用対効果はどうだったでしょうか。 ・「観光資料配布数」、「観光ホームページアクセス数」がかなりの減となっています。ニーズが他のツールに変わってきているのでしょうか。 ・無料Wi-Fiの案内板などあれば、観光客には便利かと思います。 ・観光振興で経営戦略の稼ぐを担ってくださりありがとうございます。観光振興では公民の役割が分離され双方ともにより効果が得られているように感じています。特に観光イベント開催事業は観光連盟が主催するツアーを助成されており、近くて遠いような気持ちでいる笠岡市民が笠岡諸島に行くことができます。道の駅は結構な方々が通っていらっしゃると思いますが、レジを通る人よりも遙かに多いと思っています。引き続き牡蛎などの収穫祭イベントのようにと打ち立てただけから幸いです。イベントを立てていただきながらカブトガニ博物館・竹喬美術館のように様々な視点で魅力発信、体験していただけると嬉しいです。引き続きよろしくお願いいたします。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	1-6	施策名	干拓地農業の活性化	主 担 当 課	農政水産課
大項目	活気あるまちづくり			関 係 課	建設管理課 商工観光課
基本 方針	長い年月をかけて、先人の知恵と工夫によってつくられた干拓地を有効活用するため、農地のより効率的な利用と、干拓地農業の周知を進めるとともに、環境負荷に配慮した持続可能な循環型農業の実現を目指します。				

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
人・農地プランにおける中心的経営体数(法人) ※干拓地内	単位	目標			26	27	28	29
	法人	実績	24	24	24	24	—	—
		達成率			92.3%	88.9%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	農地の有効利用(※①②)
---------	--------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
耕作面積率 ※作付調査等から算出(耕種・園芸エリア及び北 端エリアの一部から、遊休農地等を除いた面積 363ha)	単位	目標			95	95	95	96
	%	実績	94	90	93	90	—	—
		達成率			98.2%	94.7%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	14,398	千円	16,346	千円	38,026	千円	195,086	千円
うち 一般財源	3,215	千円	6,561	千円	4,077	千円	1,847	千円

1	干拓地有効活用推進事業															
事務事業の目的							事務事業の内容									
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)														
笠岡湾干拓地 営農者 市民		笠岡湾干拓地が有効活用され活性化する。					干拓地遊休地(民地)等の有効活用を図るため、営農希望者の斡旋等を行うと共に、粗飼料基地北端エリアに参入する農業法人の基盤整備を進める。併せて干拓地情報の発信に努め、干拓地の活性化を図る。									
	令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度					
取組 内容	・民有農地の有効利用支援と調整 ・粗飼料基地の貸付 (新規に144haの公募貸付を実施) ・粗飼料基地北端エリアの企業誘致に係る農業基盤整備事業の実施				⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒					
直接 事業費	決算額	0		千円	決算額	0		千円	決算額	20		千円	決算額	0		千円
	うち 一般財源	0		千円	うち 一般財源	0		千円	うち 一般財源	20		千円	うち 一般財源	0		千円

2		農業振興事業(再掲)														
事務事業の目的							事務事業の内容									
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)														
農業者新規就農希望者		農業者の規模拡大、経営の効率化を図る。 新規就農者により農業人口を増加させる。					認定農業者制度を活用した農家の育成 干拓地を生かした大規模農業の推進									
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度					
取組内容		○農産物のブランド化 ○認定農業者認定・支援事業 ○担い手確保・育成・支援事業 ○新規就農者支援事業 ●農道離着陸場の多面的利用 延べ日数 174日 ・産地パワーアップ事業 ・被災者向け経営体育成支援事業			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 延べ日数 178日			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 延べ日数 246日 ・産地パワーアップ事業 ・肥料価格高騰対策支援事業 ・燃料価格高騰対策支援事業			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 延べ日数 196日 ⇒ ・強い農業づくり総合支援事業 ・資材価格高騰対策支援事業 ・農業経営収入保険加入補助事業					
直接 事業費	決算額	14,398		千円	決算額	16,346		千円	決算額	38,006		千円	決算額	195,086		千円
	うち 一般財源	3,215		千円	うち 一般財源	6,561		千円	うち 一般財源	4,057		千円	うち 一般財源	1,847		千円
【達成目標2】		干拓地農業と農産物の周知(※③)														

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
道の駅来場者数(1～12月)	単位	目標		765	780	780	780	825
	千人／年	実績	763	696	724	727	—	—
		達成率		91.0%	92.8%	93.2%	—	—

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	36,166	千円	30,755	千円	46,777	千円	38,503	千円
うち 一般財源	30,182	千円	23,276	千円	17,900	千円	17,204	千円

[illegible]

【達成目標3】持続可能な循環型農業の確立(※④)

※COD(科学的酸素要求量)とは、水質汚濁の指標の1つで、水中に有機物等の物質がどれくらい含まれるかを、酸化剤の消費量を酸素の量に換算したもので、値が大きいほど水質汚濁の程度が大きいことを示します。

達成目標3の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
共同堆肥舎の牛糞堆肥搬出量	単位	目標		12,000	12,000	12,000	12,000	12,000
	t/年	実績	12,768	9,635	10,441	8,343	—	—
		達成率		124.5%	114.9%	143.8%	—	—
寺間遊水池のCOD※	単位	目標		16	16	16	16	15
	mg/L	実績	22	19	17	20	—	—
		達成率		84.2%	94.1%	80.0%	—	—

達成目標3の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	191	千円	192	千円	124	千円	1,050,121	千円
うち 一般財源	191	千円	192	千円	124	千円	121	千円

4 ④ バイオマスタウン推進事業(再掲)

事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
笠岡湾干拓地 営農者 市民			笠岡湾干拓地の特性を生かしたバイオマス資源の利活用を図りながら、地域農業の活性化を目指すとともに、環境にやさしい農業を推進し、持続可能な循環型社会の形成に資する。			笠岡湾干拓地域バイオマスタウン構想のもと、バイオマス資源の利活用について、産学官による協議を行い、牛ふん堆肥の利活用などに取り組む。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取 組 内 容	・牛ふん堆肥の利活用の検討			⇒			⇒			⇒		
							・バイオガス発電施設整備計画への支援			⇒バイオガス発電施設整備計画への支援(ふるさと融資の実行)		
直接 事業費	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	1,050,000	千円
	うち 一般財源	0	千円	うち 一般財源	0	千円	うち 一般財源	0	千円	うち 一般財源	0	千円

5 ④ 笠岡湾干拓地水質浄化対策事業(再掲)

事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
笠岡湾干拓地 営農者 市民		笠岡湾干拓地の水環境を改善する取組を行うとともに、環境にやさしい農業を推進し、持続可能な循環型社会の形成に資する。		笠岡湾干拓地及び周辺地区の農業関係者、市民及び行政が連携して環境負荷の低減に努め、干拓地の水質保全対策の推進を図る。								
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・負荷削減活動の推進			⇒			⇒			⇒		
	・耕畜連携による堆肥の適正処理			⇒			⇒			⇒		
	・茂平地区下水道の整備			⇒			⇒			⇒		
直接 事業費	決算額	191	千円	決算額	192	千円	決算額	124	千円	決算額	121	千円
	うち 一般財源	191	千円	うち 一般財源	192	千円	うち 一般財源	124	千円	うち 一般財源	121	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	50,755	千円	47,293	千円	84,927	千円	1,283,710	千円
うち一般財源	33,588	千円	30,029	千円	22,101	千円	19,172	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
活気あるまちづくりにご尽力いただきありがとうございます。難しい言葉の補足を付け足して下さりありがとうございます。指標は順調に進まれています、ずっと横這いなので未達成の対応策として挙げられていた法人化を個人の負担がかからない程度にコミュニケーションを図りながら勧めていただけたらと思います。市民としては駅周辺でお買い物をして干拓の牛舎のにおいでむせるのは悲しいと思いました。必ずしも市民がアプリで教えてくれる訳ではないので引き続き臭気問題も積極的にお願いいたします。また水質についても農薬や除草剤など気になります。環境負荷とともに市民が安心して暮らせるように汚染に関しても引き続きご尽力お願いいたします。	→ 干拓の臭気対策については、市としても改善しなければならないこととして県、専門家と協力し牛舎への立ち入り調査や畜産業者が臭気対策資材を購入する際の補助金交付、苦情があった際や市庁舎周辺で臭気を感じた際はFAXやメールで畜産事業者へ啓発を行っております。今後もハードソフト問わず取り組むことができるものは積極的に取り組み、臭気対策に努めます。
干拓地農業は、収穫量の面でもDXを活用した先進性の面でも、笠岡市だけではなく、岡山県でも有数の農業地域になりました。あとは、牛ふんを起因とする臭気の対策だけだと思います。バイオマス発電に牛ふんを使用することによる臭気の軽減を期待しています。	→ 臭気軽減は期待されるバイオガス発電施設については、本格稼働後も引き続き適切な支援を行ってまいりたいと考えております。それに限らず、臭気対策については、これまでの取り組みで効果のある物は継続し、ハードソフトに関わらず様々な手法を検討しつつ、臭気対策を継続します。
臭気対策はいろいろ試みておられますが、効果はどの程度出ているでしょうか。また、市外でも臭気を感じられているようですが、近隣市町との連携はなされているでしょうか。	→ 現在は近隣市町との連携は行っておりませんが、今後の対策検討において、近隣市町との連携が今後の臭気対策に努める予定としています。
・担当部署の自己評価で、1-2の農業振興がB、この1-6の干拓地農業の活性化がA評価となっています。内容的にはほぼ同じで、部署も中心が農政水産課となっていますが、どうして差が出てきているのでしょうか。頑張っていると思います。	→ 同じ課でありながら、係が違くとそれぞれの施策毎の評価も分かれるところがあります。しかしながら、課全体の取り組みとして、評価も見直してまいります。
干拓地農業、道の駅来客数などコロナ禍でもほとんどの項目でほぼ改善をされていたのでA評価にしましたが、話し合いの結果、臭気問題と寺間遊水池のCODの指摘がありBになりました。 民間事業者ではありますがバイオマスやスマート農業の見学受け入れなど可能でしたら、教育機関と連携をされてはいかがでしょうか。 牛糞の臭気対策・寺間遊水池のCOD水質保全対策については、より細かな対策をもって目標値に向けて改善していただきたく願います。	→ 寺間遊水池のCODに関しては、数年おきに上下しているように思いますが、近年は増加傾向にあります。現在、畜舎からの排水に対して水質浄化作用が見込まれる資材の検証を行っています。効果が確認できたら、普及に努めます。バイオガス発電施設はおっしゃるとおり民間施設ですが、事業者と協議し、見学受け入れも検討できると思いますので、受入れ可能となれば、学生の視察先の提案も教育委員会とおして行ってまいります。
干拓地内での農業には、動きがみられ、活性しているように感じます。ただ、将来的に持続可能な家族構成ではない方もいらっしゃるようで、今後の農業経営の研究が大切だと思う。	→ 現状、干拓地内は規模拡大を目指す経営者が多く、そういった意欲ある農業者へ農地のマッチングを進め、農地の流動化と集約化を目指していきます。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の 進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。	B
	B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。	
	C: 施策を構成する事業が一部遅れている。	
	D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	

<7.未達成の指標への対応策>

未達成 指標 への 対応策	【人・農地プランにおける中心的経営体数(法人)】 個人経営を行う経営規模の大きな農業者に対して法人化を推進する。
	【耕作面積率】 規模拡大を希望する農業法人等への貸付を促進し、遊休農地の解消を図る。

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	C	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・前回令和4年度の担当部署自己評価はA評価で頑張っているという評価でしたが、施策評価の結果はB評価でした。令和5年度は寺間遊水池のCODの値が大きくなっており、牛の臭気問題がまだ残っていると思われ、担当部署自己評価はB評価でしたが、施策評価はC評価でした。今後は是非ともCODの値を少なくしていただきたいです。 ・道の駅は1000万人セレモニーを行っており、順調に利用者が増加しています。いろいろなイベントを行い、利用者増加をお願いします。 ・臭気問題の抜本的な改革を期待しています。 ・新しく農業工場も開設し、農産物の出荷も順調だと思います。たくさんの就労者もいて、東部分に活気が見え始めました。今まで取り組んできたエヒメアイの取組も今、少しずつの水質改善もなされています。臭気対策については天候・風向きにより市内に漂っていますので、更なる改善が必要かと思います。 ・牛糞の臭気対策についてはバイオマスに期待をしておりますが、少し影の薄くなってきたアプリ「KABAR」も有効利用されてはと思います。各地区から情報提供いただいたり、市民の協力体制もとれればと思います。また、専門家の意見を聞いたり、他市町との情報交換などもされると解決策が見えて来ないでしょうか。 ・寺間遊水池のCOD水質保全対策については、より細かな対策をもって目標値に向けて改善していただきたいと考えています。 ・臭気の問題は関心が高いため、引き続き対策をお願いします。 ・干拓地農業の活性化では活気あるまちづくりにご尽力いただきありがとうございます。人・農では地プランにおける中心的経営対数が4年間横這いですが今後の見込みはありますでしょうか。予算では直接事業費では多くかかっていますが、補助金等をしようされていてありがとうございます。道の駅ではどんな時が来場者が多い傾向がありますか。近年、近隣を含め各地で農作物や素材縛りのイベントが開催され、旬を味わいたい方やお好きな方の盛り上がりを感じます。道の駅の販売物も今後を見越した催しを行っていただきたいです。物価高騰で家計にも厳しい昨今、市民としては気軽に家族で楽しめるイベントが笠岡市内であると嬉しいです。しっかりと売り上げに繋がるように、来場者数に反映される仕組み作りを今後も期待します。 ・干拓地農業の活性化では活気あるまちづくりにご尽力いただきありがとうございます。人・農では地プランにおける中心的経営対数が4年間横這いですが今後の見込みはありますでしょうか。予算では直接事業費では多くかかっていますが、補助金等をしようされていてありがとうございます。道の駅ではどんな時が来場者が多い傾向がありますか。近年、近隣を含め各地で農作物や素材縛りのイベントが開催され、旬を味わいたい方やお好きな方の盛り上がりを感じます。道の駅の販売物も今後を見越した催しを行っていただきたいです。物価高騰で家計にも厳しい昨今、市民としては気軽に家族で楽しめるイベントが笠岡市内であると嬉しいです。しっかりと売り上げに繋がるように、来場者数に反映される仕組み作りを今後も期待します。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	2－1	施策名	魅力的で快適に暮らせる都市形成	主 担 当 課	都市計画課
戦略の柱	活性化戦略 “賑わう”				
基本 方針	市民の豊かで快適な暮らしを守り、子育て世帯の居住を誘導するため、「住みやすい」「楽しめる」「発進力ある」まちづくりを目指して、中心市街地では都市機能の確保と居住誘導の推進により本市の魅力を活かした「都市機能の拠点」及び「歩いて暮らせるまち」を形成し、地域においては恵まれた自然環境や田園風景と調和させながら地域特性にあった土地利用の活性化に取り組みます。			関 係 課	全庁

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
人口集中地区の人口比率 (国勢調査基準に準ずる)	単位	目標		36.0	36.5	37.0	37.5	38.0
	%	実績	34.3	34.5	34.9	35.1	—	—
		達成率		95.8%	95.6%	94.9%	—	—
「公共交通の利便性の向上」の満足度 (市民意識調査)	単位	目標		—	△ 33.0	—	△ 27.0	△ 27.0(R6)
	%	実績	△ 40.1	—	△ 40.1	—	—	—
		達成率		—	82.3%	—	—	—
「魅力的で快適に暮らせる都市形成」の満足度 (市民意識調査)	単位	目標		—	△ 28.0	—	△ 24.5	△ 24.5(R6)
	%	実績	△ 31.5	—	△ 37.0	—	—	—
		達成率		—	75.7%	—	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	地域の特性を活かした個性あるまちづくり(※①③)
---------	--------------------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
「公共交通の利便性の向上」の満足度 (市民意識調査)	単位	目標		—	△ 33.0	—	△ 27.0	△ 27.0(R)
	%	実績	△ 40.1	—	△ 40.1	—	—	—
		達成率		—	82.3%	—	—	—
地域公共交通の利用者数	単位	目標		1,734	1,734	1,736	1,738	1,740
	千人／年	実績	1,730	1,482	1,531	1,583	—	—
		達成率		85.5%	88.3%	91.2%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	360,469	千円	262,217	千円	346,384	千円	305,625	千円
うち 一般財源	303,341	千円	210,352	千円	255,627	千円	250,916	千円

1	土地利用の規制業務											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市内の土地所有者又は土地利用者		土地の利用方法を規制することで、健全で均等のとれたまちづくりの誘導を図る。			・良好なまちづくりを推進するため、土地利用についての規制を適切に行う。 ・がけくずれ等のおそれが著しい市街地等の区域内において、宅地造成に伴う災害防止のために必要な規制を行う。 ・公共事業の用地を確保するため、また、土地を総合的・計画的に利用するために、一定面積以上の土地取引を監視する。							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●開発行為などの許可 開発行為許可申請 3件 開発行為等事前協議 58件			⇒ 開発行為許可申請 2件 開発行為等事前協議 54件 ●大規模盛土造成地変動予測調査			⇒ 開発行為許可申請 5件 開発行為等事前協議 46件 ●大規模盛土造成地変動予測調査			⇒ 開発行為許可申請 2件 開発行為等事前協議 36件		
直接事業費	決算額	222	千円	決算額	2,964	千円	決算額	3,984	千円	決算額	164	千円
	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	1,331	千円	うち一般財源	1,503	千円	うち一般財源	0	千円

2	建築物等の設置規制に関する業務											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市内に建築行為を行う物および建築物を所有する者		・市民の生命・財産を保護し、公共の福祉の増進を図る。 ・災害時における被害を未然に防ぎ、被害拡大の防止を図る。				・建築確認申請の受理, 許可 ・建設リサイクルに関する受理 ・岡山県福祉のまちづくり条例に関する物件の受理 ・建築物耐震診断事業に関する補助 ・木造住宅耐震改修事業に関する補助 ・住宅リフォーム助成 ・空き家等除却事業						
令和2年度		令和3年度				令和4年度			令和5年度			
取組内容	確認申請受付 市11件・民143件 耐震診断助成 6件・耐震改修助成 1件 ●建築物の耐震診断, 耐震改修に関する普及啓発事業 住宅リフォーム助成 191件 空き家等除却助成 10件 アスベスト改修助成 1件			⇒確認申請受付 市14件・民165件 ⇒耐震診断助成 9件・耐震改修助成 2件 ⇒ ⇒住宅リフォーム助成 181件 ⇒空き家等除却助成 4件			⇒確認申請受付 市 10件・民 121件 ⇒耐震診断助成 8件 耐震改修助成 1件 ⇒ ⇒住宅リフォーム助成 102件 ⇒特定空き家等除却助成 3件			⇒確認申請受付 市14件・民95件 ⇒耐震診断助成 7件 ⇒ ⇒住宅リフォーム助成60件 (うち居住誘導区域内15件) ⇒特定空き家等除却助成 3件		
直接事業費	決算額	42,484	千円	決算額	30,314	千円	決算額	28,574	千円	決算額	18,872	千円
	うち一般財源	32,755	千円	うち一般財源	7,138	千円	うち一般財源	9,712	千円	うち一般財源	14,465	千円

3	都市計画策定業務												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
都市計画区域内に在住の市民		・健全で均等のとれたまちづくりの誘導を図る。 ・効率的な道路網を形成し、便利で安全な道路の整備を促進する。				・都市計画法の主旨を遵守し、健全なまちづくりを誘導する。 ・地方分権時代に対応した、地域の特性に適合した健全なまちづくりを誘導する。 ・都市計画審議会の健全な運営に努力し、都市計画への反映に努める。 ・見直しを行った一部の都市計画道路について、今後の整備手法について検討する							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	●都市計画マスタープラン一部見直し業務の実施 ●都市・地域総合交通戦略策定調査業務の実施			⇒見直し完了 ⇒			●都市・地域総合交通戦略策定調査業務の完了 ●駅周辺整備事業の実施			●立地適正化計画の見直し ●駅周辺整備事業の実施 JR笠岡駅周辺整備基本計画業務(令和6年度へ繰越)			
直接事業費	決算額	14,763	千円	決算額	8,548	千円	決算額	18,190	千円	決算額	12,437	千円	
	うち一般財源	7,661	千円	うち一般財源	3,191	千円	うち一般財源	12,689	千円	うち一般財源	7,149	千円	

4		公営住宅管理業務										
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市営住宅居住者		建物や設備等の周辺環境を良好な状態にし、入居者のより良い居住環境を維持する。				・市営住宅の維持・管理・家賃の決定・家賃の徴収 ・入居者の異動管理 ・入居者の募集						
		令和2年度		令和3年度		令和4年度			令和5年度			
取組内容	●笠岡市公営住宅等長寿命化計画事業 ・長寿命化計画改定 ・一番町団地C-1棟外部改修工事		⇒ ・一番町団地A6・A7棟外部改修工事 ・小黒崎団地A1・A2棟外部改修工事		⇒ ・一番町団地A8・B11棟外部改修工事 ・小黒崎団地A3・B3棟外部改修工事 ・小平井団地外部改修工事 ・樋守団地68号バリアフリー工事 ・十一番町団地エレベーター改修工事			⇒ ・一番町団地B10・B12棟外部改修工事 ・一番町団地アスベスト含有建材調査 ・樋守団地139号バリアフリー工事 ・樋守団地給水ポンプユニット取替工事 ・十一番町団地エレベーター改修工事(繰越) ・笠岡市営住宅富岡団地建替基本計画策定業務				
直接事業費	決算額	57,326	千円	決算額	28,270	千円	決算額	48,884	千円	決算額	44,891	千円
	うち一般財源	33,188	千円	うち一般財源	16,049	千円	うち一般財源	24,712	千円	うち一般財源	25,486	千円

5	景観の規制業務																			
事務事業の目的						事務事業の内容														
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)																		
市民		健全で均整のとれたまちづくりの誘導を図る。				・景観法の主旨を遵守し、健全なまちづくりを誘導する。 ・地方分権時代に対応した、地域の特性に適合した健全なまちづくりを誘導する。														
令和2年度												令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		●屋外広告物の許可 新規 42件・更新 272件・変更 9件 ・屋外広告物の規制・誘導 ・違反広告物のパトロール			⇒ 新規 73件・更新 274件・変更 10件 ⇒ ⇒			⇒ 新規 82件・更新 201件・変更 10件 ⇒ ⇒			⇒ 新規 74件・更新 76件・変更 7件 ⇒ ⇒									
直接事業費		決算額	105	千円	決算額	97	千円	決算額	84	千円	決算額	82	千円							
		うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円							

6	公園管理業務													
事務事業の目的							事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)												
公園・緑地利用者		公園・緑地利用者の施設利用に関する利便性や満足度の向上を図る。					・公園・緑地施設の充実や適切な維持管理に努め、安心して快適な施設利用を推進する。 ・関係法手続の高度化処理により、利用者の利便性向上を図る。 ・関係情報の開示などにより、利用者の満足度の向上を図る。							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度				
取組内容	●小規模公園整備			⇒				⇒				⇒		
	●公園の指定管理者			⇒				⇒				⇒		
	●公園の里親制度			⇒				⇒				⇒		
	●公園施設の改修及び機能の充実			⇒				⇒				⇒		
	●公園施設の老朽化に伴う安全対策			⇒				⇒				⇒		
	●緑と水の回廊づくり			⇒				⇒				⇒		
	●緑化の推進			⇒				⇒				⇒		
	●笠岡市公園施設長寿命化計画策定			●笠岡市公園施設長寿命化対策事業			⇒			⇒				
直接事業費	決算額	232,234	千円	決算額	177,778	千円	決算額	232,419	千円	決算額	214,923	千円		
	うち一般財源	216,402	千円	うち一般財源	168,397	千円	うち一般財源	192,762	千円	うち一般財源	189,560	千円		

7	街路樹管理業務											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
道路利用者と周辺に居住する市民		道路利用者及び周辺住民の利便性や満足度の向上を図る。				・街路樹の適切な維持管理に努め、安心して快適なみどりのあるまちを推進するとともに、道路周辺の生活環境の向上を図る。 ・街路樹に関する苦情、要望に迅速に対応し、利用者のニーズを満たすことで満足度の向上を図る。						
令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度				
取組内容	・街路樹の適切な維持管理			⇒			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	13,335	千円	決算額	14,246	千円	決算額	14,249	千円	決算額	14,256	千円
	うち一般財源	13,335	千円	うち一般財源	14,246	千円	うち一般財源	14,249	千円	うち一般財源	14,256	千円
【達成目標2】産業振興に向けた調和ある土地利用(※②)												

達成目標2の指標				目標・実績の推移					
指標名				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	R7目標
笠岡港工業用地以外での新規操業開始企業数 (企業誘致に関する奨励金交付企業数)	単位	目標			2	1	1	1	1
	企業／年	実績	1	1	0	0	0	—	—
		達成率		50.0%	0.0%	0.0%	—	—	—
事業用地造成促進奨励金支給件数	単位	目標		1	1	1	1	1	1
	件	実績	0	0	0	1	—	—	—
		達成率		0	0.0%	100.0%	—	—	—

達成目標2の事業費											
直接事業費	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度	
	3,980	千円		17,620	千円		980	千円		2,480	千円
うち一般財源	3,980	千円		17,620	千円		980	千円		2,480	千円

8	新設土地造成促進奨励事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
開発面積1,000㎡以上の住宅用地又は3,000㎡以上事業用地を開発する者		民間の資本による開発を奨励し、公共用施設の整備推進を図る。				市内の土地の開発許可を受けて、公共用施設として建設した道路、公園、緑地、配水施設、排水施設及び下水道施設を市に寄付した者に対して奨励金を交付する。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●民間活力を活用した住宅団地・工業団地の造成 新設土地造成奨励金のPR <奨励金交付件数> 住宅用地1件、工業用地0件 ●優遇制度のPR 笠岡市のホームページに掲載によるPR活動			⇒ <奨励金交付件数> 住宅用地2件、工業用地0件 ⇒			⇒ <奨励金交付件数> 住宅用地1件、工業用地0件 ⇒			⇒ <奨励金交付件数> 住宅用地0件、工業用地1件 ⇒		
	決算額	3,980	千円	決算額	17,620	千円	決算額	980	千円	決算額	2,480	千円
直接事業費	うち一般財源	3,980	千円	うち一般財源	17,620	千円	うち一般財源	980	千円	うち一般財源	2,480	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度	
直接事業費	364,449	千円	279,837	千円	347,364	千円	308,105	千円
うち一般財源	307,321	千円	227,972	千円	256,607	千円	253,396	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
活性化戦略”賑わう”にご尽力いただきありがとうございます。住みやすい・楽しめる・発信力のもとになる公園整備をありがとうございます。ぜひ整備された公園からの住みやすさの発信が進に子育て世代の居住に繋がることを願っています。また、交通の利便性に関して抜本的な考え方も必要な時期に来ているように思います。駅周辺とともに市街地となる居住区の方々が孤立しない都市形成に今後も期待しています。	→ 整備した公園により住みやすさの発信を行い、子育て世代が定住していただけるよう今後とも努めます。
各種計画の策定等、水面下では進んでいます、進捗状況が市民にとっては見えにくいと思います。何か工夫をしていただければ助かります。	→ 現在、各種計画の策定に係る進捗状況の公表については、パブリックコメントを通じて行っているところです。今後につきましては、ホームページでの会議結果の公表等についても検討してまいりたいと思います。
駅周辺整備は市民にとって身近で関心が高いと思うので、進捗状況を分かりやすく発信していただきたいです。	→ 市ホームページにおいて、JR笠岡駅南北連絡施設等整備検討委員会の会議結果をはじめ、JR笠岡駅周辺整備基本構想や整備方針を公表しております。今後も、市民にとってわかりやすい情報発信に努めてまいります。
・いろいろな事業(国道2号笠岡バイパス、篠坂PAスマートIC等)が順調に進んでいるように思います。今後は笠岡駅の整備の実施に是非とも取り掛かっていただきたいと思います。	→ 笠岡駅及び周辺地域の整備については、JR笠岡駅周辺整備基本構想や南北自由通路等整備検討業務での整備方針をはじめ、具体的な整備事業を検討してきたところです。 今後については、長期的なビジョンをもって優先順位を付けて対応してまいりたいと考えております。

市民意識調査の満足度が更に下がりました。原因分析などされていたら教えてください。 また居住の誘導に関してはどのくらい進んだかの評価が難しいので、住宅リフォーム助成金制度利用の際の「居住誘導区域内の場合」の数値などもあればよいかと思いますがいかがでしょうか。 公営住宅管理については老朽化が進み修繕が大変かと思いますが、今後もニーズは増えてくるのでしょうか。入居者の高齢者世帯の割合が増加し孤独死など心配です。社会情勢の変化に伴う市営住宅全体の再編、規模の最適化について今後の方向性をお示しください。	市民意識調査の満足度は総合的な評価であり、特定の要因を限定はできませんが、空き家の増加や駅周辺を含む中心市街地の魅力度や、公共交通システムに関する満足度との関連性は高いと考えております。 生活利便施設や住環境の向上等、にぎわいと活力のある都市の形成が求められていると感じており、今後もこれまで以上に、中心市街地を核とするコンパクトな市街地の形成と、既存の地域を公共交通で結ぶ都市軸の形成が重要であると考えております。 また、ご提案いただいたように、住宅リフォーム助成金制度の活用状況による分析もひとつの考え方になるものと考えられますので、評価の参考とさせていただきます。 公営住宅等の管理については、笠岡市公営住宅等長寿命化改計画に定めているとおり、①需要に即した供給量の確保、②適正な維持管理、③トータルコストの低減を図ることを目的としており、一定規模の団地においては住棟単位での建替を行うとともに、耐震化できない老朽化が著しい小規模団地については除却を行い順次用途廃止していく方向としています。 今後の社会情勢の変化に伴い、新婚世帯及び子育て世帯向けの間取りへのリフォームや、高齢者等に優しい住居内のバリアフリー化を実施するなどして、公営住宅等へのニーズに繋がる事業を進めてまいります。
笠岡市内の開発申請の動きもあるようです。行政としてしっかり指導して、開発事業が途中止めにならない事を望みます。また、バイパス、篠坂インター周辺の研究継続もよろしくお願いします。	良好な市街地の形成と居住環境の整備を目指して、開発許可申請の適切な運用を図ってまいります。また、国道2号バイパスや篠坂SICなどの交通結節点における土地利用計画の検討については、引き続き取り組んでまいります。

ハ

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
---------------	---	----------

<7.未達成の指標への対応策>

未達成指標への対応策	立地適正化計画に基づき、都市機能の確保と居住誘導をより一層推進することで中心市街地の魅力を高めていくとともに、コンパクトな拠点形成とネットワークの構築によって持続可能な都市構造の形成を目指します。 また、駅周辺地域における低未利用地の有効活用や、篠坂SICなどの交通結節点を中心とした適切な土地利用規制についても検討を進め、地域特性にあった土地利用の活性化に取り組めます。
-------------------	--

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・国道2号笠岡バイパス、篠坂PAスマートIC等が順調に進んでいるように思います。 ・JR笠岡駅周辺整備基本計画業務が令和6年度に繰り越しとあったので、今後は笠岡駅の整備の実施に是非とも取り掛かっていただきたいと思います。 ・2年ごとの市民意識調査が令和5年度がなかったのですが、来年度の市民意識調査の結果がどうなるか楽しみです。 ・中心市街地への人口集中が進めば、公共交通システム構築の費用抑制につながりますので、できるだけ早い取組をお願いします。 ・魅力的な個性ある都市形成を目指していますが、駅周辺の中心街の活性化についてはまだ、創意工夫している段階だと思っています。まずは港までの広がりのにぎわいづくりを模索したはどうでしょうか。 ・高齢者や障がい者の住みやすい特別設計住宅（バリアフリー設備や緊急通報システムなど）があれば、安心して住み続けるまち笠岡に近づくとします。万が一のことがあっても親族が近所にいない方などにはニーズがあると思います。 ・市民病院を中心とした快適なまちづくり、また賑わいのある魅力ある都市形成を期待しています。 ・魅力的で快適に暮らせる都市形成が進むよう、バランスの良い土地利用の規制を進めてください。 ・魅力的な都市形成にご尽力いただきありがとうございます。公共交通の利用者数も人口が減る中増えていますね。これからも運行可能な公共交通機関の利用把握をお願いします。そして公園についてです。大きな公園は笠岡市の財産であり子育てしやすい、老後も住みやすい環境の一部だと思えますが、管理費が大きいのが気になります。実際に地域の方の高齢化により管理できない公園もあると思います。管理が厳しい公園は手放したり、大型の公園も近隣市町村の遠足の場として愛されているように思いますが、他市町村から利用料をいただいたり、規模の適正化は図った方がいい頃になったと思います。とても管理の行き届いている公園にかかる費用もままならないと思いますが、防災の視点も入れていただきながら拠点として使えるところをご検討いただきながら災害等にも危機管理課と連携を行い育てていただけたらと思います。そしてお願いがあります。笠岡市近隣に有人駅を合同協議していただいで結構なのでお願いしたいです。目の見えない人は目や耳の聞こえない人は困ります。駅の改修に関する費用が莫大ですが市民にとって必要なものを残していただけないかご検討いただけると幸いです。また篠坂PA付近の企業誘致や発展など期待しています。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	2-2	施策名	定住・住宅対策	主 担 当 課	定住促進センター
戦略の柱	活性化戦略“賑わう”				
基本 方針	市民と協働しながら、市政のあらゆる分野で定住促進事業を展開することによって、市民一人一人が笠岡に住んでいて良かったと幸せを実感できるような、「住みたい 住み続けたいまち 笠岡」を目指します。			関 係 課	全庁

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
社会動態人口年間増減数	単位	目標		△ 160	△ 90	0	0	0
	人／年	実績	△ 205	△ 303	△ 122	△ 203	—	—
		達成率		52.8%	73.8%	0.0%	—	—
20～39歳の女性婚姻率	単位	目標		2.00	2.22	2.44	2.88	2.88
	‰	実績	1.91	1.60	1.97	1.68	—	—
		達成率		80.0%	88.7%	68.9%	—	—
これからも笠岡市に住み続けたいと感じている市民の割合（市民意識調査）	単位	目標		—	60.0	—	60.0	60.0(R6)
	%	実績	58.9	—	58.2	—	—	—
		達成率		—	97.0%	—	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	若者を中心とした地元定着・移住促進（※①）
---------	-----------------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
地域おこし協力隊隊員数	単位	目標		17	19	21	21	21
	人	実績	15	17	23	26	—	—
		達成率		100.0%	121.1%	123.8%	—	—
若者会議延べ参加者数	単位	目標		160	160	160	160	160
	人	実績	155	126	268	326	—	—
		達成率		78.8%	167.5%	203.8%	—	—
市内高校生の通勤圏内就職率	単位	目標		82	83.0	83	83.0	84.0
	%	実績	82.4	71.3	77.7	58	—	—
		達成率		87%	94%	69%	—	—

※笠岡商業高校と笠岡工業高校の就職希望者のうち井笠・倉敷・福山地域への就職率

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	34,900	千円	40,231	千円	52,225	千円	71,869	千円
うち 一般財源	32,414	千円	35,225	千円	50,292	千円	71,869	千円

1	創 若者会議開催事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市内在住の若者		18歳から40歳くらいまでの人を対象に若者会議を開催し、若者が意見を出し合い、若者が住みやすいまちづくりを進め、地元定着を促進するとともに、笠岡の未来を担う人材を育成する。				若者会議を開催し、コーディネーターの指導の下、若者が考え、若者が企画し、若者が実行するプロジェクトの実現に向けた支援を行う。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・若者会議開催事業			⇒			⇒			⇒		
	<登録者数:78人>			<登録者数:74人>			<登録者数:74人>			<登録者数:67人>		
	<開催回数:11回>			<開催回数:11回>			<開催回数:12回>			<開催回数:12回>		
	<出席者:延155人, 14.1人/回>			<出席者:延126人, 11.5人/回>			<出席者:延268人, 22.3人/回>			<出席者:延326人, 27.1人/回>		
	<プロジェクト数:3>			<プロジェクト数:3>			<プロジェクト数:2>			<プロジェクト数:2>		
直接事業費	決算額	1,578	千円	決算額	1,694	千円	決算額	1,513	千円	決算額	1,501	千円
	うち一般財源	1,578	千円	うち一般財源	1,694	千円	うち一般財源	1,513	千円	うち一般財源	1,501	千円

2	① 地域おこし協力隊事業										
事務事業の目的					事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)									
市内各地域		都市部から隊員を受け入れ、地域協力活動に従事してもらうことで、新たな担い手として地域を活性化し、移住・定住を推進する。			「時代に合った特色ある地域をつくる。」「笠岡への新しいひとの流れをつくる。」という創生総合戦略の目標達成に向け、地域ブランドや地場産品の開発・販売・PRなどの地域おこしの支援や、農林水産業への従事、住民の生活支援などの地域協力活動に興味を持っている都市部の若者を地域おこし協力隊に委嘱した。						
令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・地域おこし協力隊事業			⇒			⇒			⇒	
	<R2年度活動 6人>			<R3年度活動 8人>			<R4年度活動 13人>			<R5年度活動 14人>	
	全域1, 神外1			全域1, 神外1, 大島1, 白石1,			全域5, 神外1, 大島1, 白石2, 高島1, 真鍋2, 北木1			全域5, 神外1, 大島1, 白石2, 高島2, 真鍋2, 北木1	
	飛島1, 高島1, 真鍋2			飛島1, 高島1, 真鍋2			<R4年度採用 6名>			<R5年度採用 3名>	
直接事業費	<R2年度採用 3名>			<R3年度採用 2名>			※R4.4.1付け委嘱 1人, R4.9.1付け委嘱 2人, R4.11.1付け委嘱 1人, R4.12.1付け委嘱 1人, R5.2.1付け委嘱 1人			※R5.4.1付け委嘱 2人, R5.11.1付け委嘱 1人	
	※R2.6.1付け委嘱 3人			※R3.5.1付け委嘱 1人 R4.3.1付け委嘱 1人							
決算額	33,322	千円	決算額	38,537	千円	決算額	50,712	千円	決算額	70,368	千円
うち一般財源	30,836	千円	うち一般財源	33,531	千円	うち一般財源	48,779	千円	うち一般財源	70,368	千円

【達成目標2】結婚応援・子育て支援(※②)

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指標名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
多世代同居等支援事業	単位	目標		40	35	35	—	35
	件/年	実績	32	20	19	31	—	—
		達成率		50.0%	54.3%	88.6%	—	—
新婚世帯家賃助成新規認定件数	単位	目標		25	25	25	25	25
	件/年	実績	21	14	14	14	—	—
		達成率		56.0%	56%	56%	—	—

達成目標2の事業費			令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
直接事業費	6,185	千円	5,072	千円	3,900	千円	5,011	千円						
うち一般財源	6,185	千円	5,072	千円	3,900	千円	5,011	千円						

3		創 結婚応援事業						
事務事業の目的				事務事業の内容				
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)						
独身の男女		結婚成立を促進することにより、未婚・晩婚化対策を図る。中期的な視野として少子化・人口減対策を図る。		結婚相談所を設置し、まじめに結婚を考えている独身の男女を対象に、希望する相手を紹介する。 H27年度から市主催や社会福祉協議会主催でカップリングイベントを実施。				
令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		
取組内容	・結婚相談 ・カップリングイベント ・カジュアルパーティ 【結婚相談】 ＜登録者数:88人＞ ＜成婚数:0組＞ 【イベント】 ＜開催回数:1回＞ 内カップリング1回 ＜参加者数:23人＞ ＜カップリング数:5組＞		⇒ ⇒ ⇒ 【結婚相談】 ＜登録者数:526人＞ ※令和3年12月から倉敷・高梁川流域マリッジサポートセンターと連携 ＜成婚数:0組＞ 【イベント】 ＜開催回数:1回＞ 内カップリング1回 ＜参加者数:22人＞ ＜カップリング数:4組＞		⇒ ⇒ ⇒ 【結婚相談】 ＜登録者数:415人＞ ※令和3年12月から倉敷・高梁川流域マリッジサポートセンターと連携 ＜成婚数:0組＞ 【イベント】 ＜開催回数:0回＞ ＜参加者数:0人＞ ＜カップリング数:0組＞ ※市として開催はしていないが、地域おこし協力隊で婚活事業をおこなっている隊員が、釣書交換やカップリングイベントをおこなった。		⇒ ⇒ ⇒ 【結婚相談】 ＜登録者数:415人＞ ※令和3年12月から倉敷・高梁川流域マリッジサポートセンターと連携 ＜成婚数:0組＞ 【イベント】 ＜開催回数:0回＞ ＜参加者数:0人＞ ＜カップリング数:0組＞ ※市として開催はしていないが、地域おこし協力隊で婚活事業をおこなっている隊員が、釣書交換やカップリングイベントをおこなった。	
	決算額 3 千円		決算額 45 千円		決算額 0 千円		決算額 0 千円	
直接事業費	うち一般財源 3 千円	うち一般財源 45 千円	うち一般財源 0 千円	うち一般財源 0 千円				

4		創 井笠圏域結婚推進事業											
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
独身の男女		結婚を考えている人に、出会いの場を提供したり婚活研修会を開催することにより、交際発展への一助となるようにしたい。				カップリングパーティーをはじめとした出会いの場の提供や婚活研修会等の結婚推進事業について、井笠圏域3市2町が共同で事業を実施する。							
		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度					
取組内容		・カップリングイベント ・広報強化事業		⇒ ⇒		⇒ ⇒		⇒ ⇒					
		【カップリングイベント】 ＜開催回数:2回＞ ＜参加者数:47人＞ ＜カップリング数:10組＞ ＜成婚数:1組＞		【カップリングイベント】 ＜開催回数:1回＞ ＜参加者数:22人＞ ＜カップリング数:4組＞ ＜成婚数:0組＞		【カップリングイベント】 ＜開催回数:0回＞ ＜参加者数:0人＞ ＜カップリング数:0組＞ ＜成婚数:0組＞ ※新型コロナ感染拡大の影響により開催中止		【カップリングイベント】 ＜開催回数:1回＞ ＜参加者数:90人＞ ＜カップリング数:13組＞ ＜成婚数:1組＞※矢掛町の女性					
直接事業費		決算額	50	千円	決算額	28	千円	決算額	0	千円	決算額	2	千円
		うち一般財源	50	千円	うち一般財源	28	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	2	千円

5	創 多世代同居等支援事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
新たに多世代同居等のために転居する人			親等と直系の子や孫が多世代で同居又は近隣に居住するための住宅の取得や転居等の費用に対して助成を行うことにより、多世代家族の形成と子育て支援を促進し、家族の絆の再生と定住促進を図る。			親等と直系の満50歳以下の子や孫が多世代で同居、又は1km以内に近居するための住宅の取得や転居等の費用に対して助成を行う。 H28年度から交付要件を、三世代から多世代(二世帯も可)に緩和した。						
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		・多世代同居等支援事業助成金交付事業 ＜助成金交付件数:33件＞ ＜異動人数:102人＞ ＜うち転入者数:79人＞77.5%		⇒ ＜助成金交付件数:20件＞ ＜異動人数:68人＞ ＜うち転入者数:48人＞70.6%			⇒ ＜助成金交付件数:19件＞ ＜異動人数:52人＞ ＜うち転入者数:48人＞92.3%			⇒ ＜助成金交付件数:31件＞ ＜異動人数:96人＞ ＜うち転入者数:78人＞81.2%		
直接事業費	決算額	2,879	千円	決算額	2,015	千円	決算額	1,800	千円	決算額	3,110	千円
	うち一般財源	2,879	千円	うち一般財源	2,015	千円	うち一般財源	1,800	千円	うち一般財源	3,110	千円

6	① 新婚世帯家賃助成事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市内の賃貸住宅に入居する新婚世帯		若者世代の市外流出に歯止めを掛けるとともに、市内内外の新婚世帯の本市への居住の契機とし、定住につなげることにより、定住人口の確保と世代間の人口構成のバランスを図り、まちのにぎわいと市内経済の活性化に資する。				実質家賃負担額3万円を超える部分について、月額1万円を上限に最長24カ月分、市内共通商品券により助成する。							
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		・新婚世帯家賃助成金交付事業			⇒			⇒			⇒		
		<助成金交付件数:38件> <うち新規認定:16件> <異動人数:31人> <うち転入者数:15人>46.9%			<助成金交付件数:39件> <うち新規認定:11件> <異動人数:22人> <うち転入者数:9人>40.9%			<助成金交付件数:30件> <うち新規認定:10件> <異動人数:28人> <うち転入者数:16人>57.1%			<助成金交付件数:28件> <うち新規認定:14件> <異動人数:28人> <うち転入者数:11人>39.3%		
直接事業費	決算額	3,253	千円	決算額	2,984	千円	決算額	2,100	千円	決算額	1,899	千円	
	うち一般財源	3,253	千円	うち一般財源	2,984	千円	うち一般財源	2,100	千円	うち一般財源	1,899	千円	

【達成目標3】	多様な住宅供給と住宅取得支援(※③④)
---------	---------------------

達成目標3の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
住宅新築助成金交付件数	単位	目標		60	55	55	55	55
	件/年	実績	52	32	24	25	—	—
		達成率		53.3%	43.6%	45.5%	—	—
空き家バンク物件契約件数	単位	目標		60	60	60	60	60
	件/年	実績	51	50	51	50	—	—
		達成率		83.3%	85.0%	83.3%	—	—
定住化土地造成促進奨励金交付件数	単位	目標		3	3	3	3	3
	件/年	実績	1	2	1	0	—	—
		達成率		66.7%	33.3%	0.0%	—	—

達成目標3の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	66,263	千円	39,471	千円	33,216	千円	32,782	千円
うち一般財源	62,888	千円	36,482	千円	22,564	千円	21,366	千円

7		① 住宅新築助成金交付事業												
事務事業の目的							事務事業の内容							
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)											
40歳以下の住宅を新築した者			子育て世代の定住促進と人口増を図る。また、近隣自治体への転出防止を図る。				市内へ住宅を新築する40歳以下の人を対象に、最大100万円の住宅新築助成金を交付する。さらにH28.4以降の契約分から中学生以下の子ども一人につき10万円(最大30万円)加算する。終期をH33.5.31までに延長した。							
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		・住宅新築助成金交付事業 <助成金交付件数:52件> <異動人数:186人> <うち転入者数:90人>48.4% <加算した子の人数:75人>			⇒ <助成金交付件数:32件> <異動人数:102人> <うち転入者数:32人>31.4% <加算した子の人数:39人>			⇒ <助成金交付件数:24件> <異動人数:80人> <うち転入者数:68人>77.3% <加算した子の人数:38人>			⇒ <助成金交付件数:25件> <異動人数:87人> <うち転入者数:76人>87.4% <加算した子の人数:38人>			
直接事業費	決算額	53,800	千円	決算額	26,300	千円	決算額	20,600	千円	決算額	21,100	千円		
	うち一般財源	53,800	千円	うち一般財源	26,160	千円	うち一般財源	20,600	千円	うち一般財源	21,100	千円		

8		創定住促進に係る固定資産税相当額一部助成金交付事業													
事務事業の目的						事務事業の内容									
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)												
市民及び市外居住者			市内に住宅を取得する際に優遇措置(固定資産税の一部助成)を行うことによって他都市との差別化を図り、定住への機運を高め、社会動態人口の減少に歯止めをかける。			H26.1.1～H32.1.1に新たに固定資産税が賦課される新築住宅(住宅新築助成金交付対象者を除く)、中古住宅、分譲マンション等を取得した所有者・購入者に対して、固定資産税額の1／2に相当する額を3年間助成する。									
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度				
取組内容		・固定資産税相当額一部助成事業⇒			⇒			⇒			⇒				
		<助成金交付件数:153件> <うち新規認定:54件, 168人> <うち転入者数:18人>10.7%			<助成金交付件数:104件> ※令和2年度課税までが対象。令和3年度以降は新規認定なし。			<助成金交付件数:54件> ※令和2年度課税までが対象。令和3年度以降は新規認定なし。			<助成金交付件数:0件> ※令和2年度課税までが対象。令和3年度以降は新規認定なし。				
直接事業費		決算額	5,506	千円	決算額	3,583	千円	決算額	1,778	千円	決算額	0	千円		
		うち一般財源	5,506	千円	うち一般財源	3,583	千円	うち一般財源	1,778	千円	うち一般財源	0	千円		

9 ⑨ 定住促進情報集約提供事業																																																																																																																																												
事務事業の目的						事務事業の内容																																																																																																																																						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)																																																																																																																																										
市内に住居及び就職先を探している人		移住・定住を希望する利用者の利便性が向上し、定着人口の増につながる。				専用HPにおいて、空き家・不動産・就職等の情報を一元化して発信してきたが、笠岡市HPリニューアルに伴い、専用HPを閉鎖し笠岡市HPの特設ページとして開設した。 また、移住希望者へ笠岡暮らしを体験できる施設(お試し住宅)を貸出する。																																																																																																																																						
<table><tr><td></td><td colspan="3">令和2年度</td><td colspan="3">令和3年度</td><td colspan="3">令和4年度</td><td colspan="3">令和5年度</td></tr><tr><td rowspan="4">取組内容</td><td colspan="3">・空き家有効利用対策事業 ・オール不動産情報集約提供事業 ・Uターン就職情報提供事業 ・お試し住宅事業</td><td colspan="3">⇒ ⇒ ⇒ ⇒</td><td colspan="3">⇒ ⇒ ⇒ ⇒</td><td colspan="3">⇒ ⇒ ⇒ ⇒</td></tr><tr><td colspan="3">【空き家バンク】 ＜新規登録件数:64件＞ ＜契約件数:51件＞ ＜異動人数:103人＞ ＜うち転入者数:48人＞46.6%</td><td colspan="3">【空き家バンク】 ＜新規登録件数:71件＞ ＜契約件数:50件＞ ＜異動人数:77人＞ ＜うち転入者数:29人＞37.7%</td><td colspan="3">【空き家バンク】 ＜新規登録件数:45件＞ ＜契約件数:51件＞ ＜異動人数:117人＞ ＜うち転入者数:36人＞30.8%</td><td colspan="3">【空き家バンク】 ＜新規登録件数:75件＞ ＜契約件数:50件＞ ＜異動人数:91人＞ ＜うち転入者数:52人＞57.1%</td></tr><tr><td colspan="3">【お試し住宅】 ＜利用件数:34件, 164泊＞ ＜利用者数:64人＞ ＜うち転入者数:3世帯8人＞</td><td colspan="3">【お試し住宅】 ＜利用件数:30件, 303泊＞ ＜利用者数:60人＞ ＜うち転入者数:世帯2人＞</td><td colspan="3">【お試し住宅】 ＜利用件数:30件, 502泊＞ ＜利用者数:54人＞ ＜うち転入者数:2世帯5人＞</td><td colspan="3">【お試し住宅】 ＜利用件数:16件, 221泊＞ ＜利用者数:28人＞ ＜うち転入者数:1世帯2人＞</td></tr><tr><td colspan="3">直接事業費</td><td colspan="3">決算額</td><td colspan="3">6,957</td><td colspan="3">千円</td><td colspan="3">決算額</td><td colspan="3">9,588</td><td colspan="3">千円</td><td colspan="3">決算額</td><td colspan="3">10,838</td><td colspan="3">千円</td><td colspan="3">決算額</td><td colspan="3">11,682</td><td colspan="3">千円</td></tr><tr><td colspan="3"></td><td colspan="3">うち一般財源</td><td colspan="3">3,582</td><td colspan="3">千円</td><td colspan="3">うち一般財源</td><td colspan="3">6,739</td><td colspan="3">千円</td><td colspan="3">うち一般財源</td><td colspan="3">186</td><td colspan="3">千円</td><td colspan="3">うち一般財源</td><td colspan="3">266</td><td colspan="3">千円</td></tr></table>														令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			取組内容	・空き家有効利用対策事業 ・オール不動産情報集約提供事業 ・Uターン就職情報提供事業 ・お試し住宅事業			⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒			【空き家バンク】 ＜新規登録件数:64件＞ ＜契約件数:51件＞ ＜異動人数:103人＞ ＜うち転入者数:48人＞46.6%			【空き家バンク】 ＜新規登録件数:71件＞ ＜契約件数:50件＞ ＜異動人数:77人＞ ＜うち転入者数:29人＞37.7%			【空き家バンク】 ＜新規登録件数:45件＞ ＜契約件数:51件＞ ＜異動人数:117人＞ ＜うち転入者数:36人＞30.8%			【空き家バンク】 ＜新規登録件数:75件＞ ＜契約件数:50件＞ ＜異動人数:91人＞ ＜うち転入者数:52人＞57.1%			【お試し住宅】 ＜利用件数:34件, 164泊＞ ＜利用者数:64人＞ ＜うち転入者数:3世帯8人＞			【お試し住宅】 ＜利用件数:30件, 303泊＞ ＜利用者数:60人＞ ＜うち転入者数:世帯2人＞			【お試し住宅】 ＜利用件数:30件, 502泊＞ ＜利用者数:54人＞ ＜うち転入者数:2世帯5人＞			【お試し住宅】 ＜利用件数:16件, 221泊＞ ＜利用者数:28人＞ ＜うち転入者数:1世帯2人＞			直接事業費			決算額			6,957			千円			決算額			9,588			千円			決算額			10,838			千円			決算額			11,682			千円						うち一般財源			3,582			千円			うち一般財源			6,739			千円			うち一般財源			186			千円			うち一般財源			266			千円		
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度																																																																																																																																		
取組内容	・空き家有効利用対策事業 ・オール不動産情報集約提供事業 ・Uターン就職情報提供事業 ・お試し住宅事業			⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒																																																																																																																																		
	【空き家バンク】 ＜新規登録件数:64件＞ ＜契約件数:51件＞ ＜異動人数:103人＞ ＜うち転入者数:48人＞46.6%			【空き家バンク】 ＜新規登録件数:71件＞ ＜契約件数:50件＞ ＜異動人数:77人＞ ＜うち転入者数:29人＞37.7%			【空き家バンク】 ＜新規登録件数:45件＞ ＜契約件数:51件＞ ＜異動人数:117人＞ ＜うち転入者数:36人＞30.8%			【空き家バンク】 ＜新規登録件数:75件＞ ＜契約件数:50件＞ ＜異動人数:91人＞ ＜うち転入者数:52人＞57.1%																																																																																																																																		
	【お試し住宅】 ＜利用件数:34件, 164泊＞ ＜利用者数:64人＞ ＜うち転入者数:3世帯8人＞			【お試し住宅】 ＜利用件数:30件, 303泊＞ ＜利用者数:60人＞ ＜うち転入者数:世帯2人＞			【お試し住宅】 ＜利用件数:30件, 502泊＞ ＜利用者数:54人＞ ＜うち転入者数:2世帯5人＞			【お試し住宅】 ＜利用件数:16件, 221泊＞ ＜利用者数:28人＞ ＜うち転入者数:1世帯2人＞																																																																																																																																		
	直接事業費			決算額			6,957			千円			決算額			9,588			千円			決算額			10,838			千円			決算額			11,682			千円																																																																																																							
			うち一般財源			3,582			千円			うち一般財源			6,739			千円			うち一般財源			186			千円			うち一般財源			266			千円																																																																																																								

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
直接事業費	107,348	千円	84,774	千円	89,341	千円	109,662	千円			
うち一般財源	101,487	千円	76,779	千円	76,756	千円	98,246	千円			

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
活性化戦略”賑わう”にご尽力いただきありがとうございます。総合指標の実績も上がり、今後もたくさんの事業を進めることも大変と思いますが、市民が笠岡に住んでよかったと思える、住み続けたいまちにご尽力ください。	→ 事業効果を確認めながら、引き続き、事業を進めていきます。
社会動態の改善は、日本全体の課題でもあり、各自治体が知恵をしぼっている中、速効性がある施策は行いにくいと思います。しかし、JFEエンジニアリングの工場設置は、雇用が生まれ、定住促進につながる大きなチャンスであると思いますので、対策をお願いしたい。	→ 総合指標である社会動態人口年間増減数をゼロにすることは、現在の笠岡市にとって大変厳しい値ではありますが、近隣市町でも達成しており、笠岡市も実現可能な潜在能力はあると考えております。 社会動態の改善に向けて、定住・住宅対策の関係部署のみならず、改善に向けて全庁的に取り組んでまいります。
ここ数年は定住・住宅支援よりも、地域おこし協力隊などの事業の方が目立っているように感じます。転出抑制、転入促進に資する新たな取組が求められます。	→ 地域おこし協力隊につきましては、現役隊員どおし、また現役隊員と退任した隊員との連携を強化しながら、隊員の地元定着や関係人口の増加、地域課題の解決に寄与しておりますので引き続き、事業を進めてまいります。 転出抑制、転入促進に向けた取組について各種助成金制度につきましては、申請者のニーズや近隣市町の状況などを検討しながら、今後も必要に応じて見直していきたいと考えております。また、定住促進センター個別の取組だけでなく、全庁的な取組が必要であることから、効果のある取組を実施できるようにしていきます。
・社会動態人口年間増減数等の多くの指標が良くなっている(一部はまだですが)と感じます。一昨年の評価はCだったのですが、良くなってきているのではないかと思います。 ・人口減は笠岡市だけでなく全国的な現象ですが、いろいろな対策をお願いします。	→ 笠岡市の魅力を向上させ発信することで、まずは市内の人に笠岡を好きになってもらい、住み続けたい、転出して帰ってきたいと思ってもらえるまちである必要があります。そうすることで市外の人にも笠岡の魅力が伝わり住む場所として選んでもらえるとともに、市外からの移住者に対しても地域で受け入れてもらえる土壌ができると考えておりますので、引き続き事業を進めてまいります。
社会動態、20-39歳の女性婚姻率、市内高校生の通勤圏内就職率など改善し喜ばしい。 多世代同居等支援事業、新婚世帯家賃助成、住宅新築助成金交付事業については目標達成には届かないが転入者の率が上がってきています。 空き家バンク、お試し住宅については市民にも定着してきて空き家対策としても成果があると思いますが、空き家バンクは転入者率が下がりがつつあるので、転入者の選択の幅を狭めていないのか気になりました。 結婚応援事業についてはコロナも収束しつつあるので積極的に頑張ってください。	→ 空き家バンクの件数は、数年前より50件を超え続けており、また、制度開始から年数が経過する中で、市内外での認知も高く、登録数も含めて空き家対策にも寄与しております。転入者率の向上に向けては、遠方からでも内覧ができる「VR内覧」や登録数の多さ等によって市外の人から笠岡を住む場所として選んでもらえるように取り組んでまいります。 結婚応援事業につきましては、倉敷・高梁川流域マリッジサポートセンターとの連携や地域おこし協力隊で婚活事業を活動としている隊員がおりますので、今後も連携しながら取組を進めてまいります。
コロナ禍で事業実施できなかったカップリングイベントを是非、今後実施していただき、笠岡の定住促進を図っていただきたい。	→ 井笠圏域事業としてカップリングイベントを開催するなど、他市町や地域おこし協力隊等とも連携していき、定住促進に向けて取り組んでいきます。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	C
---------------	--	----------

<7.未達成の指標への対応策>

未達成 指標 への 対応策	【総合指標】 次期総合計画に向けて、現実的な目標数値を設定できるようにしてまいります。 【達成目標】 ニーズ把握や事業効果を精査していき、事業終了や事業内容の見直しをおこないます。
------------------------	--

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	C	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・社会動態人口年間増減数や女性婚姻率等の多くの指標が悪くなっていますが、全国的な現象です。 ・前々回令和3年度の施策評価はC、前回令和4年度の施策評価はBでした。しかし今回令和5年度の担当部署自己評価はCとなっていました。最終的には施策評価はC評価となりました。やはり指標が悪いように思いますので、是非とも良くなってほしいです。 ・人口減は笠岡市だけでなく全国的な現象ですが、いろいろな対策をお願いします。 ・時代の流れとして、人口増よりも定住促進により力を入れる方が良いように思われます。高齢者、障害者、子育て世帯等、住宅の確保に配慮が必要な方が今後も増加していくと思われますので、住宅セーフティネット制度の活用などにより、ずっと住める笠岡市を目指していただきたいです。 ・人口流出の課題もかかり、定住促進の成果はもう少し先の様に思います。専門学校でも短大でも高校生がこの笠岡で進学し、周辺地域からもそうした大学、専門学校に集ってほしいと願います。 ・地域おこし協力隊の笠岡市への定住率の低さに驚きました。(全国約64.9%の半分にも満たない)理由など聞き取りをされる中で、笠岡に定住しない理由が見えてくるかもしれません。またその理由に行政・地域との問題があるようなら、手立てを打たなくてはならないと思います。 ・地域おこし協力隊による結婚応援事業のイベントが年に1回では少なくないでしょうか？ ・子育て世帯へのとうもろこし狩りやイベント時のキャベツプレゼントなど面白く魅力があると思います。移住情報に発信されていますか？ ・市外に出て行く若者にも連絡が付くようにLINE登録をお願いしている市や県もあるようです。就職などで悩んだ時など人生の節目に戻ってくるきっかけになるかもしれません。 ・未達成の指標への対応策に担当部署の熱い意気込みを感じました。頑張ってください。 ・全国的な少子高齢化が進む中、人口を奪い合う自治体競争が激しさを増しています。財政状況によって出来る施策が限られますが、引き続き、定住施策の推進をお願いします。 ・人口の増減や女性の婚姻率などなかなか厳しい総合指標の中で日々尽力いただきありがとうございます。基本方針に基づき、住みたい住み続けたい街笠岡を目指してくださいありがとうございます。地域おこし協力隊も復活し、年々地域を隔て笠岡市に若い人たちが企業に来て下さりありがたいと思います。ぽっけーまち会議も全国の若者会議の中でも老舗になり全国や大学の先生方が視察に来るほどになり全国若者サミットに招待されるなど世代交代な時代に合わせ活動が続いているよい例として取り上げられておりよかったです。市内の高校生の通勤圏内の就職率は進学も増えていることを鑑みると今後に期待したいと思います。オーダーメイドの空き家内覧など県外からも気軽に内覧することができて、笠岡市ならではの好評な取り組みを耳にします。今後も引き続きよろしくお願いします。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	2-3	施策名	道路ネットワーク及び港湾・漁港の整備	主 担 当 課	建設管理課 建設事業課
戦略の柱	活性化戦略 “賑わう”			関 係 課	都市計画課 農政水産課
基本 方針	☆利用者が円滑に移動できる効率的な道路網を形成するとともに、安心して利用できるように道路や橋梁の安全性を高めます。 ☆防波堤等の港湾・漁港施設を整備することによって、港を利用する船の出入や人の乗降を容易にし、乗客や漁船員の安全を確保するとともに、港の利便性を高めます。				

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
「道路の整備」の満足度(市民意識調査)	単位	目標		—	△ 8.0	—	△ 6.0	△6.0(R6)
	%	実績	△ 10.4	—	△ 8.8	—	—	—
		達成率		—	90.9%	—	—	—
「港湾・漁港の整備」の満足度(市民意識調査)	単位	目標		—	2.5	—	3.5	3.5(R6)
	%	実績	1.8	—	2.5	—	—	—
		達成率		—	100.0%	—	—	—
修繕橋梁数(累計)	単位	目標		64	79	93	78	105
	橋	実績	50	64	71	74.0	—	—
		達成率		100.0%	89.9%	79.6%	—	—
港湾施設長寿命化実施率	単位	目標			76	83	86	97
	%	実績	52	69	79	83	—	—
		達成率			103.9%	100.0%	—	—
漁港施設長寿命化実施率	単位	目標			64	73	77	100
	%	実績	48	59	64	73	—	—
		達成率			100.0%	100.0%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】道路の整備と維持管理(※①②)

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
「道路の整備」の満足度(市民意識調査)	単位	目標		—	△ 8.0	—	△ 6.0	△6.0(R6)
	%	実績	△ 10.4	—	△ 8.8	—	—	—
		達成率		—	90.9%	—	—	—
修繕橋梁数(累計)	単位	目標		64	79	93	78	105
	橋	実績	50	64	71	74	—	—
		達成率		100.0%	89.9%	79.6%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	961, 679	千円	1, 248, 554	千円	1, 282, 363	千円	1, 239, 772	千円
うち 一般財源	372, 423	千円	445, 834	千円	440, 430	千円	460, 512	千円

1	バイパス等整備促進事業																			
事務事業の目的						事務事業の内容														
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)																		
市民及び国道2号利用者		国道2号の渋滞の解消, 利便性の向上, 地域発展のためにバイパスの早期完成を目指す。				・国道2号玉島笠岡間整備促進協議会事務局事務														
令和2年度												令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●国道2号玉島笠岡間整備促進協議会要望活動等					⇒			⇒			⇒								
直接事業費	決算額	111		千円		決算額	55		千円		決算額	55		千円		決算額	243		千円	
	うち一般財源	111		千円		うち一般財源	55		千円		うち一般財源	55		千円		うち一般財源	243		千円	

2	道路新設改良事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
道路を利用する利用者と付近に在住の市民		道路を整備することにより、道路の利便性及び安全性・経済性の向上と付近に在住する市民の生活環境の改善を図る。				計画の策定、要望書の受理、測量・調査・設計業務の発注、地元説明会の開催、用地の取得、物件の補償、工事の発注、工事の監督監理、検査確認							
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	●道路整備事業 要望受理・現地調査・道路改良 工事着手			⇒			⇒			⇒			
直接 事業費	決算額	381,031	千円	決算額	635,068	千円	決算額	675,727	千円	決算額	515,299	千円	
	うち 一般財源	61,505	千円	うち 一般財源	38,431	千円	うち 一般財源	37,395	千円	うち 一般財源	43,207	千円	

3	橋梁新設改良事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
橋梁を利用する利用者と付近に在住の市民		橋梁を整備することにより、橋梁の利便性及び安全性・経済性の向上と付近に在住する市民の生活環境の改善を図る。				計画の策定、要望書の受理、測量・調査・設計業務の発注、地元説明会の開催、用地の取得、物件の補償、工事の発注、工事の監督監理、検査確認							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	●橋梁整備事業 ・要望受理・現地調査、橋梁改築工事着手 ●橋梁長寿命化事業 ・定期点検 ・補修(補強)設計 ・補修(補強)工事			⇒			⇒			⇒			
				⇒			⇒			⇒			
直接事業費	決算額	214,806	千円	決算額	153,041	千円	決算額	154,818	千円	決算額	223,079	千円	
	うち一般財源	11,670	千円	うち一般財源	6,646	千円	うち一般財源	9,166	千円	うち一般財源	6,436	千円	

4	土木施設維持管理業務												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
土木施設利用者		土木施設利用者が安全・安心して利用できるようにする。				・生活道路の維持修繕管理(市道認定、廃止、変更など)事業 ・橋梁の維持修繕、管理事業 ・河川・排水路の維持修繕、管理事業 ・交通安全施設修繕、整備事業 ・土木施設(単独)災害復旧事業							
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		・アダプト団体の募集 ●夏目水門ポンプ場更新工事 ●真鍋島水門ポンプ場発電機設置工事 ●美の浜1号排水ポンプ場更新工事		⇒ 河川緊急浚渫			⇒			⇒			
直接事業費		決算額	365,731	千円	決算額	460,390	千円	決算額	451,763	千円	決算額	501,151	千円
		うち一般財源	299,137	千円	うち一般財源	400,702	千円	うち一般財源	393,814	千円	うち一般財源	410,626	千円

【達成目標2】港湾・漁港の整備と維持管理(※③④⑤)

達成目標2の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	R7目標
港湾施設長寿命化実施率	単位	目標		69	76	83	86	97
	%	実績	52	69	79	83	—	—
		達成率		100.0%	103.9%	100.0%	—	—
漁港施設長寿命化実施率	単位	目標		55	64	73	77	100
	%	実績	48	59	64	73	—	—
		達成率		107.3%	100.0%	100.0%	—	—

達成目標2の事業費

令和2年度			令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	233,588	千円	244,131	千円	260,715	千円	105,285	千円
うち一般財源	23,085	千円	29,292	千円	57,652	千円	31,851	千円

5 ① 漁港施設新設改良事業

事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
漁業従事者及び漁港利用関係者		漁業活動における利便性の向上と労力の省力化を図る。		漁港施設の改良工事に伴う工事、調査、設計、積算、監督、検査を行う。								
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	★●高島漁港改修事業 ・防波堤設計 ・防波堤工事 ・横江漁港改修事業 ・浮桟橋製作設置			⇒ ・防波堤工事			⇒ ・防波堤工事			⇒ ・防波堤工事		
直接事業費	決算額	196,484	千円	決算額	166,611	千円	決算額	166,611	千円	決算額	16,420	千円
	うち一般財源	11,688	千円	うち一般財源	5,167	千円	うち一般財源	5,167	千円	うち一般財源	484	千円

6	港湾施設新設改良事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
港湾利用者及び付近に在住の市民		港湾施設の整備により船舶の安全な係留、運航を確保するとともに、地域住民の安全と財産を守る。				外郭施設(防波堤、護岸等)、係留施設(物揚げ場、浮桟橋等)、水域施設(航路、泊地)の新設改良を施工するための設計・積算・工事監督を行う。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容												
直接事業費	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円
	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円

7	漁港・港湾施設修繕事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
漁協組合員及び地区住民、海岸背後地に在住の市民		漁業活動の軽労化と利便性の向上を図るとともに、船舶の安全な運行と係留を確保する。				各漁港と港湾施設の機能保全と機能回復を図るため工事、計画、設計、積算、工事監督						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	○漁港6港、修繕工事 ・設計積算及び工事監督 ○港湾6港、修繕工事 ・設計積算及び工事監督 ●水産基盤ストックマネジメント事業 ・物揚場修繕			⇒ ⇒ ・物揚場修繕 ⇒ ・防波堤、護岸修繕			⇒ ⇒ ・浮棧橋修繕 ⇒ ・護岸、物揚場、浮棧橋修繕			⇒ ⇒ ・船揚場、浮棧橋修繕 ⇒ ・護岸修繕		
	●港湾施設長寿命化事業 ・浮棧橋、物揚場修繕											
直接事業費	決算額	32,785	千円	決算額	73,384	千円	決算額	89,808	千円	決算額	84,560	千円
	うち一般財源	8,505	千円	うち一般財源	21,455	千円	うち一般財源	49,636	千円	うち一般財源	28,360	千円

8	漁港・港湾施設維持管理業務											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
漁港・港湾施設利用者		漁港・港湾施設を適正に管理することにより、利用者が安全・安心して利用できるようにする。				・漁港施設, 港湾施設, 海岸保全施設の管理事業・台帳整理 ・漁港, 港湾の港勢調査						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・港湾, 漁港, 海岸保全施設の維持管理 伏越フェリー乗り場トイレ水洗化			⇒			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	4,319	千円	決算額	4,136	千円	決算額	4,296	千円	決算額	4,305	千円
	うち一般財源	2,892	千円	うち一般財源	2,670	千円	うち一般財源	2,849	千円	うち一般財源	3,007	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	1,195,267	千円	1,492,685	千円	1,543,078	千円	1,345,057	千円
うち一般財源	395,508	千円	475,126	千円	498,082	千円	492,363	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント		対応・回答
活性化戦略”賑わう”にご尽力いただきありがとうございます。バイパス工事もおおむね順調に進めてくださりありがとうございます。修繕橋梁数についてはコロナ禍の影響でしょうか。自然災害も起こりうる日本でライフラインの道路の分断にならないようこれからもご尽力願います。	→	修繕橋梁数につきましては、労務費・資機材等の単価高騰及び補助金の不足により計画通り進められておりません。バイパス工事・自然災害対策とともに計画通り進められるよう努めていきます。
(仮称)篠坂PAスマートICや国道2号バイパスの整備が進み、企業誘致や社会動態の改善にその効果が現れはじめています。引き続き期待しています。	→	企業誘致・社会動態の改善への効果が途切れることがないよう着実に篠坂PAスマートIC・国道2号バイパスの整備を進めていくよう努力します。
標の未達成理由が「資機材の高騰」だけであれば致し方ないと思いますが、他の理由はあったのでしょうか。	→	労務費、材料費及び資機材費等の単価高騰のみならず補助金を申請してもなかなか要望とおり交付されない現状があり、計画通り進められておりません。費用の縮減等に努め、計画通り進められるよう鋭意努力します。
・最近の電気代等の高騰によりエネルギー対策費が大幅に増えていますが、仕方のないことだと思います。今後を着実に進めていただくようお願いいたします。	→	電気代のみならず労務費、材料費及び資機材費等も高騰している現状ですが、費用の縮減・経済比較に努め、着実に進められるよう心がけていきます。
評価はAとB半々でした。道路の整備、港湾・漁港の整備に対する市民の満足度も少し上がり、港湾施設長寿命化の実施率、漁港施設長寿命化も目標値を達成したことでA評価と判断されました。 唯一、未達成の修繕橋梁数も利用者の安全のため引き続きよろしく願いいたします 笠岡市にとって大きくプラスに変わる機会です。市民にも笠岡がどのように魅力的に変わっていくのか引き続き教えていただきたいと思います。また市外にも大きく打ち出して稼ぐ笠岡に繋がることを期待します。	→	修繕橋梁数については計画通り進まず未達成となりましたが、道路・港湾・漁港の整備や漁港・港湾施設長寿命化と同様に市民の方々に満足していただけるよう取り組み、安全性を向上させていきたいと考えています。魅力のある笠岡となるよう努めていきます。
道路の整備や港湾の整備については、多くの市民が満足されているようです。今後は、早急に篠坂スマートインター及び周辺の社会環境の整備、また、笠岡バイパスに伴う西入口のスムーズな国道への連結に力を注いでいただきたい。	→	篠坂PAスマートIC・国道2号バイパスの整備を着実に進められるよう尽力していきたいと思っています。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の 進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
------------	--	---

<7.未達成の指標への対応策>

未達成 指標 への 対応策	修繕橋梁数の項目で、当初計画時点から、設計及び工事費などにかかる労務費、材料費及び資機材費等の単価が上昇したこと、また、補助金の交付額が減少傾向にあるなど様々な要因により、計画通り修繕ができていない状況ですが、新技術等の活用を検討を行い、費用の縮減や橋の健全度等を考慮し修繕を実施していくことで安全性を向上させていきたいと考えております。
------------------------	---

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	A
コメント	・指標を見ても順調に推移しています。前々回令和3年度、前回令和4年度とも施策評価はA評価になっており、頑張っていると思います。今回私はA評価としましたが、バイパス工事の問題が出たようです。再度頑張ってくださいと思います。 ・基本方針にあるように、道路や橋梁の安全性を高めるよう、修繕を進めていただきたいと思います。 ・笠岡バイパスも工事が進み、西へ延びてきています。早い完成を願っていますが、干拓地内で盛土に亀裂が入り、調査されたと聞いています。早めの対策をし、工事再開を願っています。 ・修繕橋梁数に関しては要因と今後の対応策をしっかりと書かれていました。市民の安全のため頑張ってください。期待しています。 ・国道2号線バイパス開通の遅れが市民にとってはかなり残念なニュースでした。評価の対象に入れられた委員も数人いましたが、国の管轄のものなのによかったのか疑問が残りました。しかも大渋滞になる恐れがあったにも関わらず、市の方で対応をしっかりと取られていたとお聞きしました。ご尽力に感謝いたします。 ・国道2号バイパスや篠坂パーキングエリアへのスマートインターチェンジの設置は、広域交通の利便性を高める絶好の機会ですので、関係機関と連携して事業が円滑に進むようにお願いします。 ・資材の高騰、人件費の高騰等もあり大変だと思いますが、篠坂PAスマートインターチェンジとその周辺整備に期待しています。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	2-4	施策名	利用しやすい公共交通システムの構築	主 担 当 課	企画政策課
戦略の柱	活性化戦略 “賑わう”				
基本 方針	鉄道、路線バス、タクシー、旅客船、フェリー等の多様な交通モードを連携し、市民の利用ニーズはもちろん交流人口の増加に資するため、観光客等のニーズにも適した利用しやすい公共交通システムを構築します。			関 係 課	都市計画課 商工観光課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
地域公共交通の利用者数	単位	目標		1,734	1,734	1,736	1,738	1,740
	千人／年	実績	1,730	1,482	1,531	1,583	—	—
		達成率		85.5%	88.3%	91.2%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】市民が利用しやすい公共交通システムの維持・構築（※①②）

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
路線バス等の利用人数	単位	目標		440,000	440,000	440,000	440,000	440,000
	人／年	実績	367,000	385,870	363,863	380,973	—	—
		達成率		87.7%	82.7%	86.6%	—	—
路線バス運行に係る市の負担額の水準維持	単位	目標		45,000	45,000	45,000	65,000	45,000
	千円	実績	52,576	23,862	48,988	61,345	—	—
		達成率		188.6%	91.9%	73.4%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	75,727	千円	54,219	千円	80,524	千円	103,366	千円
うち 一般財源	53,996	千円	31,941	千円	52,052	千円	79,216	千円

1	陸上交通事業											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
マイカーなどによる移動手段を持たない人など市民		バスや鉄道などの公共交通を必要としている人など市民の移動手段を確保する。		・路線バス、デマンド型乗合タクシー、過疎地有償運送の運行に要する経費への補助金を支出する。 ・井原鉄道の基盤設備の維持に要する経費への補助金を支出する。 ・公共交通に関する意識啓発、利用促進を図るとともに、必要に応じて運行ルート・ダイヤの見直しを行う。								
令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	創 ●補助金交付 ○6月からダイヤ改正での運行 創 ●デマンド型乗合タクシーの運行 ⇒利用者数 1,560人 ○総合時刻表の配布 創 ●公共交通に関する意識啓発 創 ★○交通空白地有償運送の維持 ○高齢者タクシー料金助成事業(制度拡充)利用者数 2,162人 利用件数 41,205人			⇒ ○10月からダイヤ改正での運行 ⇒利用者数 1,508人 ○総合時刻表の配布 ⇒ ○運行形態に区域運行を追加 ○高齢者タクシー料金助成事業(制度拡充)利用者数 2,612人 利用件数 51,765人			⇒ ⇒利用者数 1,095人 ○総合時刻表の配布 ⇒ ○区域運行の運行日に火・木・祝を追加 ○高齢者タクシー料金助成事業(制度拡充)利用者数 2,959人 利用件数 53,438人			⇒ ○R6.1月からダイヤ改正で運行 ⇒利用者数 1,088人 ⇒ ⇒ ○高齢者タクシー料金助成事業利用者数 3,180人 利用件数 56,192人 ○地域交通燃料価格高騰対策支援事業		
	決算額	75,727	千円	決算額	54,219	千円	決算額	80,524	千円	決算額	103,366	千円
直接事業費	うち一般財源	53,996	千円	うち一般財源	31,941	千円	うち一般財源	52,052	千円	うち一般財源	79,216	千円

【達成目標2】 交流人口の増加等に向けた公共交通システムの構築(※③④)

達成目標2の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
旅客船の利用人数	単位	目標		130,000	130,000	130,000	130,000	130,000
	人/年	実績	127,148	127,046	129,721	127,115	—	—
		達成率		97.7%	99.8%	97.8%	—	—

達成目標2の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	92,890	千円	39,844	千円	48,892	千円	47,445	千円
うち一般財源	13,334	千円	34,120	千円	39,971	千円	36,825	千円

2	離島航路事業											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
・旅客船を利用する人 ・旅客船で運搬される生活必需品		島しょ部と本土を結ぶ唯一の生活航路を維持し、島民の生活の安定と利用者の利便を確保する。		・国庫補助対象航路へ補助金を支出する。 ・運行事業者と連携して利用促進を図るとともに、必要に応じて運行ルート・ダイヤの見直しを行う。								
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	創	★●補助金交付		⇒	⇒ ⇒ ⇒ ○舗装工事施工			⇒	⇒ ⇒ ⇒ ○離島航路燃料価格高騰対策支援事業			
	創	★●離島航路の国庫補助化		⇒								
創	★●笠岡港(住吉港)の維持管理		⇒									
	○白石島の待合所整備			○駐輪場施工								
直接事業費	決算額	92,890	千円	決算額	39,844	千円	決算額	48,892	千円	決算額	47,445	千円
	うち一般財源	13,334	千円	うち一般財源	34,120	千円	うち一般財源	39,971	千円	うち一般財源	36,825	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	168,617	千円	94,063	千円	129,416	千円	150,811	千円
うち一般財源	67,330	千円	66,061	千円	92,023	千円	116,041	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
活性化戦略”賑わう”にご尽力いただきありがとうございます。重複しますが公共交通の抜本的な改革も必要になっているように思います。とはいえ今後も新たな生活スタイルと市民のニーズに合わせた利用促進も進めていただきながら検討をお願いします。	→ 財政負担も考慮しつつ、持続可能な公共交通となるよう公共交通全体の見直しを行ってまいります。見直しにあたっては、市民のニーズはもちろん事業者の意見も聞き、関係機関ともしっかり情報共有を図りながら行ってまいります。
カラで走る路線バスの対応をお願いします。	→ 利用の少ない路線については、路線の再編や他の交通モードへの転換など様々な方策を検討してまいります。
便利で経済的な公共交通システムの構築を期待しています。	→ 関係機関ともしっかり情報共有するとともに、さらには財政負担も考慮しながら、陸上交通、海上交通を含め、持続可能な公共交通となるよう公共交通全体の見直しについて検討してまいります。
・地方公共交通の利用者数や路線バス等の利用人数が低迷しています。笠岡市だけでなく、路線バスの便数が減ったりと他の市でも同じようになって、厳しい状況です。改善するのはなかなか大変だとは思いますが、これ以上悪くならないようにしてください。	→ バスの路線に関しては、利用の少ない路線の便数削減や他モードへの再編などの見直しを検討するとともに、タクシーチケット助成など陸上公共交通を補完するサービスと併せて、市民の移動手段の確保に努めてまいります。
路線バス、デマンド型乗合タクシーの利用人数が減少し、高齢者タクシー料金助成事業は利用者が年々増えています。高齢者からは「バス停までは歩けないので公共バスは使えずタクシーを利用しているが補助があっても回数が嵩むと経済的負担が大きい…」逆に、「車を持っていたら公共交通は減多に使わないので路線バスは要らないのでは？」などいろいろな声を耳にします。今後を見据えた、誰もが快適に暮らせ、利用者も市の負担も軽く済むような継続可能な公共交通となることを願います。	→ 公共交通を補完するサービスとして高齢者タクシーチケット料金助成制度や生活支援訪問サービス事業等を実施しておりますが、年齢を問わず幅広い層の市民の方々が安心して利用できる公共交通となるよう、公共交通の全体的な見直しを行ってまいります。
旅客船については、島民の方々や最近の観光客の増加により、ほぼ目標値に達していますが、今、一番の課題は、バス交通についてと思われます。便利さを追求するならば、山間部の自由乗降などはどうでしょうか。難しくても乗降する場所を増やせば、もっと利用しやすくなるのではないのでしょうか。	→ ご提案いただいている「フリー乗降制度」も含め、年齢を問わず幅広い層の市民の方々が安心して利用できる公共交通となるよう、公共交通の全体的な見直しを行ってまいります。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

<7.未達成の指標への対応策>

未達成 指標 への 対応策	市内地域公共交通の利用者に関しては、新型コロナウイルス感染症拡大による利用者減から回復しきっていないと断言できず、コロナ前の水準に達していない状況です。 路線バス等の陸上交通の利用については、人口減少や高齢化、バスの便数が少ない、バス停までの距離が遠いなどの理由で利用者は年々減少しておりますが、ダイヤや便数の見直しと合わせて、ドア・ツー・ドア方式の導入の需要に応える施策や乗合タクシーの導入、さらには全国的に様々な議論がなされている「ライドシェア」など、新しい移動手段の確保も検討してまいりたいと考えております。 旅客船の利用人数についても、陸上交通同様、利用減少傾向にあります。島しょ部住民も観光客も利用しやすい運賃やダイヤ調整、待合環境について検討・構築します。
------------------------	---

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・地方公共交通の利用者数や路線バス等の利用人数は増加していますが、旅客船の利用者数が減少しています。 ・ダイヤ改正により、路線バスの便数が若干減っているのではないかと思います。利用客に不便の出ないよう、尽力をしていただきたいと思います。 ・市民の交通手段の確保については、難しい状況がありますね。乗合タクシーもラッピングを施して、バスのイメージを出し、挙手乗車を可能とした試し運転をしてみるのも一策かなと考えます。 ・地域公共交通の利用者数が少し増えたものの、路線バス運行に対する市の負担額の高さに驚きました。R6年度も目標額(金額)がさらに高くなっています。市長公約でもありますので、1日でも早く無駄がなくなり、且つあらゆる市民が困ることなく、持続可能な交通システムの形になるようお願いいたします。 ・利用しやすい公共交通システムの構築は、少子高齢化とクルマ社会の進展等が絡み合う難しい課題であると思います。落としどころが難しい課題ですが、引き続き施策の推進をお願いします。 ・公共交通の利用者数も人口が減る中増え素晴らしいことだと思います。これからも運行可能な公共交通機関の利用把握をお願いします。また市民のニーズの動向に合わせたバスの大きさや運行状況を適宜変更していただき、維持管理していただきたいと思います。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	2-5	施策名	離島振興	主 担 当 課	企画政策課
戦略の柱	活性化戦略 “賑わう”			関 係 課	関係課
基本 方針	住民、民間団体、行政との協働を通じて地域コミュニティの継続的な維持や公共サービスの提供、道路や港等の整備を図ることで、いつまでも安心して離島で住み続けることができる環境を実現します。また、島の魅力を発信し、観光客を増やします。				

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
離島の人口減少の割合(対前年比)	単位	目標		△ 5.0	△ 5.0	△ 5.0	△ 5.5	△ 5.5
	%	実績	△ 4.5	△ 6.2	△ 3.7	△ 7.1	—	—
		達成率		80.6%	135.1%	70.4%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】計画的な離島振興の取組推進(※①)

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
「離島の振興」の満足度(市民意識調査)	単位	目標		—	△ 5.0	—	△ 4.0	△4.0(R6)
	%	実績	△ 5.2	—	△ 5.0	—	—	—
		達成率		—	100.0%	—	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	1,562	千円	1,493	千円	1,067	千円	906	千円
うち 一般財源	840	千円	771	千円	783	千円	708	千円

1 離島振興事業

		事務事業の目的										
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)			事務事業の内容							
島で暮らす人 島で暮らしたい人		永続的に島で暮らせるようにする。			・笠岡諸島振興計画の策定及び進行管理 ・離島振興を目的に組織された団体(全国離島振興協議会, 岡山県離島振興協議会, 財団法人日本離島センター)との連携 ・辺地総合計画の策定及び進行管理 ・離島振興に関する庁内調整							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取 組 内 容	★●全国離島振興協議会(全離島)			⇒				⇒				
	情報収集及び、国への要望活動			⇒				⇒				
	★●岡山県離島振興協議会											
	県内離島の状況把握や要望活動			⇒				⇒				
	★●笠岡諸島振興計画			⇒				第3次計画の策定	⇒			
	施策実施の庁内調整			⇒				⇒	⇒			
取 組 内 容	●辺地総合計画の活用											
	創 ○離島高校生修学支援補助			⇒				⇒				
	金 ○の交付											
取 組 内 容	創 ○離島に暮らす小中学生の交											
	通費助成の交付											
直接 事業費	決算額	1,562	千円	決算額	1,493	千円	決算額	1,067	千円	決算額	906	千円
	うち 一般財源	840	千円	うち 一般財源	771	千円	うち 一般財源	783	千円	うち 一般財源	708	千円

【達成目標2】必要な公共サービスの提供と航路の維持確保(※②)

達成目標2の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
健康長寿愛らんど事業への参加者	単位	目標		2,600	2,600	2,600	2,600	2,600
	人／年	実績	1,698	1,666	2,003	1,921	—	—
		達成率		64.1%	77.0%	73.9%	—	—
旅客船の利用人数	単位	目標		130,000	130,000	130,000	130,000	130,000
	人／年	実績	127,148	127,406	129,721	127,115	—	—
		達成率		98.0%	99.8%	97.8%	—	—

達成目標2の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	120,521	千円	63,499	千円	80,180	千円	81,154	千円
うち 一般財源	29,912	千円	46,339	千円	60,771	千円	51,471	千円

2	島しょ部介護・福祉推進事業(再掲)												
事務事業の目的					事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
島しょ部の高齢者			できる限り在宅で安心して暮らせるようにする。			島しょ部における介護・福祉サービスの確保と事業所への支援を行う。 高齢者の健康維持と介護予防に取り組む。							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取 組 内 容	●陸地部への通院の帰りの船で利用できる無料乗船券の支給			⇒				⇒				⇒	
	●北木島高齢者共同生活住居の運営			⇒				⇒				⇒	
	●緊急通報装置設置事業			⇒				⇒				⇒	
	●陸地部から専門職等を確保するための交通費補助			⇒				⇒				⇒	
	●島しょ部の介護サービス事業所への家賃及び改修費補助			⇒				⇒				⇒	
	●専門職による総合相談及び運動器機能低下の予防・向上のための支援(健康長寿愛らんど事業)			⇒				⇒				⇒	
直接 事業費	決算額	27,631	千円	決算額	28,470	千円	決算額	31,288	千円	決算額	33,709	千円	
	うち一般財源	16,578	千円	うち一般財源	16,742	千円	うち一般財源	20,800	千円	うち一般財源	14,646	千円	

3	離島航路事業(再掲)											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
・旅客船を利用する人 ・旅客船で運搬される生活必需品		島しょ部と本土を結ぶ唯一の生活航路を維持し、島民の生活の安定と利用者の利便を確保する。				・国庫補助対象航路へ補助金を支出する。 ・運行事業者と連携して利用促進を図るとともに、必要に応じて運行ルート・ダイヤの見直しを行う。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	創	★●補助金交付		⇒			⇒			⇒		
	創	★●離島航路の国庫補助化		⇒			⇒			⇒		
	創	★●笠岡港(住吉港)の維持管理		⇒			⇒			⇒		
		○白石島の待合所整備		⇒			○舗装工事施工					
										○離島航路燃料価格高騰対策支援事業		
直接事業費	決算額	92,890	千円	決算額	35,029	千円	決算額	48,892	千円	決算額	47,445	千円
	うち一般財源	13,334	千円	うち一般財源	29,597	千円	うち一般財源	39,971	千円	うち一般財源	36,825	千円

【達成目標3】 協働による地域づくりの推進(※③)

達成目標3の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
北木島宿泊研修所「石切りの杜」利用者数	単位	目標		300	350	350	400	400
	人／年	実績	289	403	670	979	—	—
		達成率		134.3%	191.4%	279.7%	—	—
交通空白地有償運送の利用者数	単位	目標		200	500	500	500	500
	人／年	実績	422	1,720	3,738	4,848	—	—
		達成率		860.0%	747.6%	969.6%	—	—

達成目標3の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	12,174	千円	13,148	千円	13,806	千円	14,641	千円
うち一般財源	2,174	千円	2,143	千円	9,306	千円	6,621	千円

4 海援隊事業

事務事業の目的				事務事業の内容									
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
島しょ部住民		島しょ部に不足する公共的サービスの提供などの取組みを市民・民間団体と協働で行うことで、地域コミュニティの維持及び活性化を図る。			協働による公益的事業の企画及び運営、行政課題の広聴及び解決のための支援、地域の再生に寄与する取り組み。								
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	●まちづくり協議会の機能活用			⇒			⇒			⇒			
	●かさおか島づくり海社の側面及び後方支援			⇒			⇒			⇒			
	●各島の地域担当職員と連携した事業推進			⇒			⇒			⇒			
	●豊浦地区交流拠点施設の整備												
直接事業費	決算額	10,950	千円	決算額	10,950	千円	決算額	10,950	千円	決算額	10,520	千円	
	うち一般財源	1,950	千円	うち一般財源	1,945	千円	うち一般財源	7,450	千円	うち一般財源	3,500	千円	

5 陸上交通事業(再掲)

事務事業の目的				事務事業の内容									
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)										
マイカーなどによる移動手段を持たない人			バスや鉄道などの公共交通を必要としている人の移動手段を確保する。			・過疎地有償運送の運行に要する経費への補助金を支出する。							

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	134,257	千円	78,140	千円	95,053	千円	96,701	千円
うち一般財源	32,926	千円	49,253	千円	70,860	千円	58,800	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
活性化戦略”賑わう”にご尽力いただきありがとうございます。地域コミュニティの維持はとても重要だと思います。現在のされている方や今後後継者の育成も含め安心して離島で住み続けられるようお願いいたします。また島の魅力を発信してくださってありがとうございます。達成目標3の交通空白地有償輸送についてです。ぜひ公共交通機関との連携されたPRをお願いしたいです。今後増えてくるであろうと考え、空白地でなくても市民としては継続して笠岡市に子中するための安心感に繋がるように思います。また三洋汽船が運航休止と聞きました。今のご時世現厳しいと思いますが、日本遺産やユネスコ文化遺産などの波の乗りたい所なので何かしらの早めの対応をご検討いただけたらと思います。	→ 交通空白地地域の住民にかかせない移動手段である交通空白地有償輸送につきましては、引き続き利用者の利便性の向上に向けた制度の検証やPRを継続してまいりたいと考えます。 引き続き地域資源の魅力を発信するとともに、様々な機会をとらえて笠岡諸島のPRを行うことで、交流人口の拡大に努めてまいりたいと考えております。
白石フェリーの運行休止など、離島振興には逆風が吹いていますが、島に住む皆さんが、安心して住み続けられるようにお願いします。	→ 引き続き島民の皆様のニーズの把握に努めながら、必要な施策を検討してまいります。
交通空白地有償輸送について、運行形態を見直して利用人数が大幅に増えたとあります。これは利用希望者が多いということだと思いますが、ニーズに合わせた更なる見直しを進める予定がありますか。	→ 交通空白地有償輸送につきましては、令和4年度から区域運行の実施日を増やして、利用者の利便性の向上に努めていることから、利用者が増加しております。今後もさらなる利用者の増加に向けた制度の検証を行ってまいります。
・交通空白地有償輸送の利用者数が大きく増加しています。指標もほぼ達成していると思います。今後も取り組みの充実をお願いします。	→ 引き続き、島内利用者や観光客への周知を徹底するとともに、さらなる利便性の向上に向け制度の検証を行ってまいります。
健康長寿愛らんど事業への参加者が惜しくも目標値には到りませんでした。昨年度より増えており成果が見られます。参加者メンバーの人間関係など不参加の理由が明らかな場合など、何らかの手立てをいただき、参加希望の全ての方が参加できるものになることを願います。島は特に横のつながりが大切だと思います。離島航路事業が昨年度よりもかなり増額です。また海援隊事業の一般財源が高額になっています。島民にも観光にも必要なことなのでしょうが、併せてご説明いただければと思います。	→ ○健康長寿愛らんど事業 今後も、個別訪問などによる相談支援を通じて高齢者のニーズを的確に把握し、応えていけるように努めます。 ○離島航路事業 離島航路補助金の増加が大きな要因ですが、住民や観光客が利用しやすいダイヤ調整等を行うことで利用人数の増加を図ります。 ○海援隊事業 一般財源の金額につきましては、当該事業に充当可能な特定財源が増減することにより、年度毎に変動しております。
離島についての課題は一番に旅客船の使いやすさだと思います。旅客船の利用人数については、ほぼ目標達成しているので、今後は観光客の誘致が大切になってきます。島外からの乗船は、往復となり、かなりの収益が見込まれますので、何らかの補助制度ができないでしょうか。	→ 旅客船の使いやすさについては引き続き航路事業者と協議のうえ利便性の向上に努めてまいります。 また、島外からの乗船にかかる補助制度についてですが、今後公共交通全体の見直しを行う中で、財政負担も考慮しながら検証してまいりたいと考えます。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

<7.未達成の指標への対応策>

未達成 指標 への 対応策	○離島の人口減少の割合(対前年比) 対応策: 令和5年度に策定した離島振興計画に基づき、離島に関する各種の施策を推進することで、いつまでも島で住み続けられる生活環境の維持に努めます。 ○健康長寿愛らんど事業への参加者 対応策: 個別訪問などを通じて事業の周知と参加希望者の掘り起こしを行います。 ○旅客船の利用人数 対応策: 旅客船の利用人数については、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による利用減少がいまだに回復していない現状です。今後も引き続き、島しょ部住民も観光客も利用しやすい運賃やダイヤ調整を検討・構築し、利用者数増を図ります。
------------------------	--

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・離島の人口が減少しており、さらに旅客船の利用者数が減少しています。しかし、北木島宿泊研修所や交通空白地有償運送の利用者数が増加していますので、頑張っていると思います。 ・せっかく日本遺産に登録されているので、取組に活かしていただきたいです。 ・離島としての良さもありますが、近い島同士なら国レベルでの橋をかけるのが将来的には良いのではないのでしょうか。 ・石切りの杜の利用者数が大幅に伸び嬉しく思いました。小学校の研修だけにとどまらず、子供会やスポーツ少年団、県外からの利用もあったとのこと。担当課の広報努力が感じられます。利用された方にまたご利用いただけるよう、周りにも紹介してもらえるよう、改善点などを聞き、更に利用者が増えたと良いと思います。 ・交通空白有償運送利用が年々増えています。島民にも観光客にもより利用しやすいものになればと思います。 ・離島人口が減少する中、旅客船の利用人数が横ばいで推移しているのは、良い傾向であると思います。引き続き、離島振興に努めてください。 ・離島人口減少は笠岡諸島の高齢化も大きくのしかかる問題で艇子入れが厳しい問題だと思います。島の方の民間輸送も高齢化を伴い心配しています。笠岡観光協会との連動もありますが、ライフラインを確保するために、観光客を増やし、運行可能な事業となるように、また魅力ある笠岡諸島として感じていただけるイベントや行事など、魅力をしっかりと伝えていきたいとおもいます。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	2－6	施策名	市民参画・協働の推進	主 担 当 課	協働のまちづくり課
戦略の柱	活性化戦略 “賑わう”				
基本 方針	☆市民協働を更に進め、より笠岡らしい個性あるまちづくりを確立し、市民がいきいきと活躍する持続可能なまちを目指します。 ☆潜在的な住民自治力を引き出し、様々なセクターや市役所内の複数の部署が地域や社会的な課題に関わることができるようなコーディネート機能を確立します。			関 係 課	

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
まちづくり協議会の認知率(市民意識調査)	単位	目標		—	60.0	—	62.0	64.5(R6)
	%	実績	57.3	—	56.8	—	—	—
		達成率		—	94.7%	—	—	—
市民活動支援センター登録志縁型組織数	単位	目標		83	85	86	86	90
	団体	実績	80	81	80	82	—	—
		達成率		97.6%	94.1%	95.3%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	地域コミュニティであるまちづくり協議会への支援(※①②③)
---------	-------------------------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
まちづくり協議会活動への参加率(市民意識調査)	単位	目標		—	26.0	—	26.5	26.5(R6)
	%	実績	24.2	—	25.2	—	—	—
		達成率		—	96.9%	—	—	—
地域のまちづくり計画を策定した協議会数	単位	目標		4	7	8	10	10
	地区	実績	3	5	5	9	—	—
		達成率		125.0%	71.4%	112.5%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	38,322	千円	36,736	千円	39,038	千円	40,436	千円
うち一般財源	16,022	千円	14,786	千円	44	千円	61	千円

1	市民活動（地縁組織）との協働推進事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象（誰を）		意図（どのようにしたいのか）										
笠岡市民		地縁組織であるまちづくり協議会と市役所との協働による市政の推進を図る。 志縁組織である市民活動団体や地域住民と市役所との協働による市政の推進を図る。					まちづくり協議会の運営及び活動の支援とともに、市民の認知率の向上のため周知啓発を、また地域担当職員の意識・能力向上のため連絡会や研修等を実施する。 市民活動の活性化を推進するため、地域住民や住民自治組織に対し、各種補助等を実施する。					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	創 ●まちづくり協議会との協働による地域づくり事業の実施			⇒			⇒			⇒		
	●協議会の活動を事例発表するまちづくり活動報告会の開催			⇒			⇒			⇒		
	まちづくり協議会制度見直し検討委員会開催											
	地域計画策定マニュアル作成事業											
	【まちづくり協議会が活動交付金を使った活動数：41活動】			【まちづくり協議会が活動交付金を使った活動数：58活動】			【まちづくり協議会が活動交付金を使った活動数：60活動】			【まちづくり協議会が活動交付金を使った活動数：63活動】		
直接事業費	決算額	38,322	千円	決算額	36,736	千円	決算額	39,038	千円	決算額	40,436	千円
	うち一般財源	16,022	千円	うち一般財源	14,786	千円	うち一般財源	44	千円	うち一般財源	61	千円

【達成目標2】多様な市民活動の推進（※①②④）

達成目標2の指標				目標・実績の推移					
指 標 名				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
市民活動支援センター登録法人数	助支援 団体	目標			19	21	21	21	21
		実績		20	19	18	20	—	—
		達成率			100.0%	85.7%	95.2%	—	—
志縁型団体協働のまちづくり事業補助金の交付件数	単位 件／年	目標			5	5	5	5	5
		実績		5	4	5	6	—	—
		達成率			80.0%	100.0%	120.0%	—	—
市民活動支援センター利用者数	単位 人／年	目標			14,000	14,500	14,500	14,500	15,000
		実績		13,513	9,329	9,148	9,162	—	—
		達成率			66.6%	63.1%	63.2%	—	—
市民活動支援センターが実施する研修会や講座への参加者数	単位 人／年	目標			120	126	126	130	132
		実績		114	72	90	114	—	—
		達成率			60.0%	71.4%	90.5%	—	—
市民活動総合保障保険の利用件数	単位 件／年	目標			10	10	10	10	10
		実績		10	3	8	10	—	—
		達成率			30.0%	80.0%	100.0%	—	—

達成目標2の事業費

令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
直接事業費	11,885	千円	9,507	千円		14,108	千円		16,191	千円	
うち一般財源	9,551	千円	7,266	千円		7,383	千円		9,398	千円	

2		市民活動（志縁組織）との協働推進事業											
事務事業の目的					事務事業の内容								
対象（誰を）		意図（どのようにしたいのか）											
笠岡市民		志縁組織である市民活動団体や地域住民と市役所との協働による市政の推進を図る。			市民活動支援センターを拠点として、各市民活動団体の活動支援や市役所との連携等を推進する。 市民活動の活性化を推進するため、地域住民や住民自治組織に対し、各種補助等を実施する。								
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	創	●志縁型団体と行政との協働事業の実施		⇒			⇒			⇒			
		●市民活動支援センターについて広く市民に周知し、笠岡市の未来を考え、登録団体の活動紹介の場として「ゆびとまフェスティバル～まちづくりフォーラム2015～」の開催		⇒			⇒			⇒市民活動支援センターのあり方についてテーマごとに話し合い、市民活動支援センターの役割や効果について一緒に考え、交流を生む場として「～まちづくりフォーラム2023～第1回つながるミーティング」を開催			
		【志縁型団体（市民提案型）協働事業数：4事業】		【志縁型団体（市民提案型）協働事業数：4事業】			【志縁型団体（市民提案型）協働事業数：5事業】			【志縁型団体（市民提案型）協働事業数：6事業】			
直接事業費	決算額	11,885	千円	決算額	9,507	千円	決算額	14,108	千円	決算額	16,191	千円	
	うち一般財源	9,551	千円	うち一般財源	7,266	千円	うち一般財源	7,383	千円	うち一般財源	9,398	千円	

【達成目標3】市民と共に考え、力を合わせて取り組む市役所づくり(※⑤)

達成目標3の指標

指 標 名				目標・実績の推移					
				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
地域担当職員延べ経験者数	単位	目標			315	338	354	362	362
	人	実績	293	323	349	363	—	—	—
		達成率		102.5%	103.3%	102.5%	—	—	—

達成目標3の事業費

令和2年度			令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	30	千円	100	千円	73	千円	66	千円
うち一般財源	30	千円	100	千円	73	千円	66	千円

3	協働推進のための職員研修											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市職員		積極的に市職員の地域まちづくり活動への参加・参画を促進する。										
協働のまちづくりを推進するため、市職員研修等の機会を設け、地域におけるまちづくりの市や職員の役割などについて意識啓発を行う。また、地域の自立と住民の主体性を活かしながら、積極的に市職員の地域まちづくり活動への参加・参画を促進する。												
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●地域担当職員制度 ●まちづくり講演会 地域担当職員ファシリテーション能力向上			⇒ ⇒			⇒ ⇒			⇒ ⇒		
直接事業費	決算額	30	千円	決算額	100	千円	決算額	73	千円	決算額	66	千円
	うち一般財源	30	千円	うち一般財源	100	千円	うち一般財源	73	千円	うち一般財源	66	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	50,237	千円	46,343	千円	53,219	千円	56,693	千円
うち一般財源	25,603	千円	22,152	千円	7,500	千円	9,525	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
活性化戦略”賑わう”にご尽力いただきありがとうございます。市民、また地域に住んでいる私たちが手を結び地域を盛り上げられたら一番ですが地域により温度差が激しいにも拘らず、継続的に支援してくださってありがとうございます。まちづくりにご尽力いただいている組織も高齢化されており、世代交代をや廃止など様々な局面を迎えていると思います。その中でも新たな方法を模索してくださっていることに感謝しています。今後もすべての世代がイキイキと過ごせるまちになるようにご尽力願います。	→市としては、各地域への交付金制度による財政的支援だけではなく、まちづくりに対する助言や情報提供などのサポートや地域担当職員の配置などの人的支援を引き続き行っています。
まちづくり協議会の認知が進みました。あとは、参加住民の広がり期待しています。	→地域住民が住みやすい社会形成を構築するには、地域住民ひとりひとりの意見や想いを集約する必要がありますので、少しでも多くの地域住民にまちづくりに参画してもらえるように、地域への支援を引き続き行っています。
まちづくり協議会は地区によってかなり温度差があるようにお聞きします。市民の認知率もなかなか上がらないようですし、テコ入れや見直しなどはお考えでしょうか。	→まちづくり協議会が設置されてから既に10年以上が経過しており、一定の成果はあったものの、課題も抱えているのが現状です。今後のまちづくり協議会や地域担当職員のあり方も含めて整理し、地域が取り組むまちづくりが今以上に促進できるような体制整備が必要と考えています。
・市民活動支援センターの利用者数や研修会等への参加者数が少なくなってきました。まだコロナ禍の影響があるのかと思いますが、今後は多くなってくると思いますので、期待しています。	→令和4年度から市民活動支援センターが直営となり、講座や研修会の内容や開催回数を見直しを図ってまいりました。令和5年度は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、利用者数及び講座等参加者ともに少しずつ増加傾向にあります。今後は、利用者のニーズに沿った講座の開催など内容の充実を進め、利用者及び参加者の増加を図ります。

まちづくり協議会については高齢者がメインで頑張ってくださっているの、更に中年層、若者、子どもも参加できるような仕組みができると、持続可能な地域づくりに繋がるのではと思います。 また市民活動支援センター利用者数は年々減っていますが事業費はかなり増額です。ご説明ください。市民活動支援センターのことをまだまだ知らない市民が多いようです。どこにあり、何をしているのか、何ができるのかを周知する必要性を感じます。「自分がやりたいイベントの打ち合わせや準備の会場としても利用できる」、「もっと気軽に利用できる」など自分ごととして認知されると利用者が増えるかもしれません。そこから更に横への繋がりができ岡岡市民のパワーアップに繋がることを願います。	→ 現在、まちづくり計画の策定に取り組んでいる地域では、地域住民アンケートで中学生以上を対象にしたり、ある地域では話し合いに小学生が参加するなど、若年層がまちづくりに参画できる工夫がされています。 市民活動支援センターでは、センターの運営や講座・研修の開催だけではなく、まちづくり協議会や各種団体など地域からの具体的な相談にも対応できるようにアドバイザー配置の予算も措置しています。近年、コロナ禍の影響により年々減少傾向にありましたが、令和5年度はセンターが実施する研修・講座への参加や相談業務の利用など、利用者数も前年度より増加しました。今以上に利用者を増やすためには、ご指摘のとおり市民にセンターをより身近に感じてもらえるような情報発信が必要と考えますので、センターの更なる周知に努めます。
まちづくり協議会には、市よりの補助金で活動しているとのことです。全協議会がまちづくり計画を提出すべきではないでしょうか。まちづくり協議会も公民館等で話し合いを持つならば、事務所は要らないはず。その補助金は、他の行政施策にまわすなど、工夫できないのでしょうか。	→ まちづくり計画は、それぞれの地域の特色を活かした将来像を描き共有するものであり、地域住民によるまちづくりを推進するためには公民館等の地域に存在する各種団体との連携も必要なものと考えています。市としましては、横のつながりがより強まるよう支援するとともに、交付金や補助金等についても体制整備と併せて新たな仕組みを検討していきたいと考えています。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
---------------	--	----------

<7.未達成の指標への対応策>

未達成指標への対応策	指標が未達成だった支援型組織数、センター利用者数、各講座の参加者数については、各項目ともに前年度と比較すると増加はしておりますので、現在の取組は継続しつつ、取組内容の見直しや周知方法の改善を図りながら指標達成に向け努めて参ります。
-------------------	--

<8.委員による評価結果>

総合評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・市民活動支援センターの利用者数や研修会等への参加者数が若干増えています。すぐに大幅な増加は難しいとは思いますが、着実に活動を進めていただきたいと思います。 ・まちづくり協議会の仕組みができてから随分時間がたったと思いますが、まだ認知率が半数程度ということは、あり方を見直す時期が来ているのではないのでしょうか。 ・まちづくり協議会の事務所借り上げ費用は全市でどのくらいかかっているのでしょうか。会議など公民館を利用すればそうした費用はかからないと思います。以前、まちづくり協議会のあり方について再考してみると伝わりましたが、その内容が伝わってきません。公民館建て替えの時に、一室を団体交流室として、各種団体のロッカーを置き、少人数の話し合いはその場を使えるとするやり方もあると思います。 ・まちづくり協議会についてはうまくいっていないところがまだあります。地区区同士で噛み合うことがないよう、テコ入れをしないといけないところまで来ているようです。それぞれの団体は頑張っておられます。市民同士ではなく市の職員さんが立会いの元、情報把握、意見交換などされてはいかがでしょう。良い形で繋がる手助けをお願いします。 ・市民活動支援センターは市民の何割が利用しているのでしょうか。公民館、まちづくり協議会、その他団体の施設で事足りているため利用者が増えないのでしょうか。各団体を繋ぐことが目的ならば、他市では「居場所探訪プロジェクト」(市内の活動団体の居場所に出向き聞き取り調査を行う)などされているようです。そこから他の団体と繋げたり輪が広がったようです。昨年度はまちづくりフォーラムや新たな試みも熱心にされていたようです。利用者が増え、市民にとって便利な場所になれば良いと思います。 ・地域の特性を考慮したまちづくり協議会の活動が出来つつあるように思います。個性がある、まちづくりに期待しています。 ・市民活動支援センター登録支援型組織数も伸び、認知度は見えていませんが近年の活動についての成果が見られているように感じます。地域のまちづくり計画を策定された数も伸び、長年の成果が少しずつ表面化されていると思います。地域数に限りはあり、地域の特性も様々で大きく異なりますので取り組まれているも本当に目的通りに運ばない葛藤や苦悩もおありだと思います。引き続きの地域課題や取り組まれている地域の方々との交流を深めていただき、必要な時に手が差し伸べられる心の距離感で支援を引き続きお願いしたいです。支援センターが実施する研修会や講座の参加者が増えることによって地域に根ざされるように感じます。地域活動の保険利用者数も増え、ますます地域が元気に活性化されるサポートに期待しています。またKPIの達成もよく今後の活動にも期待します。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	2-7	施策名	多様な交流の促進	主 担 当 課	協働のまちづくり課
戦略の柱	活性化戦略 “賑わう”			関 係 課	学校教育課
基本 方針	☆協働の取組によって国際交流に参加する市民を増やし、国際化に対応する人材を育成するとともに、笠岡に住んでいる外国人が生活しやすい環境をつくり、多文化共生のまちづくりを目指します。 ☆友好都市等との交流を市民の積極的な参加により促進します。				

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
語学事業及び国際交流事業の年間参加者数	単位	目標		1,816	2,287	3,038	3,099	3,160
	人／年	実績	1,459	1,371	1,353	1,375	—	—
		達成率		75.5%	59.2%	45.3%	—	—
大田市交流事業の年間参加者数	単位	目標		70	40	45	50	55
	人／年	実績	1,053	14	51	47	—	—
		達成率		20.0%	127.5%	104.4%	—	—

(注)2020年の参加者数は、交流30周年事業の実施のため、例年(2016～2019年の平均39人/年)より多くなっています。

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	国際交流の促進(※①②③)
---------	---------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
語学事業及び国際交流事業の年間参加者数 (日本語講座・日本語指導ボランティア養成講座を除く)	単位	目標		1,570	2,000	2,000	2,350	2,700
	人／年	実績	1,256	1,171	1,077	1,025	—	—
		達成率		74.6%	53.9%	51.3%	—	—
白石島国際交流ヴィラ年間宿泊者数	単位	目標		600	700	850	975	1,100
	人／年	実績	485	221	827	1,099	—	—
		達成率		36.8%	118.1%	129.3%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	6,134	千円	26,386	千円	4,372	千円	10,785	千円
うち 一般財源	3,533	千円	16,386	千円	4,372	千円	5,931	千円

1	国際交流・地域間交流事業											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市民 在住外国人		外国人との交流の機会を提供するなど市民の多文化共生の理解を深め、また、外国人が生活しやすい環境をつくる。			・国際交流事業(青少年海外交流事業含む) ・国際交流ヴィラの運営支援							
令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度				
取組 内容	○笠岡国際交流協会の運営支援 ・諸外国とのオンラインでの交流 ・グローバルカフェ ○英語スピーチコンテスト ○国際交流ヴィラ施設改修工事			⇒ ・そば打ち体験 ○中学生の海外派遣			⇒ ・そば打ち体験 ・もちつき体験 ・地球市民講座 ○友好握手都市交流事業 ・コタバル市訪問 ・コタバル市職員受入 ○青少年海外交流事業 ・固城郡中学生をホームステイで受入 ○白石島国際交流ヴィラ運営支援			⇒ ・もちつき体験 ・地球市民講座 ○友好握手都市交流事業 ・コタバル市へ高校生派遣(現地学生との交流会) ・コタバル市サッカー交流(サッカー大会、学生交流) ○青少年海外交流事業 ・固城郡へ中学生派遣 ○白石島国際交流ヴィラ運営支援		
	決算額	6,134	千円	決算額	26,386	千円	決算額	4,372	千円	決算額	10,785	千円
直接 事業費	うち 一般財源	3,533	千円	うち 一般財源	16,386	千円	うち 一般財源	4,372	千円	うち 一般財源	5,931	千円

【達成目標2】	外国人が生活しやすいまちづくり(※④)
---------	---------------------

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
日本語講座受講者数	単位	目標		160	200	270	320	370
	人/年	実績	117	155	194	231	—	—
		達成率		96.9%	97.0%	85.6%	—	—
日本語指導ボランティア養成講座受講者数	単位	目標		86	87	88	89	90
	人/年	実績	86	45	82	119	—	—
		達成率		52.3%	94.3%	135.2%	—	—

達成目標2の事業費											
令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
直接事業費	676	千円	638	千円	852	千円	778	千円			
うち一般財源	676	千円	638	千円	852	千円	778	千円			

2	在住外国人生活支援事業										
事務事業の目的						事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)									
在住外国人 市民		笠岡国際交流協会と協働し、在住外国人の日本語の習得を支援するための日本語講座や、日本語指導ボランティア養成講座の実施を通じて、在住外国人生活支援を行う。				・日本語講座の実施支援 ・日本語指導ボランティア養成講座の実施支援					

【達成目標3】地域間交流の促進(※⑤)

達成目標3の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 目標	R6 目標	R7 目標
大田市交流事業の年間参加者数	単位	目標		70	40	45	50	55
	人／年	実績	1,053	14	51	47	—	—
		達成率		20.0%	127.5%	104.4%	—	—

達成目標3の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	2,159	千円	76	千円	148	千円	139	千円
うち一般財源	190	千円	76	千円	148	千円	139	千円

3 友好都市交流促進事業

事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)										
市民			友好都市等との交流を市民の積極的な参加により促進し、相互の発展につなげていく。			・友好都市大田市との交流支援(交流事業推進助成金) ・大田市交流30周年記念事業							
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		○友好都市大田市との交流支援 ＜交流事業推進助成金＞ ・交付件数：2件 ・交流した市民人数：40人 ○大田市交流30周年記念事業 ・交流した市民人数：882人		⇒ ＜交流事業推進助成金＞ ・交付件数：1件 ・交流した市民人数：14人			⇒ ＜交流事業推進助成金＞ ・交付件数：3件 ・交流した市民人数：51人			⇒ ＜交流事業推進助成金＞ ・交付件数：2件 ・交流した市民人数：47人			
直接事業費		決算額	2,159	千円	決算額	76	千円	決算額	148	千円	決算額	139	千円
		うち一般財源	190	千円	うち一般財源	76	千円	うち一般財源	148	千円	うち一般財源	139	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	8,969	千円	27,100	千円	5,372	千円	11,702	千円
うち一般財源	4,399	千円	17,100	千円	5,372	千円	6,848	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
活性化戦略”賑わう”にご尽力いただきありがとうございます。1. 国際交流地域間交流事業の国際交流協会も活発に活動されておりウィズコロナの生活でも在住外国人の方も安心されているのではないかと思います。日本語講座受講者数も増え、日々在住外国人の方が増えているように感じています。文化が違えどコミュニケーションを図りながら同じ笠岡市民として過ごすために大事な機関だと思います。今後共々尽力願います。	→ ありがとうございます。在住外国人の方と地域住民の方の相互理解をより深められるよう、日本語教育や国際理解の機会創出に取り組んでまいります。
大韓民国の慶尚南道固城郡と姉妹都市協定を締結し、国際交流がさらに進んでいると感じています。	→ これまで固城郡との交流は青少年が中心でしたが、今後は文化やスポーツなど幅広い分野でより多くの市民のみなさまに参加していただける交流に展開できるよう、注力してまいります。
国際交流は順調に進んでいるようですが、地域間交流は広げる予定はないですか。	→ 友好都市縁組締結40周年に向け、大田市との交流事業補助金の制度の周知の徹底及び、交流機会の創出に注力してまいります。
・事業への参加者数が少なくなっています(大幅に少ない事業も有)。まだコロナ禍の影響があるのかと思いますが、今後は多くなってくると思いますので、期待しています。	→ より多くの市民のみなさまにご参加いただけるよう、各種事業の周知を徹底します。
大田市交流事業、白石島国際交流ヴィラ年間宿泊者数が目標達成し素晴らしいと思います。 語学事業及び国際交流事業については参加者が伸びませんでしたが、日本語指導ボランティア養成講座の受講者数がかなり増えたことは喜ばしいことです。 市役所窓口で外国人への市職員の対応を見る機会がありました。とても丁寧にゆっくりと分かりやすく説明されておりこちらも嬉しくなりました。ただ手続きが複数部署をまわらないと難しくそうだったので、ワンストップでサービスできると親切なのでは？と思いました。外国人にも住みやすい笠岡であってほしいと思います。 (来年度は固城郡やコタバル市についての交流は評価の対象になりますか？)	→ 在住外国人の方は移動手段が限られていたり、シフト制の仕事の方が多くいることなどから、日本語講座への参加が難しく、語学事業の参加者が増加しないことが予想されます。より多くの在住外国人の方に参加していただけるよう、ニーズのくみ取りとそれに沿った事業実施ができるよう注力してまいります。 また、窓口や印刷物において外国人の方により分かりやすく情報を伝えられるよう、市職員に対して「やさしい日本語」講座を実施しております。特に市民課や税務課の窓口は在住外国人の方も利用されることが多いため、引き続き外国人対応のスキルアップとサービス向上を図ります。
国際交流ヴィラの宿泊数、目標値をオーバーすることは、多様な国際交流に関心を持っている人が多いということだと思います。これからも国際化に対応できる人材の育成が大切だと思います。 私たちは、他都市、北広島町の”芸北神楽”の方々と交流し、笠岡での神楽公演を実施しています。いろんな団体が他都市と交流できる支援をお願いします。	→ 白石島国際交流ヴィラの宿泊者増加の背景の1つとして、インバウンド需要が高まり、さらに地方を訪れる外国人観光客が増加していることが考えられます。笠岡市・笠岡諸島を訪れた外国人の方へのサービス充実化のため、笠岡国際交流協会と協力しながら人材育成に取り組んでまいります。 また、他自治体の多様な団体との交流によって、両市民の相互来訪、延いては賑わいの創出に繋がる支援ができないか検討してまいります。

<6.令和5年度の振り返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

<7.未達成の指標への対応策>

未達成指標への対応策	語学事業及び国際交流事業については、対象者のニーズをくみ取り、より多くの方が参加できる会場や日程での開催を検討するとともに、周知方法の改善を図っていきます。
------------	--

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・コタバル市との交流事業があり、日本語講座受講数等も増えています。大田市との交流は若干減っていますが、今後も進めていただきたいと思います。 ・職員の海外派遣や海外からの職員受け入れなど、近隣市町ではあまり聞かないように思いますが、自治体規模に見合ったものなのでしょうか。 ・友好都市との交流も他都市の活動など、参考になることも多く大切であると思います。そして、しない諸地域が自主的に連携しているイベント・交流があればそうした事例も集約してみることも良いと思います。 ・白石島国際交流ヴィラの宿泊数がかなり伸びました。島全体で管理・サポートをされているとのこと、アットホームな島ということでリピーターも多いのではないのでしょうか。 ・日本語が話せる技能実習生が増えてきました。近所の外国人と触れ合うことがありますが、触れ合いやイベントを求めていच्छいしました。笠岡市で楽しく過ごしてもらいたいと思いますが、何か手立てはないでしょうか。昨年度、地域の社協のイベントに国際交流の方、外国人数名が来てくださり、参加した子ども、地域の方も喜んでおられました。こういった機会が増えればと願います。 ・笠岡で外国人の方を見る機会が増えました。外国人も市民の一人として、地域に溶け込めるように交流の促進を期待しています。 ・日本語講座受講者数も年々増加されています。目標には達成されていませんが、必要性を感じています。昨今、笠岡市民の割合として海外の方が増えていच्छい印象を多く受けます。個人情報の観点ではわかりませんが、日本国籍の外人さんの窓口になる担当課が市民課かどこかわかりませんが、積極的に案内を置かせていただくなど広報していただき、交流を持っていただきたいと思います。どうしても活発な若い方が多いので文化も違えばゴミの出し方などでも一律の常識が通用しない場合も多々増えているようです。会社から注意していただくように伝えてもルールが守れないことが多いと聞いています。すべての移住者がそうではないと思いますが、昨今、移住者のおかげで指令都市の人口を保たれている自治体も多くあります。ますます課題が大きくなる傾向があります。今後、全国的な傾向としてますます笠岡市民に海外の方が増えることは安易に予想されます。まずはそういった社会課題もある中でのコミュニティーの一助となっていいただけるように、様々な課と連携していただき、交流もはかっていただけたらと思います。また、白石島の国際交流ヴィラ年間宿泊数の増加は素晴らしいことだと思います。しかしながら乳飲み子を抱え、3人の育児をしながらの市民です。コロナが開けてネットを見て来て下さる方ばかりではなく、電話対応だけでも休みなく対応しなければならない状況も安易に予測できます。大切な移住者にも気にかけていただける市政であっていただきたいと思います。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	2-8	施策名	広域連携の推進	主 担 当 課	企画政策課
戦略の柱	活性化戦略 “賑わう”			関 係 課	
基本 方針	限られた行政資源を有効活用するため、近隣の市町との広域的な連携や多様な主体との連携を推進し、行政運営の効率化を図るとともに地域の活性化を図ります。				

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
3圏域(高梁川流域圏, 備後圏域, 井笠圏域)での連携事業数	単位	目標		118	118	118	119	119
	事業	実績	116	118	124	131	—	—
		達成率		100.0%	105.1%	111.0%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	近隣市町との連携の推進(※①②)
---------	------------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R7 目標	R7 目標
高梁川流域圏での連携事業数	単位	目標		57	57	57	57	57
	事業	実績	55	57	63	65	—	—
		達成率		100.0%	110.5%	114.0%	—	—
備後圏域での連携事業数	単位	目標		59	59	59	59	59
	事業	実績	59	59	59	63	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	106.8%	—	—
井笠圏域での連携事業数	単位	目標		2	2	2	3	3
	事業	実績	2	2	2	3	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	150.0%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	50	千円	28	千円	28	千円	28	千円
うち 一般財源	50	千円	28	千円	28	千円	28	千円

1	広域連携事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民・職員		近隣市町と連携することで、地域の活性化や行政運営の効率化に繋げる				高梁川流域・備後圏域・井笠圏域において、各市町単独で行っていた事業の連携推進や圏域で行うことでのスケールメリットを活かした事業を推進する							
令和2年度		令和3年度				令和4年度			令和5年度				
取組内容	・高梁川流域圏及び備後圏域における連携			⇒			⇒			⇒(主な新規事業) 【高梁川流域圏】 ・高梁川流域空き家対策事業 ・広域バス路線等維持確保連携事業 【備後圏域】 ・圏域共通のふるさと納税返礼品の造成 ・備後圏域内企業の兼業・副業活用促進			
	・井笠圏域振興協議会事務			⇒			⇒			⇒(新規事業) ・井笠圏域イベント応援事業			
直接事業費	決算額	50	千円	決算額	28	千円	決算額	28	千円	決算額	28	千円	
	うち一般財源	50	千円	うち一般財源	28	千円	うち一般財源	28	千円	うち一般財源	28	千円	

【達成目標2】	域学連携の推進(※③)
---------	-------------

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 目標	R6 目標	R7 目標
域学連携事業参加者	単位	目標		70	80	148	100	110
	人/年	実績	166	160	309	295	—	—
		達成率		228.6%	386.3%	199.3%	—	—

達成目標2の事業費								
令和2年度			令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	67	千円	67	千円	70	千円	68	千円
うち一般財源	67	千円	67	千円	70	千円	68	千円

2	域学連携事業												
事務事業の目的					事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
学生, 市民		高い地域志向をもった人材育成を支援し, 学生, 地域住民, 各種団体等が協働して地域課題解決のための活動に取り組む。			地(知)の拠点大学である岡山県立大学等を支援し, 地域住民, 各種団体等との域学連携を推進する。								
令和2年度					令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	【岡山県立大学】 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ会議参加 (3/17: 1名) (コロナ禍により県立大との取組の多くが中止) ・県立大が笠岡市立図書館のピクトグラム(本の分類用)作成 【その他】 ・笠岡高校総合学習「地域学」への協力(7課7テーマ) (7課7テーマ) ・地元高校生を中心とした笠岡駅前イルミネーション設置支援			【岡山県立大学】 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ会議参加 (10/29: 1名) 「吉備の杜」創造戦略プロジェクト 第1回部会会議参加(12/14: 1名) 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ会議(3/24: 1名) (コロナ禍により県立大との取組の多くが中止) ・県立大が笠岡市立図書館のシンボルマークを作成 【その他】 ⇒ (6課7テーマ) ⇒			【岡山県立大学】 「吉備の杜」創造戦略プロジェクト教育プログラム開発委員会参加 (10/18: 1名) 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ会議参加 (11/16: 1名) 「吉備の杜」創造戦略プロジェクト教育プログラム開発委員会参加 (2/21: 1名) 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ会議 (3/9: 1名) ・県立大看護学科「総合実習」における特別講義講師派遣 (9/30, 11/1: 1名) ・県立大「地域資源学」講師派遣 (10/3: 1名) 【その他】 ⇒ (6課6テーマ) ⇒			【岡山県立大学】 「吉備の杜」創造戦略プロジェクト教育プログラム開発委員会参加 (10/16: 1名) 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ会議参加 (11/9: 1名) 「吉備の杜」創造戦略プロジェクトメンバーシップ会議 (3/18: 1名) 【岡山商科大学】 ・ボランティア・プロフェッサー講義における講師派遣 (12/25, 1/15: 1名) 【その他】 ⇒ (7課7テーマ) ⇒			
	決算額	67	千円	決算額	67	千円	決算額	70	千円	決算額	68	千円	
直接事業費	うち一般財源	67	千円	うち一般財源	67	千円	うち一般財源	70	千円	うち一般財源	68	千円	

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	117	千円	95	千円	98	千円	96	千円
うち 一般財源	117	千円	95	千円	98	千円	96	千円

＜5.前年度の委員コメントに対する対応・回答＞

委員コメント	対応・回答
活性化戦略”賑わう”にご尽力いただきありがとうございます。3圏域での連携事業が順調に進まれているようですが、行政の効率化と地域の活性化で成果としてどんなことがありますか。今後共お願いいたします。	→ 3圏域では、共同で実施することでのスケールメリットを活かした事業を多く展開しています。具体的には、高梁川流域圏では、圏域の観光拠点に、無料で利用できる公衆無線LANサービスの整備。備後圏域では、中小企業や創業を考える方をサポートする福山ビジネスサポートセンター Fuku-Bizの運営。井笠圏域では、圏域内住民の結婚を推進するイベント等を共同で実施しております。
広域連携については、以前と比べて取組状況や成果が見えにくくなっているのもう少し実績が分かるような記載であればいいと思います。	→ 令和5年度の実績から主な新規事業を記載するようしております。
全ての目標に達成しているのA評価となりました。多くの大学・専門学校などとの更なる連携をお願いします。進行中の広域連携拠点施設(熱利用施設)整備運営事業について、進行具合のご説明をお願いします。	→ 広域連携拠点施設(熱利用施設)整備運営事業のスケジュールについては、令和5年度に基本設計、令和6年度に実施設計を行い、令和7年度から工事を開始し、令和8年度の完成予定で進行しております。

＜6.令和5年度の振り返り＞(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	A
--------	--	---

＜7.未達成の指標への対応策＞

未達成指標への対応策	未達成なし
------------	-------

＜8.委員による評価結果＞

総合評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	A	(参考) 昨年度の評価結果	A
コメント	・指標の数字も全体的に良く、前回令和4年度と今回令和5年度の施策評価はA評価と良く取り組んでいると考えます。今後も期待しています。 ・人口減少に伴い、ますます広域連携が重要になってくると思いますので、引き続き取組の推進をお願いします。 ・域学連携において、県立大学の創造戦略プロジェクトに参加者が1名というのは啓発活動が行き渡っているのでしょうか。 ・前年度に続き、全ての目標に達成しているのA評価となりました。大学・専門学校だけでなく年齢的にも幅広く更なる連携をお願いします。 ・びんご未来ワークショップに参加しました。笠岡市だけではできないことが備後圏域、井笠圏域ならできると実感しました。人口減少の今、こういった目線で考える必要性が迫っていると思います。R5年度の新規事業「井笠圏域イベント応援事業」の説明をお願いします。 ・広域連携の推進は、限られた行政資源を有効活用し、行政間の格差を是正する重要な施策ですので、引き続き推進してください。 ・限られた行政資源を活用するために近隣市町村と広域な連携と多様な主体との連携を推進していただいております。笠岡市の財政が厳しいところばかりがクローズアップされ、笠岡市と連携を今後も組んで下さるのか、また移住者が増えたり、市民が移住してきてくれるのかとても気になりますが、県内も過疎化していく状況ははっきりとしている中しっかりと信頼関係を構築していただき、連携事業を増やしていただきたい。域学からみた笠岡市は魅力の宝庫かもしれません。学生や携わるすべての方々に魅力を見つけていただき、笠岡市の良さを育みながら広域での役割が果たしていただきたい。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	3-1	施策名	子ども・子育て環境の整備	主 担 当 課	子育て支援課
大項目	安心して暮らせるまちづくり				
基本 方針	将来の笠岡市を担う子どもたちの成長は、市民にとって大きな喜びです。子どもが健やかに育ち、子育て家庭が安心して子どもを生み育てられるよう、就学前教育・保育施設再編整備等の環境づくりを進め、子育てをみんなで支えるまちの実現を目指します。			関 係 課	こども育成課 市民課 学校教育課 生涯学習課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
合計特殊出生率	単位	目標			1.07	1.10	1.12	1.15
	人	実績	1.37	1.11	未公開	未公開	—	—
		達成率			—	—	—	—
安心して子どもを産み育てられると感じている市民の割合(市民意識調査)	単位	目標		—	45.0	—		47.5(R6)
	%	実績	42.4	—	38.2	—	—	—
		達成率		—	84.9%	—	—	—
年度末における5歳児の人口と5年前の0歳児の人口を比較した増減割合	単位	目標		5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
	%	実績	△ 0.4	7.9	1.1	4.8	—	—
		達成率		158.0%	22.0%	96.0%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】安心して子どもを産み育てられる環境(※①②③)

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
妊娠11週以下で妊娠届出を行う妊婦	単位	目標		84.0	85.5	87.0	90.0	90.0
	%	実績	82.6	80.2	86.6	92.5	—	—
		達成率		95.5%	101.3%	106.3%	—	—
子育て意識啓発のための講座を受講した人	単位	目標		70	200	200	200	200
	人/年	実績	57	40	59	187	—	—
		達成率		57.1%	29.5%	93.5%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	108,682	千円	82,794	千円	93,984	千円	97,038	千円
うち 一般財源	100,413	千円	80,079	千円	91,967	千円	94,744	千円

1	母子健診事業																		
事務事業の目的 対象(誰を)				事務事業の内容 意図(どのようにしたいのか)				事務事業の内容											
妊産婦 乳幼児				妊産婦及び乳幼児の健康診査を直接又は医療機関へ委託して実施し、乳幼児及び家族の健康の維持増進を図る。				医療機関による妊産婦健康診査、乳幼児健康診査の一部を公費負担することで実施、乳児の健やかな成長と母体の健康の増進を図る。また、乳児健康診査、1歳6箇月健康診査、3歳児健康診査及び2歳児歯科検診を実施することで乳幼児の健康状態を把握し、適切な指導助言を行う。											
令和2年度				令和3年度				令和4年度				令和5年度							
取組内容				●母子保健事業 ・健康診査の実施 ＜妊婦一般健康診査延件数：2282件＞ ＜産婦健康診査延件数：306件＞ ＜乳児一般健康診査延件数：417件＞ ＜3～4か月健康診査延件数：193件＞ ※R2.3月～R2.5月の3～4か月健診はコロナにより中止したため、R2.6月～R3.3月の実績 ＜1歳6か月健康診査延件数：235件＞ ＜3歳児健康診査延件数：216件＞ ＜2歳児歯科検診延件数：※＞ ※2歳児歯科検診はコロナにより実施せず 【コロナウイルス感染症対策による振替】 ＜9～10か月健康診査延件数：53件＞ ※R2.3月～R2.5月の3～4か月健診対象者に対して今年度のみ実施				⇒ ⇒ ＜妊婦一般健康診査延件数：1766件＞ ＜産婦健康診査延件数：313件＞ ＜乳児一般健康診査延件数：316件＞ ＜3～4か月健康診査延件数：161件＞ ＜1歳6か月健康診査延件数：248件＞ ＜3歳児健康診査延件数：235件＞ ＜2歳児歯科検診延件数：49人＞				⇒ ⇒ ＜妊婦一般健康診査延件数：2155件＞ ＜産婦健康診査延件数：317件＞ ＜乳児一般健康診査延件数：285件＞ ＜3～4か月健康診査延件数：175件＞ ＜1歳6か月健康診査延件数：180件＞ ＜3歳児健康診査延件数：200件＞ ＜2歳児歯科検診延件数：61人＞				⇒ ⇒ ＜妊婦一般健康診査延件数：1975件＞ ＜産婦健康診査延件数：328件＞ ＜乳児一般健康診査延件数：341件＞ ＜3～4か月健康診査延件数：191件＞ ＜1歳6か月健康診査延件数：169件＞ ＜3歳児健康診査延件数：255件＞ ＜2歳児歯科検診延件数：49人＞			
直接事業費				決算額	28,397	千円	決算額	24,397	千円	決算額	26,344	25113	決算額	24,880	千円				
				うち一般財源	27,197	千円	うち一般財源	22,710	千円	うち一般財源	25,490	千円	うち一般財源	24,054	千円				

2	はぐくみ笠岡事業														
事務事業の目的				事務事業の内容											
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)													
妊産婦 乳幼児 乳幼児の保護者		乳児のいる家庭と地域社会をつなぐ最初の機会からスタートし、継続的に支援を行うことで乳児家庭の孤立化を防ぎ、乳児の健全な育成環境の確保を図るとともに母子の健康の増進を図る。		地域での全ての出生に関してアプローチを行い、様々な不安や悩みを聞き、子育て支援に関する情報提供を行う。また、母子の心身の状況や養育環境等の把握及び助言を行い、支援が必要な家庭に対し適切なサービス提供する。加えて要支援家庭の把握及び支援を行う。											
令和2年度				令和3年度				令和4年度				令和5年度			
取組内容	●訪問指導の実施 ・妊産婦、乳児の家庭訪問 ●健康相談の実施 ・発達、栄養、育児等の相談の実施 ●健康教育の実施 ・マタニティ教室、離乳食教室等の実施 ・養育医療給付費の支給 ＜子育て世代包括支援センター：面談131件、電話300件＞ ＜電子母子手帳：年度末登録数590件＞ ＜産後ケア事業：デイサービス延べ7日、母乳相談8件＞ ＜妊婦家庭訪問延件数：12件＞ ＜産婦・乳児家庭訪問延件数：229件＞ ＜離乳食講習会延参加者数：※＞ ※コロナ感染予防のため実施せず			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ＜子育て世代包括支援センター：面談129件、電話478件＞ ＜電子母子手帳：年度末登録数713件＞ ＜産後ケア事業：宿泊延べ2日、デイサービス延べ8日、母乳相談19件＞ ＜妊婦家庭訪問延件数：19件＞ ＜産婦・乳児家庭訪問延件数：185件＞ ＜離乳食講習会延参加者数：※＞ ※コロナ感染予防のため実施せず			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ＜子育て世代包括支援センター：面談99件、電話716件＞ ＜電子母子手帳：年度末登録数849件＞ ＜産後ケア事業：宿泊延べ2日、デイサービス延べ14日、母乳相談15件＞ ＜妊婦家庭訪問延件数：15件＞ ＜産婦・乳児家庭訪問延件数：229件＞ ＜離乳食講習会延参加者数：24人＞			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ＜子育て世代包括支援センター：面談298件、電話915件＞ ＜電子母子手帳：年度末登録数972件＞ ＜産後ケア事業：宿泊延べ11日、デイサービス延べ15日、母乳相談23件＞ ＜妊婦家庭訪問延件数：3件＞ ＜産婦・乳児家庭訪問延件数：225件＞ ＜離乳食講習会延参加者数：106人＞					
	決算額 4,957 千円			決算額 2,362 千円			決算額 2,573 千円			決算額 4,851 千円					
直接事業費	うち一般財源 2,455 千円			うち一般財源 1,334 千円			うち一般財源 1,410 千円			うち一般財源 3,383 千円					

3	予防接種事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
乳幼児 児童 中学1年生 高校3年生			予防接種の機会の確保及び一定の接種率の確保を行い、感染症の発生を予防することでそのまん延の防止を図り、公衆衛生の向上及び増進を図る。			市民全体の免疫水準を上げるために、市内医療機関及び岡山県内相互乗り入れ医療機関に委託して、乳幼児等に対し予防接種を実施する。						
令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
●予防接種の実施 ●岡山県子宮頸がん等ワクチン ＜麻しん風しん(1期)予防接種率：93.1%＞ ＜BCG予防接種率:91.1%＞ 【新型コロナウイルス対策事業】 ・インフルエンザの予防接種助成			⇒ ⇒ ＜麻しん風しん(1期)予防接種率：81.8%＞ ＜BCG予防接種率:88.3%＞			⇒ ⇒ ＜麻しん風しん(1期)予防接種率：83.00%＞ ＜BCG予防接種率:87.2%＞			⇒ ⇒ ＜麻しん風しん(1期)予防接種率：92.4%＞ ＜BCG予防接種率:92.2%＞			
取組内容	決算額	71,160	千円	決算額	53,074	千円	決算額	64,470	千円	決算額	67,280	千円
	うち一般財源	66,593	千円	うち一般財源	53,074	千円	うち一般財源	64,470	千円	うち一般財源	67,280	千円

4		創 不妊・不育治療支援事業											
事務事業の目的							事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
不妊や不育で悩む夫婦		不妊や不育で悩む夫婦に対し、治療費の一部を負担することにより、経済的な負担の軽減を図ることで、安心して子どもを産み育てるまちづくりを行う。					不妊治療や不育治療における治療費に対し、補助率1/2(限度額15万円/回)、6回(90万円)までとしての補助を行う。						
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		●不妊治療助成事業 ●不育治療助成事業 <一般不妊治療助成件数:19件> <特定不妊治療助成件数:34件> <不育治療助成件数:0件>			⇒ ⇒ <一般不妊治療助成件数:18件> <特定不妊治療助成件数:25件> <不育治療助成件数:3件>			⇒ ⇒ <一般不妊治療助成件数:5件> <特定不妊治療助成件数:4件> <不育治療助成件数:2件>			⇒ <不育治療助成件数:1件>		
直接事業費		決算額	4,168	千円	決算額	2,961	千円	決算額	597	千円	決算額	27	千円
		うち一般財源	4,168	千円	うち一般財源	2,961	千円	うち一般財源	597	千円	うち一般財源	27	千円

【達成目標2】 子どもを健やかに育てるための家庭支援の充実(※④)

達成目標2の指標

指標名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
子育てに関する相談件数 (子育て支援コンシェルジュ利用件数)	単位	目標		1,000	1,000	1,000	1,000	1,000
	件/年	実績	972	1,097	1,369	1,080	—	—
		達成率		110%	137%	108%	—	—

達成目標2の事業費

令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
直接事業費	452,471	千円	265,613	千円	255,626	千円	272,514	千円			
うち一般財源	147,897	千円	141,952	千円	137,159	千円	137,712	千円			

5 地域子育て支援拠点事業

事務事業の目的				事務事業の内容										
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)											
家庭で子育てをしている保護者及び乳幼児			安心して子育てができるよう、保護者の育児不安・ストレスを解消する。 保護者同士のネットワーク作りの支援をする。 地域の子育て情報を提供する。			乳幼児及びその保護者が交流を行う場所を開設し、子育てについての相談情報提供、助言その他の援助活動を行う。また子育て支援に関する講習等を実施する。								
令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度				
取組内容	●地域子育て支援拠点事業 ・つどいの広場事業の実施 ・大井児童館の運営 ・地域子育て支援センターの運営 ＜つどいの広場延利用者数：1,563人＞ ＜大井児童館延利用者数：5,040人＞ ＜地域子育て支援センター延利用者数：1,875人＞			⇒ ＜つどいの広場延利用者数：1,233人＞ ＜大井児童館延利用者数：4,860人＞ ＜地域子育て支援センター延利用者数：2,913人＞			⇒ ＜つどいの広場延利用者数：1,759人＞ ＜大井児童館延利用者数：6,712人＞ ＜地域子育て支援センター延利用者数：1,602人＞			⇒ ＜つどいの広場延利用者数：1,991人＞ ＜大井児童館延利用者数：9,203人＞ ＜地域子育て支援センター延利用者数：6,691人＞				
直接事業費	決算額	55,402	千円	決算額	51,116	千円	決算額	51,352	千円	決算額	70,709	千円		
	うち一般財源	21,369	千円	うち一般財源	20,943	千円	うち一般財源	21,491	千円	うち一般財源	25,887	千円		

[illegible]

7	要保護児童対策事業																						
事務事業の目的							事務事業の内容																
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)																				
被虐待児童及び支援を必要とする児童とその保護者			被虐待児及び困り感を持った児童が一人の人間として人権の尊重される生活を送ることができるようにする。				各関係機関が連携し、情報の共有化を図ることで、それぞれの機関が同一の認識のもとで責任を持って支援を行なう。子育て不安やストレス、親子関係等の問題等に対し、保護者が安心感をもてる環境を提供しながら、専門職による対応・支援等の児童家庭相談を行う。児童虐待防止月間に合わせて啓発を行う。4歳児の発達に関する相談及び支援を行う。																
令和2年度															令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●要保護対策事業 ・被虐待児の早期発見と安全を確保 ●4歳児発達支援事業 ・特性に応じた成長、発達の支援、教育機関等へのコーディネート ●要保護児童管理システム構築						⇒			⇒			⇒			⇒							
	<児童虐待(新規登録)件数:41件>						<児童虐待(新規登録)件数:38件>			<児童虐待(新規登録)件数:30件>			<児童虐待(新規登録)件数:23件 継続支援件数:71件 終結件数:51件>										
	●要保護対策事業 ・被虐待児の早期発見と安全を確保 ●4歳児発達支援事業 ・特性に応じた成長、発達の支援、教育機関等へのコーディネート ●要保護児童管理システム構築						⇒			⇒			⇒			⇒							
直接事業費	決算額	2,034		千円		決算額	3,028		千円		決算額	3,154		千円		決算額	3,977		千円				
	うち一般財源	787		千円		うち一般財源	1,221		千円		うち一般財源	1,459		千円		うち一般財源	1,517		千円				

【達成目標3】 安心・安全な子育て環境の充実(※⑤)

達成目標3の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
保育所(園)・認定こども園(保育所部分)・事業 所内保育(地域枠)定員	単位	目標		1,294	1,294	1,294	1,294	1,294
	人	実績	1,313	1,294	1,269	1,244	—	—
就学前教育・保育施設への就園率	単位	目標			74.5	75	75.0	75.0
	%	実績	74.0	76	78	78	—	—
放課後児童クラブへの入所率	単位	目標			31.9	32.5	32.8	33.0
	%	実績	31.1	31.4	32.8	34.8	—	—
			達成率		103%	107%	—	—

達成目標3の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	2,079,932	千円	1,787,937	千円	1,865,113	千円	1,828,508	千円
うち一般財源	489,673	千円	472,322	千円	558,205	千円	486,733	千円

8 ファミリーサポートセンター事業												
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
育児を応援して欲しい方(親子)			育児を応援したい方に紹介し、子育てを相互に援助する。			依頼会員(子どもを預けたい人)と提供会員(子どもを預かる人)が会員登録し、センターにて依頼会員と提供会員を結びつけ、子育てを相互に援助する活動を支援する。また、会員の交流会や研修会を実施する。						
令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●ファミリーサポートセンター事業 ・会員の増加を目指して啓発の強化 ・提供会員の資質向上を図るため研修の実施 ＜依頼会員数:383人＞ ＜提供会員数:501人＞ ＜両方会員数:17人＞ ＜延活動件数:727件＞ ○創)ファミリーサポートセンター利用料補助事業			⇒ ⇒ ⇒ ＜依頼会員数:358人＞ ＜提供会員数:516人＞ ＜両方会員数:18人＞ ＜延活動件数:504件＞ ○創)ファミリーサポートセンター利用料補助事業			⇒ ⇒ ⇒ ＜依頼会員数:335人＞ ＜提供会員数:532人＞ ＜両方会員数:16人＞ ＜延活動件数:599件＞ ○創)ファミリーサポートセンター利用料補助事業 ＜補助人数:4人＞			⇒ ⇒ ⇒ ＜依頼会員数:309人＞ ＜提供会員数:544人＞ ＜両方会員数:14人＞ ＜延活動件数:741件＞ ○創)ファミリーサポートセンター利用料補助事業 ＜補助人数:3人＞		
	決算額	966	千円	決算額	551	千円	決算額	625	千円	決算額	600	千円
直接事業費	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円

9 公立保育所管理運営事業												
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
市内公立保育所への入所を必要とする児童			保育を必要とする児童を保育する施設として、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動できるようにすることにより、健全な心身の発達を図る。			限られた事業費の中で、国の施設最低基準及び保育所保育指針に基づき、安定した保育業務を実施するとともに、安全な施設管理を行う。						
令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●保育サービスの向上 ・障害児保育に対応するために職員の資質向上 ・老朽化した施設の整備の推進 ・公立保育所の民営化の推進 ・地域における子育て支援拠点としての機能強化 ・保育料収納率の向上 ・笠岡保育所の民営化 ＜年間延入所児童数:2,165人＞ ＜施設数:5か所＞ ＜3月初日入所率:63.0%＞ ＜保育料収納率:100%＞			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ＜年間延入所児童数:1,862人＞ ＜施設数:5か所＞ ＜3月初日入所率:55.0%＞ ＜保育料収納率:100%＞			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ＜年間延入所児童数:1,679人＞ ＜施設数:4か所＞ ＜3月初日入所率:54.1%＞ ＜保育料収納率:99.8%＞			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ＜年間延入所児童数:1,502人＞ ＜施設数:4か所＞ ＜3月初日入所率:48.1%＞ ＜保育料収納率:100.0%＞		
	決算額	39,638	千円	決算額	36,152	千円	決算額	40,016	千円	決算額	36,126	千円
直接事業費	うち一般財源	31,184	千円	うち一般財源	27,059	千円	うち一般財源	32,679	千円	うち一般財源	29,896	千円

10		公立認定こども園管理運営事業											
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市内公立認定こども園への入所を必要とする児童		幼児教育・保育を必要とする児童を受け入れる施設として、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動できるようにすることにより、健全な心身の発達を図る。				限られた事業費の中で、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、全ての子どもに質の高い幼児期の学校教育及び保育の総合的な提供を行う。							
		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度					
取組内容		●幼児教育・保育サービスの充実 ＜年間延入所児童数＞ 1号認定30人、2・3号認定797人 ＜施設数：1か所＞ ＜3月初日入所率＞ 1号認定7.5%、2・3号認定97.3% ＜保育料収納率：100%＞		⇒ ＜年間延入所児童数＞ 1号認定61人、2・3号認定898人 ＜施設数：1か所＞ ＜3月初日入所率＞ 1号認定26.7%、2・3号認定108.0% ＜保育料収納率：99.8%＞		⇒ ＜年間延入所児童数＞ 1号認定439人、2・3号認定1,210人 ＜施設数：2か所＞ ＜3月初日入所率＞ 1号認定63.6%、2・3号認定125.3% ＜保育料収納率：100.0%＞		⇒ ＜年間延入所児童数＞ 1号認定402人、2・3号認定1,216人 ＜施設数：2か所＞ ＜3月初日入所率＞ 1号認定65.5%、2・3号認定100.0% ＜保育料収納率：99.7%＞					
直接事業費		決算額	10,954	千円	決算額	12,481	千円	決算額	23,311	千円	決算額	25,324	千円
		うち一般財源	7,059	千円	うち一般財源	8,691	千円	うち一般財源	12,006	千円	うち一般財源	19,869	千円

11		私立保育所運営委託事業											
事務事業の目的					事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市内私立保育所への入所を必要とする児童		保育を必要とする児童を保育する施設として、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動できるようにすることにより、健全な心身の発達を図る。			運営費を支弁することにより、国の運営費枠の中で、国の施設最低基準及び保育所保育指針に基づき安定した保育園の管理運営を行う。								
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		●保育サービスの充実 ・保育所職員の研修への参加促進 ・保育の満足度調査の実施 ＜年間延入所児童数：5,563人＞ ＜施設数：6か所＞ ＜3月初日入所率：90.2%＞ ＜保育料収納率：99.2%＞			⇒ ⇒ ⇒ ＜年間延入所児童数：5,207人＞ ＜施設数：6か所＞ ＜3月初日入所率：90.0%＞ ＜保育料収納率：99.8%＞			⇒ ⇒ ⇒ ＜年間延入所児童数：2,726人＞ ＜施設数：3か所＞ ＜3月初日入所率：89.2%＞ ＜保育料収納率：100.0%＞			⇒ ⇒ ⇒ ＜年間延入所児童数：1,540人＞ ＜施設数：2か所＞ ＜3月初日入所率：92.5%＞ ＜保育料収納率：99.9%＞		
直接事業費		決算額	513,543	千円	決算額	500,097	千円	決算額	270,876	千円	決算額	168,804	千円
		うち一般財源	147,009	千円	うち一般財源	130,498	千円	うち一般財源	69,701	千円	うち一般財源	43,508	千円

12	私立認定こども園施設型給付事業															
事務事業の目的							事務事業の内容									
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)														
市内私立認定こども園への入園を必要とする児童		幼児教育・保育を必要とする児童を受け入れる施設として、健康、安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動できるようにすることにより、健全な心身の発達を図る。					施設型給付費を支弁することにより、安定した園運営に寄与し、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、全ての子どもに質の高い幼児期の学校教育及び保育の総合的な提供を行う。									
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度					
取組内容		●幼児教育・保育サービスの充実 ＜年間延入所児童数:4,484人＞ ＜施設数:3か所＞ ＜3月初日入所率:95.4%＞			⇒ ＜年間延入所児童数:4,878人＞ ＜施設数:3か所＞ ＜3月初日入所率:93.1%＞			⇒ ＜年間延入所児童数:6,893人＞ ＜施設数:6か所＞ ＜3月初日入所率:93.6%＞			⇒ ＜年間延入所児童数:7,175人＞ ＜施設数:7か所＞ ＜3月初日入所率:93.8%＞					
直接 事業費	決算額	423,629		千円	決算額	435,674		千円	決算額	675,836		千円	決算額	791,641		千円
	うち 一般財源	97,193		千円	うち 一般財源	121,901		千円	うち 一般財源	195,648		千円	うち 一般財源	215,630		千円

13	幼稚園運営業務											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
幼稚園への入園を必要とする児童			園の幼児教育環境を充実させ、児童・保護者が安心して通えるようにする。				在園児に対する一時預かり事業に関すること。 配当予算の伝達・会計事務 円滑な園運営の支援					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・幼稚園一時預かり事業 ・配当予算の適正な執行			⇒ ⇒			⇒ ⇒			⇒ ⇒		
直接事業費	決算額	18,468	千円	決算額	18,390	千円	決算額	14,926	千円	決算額	15,428	千円
	うち一般財源	17,506	千円	うち一般財源	17,300	千円	うち一般財源	13,348	千円	うち一般財源	13,428	千円

14	保育ニーズ支援事業											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
児童及び保護者		必要に応じて多様な保育サービス等の提供や、自宅以外の居場所をつくることにより、子育てを支援する。		子育て家庭のニーズに対応するため、多様な保育サービス等の提供や、児童が安心して過ごせる自宅以外の居場所をつくる。また、子育て支援コンシェルジュを配置して、妊婦及び子育て中の保護者を対象に利用者支援を行う。								
令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●保育サービスの充実 ・延長保育促進事業の実施 ・一時・特定保育事業の実施 ・病児・病後児保育事業の実施 ・休日保育事業の実施 ・保育所地域活動事業の実施 ・障害児保育事業の実施 創)★・離島未就学児通所支援事業の実施 創)子どもの食と居場所づくり支援事業の実施 <延長保育実施保育所数:6か所> <一時預かり延利用児童数:861人> <病児・病後児延利用児童数:156人> <休日保育延利用児童数:72人> <地域活動実施保育所数:1か所> <障害児保育事業補助金 交付保育所数:1か所> <離島未就学児通所支援数:1世帯> <子どもの食と居場所づくり 支援事業実施数:1か所>			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒		
	<延長保育実施保育所数:6か所> <一時預かり延利用児童数:804人> <病児・病後児延利用児童数:249人> <休日保育延利用児童数:17人> <地域活動実施保育所数:1か所> <障害児保育事業補助金 交付保育所数:3か所> <離島未就学児通所支援数:2世帯> <子どもの食と居場所づくり 支援事業実施数:1か所>			<延長保育実施保育所数:6か所> <一時預かり延利用児童数:514人> <病児・病後児延利用児童数:237人> <休日保育延利用児童数:20人> <地域活動実施保育所数:1か所> <障害児保育事業補助金 交付保育所数:3か所> <離島未就学児通所支援数:1世帯> <子どもの食と居場所づくり 支援事業実施数:2か所> 創) 離島地域協働型保育支援事業			<延長保育実施保育所数:8か所> <一時預かり延利用児童数:615人> <病児・病後児延利用児童数:336人> <休日保育延利用児童数:160人> <地域活動実施保育所数:3か所> <障害児保育事業補助金 交付保育所数:2か所> <子どもの食と居場所づくり 支援事業実施数:2か所> <離島地域協働型保育支援事業 実施施設数:1か所>					
直接事業費	決算額	38,470	千円	決算額	37,073	千円	決算額	42,007	千円	決算額	38,281	千円
	うち一般財源	20,359	千円	うち一般財源	20,017	千円	うち一般財源	24,192	千円	うち一般財源	19,375	千円

[illegible]

16	神島保育所移転改築事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
神島保育所入所児童			老朽化した施設を建替えを行い、児童が安心・安全に過ごせる施設環境の充実を図る。				神島保育所の移転・建替えを行う。					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・土地の地質調査											
	・園舎建設工事等 ・備品購入費等											
直接事業費	決算額	289,374	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円
	うち一般財源	38,174	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円

17 児童福祉施策事業												
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
18歳未満の子ども及び保護者、市民、事業者			児童福祉施策の企画及び調整を行い、安心して子どもを産み育てられる環境づくりを推進する。			笠岡市次世代育成支援後期行動計画の後継計画として、笠岡市子ども条例の理念及び地域の実情を反映し、平成26年度に策定した笠岡市子ども・子育て支援事業計画の普及・啓発につとめるとともに、子育てしやすい環境づくりを推進する。						
令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・笠岡市子ども・子育て支援事業計画に係るニーズ調査 ・第2期笠岡市子ども・子育て支援事業計画策定 創・「かさおか子育て応援企業」認定事業 <安心して子どもを産み育てられると感じている市民の割合:42.4%> <かさおか子育て応援企業認定団体:2団体> 【新型コロナウイルス対策事業】 ・出産育児応援特別給付金 延べ194件			⇒ <安心して子どもを産み育てられると感じている市民の割合:一%> <かさおか子育て応援企業認定団体:2団体>			⇒ <安心して子どもを産み育てられると感じている市民の割合:38.2%> <かさおか子育て応援企業認定団体:2団体> 【新型コロナウイルス対策事業】 ・出産育児応援特別給付金 延べ385件 ・頑張るかさおかっ子応援券給付 3,143世帯(5,690人)			⇒ <安心して子どもを産み育てられると感じている市民の割合:一%> <かさおか子育て応援企業認定団体:2団体> 【新型コロナウイルス・物価高騰対策事業】 ・頑張るかさおかっ子応援給付金 3,089世帯(5,521人) 創・出産子育て応援給付金 対象者(妊婦) 174人 対象者(新生児)180人 創・妊産婦応援給付金 対象者138人 創・小学校制服購入費用助成金 対象児童 277世帯(278人)		
	決算額	19,983	千円	決算額	607	千円	決算額	70,542	千円	決算額	70,649	千円
直接事業費	うち一般財源	2,118	千円	うち一般財源	175	千円	うち一般財源	70,399	千円	うち一般財源	10,973	千円

18 児童手当業務												
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
中学校修了前までの児童を養育している者			次代の社会を担う児童の健やかな育ちを社会全体で応援する。			中学校修了前までの児童の養育者に児童手当を支給する。0歳～3歳未満までは月額15,000円。3歳～小学校修了前までの第1子・第2子は月額10,000円で、第3子以降は月額15,000円。中学生は月額10,000円。所得制限額超過該当者は月額5,000円。所得上限額超過該当者は支給なし。						
令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・児童手当の支給 ・受給者台帳の管理 <児童手当支給者数:4,568人>			⇒ <児童手当支給者数:4,346人>			⇒ <児童手当支給者数:4,162人>			⇒ <児童手当支給者数:3,988人>		
	決算額	609,410	千円	決算額	579,845	千円	決算額	553,906	千円	決算額	529,242	千円
直接事業費	うち一般財源	95,509	千円	うち一般財源	90,556	千円	うち一般財源	86,411	千円	うち一般財源	83,145	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度		
直接事業費	2,641,085			千円	2,136,344			千円	2,214,723			千円
うち一般財源	737,983			千円	694,353			千円	787,331			千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
市民意識調査の独自の読み取りが興味深く、対象となる子育て世代が満足度が高いのが何よりの結果と思います。しっかりと対面での相談に応じられること、またAIチャットボットの利用とともに幅広いニーズに対応されていることに感謝です。新たな社会事情として父親の育児もあり、孤立した子育てにならないように今後もニーズをとらえた対応に引き続きお願いします。	→ 引き続き、窓口や訪問等対面での相談はもちろん、電話やAIチャットボットも活用しながら、幅広いニーズに対応してまいります。また、父親の育児についても、孤立した子育てにならないように対応してまいります。
合計特殊出生率の改善のため、様々な施策が行われていると思います。今後も期待しています。	→ 少子化が進むなか、笠岡市で安心して子どもを産み育てられるよう、また、子どもが健やかに育つことができるよう、子育て支援の充実や各種の子育て支援事業を総合的・計画的に進めていきます。
虐待等のケース対応が増えている中でも様々な取組を実施されており、大変だと思えます。不妊治療の助成件数が大幅に減ったようですが、コロナ感染症の影響でしょうか。	→ 以前は体外受精などの不妊治療の場合は保険適用外であったため、経済的負担の軽減を目的に一般不妊治療支援事業及び特定不妊治療女性事業等を実施していました。2022年4月から不妊治療が公的医療保険の適用対象となったため、不妊治療支援事業を終了しています。
・指標や事業も順調に推移しています。このままで事業に取り組んでいただきたいと思います。	→ 引き続き指標の達成に向け取り組んでまいります。
おおむね計画通り進行しており、「安心して子どもを産み育てられると感じている」子育て世代は、市民意識調査の満足度よりも実際は高いと感じています。AIチャットボットが閉庁時にも多く利用されており、満足度も高いとのこと。時間の余裕が子育ての心の余裕にも繋がります。引き続き使いやすいものになるようお願いいたします。 要保護事業対策事業につきましては、困難な事案が増えたとのこと心配です。毎年児童虐待の新規登録件数に加え解決件数、もしくは未解決件数の提示もあればと思います。 笠岡市に限らず、経済的な不安や自由がなくなるという理由で最初から結婚、子育てを拒んでいる若者が増加しています。子育て意識啓発のための講座で「結婚」「子育て」の純粋な喜びのようなものも紹介していただき、人生の選択の一つになるよう進めていただけると良いかと思います。	→ AIチャットボットについては、引き続き使いやすいものになるように提供することはもちろん、利用状況から子育て世帯のニーズを収集・解析することで、今後の子育て支援策の検討資料としたいと考えております。 要保護児童及びその家族への支援については、社会福祉士や家庭相談員、保健師などの専門職が連携をしながら日々対応しているところです。そのなかで、養育状況が改善されて終結するケースもあれば、継続支援が必要なケースもあります。それぞれの件数について今回から記載をしております。 若い世代への子育て意識啓発講座について、令和5年度は市内の高校1か所で行うことができました。受講後に「子どもを育てることにはたくさん大変なことがあると知ったが、それ以上にやりがいを感じ、楽しいとおっしゃっていて、もし子どもができたらしっかり親に育ててもらった自分自分の子供にも愛情を注ぎたいと思った」などの感想を多くいただきました。今後も、若い世代が妊娠・出産・子育てに関する理解を深めるための普及啓発を行ってまいります。
子どもを健やかに育てるための支援では、相談に来る件数が137%。それほど、安心して相談に来られていることは、子育て対応としては、大変嬉しく思っています。さらなる充実を図ってください。	→ 引き続き気軽に相談に来ることが可能な窓口環境及び職員の接客スキルの向上に努めてまいります。

<6.令和5年度の振り返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

<7.未達成の指標への対応策>

未達成 指標 への 対応策	年度末における5歳児の人口と5年前の0歳児の人口を比較した増減割合は、目標値には到達していないが、増加傾向にあることから、施策に一定の効果は認められる。今後、さらに増加割合が増えるよう、現在の施策を柱としながら、市民ニーズを把握しつつ施策の見直しを行ったり、施策の周知も強化していきたい。 子育て意識啓発のための講座の受講については、高校生を対象とした研修会が令和元年度～令和4年度は新型コロナウイルス感染症の影響で実施できていなかったが、令和5年度から新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが(2類相当から)5類感染症へ移行したこともあり、市内高校1か所で実施することができた。令和6年度は市内高校へのアンケート調査を実施し、講座を希望する高校2か所での実施を予定している。
------------------------	--

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・指標や事業も順調に推移しています。このままで事業に取り組んでいただきたいと思います。 ・虐待の対応が年々大変になってきていると思いますので、職員が疲弊しないようにしていただきたいです。 ・子育てに力を入れられているのはよく分かりますが、肝心の産科・婦人科病院がなくなり、不安をもたれている方が多いのではないのでしょうか。今現在、週1で岡山大学より派遣依頼しているようですが、改築市民病院には是非、中核的な病院となるよう配置等をお願いしたい。 ・AIチャットボットが多くの子育て世帯に利用されており時代に合っています。引き続き改善点があれば見直しをお願いいたします。 ・大井児童館や地域子育て支援センター、ファミサポの利用がかなり増えました。居場所を求めているのだと思います。また、放課後児童クラブの長期休暇の希望者も多いようです。利用ルールなども見直す必要があるのかと思います。サポートする人員についても課題は多いようですが、例えば学校の支援員さんで長期休暇中働きたいという方をお願いするなどはできないでしょうか。 ・保育ニーズ(休日保育、病後・病児保育)も増えて来ています。子育て世帯の声に対応できるよう引き続きよろしくお願いします。企業側へのワーキングライフバランスの呼びかけも必要です。 ・妊婦家庭訪問の回数が減ってはいますが、産婦人科がなくなった今、サポートの必要性を感じます。 ・少子化の課題解決に向けた、子育て施策の推進を期待しています。 ・様々な子育てのニーズに合わせての取り組みに感謝です。取り組まれている成果が結果として表れているように思います。今後も産み育てる環境については想像も難しい学生の頃から育む必要があると感じています。今のご時世子供たちが少子高齢化を支える世代として生まれている以上、子供を産み育てることの必要性や喜びを感じていただきたいと思います。今の家庭は概ね母親も税金を納める為に働かなくてはならない状況の中で、家事や育児の負担も増え、ダブルケアも増えています。そのしわ寄せは子供たちに偏り、直接的ではないですが様々な課題から不登校の子たちも増えている昨今です。全体的に育児にまつわる笠岡市のサポートは素晴らしいと感じますが、ソフト面で母親や実際の声をしっかりと拾っていただきたい。また、18歳未満の子供たちにも官民一体とした支援も念頭に置いて考えていただけたらと思います。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	3-2	施策名	学校教育の充実	主 担 当 課	学校教育課 教育総務課
戦略の柱	未来戦略 “輝く”				
基本 方針	・新しい時代に必要となる資質・能力を備え、笠岡を愛し、共に生きていこうとする子どもたちの育成を目指し、「自立して、共に生きる子どもを育てる学校教育」を推進します。 ・子どもたちが学校生活を通し、多様な個性と出会い、よりよい人間関係を築きながら教育活動を展開するため、一定規模の集団を確保しつつ、就学前教育から義務教育へのつながりを大切に、「学び」「育ち」「教育環境」の連続性を目指した小中一貫教育を推進します。			関 係 課	こども育成課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 目標	R5 実績	R6 目標	R7 目標
自分にはよいところがあると思う児童の割合	単位	目標		81.5	82.0	82.5	83.0	83.5
	%	実績	中止	77.1	79.1	82.8	—	—
		達成率		94.6%	96.5%	100.4%	—	—
自分にはよいところがあると思う生徒の割合	単位	目標		78.5	79.0	79.5	80.0	80.5
	%	実績	中止	83.9	84.9	78.7	—	—
		達成率		106.9%	107.5%	99.0%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	郷土愛の育成(※①③)
---------	-------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 目標	R5 実績	R6 目標	A
児童の地域行事への参加率	単位	目標		70.0	70.5	71.0	71.5	72.0
	%	実績	中止	73.5	68.4	70.0	—	—
		達成率		105.0%	97.0%	98.6%	—	—
生徒の地域行事への参加率	単位	目標		60.0	60.5	61.0	61.5	62.0
	%	実績	中止	54.9	57.3	53.8	—	—
		達成率		91.5%	94.7%	88.2%	—	—
コミュニティ・スクール実施学校数	単位	目標		19	20	20	20	20
	校	実績	5	20	20	20	—	—
		達成率		105.3%	100.0%	100.0%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	2,628	千円	2,118	千円	1,466	千円	2,655	千円
うち 一般財源	2,628	千円	2,118	千円	1,466	千円	205	千円

1	郷土愛育成(※①③)											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
幼児・児童・生徒		笠岡の自然、歴史、文化、人物等と関わる学習を通して、郷土への愛着を持った豊かな心を育成する。			・地域学、体験的な学習、交流学习や環境整備を通じて、地域に愛着を持った、豊かな心を育成する。 ・中学2年生において、地域の事務所での職場体験を実施する。 ・地域自慢のCMを作成し、Web上を通じて発信した。(H28～H30までの3年間)							
	令和2年度			令和3年度		令和4年度			令和5年度			
取組内容	・いきいきチャレンジ体験事業 ・豊かな心を育む総合推進事業 ・CMで伝える地域自慢コンテスト開催事業			⇒(中止) ⇒		⇒(中止) ⇒			⇒実施 ・ひろがる未来応援事業			
	決算額	2,628	千円	決算額	2,118	千円	決算額	1,466	千円	決算額	2,655	千円
直接事業費	うち一般財源	2,628	千円	うち一般財源	2,118	千円	うち一般財源	1,466	千円	うち一般財源	205	千円

【達成目標2】	学力の向上(※①②③④)
---------	--------------

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指標名			R2実績	R3実績	R4目標	R5実績	R6目標	R7目標
小学校全国学力・学習状況調査 国語の全国正答率との差	単位	目標		2.6	2.6	2.7	2.8	2.9
	ポイント	実績	中止	0.3	-1.6	1.8	—	—
		達成率		△	△	△	—	—
小学校全国学力・学習状況調査 算数の全国正答率との差	単位	目標		0.5	0.5	1.0	1.0	1.5
	ポイント	実績	中止	-2.2	-2.2	-0.5	—	—
		達成率		△	△	△	—	—
中学校全国学力・学習状況調査 国語の全国正答率との差	単位	目標		0.7	0.7	1.0	1.0	1.3
	ポイント	実績	中止	0.4	0.0	-2.8	—	—
		達成率		△	△	△	—	—
中学校全国学力・学習状況調査 数学の全国正答率との差	単位	目標		0.2	0.2	0.5	0.5	0.8
	ポイント	実績	中止	-1.2	1.6	-3.0	—	—
		達成率		△	○	△	—	—
中学校検定チャレンジ事業における「中学校卒業程度」級合格者(申請者に占める割合)	単位	目標			76.7	77.2	77.4	77.7
	%	実績	75.8		85.6	71.4	—	—
		達成率			○	△	—	—

※R1より調査の問題がA(基礎)B(活用)と分けず、ABが一体となり問う問題に変更した

※○:達成, △未達成

達成目標2の事業費

令和2年度			令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	204,499	千円	192,012	千円	187,449	千円	189,718	千円
うち一般財源	143,213	千円	142,481	千円	136,536	千円	142,606	千円

2	情報教育推進事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
児童・生徒			ICT機器を活用した授業により、児童生徒の学力向上を図る。 発達段階に応じ、メディアや情報が有効に利用・活用できる能力をつける。				新学習指導要領の趣旨を踏まえて、コンピュータ等の更新を行う。普通教室でICT活用授業が実施できる環境・体制づくりを行う。児童生徒の情報活用能力を育成する実践や情報モラル教育の充実を図るために教員研修を実施したり環境・教材を整備したりする。					
令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	・各教科・領域等で「情報活用能力」を育成する実践の普及・啓発			⇒			⇒			⇒		
	・教員のICT活用指導力・授業力の向上			⇒			⇒			⇒		
	創 ☆ 普通教室の教師用タブレット端末を活用した授業の推進			⇒			⇒			⇒		
	・ICT活用授業の定着			⇒			⇒			⇒		
	創 ICT支援員配置			⇒			⇒			⇒		
	・学校連携のための「情報ツール」の整備			⇒			⇒			⇒		
・新学習指導要領に対応した小・中学校ICT環境整備			⇒			⇒			⇒			
直接事業費	決算額	115,722	千円	決算額	111,819	千円	決算額	123,637	千円	決算額	122,490	千円
	うち一般財源	66,348	千円	うち一般財源	69,445	千円	うち一般財源	92,334	千円	うち一般財源	95,140	千円

3	確かな学力・豊かな心育成事業(再掲)											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
幼児・児童・生徒			それぞれの発達段階に応じた教育活動を意図的、計画的に実践することにより、確かな学力と豊かな心の育成を図る。			・笠岡市「確かな学力」育成プロジェクトを核として、学校と家庭、地域が一体となった取組を推進する。 ・「学力・学習状況改善プラン」に基づいて、段階的・具体的な取組を行う。 ・放課後や休日に地域人材を活用した補充学習の機会を設けたり、理科支援員を配置したりして、児童の基礎学力の定着・授業の充実を図る。 ・外国語指導助手を増員し、外国語教育(外国語活動)の充実を図る。 ・総合的な学習の時間等の充実を図り、体験的な活動をおとして豊かな心を育成する。						
令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	●「確かな学力」改善プランの推進と検証			⇒	⇒			⇒				
	・取組の重点:「ICT活用による指導方法の工夫改善」			⇒	⇒			⇒				
	創 ☆・外国語指導助手を活用した授業の充実			⇒	⇒			⇒				
	創 ・観察・実験等を重視した指導の充実			⇒	⇒			⇒				
	創 ・デジタル教科書の導入(小・中学校)			⇒	⇒			⇒				
	○豊かな心を育成するための施策の体系化			⇒	⇒			⇒				
	・小学校道徳の指導			⇒	⇒			⇒				
	・英語教育推進モデル事業			⇒	⇒			⇒				
	創 ●休日・放課後の学習会開催			⇒	⇒			⇒				
	・学校規模適正化計画の柔軟な対応の説明会の実施 協議により平成31年度まで一時保留			⇒	⇒			⇒				
	・不登校対策実践研究事業			⇒	⇒			⇒				
	・学力向上非常勤講師の配置			⇒	⇒			⇒				
	直接事業費	決算額	88,129	千円	決算額	79,696	千円	決算額	63,212	千円	決算額	66,428
うち一般財源		76,217	千円	うち一般財源	72,539	千円	うち一般財源	43,602	千円	うち一般財源	46,666	千円

4	教職員研修事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
教職員		子どもたちの人間形成の指導と援助のため、教育課程を把握し、教師の力量を高め、よりよい指導の在り方を求める。				・市内全教職員で自主的な研修組織「教育研修所」を組織し、それぞれで部会を組織し、授業研究を中心とした研究に努める。 ・学校を指定して、今日的な教育課題に2か年ないし3か年かけて研究を進める。 ・県教育委員会及び近隣市町教育委員会と連携し、教員の経験年数に応じた研修の企画を提供する。							
令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度					
取組内容		・研究指定校における研究の推進 ・教育研修所の各部会における研修 ・教育課題に応じた研修 ・ICT活用授業の充実に資する研修 ・パワーアップ研修会(35歳以下悉皆)			⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒					
直接事業費		決算額	648	千円	決算額	497	千円	決算額	600	千円	決算額	800	千円
		うち一般財源	648	千円	うち一般財源	497	千円	うち一般財源	600	千円	うち一般財源	800	千円

【達成目標3】	共生の心の育成(※①②③④)
---------	----------------

達成目標3の指標				目標・実績の推移					
指 標 名				R2 実績	R3 実績	R4 目標	R5 実績	R6 目標	R7 目標
西備支援学校・笠岡学園・社会福祉施設との交流学習を実施する学校	単位	目標			56	60	62	60	64
		実績		52	52	59	57	—	—
	%	達成率			92.9%	98.3%	91.9%	—	—

達成目標3の事業費								
直接事業費	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
	983,813	千円	933,230	千円	1,007,689	千円	882,356	千円
うち一般財源	822,085	千円	813,155	千円	803,291	千円	790,493	千円

5	生徒指導・進路指導総合推進事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)										
幼児・児童・生徒			生徒指導上の諸問題に対して、専門家や関係機関と連携しながら対応するとともに、未然防止の観点から早期支援を充実させる。 キャリア教育の視点でオープンスクールを位置づけ、長期的・総合的な進路指導を充実させる。			・スクールサポートチームを編成し、関係機関と連携しながら対応する。 ・スクールカウンセラーや不登校対策支援員等の校内リソースを活用した支援を行う。 ・子育て支援課と連携しながら、就学前からの支援を行う。 ・教育相談室・教育支援センターへのカウンセラーの配置を充実をさせる。 ・オープンスクールへの参加等をキャリア教育に位置づける。							
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		・特別支援教育指導員の配置 ⇒ ●いじめ対策専門指導員の配置 ⇒ ●いじめのない集団づくりの実践 ⇒ ●関係機関と連携したチーム対応 ⇒ ●教育相談室等相談体制の充実 ⇒ ●スクールカウンセラー等や関係機関の積極的な活用 ⇒ ●早期からの個に応じた支援体制組織の確立と活動 ⇒ ●巡回カウンセラー等の活用と連携 ⇒ ●就学前からのスクールソーシャルワーカー活用実践研究事業 ⇒ ⇒3年間の配置事業終了											
直接事業費	決算額	39,828	千円	決算額	36,835	千円	決算額	43,208	千円	決算額	40,880	千円	
	うち一般財源	28,625	千円	うち一般財源	27,913	千円	うち一般財源	39,780	千円	うち一般財源	37,184	千円	

6	幼児教育推進事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
幼児・保護者・教職員		幼児の健やかな心身の成長を助長するために、教職員や保護者、幼児教育関係機関等が一体となって、子育て支援を行っていく。				・教育審議会の答申に基づき、保護者の要望や地域の状況に応じて、平成24年度から全園で3歳児保育を実施することとした。 ・子育て支援課と連携した「4歳児発達支援事業」の充実を図り、その充実を図る。 ・園が保護者や地域に意図的・計画的に学びの場や相談の場を設定して、子育て力の向上を図る。 ・幼と小の教職員の交流や子どもたちの交流活動を推進し、幼と小との円滑な接続を図る。							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	●幼稚園教育・施設の充実			⇒	⇒			⇒			⇒		
	・3年保育の実施と充実			⇒	⇒			⇒			⇒		
	・子育て支援アンケート調査			⇒	⇒			⇒			⇒		
	●家庭教育の充実			⇒	⇒			⇒			⇒		
	●幼稚園や保育所(園)と小学校との連携			⇒	⇒			⇒			⇒		
創	●子育て支援課と連携した「4歳児発達支援事業」の実施			⇒	⇒			⇒			⇒		
	●就学前教育研修会の実施			⇒	⇒			⇒			⇒		
	・就学前からのスクールソーシャルワーカー活用実践研究事業(再掲)			⇒	⇒			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	9,102	千円	決算額	7,542	千円	決算額	2,025	千円	決算額	2,533	千円	
	うち一般財源	2,600	千円	うち一般財源	2,048	千円	うち一般財源	2,025	千円	うち一般財源	2,533	千円	

7	学校施設耐震化事業												
事務事業の目的							事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
児童・生徒及び各地域住民		教育環境の安全確保及び地域住民の安全拠点の整備を行う。(学校施設耐震化率100%が最終目標)					＜木造校舎耐震化の検討＞真鍋小, 真鍋中						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	＜木造校舎耐震化の検討＞真鍋小, 真鍋中			⇒			⇒			⇒			
直接事業費	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円	
	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	

8 学校維持管理業務												
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
園児, 児童, 生徒		学校施設での安全で, 安心な学習・生活環境を確保する。				・教育財産の管理及び取得処分 ・学校施設管理の業務委託 ・学校施設台帳整備 ・学校施設等の建築整備及び国庫補助事務						
</												

9	特別支援教育推進事業											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
幼児・児童・生徒		「特別支援教育推進計画」に基づいて、発達障害等、障害のある幼児・児童・生徒の教育的ニーズを早期に把握するとともに、関係機関と連携しながら、幼児期からの一貫した継続的・総合的な支援体制の充実を図る。			・幼稚園や保育所の集団生活において困り感のある幼児を把握し、支援を行う。 ・就学時等に連絡会を実施し、関係者が情報を共有しながら継続的な支援を行う。 ・教育相談室に巡回カウンセラーを配置し、ケースに対する専門的なアドバイスを行う。 ・幼稚園と小・中学校における組織的な支援を充実させるため、教育支援員を配置する。 ・笠岡学園等の協力を得て、幼稚園教諭、保育士等の研修会の充実を図る。 ・長期的・継続的な支援を充実させるため、相談支援ファイル等を活用する。							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	創 ●子育て支援課と連携した「4歳児発達支援事業」の実施			⇒			⇒			⇒		
	・個別支援シートに基づく、具体的な支援			⇒			⇒			⇒		
	●発達障害に関する巡回相談			⇒			⇒			⇒		
	・巡回カウンセラー、教育支援員の拡充			⇒			⇒			⇒		
	●非常勤支援員の配置			⇒			⇒			⇒		
	・コーディネーター、教育支援員の研修			⇒			⇒			⇒		
	・教育支援研修会の実施			⇒			⇒			⇒		
	●相談支援ファイルの見直しと青年期・成人期の作成			⇒			⇒			⇒		
				置			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	44,788	千円	決算額	40,524	千円	決算額	42,280	千円	決算額	48,562	千円
	うち一般財源	33,788	千円	うち一般財源	27,724	千円	うち一般財源	27,280	千円	うち一般財源	33,562	千円

10	保健体育・安全教育推進事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)										
園児・児童・生徒・保護者			危機管理体制の確立、保健体育・安全教育及び食育と学校給食の充実を図り、健康・安全で安心して生活できる学校づくりを推進する。			・学校・保護者への緊急情報配信システムを運用し、不審者情報を共有する。 ・子どもの望ましい食習慣の形成のため、食育の推進を図る。 ・食物アレルギーをもつ子どもの給食についてできるかぎりの対応をする。							
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		・緊急配信メールの活用 ・栄養教諭による食に関する授業の実施 ・学校給食における食物アレルギーへの対応			⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒		
直接事業費	決算額	26,090	千円	決算額	25,348	千円	決算額	24,196	千円	決算額	23,090	千円	
	うち一般財源	24,907	千円	うち一般財源	24,165	千円	うち一般財源	24,196	千円	うち一般財源	22,014	千円	

11	就学援助事業																			
事務事業の目的						事務事業の内容														
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)																		
児童・生徒		家庭の経済的理由に左右されことなく学習活動に積極的に取り組める環境を整える				・経済的に困窮している家庭の負担を軽減し、児童生徒の就学を支援する ・へき地に居住する子どもたちへの経済的な支援 ・特別支援教育を必要とする子どもたちへの経済的な支援														
令和2年度												令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・支給水準及び支給対象者の認定基準の見直し				⇒	⇒					⇒									
直接事業費	決算額	43,236	千円	決算額	43,939	千円	決算額	45,966	千円	決算額	46,863	千円								
	うち一般財源	41,766	千円	うち一般財源	42,489	千円	うち一般財源	44,618	千円	うち一般財源	45,383	千円								

12	学校運営支援事業											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
児童・生徒及び各地域住民		学校(園)の環境整えることで、児童や生徒が授業を受けやすいようにする			学校(園)配当予算の令達・会計事務 教材備品の購入・管理等効率的配置 円滑な学校(園)運営の支援 スクールポート・スクールバスに関すること							
令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度				
取組内容	・配当予算の適正化を行った上での予算確保			⇒	⇒			⇒				
	・学校(園)のコスト意識の向上			⇒	⇒			⇒				
	・事務の効率化、情報化			⇒	⇒			⇒				
	・教室不足解消事業:大島小学校仮設教室賃貸借事業			⇒	⇒							
	・新型コロナ対策の備品を整備			・新型コロナ対策の備品を整備	・新型コロナ対策の備品を整備			・新型コロナ対策の備品を整備				
直接事業費	決算額	114,345	千円	決算額	92,299	千円	決算額	110,759	千円	決算額	118,200	千円
	うち一般財源	92,547	千円	うち一般財源	87,446	千円	うち一般財源	89,981	千円	うち一般財源	94,887	千円

13	教育委員会業務											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
教育委員会		教育行政の充実と教育委員会の適正な運営を図る。				教育委員会の会議に関すること, 教育委員に関すること, 都道府県教育委員会・市町村教育委員会との連絡調整に関すること						
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	教育委員会の開催			⇒			⇒			⇒		
	教育委員の教育施設訪問			⇒			⇒			⇒		
	教育委員の先進地視察			⇒			⇒			⇒		
	総合教育会議の開催			⇒			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	3,767	千円	決算額	3,754	千円	決算額	3,782	千円	決算額	3,801	千円
	うち一般財源	3,767	千円	うち一般財源	3,754	千円	うち一般財源	3,782	千円	うち一般財源	3,801	千円

14	教育総務管理業務												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
教育委員会		学校教育・生涯教育・スポーツの各分野にわたり、総合的に教育行政を推進する組織にする。				・事務局の調整・庶務, 教育情報の共有 ・事務局の基本計画の作成							
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		・事務局の調整・庶務, 教育情報の共有 ・事務局の基本計画の作成		⇒ ⇒			⇒ ⇒			⇒ ⇒			
直接事業費	決算額	188,563	千円	決算額	183,494	千円	決算額	171,511	千円	決算額	131,068	千円	
	うち一般財源	168,563	千円	うち一般財源	174,150	千円	うち一般財源	147,609	千円	うち一般財源	126,435	千円	

15	① 学校施設空調設備設置事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
児童・生徒		幼稚園保育室・遊戯室, 小・中学校普通教室・特別教室(理科室・音楽室)へ空調設備を設置する。				・空調設備設置工事 金浦小学校, 城見小学校, 大井小学校, 大島小学校, 今井幼稚園, 尾坂幼稚園, 北木西幼稚園 ・空調設備設置工事実施設計 今井小学校, 陶山小学校, 吉田小学校, 新山小学校, 北川小学校, 神内小学校							

※この事業は令和元年に完了した。

16	学校給食業務											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
児童・生徒・教職員		心身の健全な発達に資するため安全でおいしい給食を提供する。					学校給食が児童及び生徒の心身の健全な発達に役立ち、市民の食生活の改善につながることを十分認識し、より安全でおいしい給食を提供するよう、学校給食の充実を図っていく。また学校給食についての理解を深めてもらえるように、概ね月2回の学校訪問、試食会等を実施する。					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・PFI事業を用いた安価で質の良い学校給食事業の実施 ・ホームページ、学校訪問、給食センターの見学等を利用し、食育啓発 ・関係各課、関係業者との情報交換 ※PFI事業関係(281,703千円)			⇒ ⇒ ⇒ ※PFI事業関係(287,002千円)			⇒ ⇒ ⇒ ※PFI事業関係(292,815千円)			⇒ ⇒ ⇒ ※PFI事業関係(299,372千円)		
直接事業費	決算額	327,792	千円	決算額	295,005	千円	決算額	303,775	千円	決算額	374,992	千円
	うち一般財源	279,436	千円	うち一般財源	286,597	千円	うち一般財源	295,130	千円	うち一般財源	332,327	千円

【達成目標4】小中一貫教育及び学校規模適正化の実施(※④)

達成目標4の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 目標	R5 実績	R6 目標	R7 目標
小中一貫教育の実施 (中学校ブロック)	単位	目標		6(試行)	6	6	6	6
	校	実績	—	6(試行)	6	6	—	—
		達成率		—	100%	100%	—	—

達成目標4の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	3,711	千円	3,737	千円	8,082	千円	7,924	千円
うち 一般財源	11	千円	737	千円	5,082	千円	1,924	千円

17 小中一貫教育・学校規模適正化事業

事務事業の目的			事務事業の内容										
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)										
学校			学力向上や生徒指導の充実の観点から、全ての学校において義務教育9年間を見通した教育システムづくりを行う。			・笠岡市における小中一貫教育の教育内容・カリキュラムの作成 ・小中一貫教育を推進する教育システム・学校の在り方の構築							
令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度				
取組内容			・小中一貫教育推進計画に基づく計画の推進 ・カリキュラムの作成及び配布 ・保護者・地域住民への説明会			笠岡市教育審議会での検討 ・カリキュラムの運用 ⇒ ・中学校ブロック学校運営協議会設置 ・児童生徒教職員アンケート実施・分析			⇒ ・教職員の合同研修や乗り入れ授業の充実 ・学校運営協議会の実施 ⇒			・小中一貫教育の本格実施 ⇒ ⇒ ・学校運営協議会を全中学校区で実施 ⇒	
直接事業費		決算額	3,711	千円	決算額	3,737	千円	決算額	8,082	千円	決算額	7,924	千円
		うち一般財源	11	千円	うち一般財源	737	千円	うち一般財源	5,082	千円	うち一般財源	1,924	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	1,194,651	千円	1,131,097	千円	1,204,686	千円	1,082,653	千円
うち 一般財源	967,937	千円	958,491	千円	946,375	千円	935,228	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
多くの施策を行っていただきありがとうございます。学校教育に様々な課題がある中、子供たちのためにご尽力いただき感謝しています。様々な先生がいらっしゃるが先生方に個人にのしかかることなく、分散していきける仕組みづくりにもご尽力いただきありがとうございます。子供の自己肯定感を高めながら、先生方の負担を減らし、指導死などが起こらないように引き続きよろしくお願いいたします。	→ 国全体で学校における教員の働き方改革が求められています。岡山県教育委員会からも「岡山県公立学校の働き方改革緊急宣言」が出されました。地域や家庭の教育力が低下している中で、学校の役割が大きくなり、負担も大きくなってきています。教育の質の向上のため、学校、家庭、地域の連携分担がこれまで以上に必要だと思っています。学校だけの努力だけでなく、学校運営協議会を活性化し、地域の力を生かして、地域と一緒に子どもを育てる環境づくりも行っています。
学校教員の負担も考慮しながら、各種施策を進めていただきたい。	→ 業務の優先順位を踏まえた思い切った精選・見直しや教員と保護者や地域関係者との役割分担の見直し等行ってまいります。
子どもの学力向上も大切ですが、それを支える教員のための働きやすい職場づくりをお願いします。教員が疲弊しては、良い教育はできないと思います。	→ 教員が教員でなければできない業務に全力投球でき、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができる環境づくりに努めます。
・令和3年度の評価はCだったのですが、昨年度もよく頑張っていたと思います。今後も同じように事業に取り組んでいただきたいと思います。	→ 教育は、子どもの健全な成長発達のため、学習期間を通じて一貫した方針の下、安定的に行われることが必要だと思っています。結果が出るまでは時間がかかり、その結果も把握しにくい特性から、施策の方針変更などの改革・改善は漸進的に行ってまいります。
自分にはよいところがあると思う子どもたちが増えたことはなにより喜ばしいことです。引き続き自己肯定感を高めることができるよう家庭、地域と合わせ学校でも見守って欲しいと思います。 担任や先生が体調を崩されたりした場合の早期補充・フォローが改善されることを望みます。子どもたちのため、先生方の負担軽減のため、定年退職後も多様な働き方でサポートいただけるとありがたいと思います。 全国学力調査が目標に達しないものもありますが、あと一問正解で達成するとのこと。有効なAIDリル利用や自主学習で結果に繋がることに期待します。 中学校検定チャレンジの合格率が高くなったのは喜ばしいことです。更に受験者数を増やし、それぞれの目標に向けて学力アップに繋がるきっかけになることを望みます。英語が小学校でも必修化されましたが、検定チャレンジのための支援を小学校5年からは引き下げる必要性はないでしょうか。 担任や先生が体調を崩されたりした場合の早期補充・フォローが改善されることを望みます。子どもたちのため、先生方の負担軽減のため、定年退職後も多様な働き方でサポートいただけるとありがたいと思います。	→ ・引き続き、学校では義務教育9年間を見通した一貫性のある指導を確保し、地域と保護者と連携しながら、一緒に子どもを育てる教育環境づくりを行ってまいります。 ・教員不足は全国的な問題となっています。教員のなり手自体の減少や、育休取得が浸透してきたことも人員不足の原因となっています。退職後の先生方等に声をかけるなど、急な人の配置にも対応できるよう努めます。 ・「学びを変える」ことを目標に、子どもが自ら学びに向かい、課題解決する力の育成を目指しています。今後も、効果的な方法について研究してまいります。 ・検定チャレンジのための支援を小学校5年からは引き下げることにについては、予算やその効果等も考慮に入れ検討してまいります。
自分にはよいところがあると意識している児童・生徒の割合が100%近いことは、大変いいことだと思いますが、他人から見た私はどうなのでしょう。そんな面も子どもたちに考えさせたらどうでしょうか(ジョハリの4つの窓)。小中一貫教育については、教育効果の向上する面も多いと思いますが、デメリットを洗い出し、その改善について検討していただきたい。	→ ・自己肯定感を向上させる取り組みについてのご提案ありがとうございます。子どもの実態をしっかり把握しながら、発達年齢に応じた計画的な取り組みをよう学校を指導してまいります。 ・小中一貫教育は導入すれば必ず効果が出るものではないと思っています。小中一貫教育を行うこと自体が目的となるのではなく、学校の目指すビジョンを達成させるための教育システムとして、小中一貫教育を活用してもらいたいと思っています。大島みたけ学園に令和5、6年度の2年間の研究指定をしておりますが、その有効性と課題点については研究してまいります。

<6.令和5年度の振り返り>(担当部署自己評価)

施策の 進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。	B
	B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。	
	C: 施策を構成する事業が一部遅れている。	
	D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	

<7.未達成の指標への対応策>

未達成 指標 への 対応策	小中一貫教育が各校において定着し、成果も出てきているが、目標指標に対しては未達成な部分も多い。様々な教育課題に対応するため、令和6年度笠岡市学校教育ビジョンを作成したが、特に次のことを対応策として取り組む。 「学びを変える」ことの一つの柱として、子どもが自ら学びに向かい、課題解決する力を育成する。具体的な取り組みとしては、校園長会等で笠岡市教育ビジョンの共通理解を図るとともに、学校訪問を通じてそれぞれの学校の実態に応じた指導や支援をしていく。また、文部科学省の「リーディングDXスクール事業」の指定を受け、先行的な実践を行っている笠岡小学校の取り組みを市内に周知するとともに、教職員のコーチングスキルの向上を目指した研修等を実施していく中で、すべての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと協働的な学びの実現を目指す。
------------------------	--

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・前々回令和3年度の施策評価はCだったのですが、前回令和4年度から今回令和5年度とも施策評価はB評価とよく頑張っていると思います。今後もさらにA評価を目指して事業に取り組んでいただきたいと思います。 ・真に子どものためになる学校規模適正化をお願いします。 ・小中一貫教育は、小学校教育の狙いと中学校教育の狙いの一貫性を図るものと考えます。分離型の一貫教育でも十分その狙いは達成できます。一体化になることのみを追求するのではなく、ある程度の個性のある小学校でその教育内容の狙いを統一できると思います。 ・教員の働き方改革をさらに進め、先生がお休みされる場合の早期補充・フォローが改善されることを望みます。 ・特別支援教育推進事業費がかなり増えました。人件費でしょうか。 ・情報教育推進事業費が年々高額になっています。ICTをうまく活用することも必要ですが、クラスによって活用頻度や活用方法など異なるようです。どの先生の元でも公平に利用され、便利な文房具として「主体的な学び」や「対話的で深い学び」に繋がる利用をしてほしいと思います。 ・「令和の日本型学校教育」を実現するため「個別最適な学び」にAIドリルなどの利用によって学力に繋がれば良いのですが、そこに到らない児童生徒への指導法についても考えなくてはならない時期に来ていると思います。 ・同時に教員の指導力強化もお願いします。 ・PTA活動を通じて感じる、先生方の頑張りに頭が下がる思いです。引き続き、学校教育が充実するような取組をお願いします。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	3-3	施策名	生涯学習の推進	主 担 当 課	生涯学習課
戦略の柱	活性化戦略 “輝く”				
基本 方針	☆市民誰もが自由に学ぶことができ、その成果が適切に活かされる生涯学習社会を構築するため、市民の生涯学習を推進するとともに、環境の整備推進を図ります。 ☆市民一人一人の豊かな学びにより地域力を高め、自立した地域社会の形成を目指します。 ☆行政・家庭・地域・学校・関係機関等の連携を強化し、地域ぐるみで活動の拡大を目指します。			関係 課	協働のまちづくり 課 子育て支援課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
まちづくり出前講座受講者数	単位	目標		6,000	6,600	6,600	7,200	7,200
	人／年	実績	5,651	6,562	9,982	14,527	—	—
		達成率		109.4%	151.2%	220.1%	—	—
「生涯学習の推進」の満足度 (市民意識調査)	単位	目標		—	12.0	—	12.5	12.5(R6)
	%	実績	11.8	—	4.6	—	—	—
		達成率		—	38.3%	—	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	市民誰もが学びたいときに学ぶことができる機会の提供(※①)
---------	-------------------------------

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
市内施設における生涯学習講座数	単位	目標		383	430	425	420	420
	講座	実績	448	434	421	410	—	—
		達成率		113.3%	97.9%	96.5%	—	—
図書館への来館者数	単位	目標		65,000	68,000	71,000	74,000	77,000
	人／年	実績	62,993	66,414	78,199	81,852	—	—
		達成率		102.2%	115.0%	115.3%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	190,083	千円	216,029	千円	190,077	千円	218,256	千円
うち 一般財源	156,315	千円	168,664	千円	169,091	千円	193,804	千円

1	公民館管理運営事業											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市内公民館利用者 (団体)		地域住民の社会教育、学術及び文化に関する各種の事業を行い、市民の教養の向上・健康の増進を図り、生活文化の振興・社会福祉の増進を図る。		中央公民館並びに20地区公民館において、地域の最も身近な学習の場として、主催講座、自主講座を行うとともに、文化祭や体育祭等、地域住民が交流を図り、地域がつながる事業を行う。								
取組内容	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	●公民館講座 ・中央公民館 主催講座 4 自主講座 50 ・地区公民館 20館 333講座			⇒ ・中央公民館 主催講座 4 自主講座 46 ・地区公民館 20館 341講座			⇒ ・中央公民館 主催講座 4 自主講座 42 ・地区公民館 20館 320講座			⇒ ・中央公民館 主催講座 4 自主講座 41 ・地区公民館 20館 311講座		
	●公民館活動助成事業 95事業			⇒ 100事業			⇒ 101事業			⇒ 108事業		
	●公民館施設整備事業 ・トイレ、空調設備改修 ・屋上防水改修			⇒ ・調理室改修 ・外壁改修			⇒ ・屋外階段等・集会室床改修 ・Wi-Fi設置・倉庫解体工事			⇒ ・水銀灯取替・空調設備改修 ・Wi-Fi設置		
直接 事業費	決算額	111,609	千円	決算額	104,271	千円	決算額	108,925	千円	決算額	109,820	千円
	うち 一般財源	88,883	千円	うち 一般財源	89,672	千円	うち 一般財源	96,196	千円	うち 一般財源	106,284	千円

2	図書館事業																				
事務事業の目的						事務事業の内容															
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)																			
図書館利用者(市民及び市内在学・在勤者並びに福山市民)		地域住民のニーズに対応した資料・情報を提供し、安心して学べる場として充実した図書館サービスを行い、子どもの読書活動の推進と市民の自己発見や自己実現の支援を行う。				・安心して学べる施設整備を行い、利用者に求められる資料の収集と情報の提供を行う。 ・ブックスタート事業、保育所・幼稚園への配本事業等を通して、子ども読書推進事業を行う。 ・郷土出身の森田思軒・木山捷平の顕彰を行う。 ・視聴覚ライブラリー資料の管理・提供を行う。															
令和2年度		令和3年度				令和4年度			令和5年度												
取組内容	●図書館管理運営事業 ・空調更新及び照明LED化 ・サビエ登録 ・雑誌スポンサー制度導入 ・除菌BOX、網戸設置 ・救マーク認定事業所として認定 ・「出張！かぶとがに号」運行 ●子ども読書活動推進事業 ・子ども司書養成講座→中止 ・「わくわく図書館セット」貸出し ●文学資料管理事業 ●高梁川流域連盟での相互利用 ●視聴覚ライブラリーの運営				⇒ ・ <u>体温検知システム設置</u> (手首認証タイプ1台) ・ <u>2階トイレ改修</u> ・ <u>屋上防水工事</u> (本館及びこども図書館1階) ・ <u>「おまかせセット」貸出し</u> ● <u>第2次笠岡市子ども読書活動推進計画策定</u> ⇒ ・子ども司書養成講座→中止 ⇒ ⇒ ⇒				⇒ ・「紙芝居とおはなしの会」を始めとした対面型行事の再開 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ・「あかちゃんといっしょのおはなしかい」の再開 ・プロスポーツチームや病院等機関と連携した展示 ・学校図書館と連携した展示 ●読書バリアフリー機器購入事業 ●旧今井小学校利活用事業 ●移動図書館車両更新事業 ⇒ ・子ども司書養成講座→再開 ⇒ ⇒ ⇒									
	決算額				78,474	千円	決算額				111,758	千円	決算額			81,152	千円	決算額			108,436
うち一般財源				67,432	千円	うち一般財源				78,992	千円	うち一般財源			72,895	千円	うち一般財源			87,520	千円

【達成目標2】生涯学習によるまちづくり(※②)

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
生涯学習フェスティバル参加者数	単位	目標		1,000	1,200	1,200	1,400	1,400
	人／年	実績	170	280	3,150	3,200	—	—
		達成率		28.0%	262.5%	266.7%	—	—
まちづくり出前講座開催数	単位	目標		200	220	220	240	240
	回／年	実績	185	177	284	354	—	—
		達成率		88.5%	129.1%	160.9%	—	—

達成目標2の事業費											
令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
直接事業費	1,273	千円	1,281	千円	1,596	千円	2,020	千円			
うち一般財源	1,273	千円	1,281	千円	1,596	千円	2,020	千円			

3	生涯学習推進事業																			
事務事業の目的				事務事業の内容																
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)																		
市民		生涯のいつでも自由に学習機会を選択して学ぶことができ、その成果が適切に評価され、生かされる生涯学習社会の実現を図ります。		事業を通じて知識・技能を習得し、生涯学習活動を推進します。習得した知識・技能を活かし、活力あるまちづくりを実践します。																
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度										
取組内容	●市民大学教養講座中止 ●市町村広域連携講座「県西部の文化」中止 ●生涯学習諸学級 ●若いいちょうの木の集い中止 ●各種社会教育団体の育成 ●笠岡市生涯学習フェスティバルPR動画制作、TV放映 ●まちづくり出前講座			⇒ 中止 ⇒ 中止 ⇒ 中止 ⇒ 中止 ⇒ 舞台発表を収録、TV放映 ⇒			⇒ ⇒中止 ⇒中止 ⇒中止 ⇒ ⇒			⇒ ⇒中止 ⇒中止 ⇒ ⇒ ⇒										
	決算額			1,273	千円	決算額			1,281	千円	決算額			1,596	千円	決算額			2,020	千円
	うち一般財源			1,273	千円	うち一般財源			1,281	千円	うち一般財源			1,596	千円	うち一般財源			2,020	千円
	直接事業費																			

【達成目標3】家庭・地域・学校と一体となった地域ぐるみの教育支援(※③)

達成目標3の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R1 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
放課後子ども教室等の実施団体数	単位	目標		7	7	7	8	8
	団体	実績	10	6	6	4	—	—
		達成率		85.7%	85.7%	57.1%	—	—
街頭補導活動中の声かけ件数	単位	目標		660	660	660	660	660
	人／年	実績	662	637	77	274	—	—
		達成率		96.5%	11.7%	41.5%	—	—

達成目標3の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	10, 209	千円	13, 677	千円	9, 579	千円	9, 173	千円
うち 一般財源	3, 205	千円	3, 485	千円	4, 679	千円	4, 062	千円

4 青少年健全育成事業

		事務事業の目的			事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
就学前幼児～20歳の青少年		青少年が自律性を発揮し、自己選択、自己責任、相互支援を担いながら、自己実現を図り、社会的に自立した個人として成長するよう支援します。			各種事業を通して、知識・技能を学ぶとともに、相互の親睦を深め、ボランティア精神の醸成を行います。								
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		●たくましい笠岡っ子 ●スピーチコンテスト中止 ●高校VYS事業 ●明るい家庭づくり作文 ●放課後子ども教室 ●地域学校協働本部 ●土曜日教育支援		⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒			
直接事業費		決算額	4,490	千円	決算額	3,533	千円	決算額	3,342	千円	決算額	3,193	千円
		うち一般財源	1,582	千円	うち一般財源	1,332	千円	うち一般財源	1,296	千円	うち一般財源	1,246	千円

5 青少年育成センター運営業務

事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
笠岡市、里庄町の児童・生徒及び20歳未満の有職・無職の少年			青少年の非行や問題行動の未然防止と健全な育成を図ります。			補導活動、相談活動、環境浄化活動及び啓発活動を行うとともに、関係機関・団体と連携し、連絡会議、情報交換会、研修会等を実施します。						
令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	●育成センター事業			⇒			●笠岡市総合教育相談支援センター(青少年健全育成業務)に業務移管			⇒		
							●岡山県少年補導関係者研修会			●岡山県少年補導関係者研修会		
直接事業費	決算額	621	千円	決算額	619	千円	決算額	150	千円	決算額	150	千円
	うち一般財源	621	千円	うち一般財源	619	千円	うち一般財源	150	千円	うち一般財源	150	千円

6	生涯学習等管理業務											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
生涯学習本部委員会、企画委員、懇話会委員、青少年問題協議会委員、青少年健全育成連絡協議会委員			生涯学習並びに青少年の健全育成を推進するための体制づくりと環境づくりを行います。			生涯学習の推進方法及び青少年の健全育成に関する基本的な方針や計画を決定し、関係機関と総合調整を行います。						
令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	・社会教育委員会事務 ・生涯学習推進本部事務 ・青少年問題協議会に関する事務 ・青少年健全育成連絡協議会に関する事務			⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒		
	決算額	99	千円	決算額	119	千円	決算額	300	千円	決算額	228	千円
	うち一般財源	99	千円	うち一般財源	119	千円	うち一般財源	300	千円	うち一般財源	228	千円

7	北木島宿泊研修事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
児童、生徒、一般			島の特性を活かした海や北木石といった自然の資源による学習や交流を通して、青少年の健全な発達を促し、島の活性化に資する。			北木島宿泊研修所の管理運営を指定管理によって運営し、島ならではの宿泊体験学習を提供する。						
令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	●宿泊研修所の管理運営			⇒ ●3階研修室空調の設置			⇒			⇒		
	決算額	4,999	千円	決算額	9,406	千円	決算額	5,787	千円	決算額	5,602	千円
	うち一般財源	903	千円	うち一般財源	1,415	千円	うち一般財源	2,933	千円	うち一般財源	2,438	千円

【達成目標4】	社会教育に取り組む市民や団体との協働と支援(※④)
---------	---------------------------

達成目標4の指標				目標・実績の推移						
指 標 名				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標	
子どもフェスティバル参加者数	単位	目標			1,500	1,600	900	1,700	1,700	
	人/年	実績		—	中止	89	1,700	—	—	
		達成率			—	5.6%	188.9%	—	—	
学校支援活動への参加者数	単位	目標			32,000	32,000	32,000	32,000	32,000	
	人/年	実績		32,312	11,192	30,640	30,744	—	—	
		達成率			35.0%	95.8%	96.1%	—	—	

達成目標4の事業費								
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	623	千円	570	千円	430	千円	1,403	千円
うち一般財源	623	千円	570	千円	430	千円	1,403	千円

8	社会教育関係団体等との協働及び支援											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
社会教育関係団体 市民		・各社会教育関係団体や市民との協働を進めることで、市民の知恵や力がまちづくりに発揮する。			・社会教育、生涯学習に寄与する団体の活動等を支援する。また、各団体の指導者、リーダー等の育成を支援する。 ・社会教育関係団体との協働で青少年の健全育成に資する事業の企画・運営を行う。							
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組 内容	●子どもフェスティバル中止		⇒ 中止			⇒ 感染対策を徹底し、小規模イベントを4回に分けて開催			●子どもフェスティバル再開			
	●笠岡市PTA連合会への支援		⇒			⇒			⇒			
	●笠岡市子ども育成連絡協議会への支援		⇒			⇒			⇒			
	●笠岡市婦人協議会への支援 ●託児ボランティア「たんぽぽ」への支援		⇒			⇒			⇒			
直接 事業費	決算額	623	千円	決算額	570	千円	決算額	430	千円	決算額	1,403	千円
	うち 一般財源	623	千円	うち 一般財源	570	千円	うち 一般財源	430	千円	うち 一般財源	1,403	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費		202,188	千円	231,557	千円	201,682	千円	230,852	千円
うち 一般財源		161,416	千円	174,000	千円	175,796	千円	201,289	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
市民がいくつになっても学べる生涯学習社会の構築をありがとうございます。図書館の事業に関してもコロナ禍でも代替え事業を行ってくださるなどありがとうございます。達成目標3の指標の該当補導活動中の声掛け件数の数値が変わり見直されるとのこと。検挙された件数だと実情が問題が起こったかどうかにはありますが、日々街頭補導活動で問題を見つけることより、大切なことは挨拶だけでも見守られていると感じる児童を増やしていただくことかと思えます。あいさつなど声をかけてくださる大人がいることにより自己肯定感が上がるそうです。問題を浮かび上がらせることも大切ですが、携わる大人ってくださる方が引き続き増えていくことも大切に思います。先生方だけでなく対策の軸足は家庭に移されとのことで、地域も含め働きかけも期待しています。また、未達成指標への対応策についてですが、具体的にわかりやすく助かりました。補足説明などありがとうございました。今後共、よろしくお願いします。	→ 図書館は、コロナ禍で選書しやすさから人気だった特集コーナーは定期的に内容を更新しながら引き続き設置し、司書が工夫を凝らしたテーマを設定して興味を惹き出すことで貸出冊数が増加しました。また、再開した事業については、他部署事業の視察などを基に内容を充実させました。
生涯学習の推進は、ほかの自治体に転居する方々の抑止にもつながると思いますので、引き続き期待しています。	これから笠岡に住み続けたいと感じてもらえるよう、笠岡市民の生きがいづくりに努めます。
図書館事業は様々な工夫を凝らした取組を次々実施されており、好感が持てます。	引き続き利用者にとって身近で、気軽に利用しやすくなる事業の展開を実施していきます。
・順調に推移しているように思います。コロナ禍をすぎ、いろいろな事業の参加者数等も今後増加すると考えます。	お見込みのとおり、コロナが明けて、参加者数は順調に回復しています。コロナを機に活用が広がった電子申請などのIT技術も活用しながら事業を展開していきます。
生涯学習の推進には、環境の整備が必要ですが、拠点である公民館を将来的には、順次平屋建にしたらどうでしょうか。生涯学習は自ずから学ぶもの。ある公民館での講座生・サークル生が自分たちでお互いの発表に参加して、学び合う会を計画し、準備・進行・片付けをされました。これこそが生涯学習の拡がりだと思います。	→ 現在、多数の地区公民館が2階建てで、集会室が2階にあるため高齢者には負担になるというお声もいただいております。笠岡市として公民館ロードマップの作成を検討してまいります。また、中央公民館の「まなびの発表会」をはじめ、各地区公民館の文化祭等について、公民館主体ではなく、各講座の方に積極的に参画していただくように努めます。

60代の「生涯学習の推進」の満足度が低いのは大変意外でしたが、利用者が否か分かるのでしょうか。利用する方は複数講座を受講される方もいる一方、一歩踏み出せない方もいらっしゃると思います。もともとできている空間に入る勇氣のようなものも関係しているのかもしれませんが。または、コロナ禍で思うように学べないことへの不満なのか…。学びたい方に学べる環境が整備されることを願います。また公民館で学校支援にも繋がる分野の講座を開催し、人材確保につながればよりよい形が生まれそうです。 講師の補充に関しては新たな分野への開拓があると新規利用者にも繋がるかもしれません。 「まちづくり出前講座」については魅力的なものがたくさんあり、受講者数も目標を十分達成していますが、未就学利用施設や学校、PTA、企業などにも広報されると更に喜ばれる団体が多いと思います。 図書館来館者数の達成率の高さにつきましては年々楽しい真新しい要素を加え、市民に愛されている結果だと思っています。	→ 笠岡市民意識調査は、笠岡市民から無作為に抽出した方に調査票を郵送し、郵送にて回収しているため、その方が公民館の講座を利用されているか否かは分からないものと思料します。 公民館の講座の受講者は微増しております。しかしながら、利用する方は積極的に複数の講座を受講されておりますが、現在の60代の方は継続して仕事されており、仕事をリタイヤして一定の区切りで生涯学習に取り組んで来られた利用者と比較して、一歩が踏み出されないのではないかと推測されます。 また、新規講座が少ないことから、市民のニーズをくみ取り、他都市の講座等を参考にして魅力を感じていただける講座を開設していきます。 さらに、部活動の地域移行の検討会にも公民館が参画し、学校と地域との連携・協働による新たな地域クラブ活動の環境整備に努めます。 図書館は、プロスポーツチームや病院等他機関と連携し、実物や関連資料を多数用意し、内容に深みがあり利用者の興味を広げる図書等の展示を行いました。移動図書館車の更新では、市内小中学生にアンケートを行い、車両製作工程に参加してもらうことで、移動図書館の取組と新車両に愛着を持ってもらうことができました。引き続き、利用者にとって身近で利用しやすくなる施設を目指していきます。
---	--

＜6.令和5年度の振り返り＞(担当部署自己評価)

施策の進捗度 A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--	-----------------

＜7.未達成の指標への対応策＞

未達成指標への対応策	【市内施設における生涯学習講座数】 公民館講座だけでなく、社会福祉協議会等とも連携しながら、学びの機会を拡充していきたい。 【放課後子ども教室等の実施団体数】 コロナ下において、活動を休止した団体に再開を働きかけ、活動の維持を図りたい。 【街頭補導活動中の声かけ件数】 令和3年度末に笠岡市と里庄町で構成する笠岡青少年育成センターが廃止され、本業務は令和4年度から笠岡市総合教育相談支援センターに移行した。近年は顕在化する問題行動が減少する一方、インターネットによるトラブル等、潜在的な問題が発生していることから、職員体制を見直し、見守りパトロールから学校や家庭への働きかけに対策の軸足を移すこととなった。登下校時の声かけに努めるとともに、今後、指標見直しを検討したい。 【学校支援活動への参加者数】 地域学校協働活動推進員等の謝金単価上限を上げるなど、各地域の活動団体が活発になるよう働きかけたい。
-------------------	--

＜8.委員による評価結果＞

総合評価 A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・順調に推移しているように思いますが、放課後子ども教室等の実施団体数が減っているのが気にかかります。 ・達成目標3の指標「街頭補導活動中の声かけ件数」は多い方が良いのか、少ない方が良いのか、理解が難しいです。 ・生涯学習の主役は市民であり、市民がより利用しやすい施設であって欲しいと思います。以前からロードマップとかビジョンとか検討課題とされていますが、進行しているのでしょうか。 ・まちづくり出前講座の受講者数が目標値をかなり上回っています。時代、市民のニーズに合った講座内容を追加して下さっていますし、講師料も無料なのでとてもありがたい事業です。警察の管轄かもしれませんが、特殊詐欺、インターネットトラブルに合わないためといった内容はどの世代にもニーズがありそうです。 ・公民館の自由講座が少し減って来ていますが、講師の問題や社協の講座へ流れたりしているのかもと思いますが、引き続きニーズのあるものが増えてくることを願います。WiFi設置のパネルと説明などあれば市民・観光客・在日外国人の利用度が高まるかと思いますがいかがでしょうか。新たな居場所としての利用も増えそうです。 ・図書館については移動図書館は子どもたちの意見も取り入れてくださり、市民に愛される笠岡らしいデザインに生まれ変わりました。学校図書室との連携もされているので子どもたちが本に触れる機会が更に増えることを期待しています。また交通手段のない高齢者にもニーズがあればご配慮いただければと思います。 ・元気な高齢者が増える中、生涯学習の推進は重要度が増えていると感じます。引き続きの推進を期待しています。 ・まちづくり出前講座はどんな方々が利用されていますか。毎年同じ方が多いのでしょうか。災害についての関心が高まる中ありがたいです。図書館は毎年進化されており、ニーズの捉え方や新たな取り組みがあり、いつも感動しています。今後も青少年の育成とサポートとともに社会教育に取り組む市民や団体との協働と支援については様々な団体が増えていく様に思います。今後もアップデートした取り組みに期待します。		

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	3－4	施策名	スポーツの振興	主 担 当 課	スポーツ推進課
戦略の柱	未来戦略 “輝く”				
基本 方針	☆子どもから高齢者まで、誰もが生涯を通して健康で活気に満ちた生活を送るため、誰でもスポーツが楽しめるまちを目指します。 ☆優れた選手を育成するため、競技団体、クラブチーム、部活動等との連携を深め、競技力強化を行います。 ☆施設の整備・改修を計画的に進めるとともに、スポーツ・レクリエーション活動に取り組める場を提供します。			関 係 課	健康推進課 都市計画課 学校教育課

<2.総合指標>

目標・実績の推移

指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
各種スポーツ大会・教室の参加者数 (市民スポーツ大会・教室)	単位	目標		1,500	1,600	1,800	1,850	1,900
	人／年	実績	1,141	1,431	1,828	1,924	—	—
		達成率		95.4%	114.3%	106.9%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】生涯スポーツ活動の活発化(※①②)

達成目標1の指標

目標・実績の推移

指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
週1回以上スポーツをしている人の割合 (市民意識調査)	単位	目標		—	38.0	—	40.0	42.0(R6)
	%	実績	34.9	—	38.5	—	—	—
		達成率		—	101.3%	—	—	—
小・中学生の50m走(男女別平均タイム)	単位	目標			男 8.60 女 9.10	男 8.55 女 9.05	男 8.55 女 9.05	男 8.50 女 9.00
	秒	実績	—	男 8.64 女 9.18	男 8.64 女 9.12	男 8.56 女 9.10	男 — 女 —	男 — 女 —
		達成率			99.5% 99.8%	99.9% 99.5%	— —	— —
	単位	目標		300	2,100	2,150	2,175	2,200
		実績	1,610	265	2,297	2,474	—	—
地域のスポーツクラブ等会員数 (総合スポーツクラブ、ジム)	人	達成率		88.3%	109.4%	115.1%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	4,954	千円	1,991	千円	5,489	千円	7,134	千円
うち 一般財源	4,895	千円	1,991	千円	5,489	千円	6,982	千円

1	スポーツ行事開催事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民		気軽にスポーツを楽しめるようきっかけづくりをし、健康づくり、体力づくりを支援する。				・スポーツ教室の開催 ・スポーツ大会の開催 ・スポーツ行事の支援							
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		●スポーツ教室 コロナ禍の影響により中止せざるを得ない教室があった (参加者:740人) ●市民スポーツ大会 コロナ禍のため市民スポーツ大会の一部種目を中止、また各ロードレース大会は中止とし、市民を対象とする代替大会を行った (参加者:1,385人) ●ファミリーウォーキング大会実施に対して助成した。		⇒ コロナ禍の影響により中止せざるを得ない教室があった (参加者:384人) ⇒ コロナ禍のため市民スポーツ大会の一部種目を中止、また各ロードレース大会も一部中止とし、市民を対象とする代替大会を行った (参加者:1,423人) ⇒			○コロナウイルス感染拡大で近年中止していたロードレースを再開した。 10.16 第17回べいふあーむ駅伝大会 12.18 カプトガニ駅伝大会(参加者:218人(28チーム)) 2.5 第17回べいふあーむ笠岡マラソン大会(参加者:106組631人) ○ファミリーウォーキング大会の助成金交付			●スポーツ教室の開催 (参加者:594人) ●市民スポーツ大会及びロードレース(べいふあーむ駅伝、カプトガニ駅伝、べいふあーむ笠岡マラソン)大会の開催 (参加者:市民スポーツ大会1,283人、カプトガニ駅伝大会35チーム263人、べいふあーむ笠岡マラソン大会1,618組1,866人) ●ファミリーウォーキング大会への助成			
直接事業費		決算額	4,143	千円	決算額	1,813	千円	決算額	4,829	千円	決算額	5,781	千円
		うち一般財源	4,084	千円	うち一般財源	1,813	千円	うち一般財源	4,829	千円	うち一般財源	5,629	千円

2	スポーツ振興業務												
事務事業の目的							事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民		気軽にスポーツを楽しめるようきっかけづくりをし、健康づくり、体力づくりを支援する。 また、年度ごとに施策の検討を行い、ニーズに対応する。					・ニュースポーツの普及 ・子どもの体力向上						
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		●市内の保・幼稚園児を対象に幼児スポーツ教室を実施し、プレゴールデンエイジ期の運動能力の基礎習得に努めた。 ⇒コロナ禍のため中止 ●スポーツ推進委員を市内に派遣し、ニュースポーツを通じて生涯スポーツの推進に努めた。 (派遣回数:22回) (派遣人数:119人) ●スポーツカレンダーの発行 (回数:年間4回)			⇒ ⇒ (派遣回数:8回) (派遣人数:30人) ⇒ (回数:年間4回)			○幼保対象の幼児スポーツ教室は、コロナウイルス感染拡大防止のため中止。 ○スポーツ推進委員を市内に派遣し、ニュースポーツ推進による生涯スポーツの推進継続した。 派遣回数:23回 派遣人数(延べ):102人 ○スポーツカレンダー発行 回数:年間4回 ○生涯スポーツの推進で、軽運動とニュースポーツを兼ねた教室を実施 場所:笠岡総合体育館 回数:5回 参加者(延べ):44人			●幼児スポーツ教室の開催 ・市内2箇所で各10回開催 ●ニュースポーツを通じた生涯スポーツの推進(スポーツ推進委員の市内派遣) (開催(派遣)回数:51回) (延べ派遣人数:205人) ●スポーツカレンダーの発行 (回数:年間4回)		
直接事業費		決算額	811	千円	決算額	178	千円	決算額	660	千円	決算額	1,353	千円
		うち一般財源	811	千円	うち一般財源	178	千円	うち一般財源	660	千円	うち一般財源	1,353	千円

【達成目標2】競技スポーツの強化・アスリートの育成(※③)

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指標名			R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	R7目標
全国・世界大会延べ出場者数	単位	目標		70	80	85	90	95
	人/年	実績	38	93	98	96	—	—
		達成率		132.9%	122.5%	112.9%	—	—

達成目標2の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	330	千円	515	千円	5,223	千円	4,415	千円
うち一般財源	330	千円	515	千円	1,874	千円	1,415	千円

3		競技スポーツ強化事業																																													
事務事業の目的												事務事業の内容																																			
対象(誰を)						意図(どのようにしたいのか)																																									
市民						スポーツ人口を増やし、競技スポーツを志向する人の競技力の向上を図る。						・スポーツ関係団体の支援 ・指導者の育成、資質の向上																																			
令和2年度												令和3年度												令和4年度												令和5年度											
取組内容		●選手への支援 スポーツ関係団体及び選手の活動支援 (賞揚: 全国大会38人、中国大会39人) ●大会・強化練習等の開催、誘致 ＜シーガルズ公開練習試合開催(9/27)＞ トップチームの試合に触れる機会を提供し、競技力の向上を図った。 ＜トライフープ岡山シーズン公式試合 (1/23、24)＞ プロバスケットボールB3リーグに所属するトライフープ岡山の公式試合を誘致し、2試合開催した。 新型コロナウイルス感染拡大防止のため無観客での開催となった。										⇒ ＜東京オリンピック出場に係る支援＞ 東京オリンピックに出場した長迫吉拓選手の私設応援団に対する活動補助金 (賞揚: 世界大会1人、全国大会51人、中国大会31人) ⇒ ＜四国アイランドリーグPLUS公式戦 (5/15)＞高知ファイティングドッグス対愛媛マンダリンパイレーツの公式戦を開催した。 ＜岡山シーガルズホーム開幕戦(10/16・17)＞ 岡山シーガルズ対埼玉上尾メディックスの公式試合を開催した。 ＜トライフープ岡山シーズン公式試合 (11/6、7)＞ トライフープ岡山対岐阜スウィープスの公式試合を開催した。 ＜岡山リベッツ公式戦(2/19)＞ 岡山リベッツ対琉球アスティエダの公式戦を開催した。										○市制施行70周年記念事業として、宝くじスポーツフェアドリームベースボールを開催(7/16谷沢健一、藤田平、村田兆治による指導者クリニック、7/17元NPB選手20名による少年少女野球教室、サイングッズなどの抽選会、地元選抜チームとのアトラクションやエキシビジョンマッチ) ○四国アイランドリーグplus公式戦を誘致(7/23.24高知ファイティングドッグス×ソフトバンクホークス3軍) ○ノジマリーグ公式戦誘致(11/26岡山リベッツ×TT彩たま、11/27岡山リベッツ×琉球アスティエダ) ○Vリーグ公式戦誘致(1.21-22岡山シーガルズ×KUROBEアクアフェアリーズ) ○スポーツ賞揚(世界大会: 3件、全国大会60件、中国大会: 36件、合計: 99件189人(8団体含む))												●選手への支援 ・スポーツ関係団体及び選手の活動支援 (賞揚: 世界大会2件、全国大会73件、中国大会46件) ●大会等の開催及び誘致 ・野球: 四国アイランドリーグplus公式戦誘致(7/30高知ファイティングドッグス対香川オリーブガイナーズ) ・卓球: ノジマリーグ公式戦誘致(12/23岡山リベッツ対金沢ポート) ・バレーボール: Vリーグ公式戦誘致(3/9岡山シーガルズ対トヨタ車体クインシーズ、3/10岡山シーガルズ対東レアローズ)													
		決算額		330		千円		決算額		515		千円		決算額		5,223		千円		決算額		4,415		千円																							
直接事業費		うち一般財源		330		千円		うち一般財源		515		千円		うち一般財源		1,874		千円		うち一般財源		1,415		千円																							

【達成目標3】誰もが利用しやすいスポーツ施設の整備(※④)

達成目標3の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
市内体育施設の利用人数	単位	目標		250,000	270,000	280,000	285,000	290,000
	人/年	実績	214,116	189,699	274,620	291,659	—	—
		達成率		75.9%	101.7%	104.2%	—	—

達成目標3の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	6,561	千円	105,142	千円	20,617	千円	31,418	千円
うち一般財源	1,761	千円	18,192	千円	5,217	千円	8,053	千円

4	創	体育施設整備事業										
事務事業の目的			事務事業の内容									
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市民		気軽にスポーツを楽しめるようきっかけづくりをし、健康づくり、体力づくりを支援する。		・体育施設の管理運営 ・指定管理者との調整業務 ・公園管理者との調整業務								
令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	●べいふぁーむ笠岡マラソン大会ハーフコース公認継続認定を取得した。引き続き公認を取得することで全国のマラソン愛好者や市民参加者の増加を図った。 ●茂平運動場及び城見台運動場トイレ改修工事を実施し、利用者の利便性の向上を図った。			●茂平運動場の照明をLEDに更新し、利用者の利便性を高めるほかに、大幅な電気使用量の削減に繋がった。 ●新型コロナ対策に係る顔認証検温システムの導入及び体育センター多目的室床張替工事 ●体育施設の老朽化に係る改修事業(体育センター電動カーテンレール取替え工事・海洋センターの屋根修繕及び50mプールの撤去) ●体育施設利用予約の利便性向上に係る新システム導入 ●指定避難所としての機能を維持するため、総合体育館の防災照明修繕及びメインアリーナの空調整備改修工事を行った。			○スポーツ施設照明設備LED化事業として、岡山県笠岡陸上競技場、体育センターアリーナ、市営球場、運動公園テニスコートの照明をLED化。 ○総合体育館、岡山県笠岡陸上競技場、体育センターにFREE-WIFI設備を設置(災害時の連絡手段の確保及び利用者の利便性の向上) ○茂平グラウンド内トイレの老朽化に伴う解体除去撤去 ○どんぐり球場観客席屋根裏貼り撤去 ○総合体育館事務室・会議室空調更新工事			●スポーツ施設照明設備LED化事業(対象施設:岡山県笠岡陸上競技場、体育センターアリーナ、市営球場、運動公園テニスコート、茂平運動場) ●総合体育館屋根防水工事		
直接事業費	決算額	6,561	千円	決算額	105,142	千円	決算額	20,617	千円	決算額	31,418	千円
	うち一般財源	1,761	千円	うち一般財源	18,192	千円	うち一般財源	5,217	千円	うち一般財源	8,053	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	11,845	千円	107,648	千円	31,329	千円	42,967	千円
うち一般財源	6,986	千円	20,698	千円	12,580	千円	16,450	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
コロナ禍において代替施策など様々な取り組みをありがとうございました。笠岡市の子供たちは様々なスポーツに挑戦できて幸せだと思います。今後も笠岡市の立派な運動施設や公園を活用していただき、大人も子供も楽しみながら健康維持できるように推進お願いいたします。	施設の維持・修繕等の予算確保は今後大きな課題となってくると思いますが、既存の施設を適切に管理し長く市民の皆様に活用していただくことで、コロナ後も幅広い市民のスポーツへの取り組みを促進してまいります。
高知ファイティングドックスの試合誘致等は、市民スポーツの底上げにつながっていると思いますので、引き続きスポーツの振興に努めていただきたい。	市民の皆様にスポーツにより多くの関心を持っていただける取り組みを今後も行ってまいります。
四国アイランドリーグplus公式戦やノジマリーグ公式戦などの誘致に尽力されており、地元アスリートの育成に一役買っていると感じます。	今後もプロスポーツ誘致を通じて、スポーツ意識の醸成を図ってまいります。
・順調に推移しているように思います。コロナ禍をすぎて、いろいろな事業の利用人数数等も今後増加すると考えます。	コロナ後で、スポーツを再開したり、新たに始める気運も高まることが期待されることから、こうした機会をとらえながら利用人数等の増進に努めてまいります。

コロナ禍でも状況を見ながら対策をすることで市民へのスポーツ振興に努め、ほとんどの目標値を達成したことから全員一致でのAとなりました。 体育施設整備事業についてはLED化、また災害時の避難場所としてWi-Fi設備の整備も進みました。 週一回以上スポーツをしている人の割合、各種大会・教室への参加者数も増えましたが、運動をしていない人への更なる普及にご尽力ください。ニュースポーツの普及については気軽にスポーツを楽しむ、交流といった面でも適しています。公民館などにも出張できるとのこと、生涯学習の満足度UPにも繋がるかと思えます。	→	ニュースポーツは、子どもから高齢者まで多くの方が気軽に楽しめるものとして、現在公民館をはじめ、市内各団体からの要望をもとにスポーツ推進委員の派遣を行っております。令和6年度からは、各児童クラブを持つ小学校あてにも案内を出す等して、更なる普及に努めてまいります。
スポーツの振興については、各地域の広がりが大切だと思います。現在のスポーツ推進委員の選考方法が見えない状況です。これには、人数制限もあるかと思いますが、各地域から1人ずつ、競技団体から1人ずつの選考方法は無理なのでしょうか。	→	スポーツ推進委員につきましては、定員が20名となっております。地域が重なっている委員さんもいらっしゃいますが、推進委員さんのいない地区でも、出前講座の依頼をいただいた市内の公民館等へ派遣させていただいております。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度 A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--	---

<7.未達成の指標への対応策>

未達成指標への対応策	達成目標1の一部指標について、目標値は下回っているものの、前年度からの改善傾向は見られるので、引き続き、スポーツ教室の開催等を通じて、目標達成に向けて取り組んでまいります。
-------------------	---

<8.委員による評価結果>

総合評価 A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	A	(参考) 昨年度の評価結果	A
コメント	・前回令和4年度と今回令和5年度の施策評価はA評価でした。どちらの年度も担当部署自己評価はB評価でしたので、もっと自信をもって良いのではないかと思います。 ・ニュースポーツの分野でも競技力が向上すると、競技スポーツ化する傾向にあります。ニュースポーツは誰でも気楽に楽しめることが大切です。地域によっては、集会所等で楽しく取り組んでいる実態もあります。こうした状況が増えることを期待します。 ・ほとんどの指標で目標値に達しているのでAとなりました。カブトガニ駅伝やべいふあーむマラソンなど多くの参加が見られました。有名選手との触れ合いもでき大変喜ばれています。 ・バレー、卓球、野球とプロスポーツを身近に感じられ、子どもから大人までスポーツ熱が高まって来ているように感じます。5年度はよっちゃんにもバレー選手が参加してくださりありがたかったです。 ・スポーツの指導者の発掘を引き続きお願いいたします。部活動の地域移行にも繋がるかもしれません。 ・学校部活動の円滑な地域移行を期待しています。 ・各種スポーツ大会・教室の参加者数も予定の達成目標に向かって推移しており、しっかりとした取り組みがわかりました。実際に子供たちはゲーム三昧になっている中、スポーツの機会を与えて下さる笠岡市の取り組みはほんとにありがたいです。子供が何に関心があり、どこを伸ばせばいいかなど一緒に育ててもらっていると親として感謝しています。今後とも継続したスポーツの機会をお願いいたします。		

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	3-5	施策名	歴史の継承・文化の振興・カブトガニの保護と活用	主 担 当 課	生涯学習課
戦略の柱	未来戦略 “輝く”				
基本 方針	☆豊かな歴史・伝統を持つ笠岡市にとって大切な文化財を保護・活用します。 ☆市民が文化に親しみ文化活動に参加できる環境をつくり、文化・芸術の担い手を育成します。 ☆国の天然記念物に指定されているカブトガニ繁殖地の保全に努め、繁殖地内でのカブトガニの増加を目指すとともに、「カブトガニのまち笠岡」の知名度を高めていきます。			関 係 課	商工観光課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 目標	R5 実績	R6 目標	R7 目標
博物館等総入館者数	単位	目標		61,760	76,500	82,500	82,500	94,000
	人／年	実績	47,495	56,359	78,314	69,174	—	—
		達成率		91.3%	102.4%	83.8%	—	—
文化イベント総参加者数	単位	目標		6,000	6,620	7,710	9,420	10,900
	人／年	実績	5,371	7,841	8,975	10,534	—	—
		達成率		130.7%	135.6%	136.6%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	文化財の保護・活用(※①)
---------	---------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
文化財保護・調査件数	単位	目標		40	40	40	40	40
	件／年	実績	52	50	61	42	—	—
		達成率		125.0%	152.5%	105.0%	—	—
文化財普及・活用件数	単位	目標		40	40	40	40	40
	件／年	実績	43	72	65	66	—	—
		達成率		180.0%	162.5%	165.0%	—	—
郷土館入館者数	単位	目標			500	500	500	500
	人／年	実績	338	505	419	726	—	—
		達成率			83.8%	145.2%	—	—
井笠鉄道記念館入館者数	単位	目標			3,000	3,000	3,000	3,000
	人／年	実績	2,867	2,737	3,679	3,180	—	—
		達成率			122.6%	106.0%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	8,430	千円	10,280	千円	9,865	千円	14,498	千円
うち 一般財源	6,400	千円	4,968	千円	6,790	千円	11,668	千円

1	文化財の保護・活用事業											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
全市民、場合によっては全県民・全国民		貴重な文化財を後世に伝え、その重要性を啓発することによって、保護活動を促進します。また、文化財の公開活用をすすめることで市民文化を向上させます。		文化財を調査・指定し、保護、顕彰、記録などを行います。 指定文化財や埋蔵文化財に係る開発行為については、法令に基づき、協議、調査など所定の手続きをとります。 笠岡の歴史を後世に伝えるために、歴史資料の収集・整理を行います。 市有の文化財や文化財関連施設などの不動産、収集した歴史資料などの動産の管理と公開活用を行います。その拠点のひとつとして、郷土館の整備・活用を行います。								
取組内容	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	●文化財保護事業・文化財活用事業を継続 ・津雲貝塚保存活用事業 調査成果パンフレット2,000部 ・日本遺産推進事業 創・笠岡ふるさと再発見事業 「笠岡へ愛着を持ち隊」レポート数134点 ・木山捷平生家保存活用事業 ・茅原基治顕彰事業 リーフレット7,000部 小中学生配布 ・郷土館企画展「笠岡諸島 高島と神武東遷伝説」入館者数189人			⇒ ・文化財調査事業 小田県庁門他 ・白石踊後継者育成事業 ・日本遺産推進事業 創・笠岡ふるさと再発見事業 「笠岡へ愛着を持ち隊」レポート数45点 ・木山捷平生家保存活用事業 ・「マンガふるさとの偉人 茅原基治」製作事業2,500冊 ・郷土館企画展「白石島の帆印帳と遠眼鏡」入館者数196人 ・郷土館出張展示「笠岡今昔写真展」入場者数455人			⇒ ・白石踊後継者育成事業 ・日本遺産推進事業 創・笠岡ふるさと再発見事業 「笠岡へ愛着を持ち隊」レポート数64点 ・「風流踊」ユネスコ無形文化遺産登録関連事業 ・市制施行70周年写真展「カメラが捉えた笠岡市70年のあゆみ」入場者数823人 ・出張展示「写真展 笠岡市70年のあゆみ」入場者数533人 ・写真集「笠岡市70年のあゆみ」発刊 1,500冊 ・市制施行70周年記念映像「わたしたちの笠岡市」DVD100枚作成			⇒ ・白石踊後継者育成事業 定期練習会14回開催のべ523人参加 ほか出前講座、啓発活動等 ・日本遺産推進事業 創・笠岡ふるさと再発見事業 「笠岡へ愛着を持ち隊」レポート数65点 ・文化財保護事業補助金 「菅原神社の本殿」 「真鍋島の走り神輿」 ・郷土館企画展「真鍋島歴史展」入館者数347人 ・「笠岡の偉人・先人展」(子ども向け)(大人向け)来場者数895人		
	決算額 8,430 千円			決算額 10,280 千円			決算額 9,865 千円			決算額 14,498 千円		
直接事業費	うち一般財源 6,400 千円			うち一般財源 4,968 千円			うち一般財源 6,790 千円			うち一般財源 11,668 千円		

【達成目標2】竹喬美術館の活性化と館蔵品の充実(※②)

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
竹喬美術館入館者数	単位	目標		13,360	17,000	4,000	14,000	20,000
	人／年	実績	11,767	10,944	12,777	5,882	—	—
		達成率		81.9%	75.2%	147.1%	—	—
竹喬美術館館蔵品数	単位	目標		3,950	3,970	3,970	4,000	4,000
	点	実績	3,923	3,950	3,956	3,996	—	—
		達成率		100.0%	99.6%	100.7%	—	—

達成目標2の事業費								
令和2年度			令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	79,985	千円	55,323	千円	95,960	千円	90,933	千円
うち一般財源	39,775	千円	43,967	千円	46,825	千円	55,416	千円

2	竹喬美術館管理運営事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
入館者(利用者)		入館者を増やします。 収蔵竹喬作品の充実を図ります。 美術創作体験の機会を増やします。 美術に対する関心の喚起を図ります。 美術館情報の周知を行います。				魅力的な展覧会を開催します。 作品の購入、寄贈、寄託の促進を行います。 気楽なワークショップを開催します。 魅了的な講座、講演会、ギャラリートークを開催します。 電子媒体の活用を推進します。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	竹喬美術館展覧会の実施 ・特別展2回、特別陳列3回の開催 ・年間収蔵品 34点を追加 市内公共施設への出張展示を開始 児童・生徒を対象とした企画を実施			⇒ ・特別展2回、特別陳列5回の開催 ・年間収蔵品 27点を追加 ⇒ ⇒			⇒ ・特別展2回、特別陳列4回の開催 ・年間収蔵品 6点を追加 ⇒ ⇒			⇒ ・特別展1回、特別陳列1回、 テーマ展2回の開催 ・年間収蔵品 40点を追加 ⇒ ⇒		
直接 事業費	決算額	79,985	千円	決算額	55,323	千円	決算額	95,960	千円	決算額	90,933	千円
	うち 一般財源	39,775	千円	うち 一般財源	43,967	千円	うち 一般財源	46,825	千円	うち 一般財源	55,416	千円

【達成目標3】芸術文化活動の振興・交流と担い手の育成(※③)

達成目標3の指標				目標・実績の推移					
指 標 名				R2 実績	R3 実績	R4 目標	R5 実績	R6 目標	R7 目標
文化事業参加者数	単位	目標			4,700	5,000	7,500	7,600	9,000
	人／年	実績		4,607	6,361	7,321	7,545	—	—
		達成率			135.3%	146.4%	100.6%	—	—
笠岡市木山捷平文学選奨への応募者数	単位	目標			3,400	3,500	3,500	3,500	3,700
	人／年	実績		3,385	3,176	3,325	3,430	—	—
		達成率			93.4%	95.0%	98.0%	—	—

達成目標3の事業費								
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	2,797	千円	3,029	千円	3,254	千円	3,237	千円
うち 一般財源	2,797	千円	3,029	千円	3,254	千円	3,237	千円

3	芸術・文化活動推進事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
芸術・文化活動をする市民		芸術・文化活動の活性化、知性と文化意識の高揚				各事業を通して芸術・文化活動への表現者としての参加を働きかけるとともに、優れた芸術・文化活動の鑑賞機会を市民に提供します。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・笠岡市さつき・新緑展⇒中止 ・名月観賞の夕べ⇒中止 ・笠岡市文化祭⇒中止 ・笠岡市芸能祭 無観客舞台収録・テレビ放映 ・笠岡市菊花展 ・笠岡市児童・生徒美術展 ・笠岡市写真展 ・笠岡市美術展			⇒中止 ⇒中止 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒中止 ⇒ ⇒ 有観客で実施 ⇒ ⇒ ⇒令和4年度以降実施予定なし ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒令和4年度以降実施予定なし ⇒		
直接事業費	決算額	516	千円	決算額	758	千円	決算額	861	千円	決算額	909	千円
	うち一般財源	516	千円	うち一般財源	758	千円	うち一般財源	861	千円	うち一般財源	909	千円

4	笠岡市木山捷平文学選奨事業																					
事務事業の目的						事務事業の内容																
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)																				
文芸創作活動をする市民		文芸創作活動の活発化と文芸創作活動をする市民を増やします。				短編小説、随筆、詩、短歌、俳句、川柳の各部門で作品を募集します(短編小説は全国公募)。優れた作品を表彰するとともに、入賞作品集を作成して取り組みをPRします。木山捷平文学選奨短編小説賞を通して、笠岡市を全国発信します。																
												令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		・短編小説賞の応募者数(全国) 265人 ・随筆・詩・短歌・俳句・川柳の応募者数 3,120人 ・入賞作品の選考、表彰式、作品集発刊			⇒ 223人 ⇒ 2,953人 ⇒			⇒ 222人 ⇒ 3,103人 ⇒			⇒ 267人 ⇒ 3,163人 ⇒											
直接事業費		決算額	2,281	千円	決算額	2,271	千円	決算額	2,393	千円	決算額	2,328	千円									
		うち一般財源	2,281	千円	うち一般財源	2,271	千円	うち一般財源	2,393	千円	うち一般財源	2,328	千円									

【達成目標4】カブトガニの保護とカブトガニ博物館の運営(※④)

達成目標4の指標				目標・実績の推移					
指 標 名				R2 実績	R3 実績	R4 目標	R5 実績	R6 目標	R7 目標
カブトガニ保護活動参加者数	単位	目標				870	950	970	1,000
	人／年	実績		61	75	1,012	969	—	—
		達成率				116.3%	102.0%	—	—
カブトガニ博物館入館者数	単位	目標			45,000	56,000	65,000	65,000	70,500
	人／年	実績		32,523	42,173	61,439	59,386	—	—
		達成率			93.7%	110%	91%	—	—

達成目標4の事業費

令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
直接事業費	69,722	千円	64,484	千円	67,948	千円	73,434	千円			
うち一般財源	14,512	千円	24,778	千円	24,429	千円	22,084	千円			

5	カブトガニ保護啓発事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
カブトガニ、カブトガニ博物館に興味を持っている人		国の天然記念物に指定されているカブトガニ繁殖地を守り、カブトガニが自然増殖できる環境の保全と生体の保護に取り組み、カブトガニを通じた自然保護の意識を高めます。				カブトガニの大量飼育と幼生放流を年次的に行い、保護・増殖につなげていきます。カブトガニの現状や生態を市民に広く知ってもらい、保護啓発運動を盛り上げていきます。							
		令和2年度		令和3年度		令和4年度			令和5年度				
取組内容		・幼生の大量飼育・放流事業 ・繁殖地内の幼生調査 ・繁殖地以外での飼育実験 ・海岸清掃活動 ・カブトガニ保護啓発運動 ・カブトガニ産卵池改修		⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒		⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒				
直接事業費		決算額	12,547	千円	決算額	7,884	千円	決算額	7,590	千円	決算額	7,987	千円
		うち一般財源	3,847	千円	うち一般財源	5,793	千円	うち一般財源	5,963	千円	うち一般財源	6,016	千円

6	カブトガニ博物館管理運営事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
カブトガニ、カブトガニ博物館に興味を持っている人		国の天然記念物に指定されているカブトガニ繁殖地を守り、カブトガニが自然増殖できる環境の保全と生体の保護に取り組み、カブトガニを通じた自然保護の意識を高めます。				より多くの人たちに自然保護の大切さを知ってもらい、地球やカブトガニの歴史を見据えた人間と自然の共生の在り方を発信できる博物館としていきます。 環境問題に関する展示や特別展の開催など、より一層自然環境保護意識の醸成を図り、環境教育を行う場として、より多くの人たちに親しんでもらえる魅力ある生涯学習施設の運営を行います。						
令和2年度		令和3年度				令和4年度			令和5年度			
取組内容	・博物館リニューアル事業 ・特別展示、特別陳列展の開催 ・環境保護講座の開催 ・野外体験学習の開催 ・カブトガニ関連商品の販売			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒		
	・館内トイレ改修			飼育棟外壁改修 飼育管理室改修			飼育棟内部改修 博物館排煙窓修繕			飼育設備非常用発電機設置		
直接事業費	決算額	57,175	千円	決算額	56,600	千円	決算額	60,358	千円	決算額	65,447	千円
	うち一般財源	10,665	千円	うち一般財源	18,985	千円	うち一般財源	18,466	千円	うち一般財源	16,068	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	160,934	千円	133,116	千円	177,027	千円	182,102	千円
うち一般財源	63,484	千円	76,742	千円	81,298	千円	92,405	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
カブトガニ博物館、竹喬美術館の活性化が素晴らしいと年々感じています。未達成指標への対応策も具体的ですばらしいと思いました。引き続き期待しています。郷土館に関しては今後のニーズの把握も必要のように思いました。	→ カブトガニ博物館は、令和5年度の目標未達成となりました。今後、もっと魅力のある企画を実施し、その周知のため情報発信の強化を行います。 竹喬美術館は、笠岡市民に愛される心の安らぎの場を提供し、さらにみなさんと共に創造的な地域づくりを進めて、より多くの方にリピーターとなっていただけるような美術館を目指してまいります。 郷土館は、昭和45年開館の施設であることに加え、単独で西ノ浜に立地しているなど、入館者が増えにくい状況にあることは、御承知のとおりです。根本的な課題解決のためには、資料をただ陳列するだけではなく、それを管理し活用できる人的体制と十分なスペースも必要です。今後、移転も含めて検討してまいります。現状においては、郷土館は笠岡市の歴史文化を発信するツールの一つとして、活用してまいりたいと考えております。
竹喬美術館は、笠岡高校の地域学と連携した、モザイクアートの実施等、様々な施策を行っており、それが、今後の入館者数の増加につながるように期待しています。	→ 今後も笠岡高校との連携をきっかけとして、小・中学校も含めた広い年代に魅力を感じてもらえるワークショップや「美術館が自分たちの居場所」となるような企画を積極的に取り入れ、将来ボランティア活動や美術館に関わってもらえるような人材育成を図ってまいります。
西洋画と比較して日本画は、特に若い人には人気がないでしょうから、入館者数が伸びないのは致し方ないと考えますが、それでもよく健闘なさっていると感じます。	→ 日本画の歴史を土台にししながら現代の表現に展開して注目されているアーティストの企画を検討し、さらに将来の大作を集める活動として若手の画家をサポートする企画を立案し、SNSなどにより新たな美術館の試みを発信して若年層の入場者数を伸ばしてまいります。

全体的に目標指標を超えているようにみえます。コロナ禍をすぎるともっと増えるのではないかと考えますので、さらに充実をしてください。	→ 各施設において、当該施設の強みを活かすとともに、時代に合った新たなあり方を模索しつつ、それぞれの役割を果たすべく努めてまいります。
多くの項目で目標を達成されており、おおむね順調に進行していますが、郷土館と竹喬美術館にもう少し頑張るところがあるので個人的にはBにしました。対応策に具体策を書かれているので来年度の評価では全員一致で納得のAになることを期待しています。 里庄・浅口・井原などの近隣市町の文化施設を相互利用できるサービスなどあれば、互いに利用者も増え、芸術や歴史、文化に触れるきっかけにもなりそうですが。	→ 郷土館は、施設の枠にとらわれない出張展示等を通じて幅広い世代に、笠岡の歴史文化を発信することに努めました。 竹喬美術館は令和5年度の約半年間施設整備で休館をしていました。来館者の快適で安心できる環境が整った中で、今後は、効率化なども図り、持続可能な運営の確保に努めてまいります。また、近隣市町の文化施設を相互利用できるサービスが展開できる方策を検討し、各文化施設の歴史・文化の特性を生かした共同企画を立ち上げて、人の流れが循環する状況づくりを進めてまいります。
カブトガニの保護活動は、博物館を中心にして、頑張られている。歴史等については、郷土館運営を市歴史博物館として全域の文化財の整理・保全の体制にしたらと考えます。	→ カブトガニ博物館は、今後も笠岡のシンボルであるカブトガニの保護活動を継続して参ります。郷土館については、将来的には文化財センター、文書館等の機能も持たせ、郷土の歴史について体系的に学べる施設としていくべきと考えておりますが、それを管理活用できる人的体制と、相応のスペースが必要となってきます。郷土館の将来的なあり方につきましては、移転も含めて、施設の条件や整備コストなども踏まえ引き続き検討してまいります。

<6.令和5年度の振り返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度 A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--	----------

<7.未達成の指標への対応策>

未達成指標への対応策	<総合指標> ●博物館等総入館者数 ・竹喬美術館は約半年間(8月28日～3月15日)のメンテナンス休館をしたことが入館者数減につながりました。今後は竹喬美術館、カブトガニ博物館ともに、これまで以上に魅力的な企画展開催に努めるとともに、SNSを使った情報発信を強化します。 【達成目標3】芸術文化活動の振興・交流と担い手の育成 ●笠岡市木山捷平文学選奨への応募者数 ・昨年度から新たに高校生部門(5首一組で応募可能)を設けたことで、高校生の応募者数が大幅に増加し、全体の目標達成率も年々上がってきていますが、今後も引き続き応募者数が増加するよう、広報活動等に努めます。 【達成目標4】カブトガニの保護とカブトガニ博物館の運営 ●カブトガニ博物館入館者数 ・入館者数を増やすために、SNSを中心に情報発信を強化します。
------------	---

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	A	(参考) 昨年度の評価結果	A
コメント	・前回令和4年度の施策評価はA評価でした。今回令和5年度の施策評価は、竹喬美術館が休館中で入場者数が少なく、ほかの博物館等総入館者数、カブトガニ博物館入館者数の入場者数も少なくなっていますが、他の文化事業参加者数や木山捷平文学選奨への応募者数は増加していることや郷土館の古い写真のデジタル化により人気が出ていることから、A評価となっています。またどちらの年度も担当部署自己評価はB評価でしたので、もっと自信をもって良いのではないかと思います。 ・カブトガニ博物館や竹喬美術館については、各種イベントなどを組み込んで入館者数が増えているようです。郷土館については明るさや施設改築などを検討したらどうでしょうか。また、市内入館者・市外入館者の動静も調査したら良いと思います。 ・郷土館の入館者数が企画展によりかなり増えました。市民の興味をそそる企画展を引き続きお願いいたします。(土層発見で国史跡指定範囲を拡大される見通しの津雲貝塚など) ・コロナが第5類になったことで手近な博物館から遠出にスタイルが変わったかもというお話がありました。カブトガニ博物館はSNSを上手く活用されていますので更なるアイデアで集客を図れればと願います。(カブトガニ饅頭とタイアップなど?)岡山理科大学の「恐竜・古生物コース」に加え、開設される「恐竜学科」などにも活用されるといったことはあるでしょうか。 ・カブトガニ博物館の入館者数は、伸び悩んでいるようにも見えます。趣向を凝らした様々なイベントを引き続き行っていく、笠岡の「名物」がさらに市内外の方に広がるようにお願いします。 ・カブトガニ博物館・竹喬美術館の進化が素晴らしくとても活気がでており市民として嬉しく思います。郷土館の立ち位置が今後どのように変わっていくのか気になるところです。日本各地でもお祭りに力を入れ伝承されている地域は強いように思います。そういった伝統文化が連立する笠岡市ですが、文化財保護事業としては金額が張っていますが、今後の継承に期待します。また、笠岡へ愛着を持ち隊についてですが、共働きのご時世が増え、時代に合っていないようにも思います。親子で参加できる人はそれでいいですが、子供がやってみたくても単独で参加できないシステムのように感じます。オンラインの普及もあり、多くの子供たちが参加できる環境整備も必要と思います。魅力ある発信は地域学で中高生に考えてもらうのもどうでしょうか。生の地域の人の声や、子供たちが見たくなる笠岡の歴史を動画にしてみるのもいいと思います。時代に合わせた笠岡の文化の継承も考えていただきたいと思います。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	3-6	施策名	人権・男女共同参画・平和	主 担 当 課	人権推進課
戦略の柱	未来戦略 “輝く”				
基本 方針	全ての市民が様々な分野で、個性と能力を十分に発揮するとともに、互いにその人権を尊重しつつ、いきいきと心豊かに共生できる社会の実現を目指します。また、人権侵害につながる戦争を二度と繰り返さないために、平和の大切さに気づき、平和な社会を築いていこうとする市民意識を高めます。			関 係 課	協働のまちづくり課 人事課 地域福祉課 商工観光課 学校教育課 生涯学習課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
「人権週間のつどい」、人権文化祭の「人権を考えるつどい」の参加者数	単位	目標			400	500	550	600
	人	実績	280	320	970	920	—	—
		達成率			—	184.0%	—	—
「人権尊重・男女共同参画の推進」の満足度 (市民意識調査)	単位	目標		—	8.0	—	10.0	10.0(R6)
	%	実績	7.1	—	6.0	—	—	—
		達成率		—	75.0%	—	—	—
審議会等委員に占める女性の割合	単位	目標		40.0以上	42.0	43.0	44.0	45.0
	%	実績	41.4	41.5	42.6	41.7	—	—
		達成率		103.8%	101.4%	97.0%	—	—
「平和の取組」の満足度(市民意識調査)	単位	目標		—	13.0	—	16.0	16.0(R6)
	%	実績	11.8	—	10.6	—	—	—
		達成率		—	81.5%	—	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	人権に対する正しい理解と人権意識の高揚(※①)
---------	-------------------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
人権週間のつどいのアンケートで人権問題について関心や理解が「とても深まった」「深まった」という回答の割合	単位	目標		90.0以上	90.0	92.0	93.5	95.0
	%	実績	86.0	89.0	95.0	98.0	—	—
		達成率		98.9%	105.6%	106.5%	—	—
性的少数者の総称である『LGBTQ※』について「知っている」市民の割合(市民意識調査)	単位	目標		—	56.0	—	70.0	70.0(R6)
	%	実績	42.0	—	81.0	—	—	—
		達成率		—	144.6%	—	—	—
吉田文化会館利用者数	単位	目標		6,500	6,800	6,900	6,950	7,100
	人／年	実績	5,978	5,277	5,807	5,356	—	—
		達成率		81.2%	85.4%	77.6%	—	—

※L:レズビアン(女性の同性愛者)、G:ゲイ(男性の同性愛者)、B:バイセクシャル(男性と女性の両方を好きになる人)、T:トランスジェンダー(身体の性と心の性が一致しない人)、Q:クエスチョニング(自分の性や好きになる性がはっきりしない、決められないあるいは悩んでいる状況にある人等)

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	17, 298	千円	17, 212	千円	13, 789	千円	15, 710	千円
うち 一般財源	14, 181	千円	14, 336	千円	10, 629	千円	12, 614	千円

1	人権啓発事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
全市民		地域、家庭、職域その他様々な場において人権尊重に対する市民の理解を深め、日常生活において態度や行動に現れるような人権感覚を身につけてもらう。				女性、子ども、高齢者、障がいのある人、同和問題、患者など様々な人権に関わる課題について、著名な講師による講演会の開催、啓発のための人権パネル展示、人権をテーマにした公募写真コンテストの実施、さらには啓発の講師となるリーダーの研修を行う。							
		令和2年度		令和3年度		令和4年度			令和5年度				
取組内容		●人権週間のつどい講演会(11月) ●人権文化祭⇒中止 ●人権啓発講座 ・人権啓発バンクによる活動 ・人権フォトコンテスト⇒中止 ・人権スポーツふれあい教室 ・人権のうた⇒中止 ＜人権週間のつどい講演会参加者：178人＞		●人権週間のつどい講演会(12月) ●人権文化祭(オンライン開催) ⇒ ⇒ ⇒ ＜人権週間のつどい講演会参加者：約320人＞		●人権週間のつどい講演会(11月) ●人権文化祭 ⇒ ⇒ ⇒ ＜人権週間のつどい講演会参加者：約800人＞ ＜人権文化祭参加者：(3日間延べ)1,056人＞			●人権週間のつどい講演会(11月) ●人権文化祭 ⇒ ⇒ ⇒ ＜人権週間のつどい講演会参加者：約800人＞ ＜人権文化祭参加者：(2日間延べ)735人＞				
直接事業費		決算額	1,420	千円	決算額	909	千円	決算額	1,346	千円	決算額	1,032	千円
		うち一般財源	964	千円	うち一般財源	652	千円	うち一般財源	1,040	千円	うち一般財源	726	千円

2	人権教育推進事業											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
幼児・児童・生徒・保護者・教職員および地域住民		・幼児・児童・生徒に対し、発達段階に応じた人権教育を進め、人権尊重の精神を養う。 ・保護者の人権意識をより高め、家庭における人権意識の高揚を図る。 ・学校・社会教育において指導的立場にある者の研修を進め、人権尊重の環境づくりを推進する。 ・地域公民館を拠点とした人権教育、啓発を進め、共生社会の実現を目指す。 ・人権課題にかかわり配慮を要する児童・生徒の自立を支援する。		・人権教育推進委員会の開催 ・学校教育における人権教育推進体制の確立・全体計画の作成 ・幼・小・中学校におけるPTA人権研修会の実施 ・地域公民館等での人権教育・啓発事業の実施 ・教職員・社会教育関係者等を対象とした人権教育指導者講座の実施 ・人権課題にかかわり配慮を要する児童生徒の自立支援(学習会等)								
令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●学校教育での人権教育 ・学校教育における人権教育の体系的な推進			⇒				⇒				⇒
	●人権教育指導者研修事業 コロナ禍で中止			⇒				⇒				●人権教育指導者研修事業 人権教育指導者講座の実施
	・人権教育指導者講座の実施			⇒				⇒				⇒
	●社会教育での人権教育 ・地域公民館等での人権教育・啓発事業の実施			⇒				⇒				⇒
	・幼・小・中学校のPTA人権教育研修会の実施			⇒				⇒				⇒
	●教育集会所運営事業 ・笠岡市教育集会所事業の実施			⇒	⇒人権推進課へ所管換え			⇒				⇒
直接事業費	決算額	1,861	千円	決算額	1,722	千円	決算額	616	千円	決算額	564	千円
	うち一般財源	1,861	千円	うち一般財源	1,722	千円	うち一般財源	616	千円	うち一般財源	564	千円

3	人権推進事業																				
事務事業の目的				事務事業の内容																	
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)																			
市民				国民に保障されている基本的人権を擁護し、自由人権思想の普及、高揚を図るため、市は人権尊重の視点に立った市制と施策を推進し、市民は自らが人権尊重の都市づくりの担い手としてその実現に努めていく。 ・人権施策基本方針その他人権施策について調査・審議及び推進する、人権施策推進委員会・チーム会議の庶務(各1回/年度) ・人権擁護委員の推薦(任期:3年)、なやみごと相談の実施(6回/年)や啓発イベントについての人権擁護委員協議会との連絡・調整 ・教育集会所を拠点とする同和問題に関する課題解決を目指す諸活動を実施するとともに、地域活動の活性化や地域住民の福祉の向上を図る。																	
令和2年度													令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		●人権施策推進チーム会議の開催 ・人権施策推進委員会の開催			⇒			⇒ ●教育集会所運営事業 ●パートナーシップ・ファミリーシップ宣誓制度実施			⇒ ・人権施策基本方針の改定 ⇒ ⇒										
直接事業費	決算額	5,374		千円	決算額	5,672		千円	決算額	2,668		千円	決算額	3,262		千円					
	うち一般財源	5,347		千円	うち一般財源	5,668		千円	うち一般財源	2,641		千円	うち一般財源	3,232		千円					

4		人権推進事業(商工業者)											
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市内企業・商店		企業内における、人権問題についての理解を深め、問題の解決に努める。				・企業等人権問題連絡協議会に所属する企業の事業者を対象に、企業内で考える人権問題について研修などを通じ理解を深める。 ・市HPなどを用い、人権問題・雇用問題に係る各種情報を外部に対し発信する。							
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		●会員企業を対象に年2回の人権研修会を実施 ●人権啓発標語コンクールの実施 <研修会は、新型コロナウイルス感染拡大の為、中止> <人権啓発標語応募点数:422点>		⇒ ⇒ <研修会は、新型コロナウイルス感染拡大の為、中止> <人権啓発標語応募点数:420点>			⇒ ⇒ ⇒ <1月研修会参加人数:19人> <人権啓発標語応募点数:365点>			⇒ ⇒ ⇒ <2月研修会参加人数:19人> <人権啓発標語応募点数:281点>			
直接事業費		決算額	90	千円	決算額	90	千円	決算額	90	千円	決算額	90	千円
		うち一般財源	90	千円	うち一般財源	90	千円	うち一般財源	90	千円	うち一般財源	90	千円

5	吉田文化会館運営業務													
事務事業の目的					事務事業の内容									
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)												
市民		地域社会全体の中で福祉の向上や人権啓発の住民交流の拠点となる開かれたコミュニティセンターとして、生活上の各種相談事業や人権啓発の各種事業を総合的にを行い、人権意識を醸成する。			同和問題をはじめとするさまざまな人権課題の早期解決を基本とし、地域住民の理解と信頼を得つつ、地域社会に密着し、地域住民の生活課題に応じた事業を関係機関と連携を図りながら行う。 ・地域課題に応じた相談事業の充実 ・吉田文化会館だよりの発行など、人権啓発・広報活動の推進 ・各種クラブ活動、教養・文化活動等参加交流の促進									
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度				
取組内容		・相談事業 ・人権啓発及び広報活動事業 ・地域交流事業 ・地域福祉事業 ・隣保館ミニデイサービス ・貸館事業 ・証明書等交付事業 〈利用者数:5978人〉 〈証明書発行件数:659件〉 〈図書貸出数:769件〉 (相談件数:155件)		⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 〈利用者数:5277人〉 〈証明書発行件数:526件〉 〈図書貸出数:711件〉 (相談件数:72件)			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 〈利用者数:5807人〉 〈証明書発行件数:383件〉 〈図書貸出数:665件〉 (相談件数:114件)			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ 〈利用者数:5356人〉 〈証明書発行件数:248件〉 〈図書貸出数:149件〉 (相談件数:101件)				
直接事業費		決算額	7,996	千円	決算額	8,221	千円	決算額	8,724	千円	決算額	10,328	千円	
		うち一般財源	5,497	千円	うち一般財源	5,741	千円	うち一般財源	6,026	千円	うち一般財源	7,675	千円	

6	給付・貸付事業											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
同和問題にかかる課題のある地域の市民		①給付事業⇒高校・大学への就学を促進する。 ②償還事務⇒生活環境等の安定向上と整備改善のため実施した資金貸付金の円滑な償還を促進する。			・給付事務⇒高校・大学在学者への奨学資金給付、及び制度の見直し ・償還事務⇒住宅資金・生活改善資金貸付償還金の過年度分の滞納整理、及び県への補助金交付申請手続							
		令和2年度		令和4年度		令和5年度		令和5年度				
取組内容	●奨学資金給付 ＜給付件数＞ 高等学校:2件 大学:1件 ●資金貸付金の償還促進 ・償還金滞納者のさらなる実態把握 ・償還金滞納者への臨戸訪問の継続 ＜収納率＞ 住宅資金:2.8% 生活改善資金:6.7%		⇒ ＜給付件数＞ 高等学校:3件 大学:1件 ⇒ ⇒ ⇒ ＜収納率＞ 住宅資金:2.7% 生活改善資金:2.4%		⇒ ＜給付件数＞ 高等学校:2件 ⇒ ⇒ ⇒ ＜収納率＞ 住宅資金:5.0% 生活改善資金:5.6%		⇒ ＜給付件数＞ 高等学校:3件 ⇒ ⇒ ⇒ ＜収納率＞ 住宅資金:2.1% 生活改善資金:3.1%					
直接事業費	決算額	557	千円	決算額	598	千円	決算額	345	千円	決算額	434	千円
	うち一般財源	422	千円	うち一般財源	463	千円	うち一般財源	216	千円	うち一般財源	327	千円

【達成目標2】男女共同参画の推進・啓発(※②)

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
審議会等委員に占める女性の割合	単位	目標		40.0以上	42.0	43.0	44.0	45.0
	%	実績	41.4	41.5	42.6	41.7	—	—
		達成率		103.8%	101.4%	97.0%	—	—
各地区のまちづくり協議会の役員に占める女性の割合	単位	目標			40.0	42.0	43.0	44.0
	%	実績	34.9	33.3	32.2	32.1	—	—
		達成率			80.6%	76.5%	—	—

達成目標2の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	3,861	千円	841	千円	4,908	千円	396	千円
うち一般財源	3,861	千円	841	千円	4,908	千円	396	千円

7	男女共同参画推進事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
行政, 市民, 事業者			男女共同参画の意識高揚を図り, 男女が共に助け合い, 互いの生き方を認め合い, 住みやすい社会づくりを推進する。			男女及び様々な立場の人を対象に, 男女共同参画に関する意識を高めるため, 各分野の講座の開催や, 啓発紙等による広報を実施する。また, 市の施策に関する男女共同参画の視点による事業の推進状況の管理, 性別による差別的扱いや人権侵害に関する相談等(主に女性)の相談事業を行っている。						
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●ウィズプランの推進 ・ウィズプラン推進状況の管理 ・女性団体等への支援 ●市民啓発事業 ・啓発講座の実施 ●審議会等の委員への女性の積極的登用 ・審査会の開催 ●女性相談事業(DV相談など) ・相談窓口の周知と体制の整備 <啓発講座の参加者数:351人> <女性相談件数:102件>		⇒ ⇒ ⇒ ⇒ <啓発講座の参加者数:232人> <女性相談件数:80件>			⇒ 第5次ウィズプランの策定 ⇒ ⇒ ⇒ <啓発講座の参加者数:479人> <女性相談件数:54件>			⇒ ・ウィズプラン推進状況の管理 ・女性団体等への支援 ⇒ ⇒ ⇒ <啓発講座の参加者数:423人> <女性相談件数:42件>			
直接事業費	決算額	3,861	千円	決算額	841	千円	決算額	4,908	千円	決算額	396	千円
	うち一般財源	3,861	千円	うち一般財源	841	千円	うち一般財源	4,908	千円	うち一般財源	396	千円

【達成目標3】平和について考え, 平和な社会を築こうとする意識の高揚(※③)

達成目標3の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
平和祭参加者のアンケートで「とてもよかった」「よかった」という回答の割合	単位	目標		90.0以上	95.0	97.0	98.0	100.0
	%	実績	—	99.0	95.6	95.0	—	—
		達成率		110.0%	100.6%	97.9%	—	—

達成目標3の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	707	千円	1,154	千円	1,098	千円	1,014	千円
うち一般財源	707	千円	1,154	千円	1,098	千円	1,014	千円

8		戦没者遺族等援護等事業											
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
戦没者の遺族、戦傷病者等及び市民		先の戦争による戦没者遺族等が心やすらかに生活できるよう支援するとともに、平和の大切さを広く市民に伝える。				市主催の戦没者追悼式を開催し、戦争犠牲者を追悼するとともに、平和の大切さを広く市民に伝え、訴える。 戦没者の遺族、戦傷病者等に対する特別弔慰金等の給付業務を円滑に実施する。							
		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度					
取組内容		・戦没者追悼式事業 (参加者120人) ・第11回特別弔慰金(247人)		⇒ (参加者160人) ・第11回特別弔慰金(223人)		⇒ (参加250人) ・第11回特別弔慰金(76人)		⇒ (参加250人) ・第11回特別弔慰金(11人)					
直接事業費		決算額	654	千円	決算額	688	千円	決算額	710	千円	決算額	675	千円
		うち一般財源	654	千円	うち一般財源	688	千円	うち一般財源	710	千円	うち一般財源	675	千円

9		平和事業											
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民(特に若い世代)		非核平和の考えを子どもを含め、市民に広く啓発し、平和の尊さ、生命の大切さを考える機会を提供し、語り継いでいく。				・平和祭を行い、戦争や原爆の恐ろしさを語り伝えることにより、平和を守ることの大切さや平和がいかにかけがえのないものであるかを市民に広く啓発していく。 ・平和学習として、広島平和記念公園、平和記念資料館等へバス運行を行い、戦争の悲惨さや平和の尊さを学ぶ。 ・原爆死没者鎮魂式並びに平和祈念のつどいの実施や平和行進の支援等、平和活動を行う。・平和関連のパネルを平和祭等で掲示し啓発を行う。							
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		●平和祭 ⇒コロナウィルスの影響により中止 ●非核平和都市宣言の啓発 ・鎮魂式 ・戦争体験等平和の継承事業 ●平和の日の行事 ・かさおか平和の広場での祈念(毎月6日) ●平和学習バス事業 ●ヒロシマ原爆展 ⇒コロナウィルスの影響により中止 ＜鎮魂式参加者数:約60人＞		⇒コロナウィルスの影響により中止 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ＜平和祭参加者数:約100人＞ ＜鎮魂式参加者数: 42人＞ ＜平和学習バス参加者数: 24人＞			⇒平和祭 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ＜平和祭参加者数:約170人＞ ＜鎮魂式参加者数: 約43人＞ ＜平和学習バス参加者数: 38人＞			⇒平和祭 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ＜平和祭参加者数:141人＞ ＜鎮魂式参加者数:43人＞ ＜平和学習バス参加者数:42人＞			
直接事業費		決算額	53	千円	決算額	466	千円	決算額	388	千円	決算額	339	千円
		うち一般財源	53	千円	うち一般財源	466	千円	うち一般財源	388	千円	うち一般財源	339	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

令和2年度				令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	21,866	千円		19,207	千円	19,795	千円	17,120	千円
うち一般財源	18,749	千円		16,331	千円	16,635	千円	14,024	千円

＜5.前年度の委員コメントに対する対応・回答＞

委員コメント	対応・回答
戦没者・平和については薄れていくこともありますが、引き続き他人事と思わず自分事と思えるように、様々な人権の尊重をお願いしたいです。毎年命や人権など素晴らしい研修を行っていただきありがとうございます。これからも市民に届くようご尽力お願いします。	→ 戦没者や平和に関する事業については、戦争経験者・被爆者の高齢化に伴い、今後益々若い世代への啓発が必要だと考えます。SNS等を活用し、若い世代も参加しやすい事業を検討し、平和の尊さや命の大切さについて引き続き啓発していきます。
ウクライナ難民の受入れ等、できることは実施している印象です。今後も期待しています。	→ ウクライナ避難民の受入れについては、地域住民と協力して生活全般を支援し、広報誌やホームページ、メディア等で情報発信したことにより、多くの方からご支援をいただくことができました。今後も、新たな人権課題に対しても積極的に取り組み、市内外へ積極的に発信していくことで、市民の理解増進に繋げていきます。
人気の講師や、多くの市民が興味を持たれる方などを招聘して様々な講演会を実施されており、聴講希望者も多いようで、市民意識の向上に役立っていると感じます。	→ 市民のニーズを踏まえ、時代に即応した人権課題についての研修会や講演会を実施し、多くの方に参加していただくことで、正しい人権感覚を広めていき、市民の人権意識の高揚を図ります。
目標指標をほぼ一緒に若干達成している事業が多いように見えます。コロナ禍をすぎるともっと増えるのではないかと考えますので、さらに充実をしてください。	→ 目標指標の達成に向けて、前年度事業の検証結果や参加者のアンケート結果を基に、事業内容の工夫や見直しを行い、事業のさらなる充実を図ります。
LGBTQについて知っている市民の割合がR2年に比べ倍ほど増え、7年の目標値までもクリアしました。ご尽力の賜物です。引き続き、互いを認め合う社会となるよう意識啓発をお願いします。「人権尊重・男女共同参画の推進」の満足度(市民意識調査)にも反映されてくることと思います。人権週間のつどい講演会、笠岡市人権文化祭については魅力あるテーマ・講師で参加者が多かったようです。引き続きよろしく願いいたします。平和活動は平和祭や平和学習などありますが、地元笠岡と戦争の話(北木島の金風呂空襲)など聞く機会があれば更に理解が深まるかと思えます。	→ LGBTQについては、職員を始め、市民向け、高校生向けにも研修や出前講座を行っています。また、令和4年度に導入したパートナーシップ宣誓制度について、周知を図ってきたことも性的マイノリティへの理解増進の一助となっていると考えています。多様性を認め合い、自分らしく生きることができる社会を目指し、引き続き啓発に努めます。各種講演会等についても、参加者の印象に残り理解が深まるような内容を検討し実施します。
吉田文化会館の果たす役割は大きいと思いますが、誰でもが、いつでも学習できるように吉田文化交流館として、新しい未来の地域づくり、生涯学習の場としたらどうでしょうか。	→ 吉田文化会館では、現在子どもは学習会、硬筆習字、英会話教室を、大人はフラダンス、木彫、俳句教室や健康体操などで使用しています。引き続き、地域社会全体の中で、福祉の向上や人権啓発の住民交流の拠点となる開かれたコミュニティセンターを目指して活動していきます。

＜6.令和5年度の振返り＞(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

＜7.未達成の指標への対応策＞

未達成指標への対応策	○審議会等委員及びまちづくり協議会役員に占める女性の割合について →関係課への周知を徹底し、審議会等の委員改選前の早い時期に審査会を行い、関係課に積極的な改善を促します。 また、各地区まちづくり協議会へ役員ジェンダーバランスの重要性を説明し、ご協力いただけるよう啓発します。 ○平和祭参加者へのアンケート結果について →前年度事業の検証結果や参加者のアンケート結果を参考に、事業内容の工夫や見直しを行います。 ○吉田文化会館利用者数について →地域住民の交流の場としての事業を充実させ、利用者数の増に繋げていきます。
------------	---

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・実績数が若干減少している事業が多いように見えます。今後もさらに充実をしてください。 ・基本方針に「互いにその人権を尊重しつつ、いきいきと心豊かに共生できる社会の実現を目指します。」とありますが、主担当課である人権推進課には、人権問題の相談場所という役割はあるのでしょうか。あるのであれば周知が必要かと思えます。 ・人権尊重の啓発活動が種々の行事に組み込まれてきていることは、大変良い事だと思います。 ・吉田文化会館利用者が減っています。人権文化祭参加数(4年度は3日間だったのが5年度2日間になったこと)が理由でしょうか。証明書発行件数や図書貸出数もかなり減って来ています。事業費増と合わせて教えてください。 ・今後の対応策をしっかりと考えてくださっています。期待しています。 ・ロシアが軍事侵攻を続けるウクライナから避難した親子を支援するなど、時勢に応じた対応がすばらしかったと思います。引き続き、人権擁護に向けた取組を期待しています。 ・人権意識もLGBTQなど普及に努めておられ、大人の方が難しいこともあります。子供から知っていくことが広がるように感じています。そして今後も必要性を感じます。また戦没者・平和に関して人ごとにならないためにも継続していただき、隣人理解に繋がれば様々な社会に活かされていくように感じ、今後も継続的な一助を願います。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	4-1	施策名	地域福祉の推進	主 担 当 課	まるごと支援推進課
戦略の柱	安定戦略 “安らぐ”				
基本 方針	子どもから高齢者まで、年齢や障害の有無、LGBTQ※など、多様な性にかかわらず、お互いを認め合い、住み慣れた地域で、共に支え、助け合いながら、その人らしく暮らし続けることができるまちづくりを目指します。 ※L:レズビアン(女性の同性愛者)、G:ゲイ(男性の同性愛者)、B:バイセクシャル(男性と女性の両方を好きになる人)、T:トランスジェンダー(身体の性と心の性が一致しない人)、Q:クエスチョニング(自分の性や好きになる性がはっきりしない、決められないあるいは悩んでいる状況にある人等)			関 係 課	地域福祉課 長寿支援課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 目標	R5 実績	R7 目標	R7 目標
生活支援サービス提供団体の数	単位	目標		100	85	86	87	87
	団体	実績	83	87	94	87	—	—
		達成率		87.0%	110.6%	101.2%	—	—
地域で見守り活動する人の数	単位	目標			2,143	2,153	2,165	2,165
	人	実績	2,112	2,104	2,100	2,191	—	—
		達成率			98.0%	101.8%	—	—
在宅での看取りに対応する病院・診療所数	単位	目標		10	11	11	12	12
	箇所	実績	10	12	12	12	—	—
		達成率		120.0%	109.1%	109.1%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】 地域包括ケアシステムの構築(※①②③)

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
生活支援サービス利用件数(延べ数)	単位	目標			926	1,026	1,226	1,226
	件	実績	802	835	1,832	4,053	—	—
		達成率			197.8%	395.0%	—	—
社会活動(趣味等)の開催箇所数	単位	目標			529	534	537	540
	箇所	実績	528	516	505	492	—	—
		達成率			95.5%	92.1%	—	—
施設入所の割合	単位	目標		43.8	43.8	43.8	43.8	43.8
	%	実績	43.8	43.5	43.4	44.0	—	—
		達成率		100.7%	100.9%	99.5%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	149,823	千円	108,749	千円	73,472	千円	75,228	千円
うち 一般財源	61,414	千円	55,544	千円	53,241	千円	54,917	千円

1	地域包括ケアシステム構築事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市民(子どもから高齢者まで、年齢や傷害の有無、性別等の違いに関係なく)			地域の住民が心身の状態が悪化した場合でも、住み慣れた地域において生活を継続できるような仕組みづくりを行う。				地域の実態把握・課題分析を通じて、地域の共通の目標を設定し、関係者間で共有するとともに、その達成に向けた具体的な対策を検討する。					
取組内容	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	●地域ケア会議の開催 ●地域の実態把握体制の構築 ●地域でのネットワークの構築と拡大整備			⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒		
直接事業費	決算額	1,177	千円	決算額	1,043	千円	決算額	1,048	千円	決算額	1,091	千円
	うち一般財源	473	千円	うち一般財源	432	千円	うち一般財源	434	千円	うち一般財源	454	千円

2	認知症対策推進業務											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
施設職員 市民		認知症の正しい理解と、介護のノウハウの熟知					認知症介護研修センターでの研修会や出前講座など委託事業や各団体等からの要請に基づき研修会を開催し、認知症に対する理解と啓発を行なうとともに、介護の知識向上を目指す。 ハートフルセミナーを開催し、地域福祉計画策定に向けて福祉団体、一般市民を対象に講演、実践発表を行う。					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組 内容	●認知症介護研修市民講座事業 ●認知症介護実務者研修事業 ○認知症研修センター委託 バルコニー改修等 4,036千円 ●ハートフルセミナー事業			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ハートフルセミナー中止 (表彰33件、感謝状3件の授与実施)			⇒ ⇒ ⇒ 宿泊棟エアコン取替え 396千円 ⇒ハートフルセミナー事業 (参加者70人、表彰20件、感謝状4件の授与実績)			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ハートフルセミナー事業 (参加者252人、表彰7件、感謝状1件の授与実績)		
直接 事業費	決算額	9,551	千円	決算額	5,453	千円	決算額	5,890	千円	決算額	5,425	千円
	うち 一般財源	6,251	千円	うち 一般財源	5,453	千円	うち 一般財源	5,890	千円	うち 一般財源	5,425	千円

3	障がい福祉制度事務(再掲)											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
障がい者等 (障がい者、障がい児、難病患者、保護者)		障がい者等が必要な障がい福祉制度を利用することにより、自立した日常生活を営み福祉の増進を図る。		◆就労奨励補助金 →障がい者1人につき、地域活動支援センター事業を行う事業所等において生産活動を行った日数に200円を乗じた額を補助 ◆心身障害者扶養共済制度 →知的障がい者(児)を保護している者の万一の場合を考えての保険制度で、一定の掛け金を納めて年金を受け取る制度 ◆障がい者相談員等設置事務 →障がいの当事者や関係者に相談業務を相談者として委託し、相談者への必要な助言・指導・心のケアを図る。 ◆成年後見制度市長申し立て事務 →事情により親族申し立てができない障がい者等の権利擁護を図るため、市長が成年後見申し立てを行う。 ◆障がい福祉サービス事業所への交通費事業費補助事業 →島しょ部の利用者に障がい福祉サービスを提供する事業所への交通費・事業費の補助を行う。 ◆訪問入浴サービス事業 →市内に住所を有する在宅で入浴が困難な者に対して、事業者が自宅を訪問して入浴サービスを提供する。 ◆短期入所サービス拡大促進事業補助金 →重症心身障害児(者)、療養介護対象者及び遷延性意識障害者等が市内で安心して生活できるよう、医療型短期入所事業所の整備・拡充を促進した。 ◆障がい者集いの場施設整備事業 →福祉的就労利用後の集いの場を整備し、障がい者の就労後の居場所確保、保護者の就労支援に寄与した。 ◆避難行動要支援者管理システム運用事業 →情報を登録するとともに同意のもと自主防災組織等に情報提供し避難支援に役立てる。 ◆緊急通報システムNET119→音声言語のコミュニケーションが困難な方が、携帯電話やスマートフォンで火災や救急等の緊急通報を行うシステムを導入。 ◆各種受付事務 ◆障がい者(児)等緊急応援事業 →新型コロナウイルスにより経済的に影響のあった障がい者(児)等を応援するため商品券の配布、インフルエンザワクチン接種助成、手作りマスク配布等を実施した。								
令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・関係機関とのネットワークの強化 ・窓口業務の効率化 ・情報提供の強化 ・就労奨励補助金 支給実人数183人 ・訪問入浴サービス事業 実人数1人 ・短期入所サービス拡大促進事業補助金 事業所 1 ・障がい者集いの場 登録者12 ・避難行動要支援者 同意者数570 ・緊急通報システムNET119 登録者数10 ・障がい者(児)等緊急応援事業 手作りマスク配布対象者1,176人 商品券配布対象者 3,454人 インフル助成対象者 111人			⇒ ⇒ ⇒ 支給実人数 190人 ⇒ 実人数 3人 ⇒・短期入所サービス拡大促進事業補助金 事業所 1 ・障がい者集いの場 登録者12 ・避難行動要支援者 同意者数566 ・緊急通報システムNET119 登録者数11 ・障がい者(児)等緊急応援事業 商品券配布対象者 3,463人			⇒ ⇒ ⇒ 支給実人数 199人 ⇒ 実人数 3人 ⇒・短期入所サービス拡大促進事業補助金 事業所 2 ・障がい者集いの場 登録者12 ・避難行動要支援者 同意者数577 ・緊急通報システムNET119 登録者数11			⇒ ⇒ ⇒ 支給実人数 204人 ⇒ 実人数 1人 ⇒・短期入所サービス拡大促進事業補助金 事業所 2 ・障がい者集いの場 登録者13 ・避難行動要支援者 同意者数432 ・緊急通報システムNET119 登録者数11		
	直接事業費	決算額	92,394	千円	決算額	57,481	千円	決算額	29,890	千円	決算額	33,483
	うち一般財源	27,087	千円	うち一般財源	23,501	千円	うち一般財源	20,978	千円	うち一般財源	24,390	千円

4	民生委員・児童委員活動支援事業業務												
事務事業の目的							事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
民生委員 児童委員		地域福祉活動の充実・向上のため、委員の資質を高めるとともに、円滑な活動ができるように支援する。					情報交流を図るための理事会を開催する。 各種研修会を実施する。 個人情報提供のための取組を行う。						
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		・個人情報提供の継続 ・研修機会の充実 ・市協議会理事会及び地区協議会定例会の開催による情報共有を進める。 ・民生委員の一斉改選			⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ・民生委員の一斉改選			⇒ ⇒ ⇒		
直接事業費		決算額	9,851	千円	決算額	9,975	千円	決算額	10,565	千円	決算額	10,143	千円
		うち一般財源	5	千円	うち一般財源	161	千円	うち一般財源	790	千円	うち一般財源	221	千円

5	社会福祉事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市民		ノーマライゼーションの理念で支えられた地域社会で安全で快適に生きがいを持って生活ができるようにする。					地域福祉に寄与する団体に補助金を交付する。 団体の活動拠点であるボランティアハウス、高齢者福祉の拠点である老人福祉センターの管理事務を委託。 令和5年度に第3次笠岡市地域福祉計画を策定する。					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・老人福祉センター管理委託 ・各種団体・協議会補助 ・ふれあいハウス管理委託 〈老人福祉センター利用者16,495人〉 老人福祉センター外壁・舗装工事 11,528千円			⇒ ⇒ ⇒ 〈老人福祉センター利用者15,661人〉 老人福祉センター外壁工事(事故繰越し) 9,823千円			⇒ ⇒ ⇒ ・第3次笠岡市地域福祉計画の策定に係るアンケート調査 〈老人福祉センター利用者19,202人〉			⇒ ⇒ ⇒ 〈老人福祉センター利用者19,978人〉 老人福祉センター大広間屋上防水工事		
直接事業費	決算額	36,850	千円	決算額	34,797	千円	決算額	26,079	千円	決算額	25,086	千円
	うち一般財源	27,598	千円	うち一般財源	25,997	千円	うち一般財源	25,149	千円	うち一般財源	24,427	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

令和2年度			令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	149,823	千円	108,749	千円	73,472	千円	75,228	千円
うち 一般財源	61,414	千円	55,544	千円	53,241	千円	54,917	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
地域福祉として障害や認知症の方々に様々な取り組みをありがとうございます。認知症の予防に対するエビデンスも出始めました。新薬も出ましたが、日常生活で予防できることも多くあるようです。在宅で長く暮らせるようにご家族やご本人の心身ともに負担を軽減できるように推進していただくとともに、障害や認知症になっても安心して許してもらえる社会づくりの推進にこれからもご尽力願います。	障がいがあっても、認知症になっても自分らしく住み慣れた地域でできるだけ暮らし続けることができるよう、これまでの取組の強化・拡大を図るとともに、本人が安心でき、役割を発揮できる居場所や仕組みづくりを進めてまいります。
・地域福祉の推進事業にはよく取り組んでいると考えます。今後も引き続き頑張っ取り組んでいただきたいと思います。	地域福祉計画の基本理念である、誰もがともに支え合い、安心して自分らしく暮らせるまちづくりを目指し、引き続き住民相互の助け合いや支え合いを強化するような取組を進めていきたいと考えております。
認知症患者、精神障がい者、知的障がい者の増加が課題です。 特に誰しもがなる可能性のある認知症については、当事者、家族、地域、多くの市民が知っておけば当たり前のこととして落ち着いて対応できるかと思ひます。介護をする側の身体的・精神的・経済的な不安や心配事を軽減する支援体制についても知っておくと安心です。いかなる人もいかなる状態でも互いに理解し、生き続けたいと思ひえる笠岡市であってほしいと願ひます。 そして高齢者の行方不明時、躊躇なく早めにSOSが出せる風潮になれば早期発見に至ると思ひます。 認知症ひとり歩きSOSネットワーク協力機関・団体ですが、スーパー、コンビニや飲食店、娯楽施設など高齢者が立ち寄りそうなところ、また交通機関、ガソリンスタンド、配達員などにも幅広く登録が進めばよいと思ひます。今後も地域での繋がりにより全ての市民が安心して自分らしく暮らせるよう願ひます。	認知症ひとり歩きSOSネットワーク協力機関・団体について、令和5年度末現在でスーパーやコンビニ、銀行等の33団体が登録をしています。 引き続き、高齢者が立ち寄りそうなお店や交通機関等、幅広い登録と周知を進めていきます。 また障害のある方については、令和5年度に発達障がい、強度障がいの講演会を開催するなどし、市民への正しい知識と理解を深めていただくよう啓発に努めます。 それぞれ課題解決に向けた取組を進めて誰もが暮らしやすい地域となるよう尽力します。
総合評価・達成目標を見ても、活動評価は十分と言えます。これからも地域福祉の原点である市民の幸せ感を充実させてください。	令和7年度から、既存制度の対象となりにくい複合的な生活課題を抱える地域住民を支援する重層的支援体制整備事業が本格実施されることを踏まえ、市内部や関係各外部機関と連携した対応ができるよう取組を進めていき、今まで以上に困りごとを抱えた地域住民に寄り添い、つながりのある地域づくりを進めていきたいと考えております。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の 進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。	B
	B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。	
	C: 施策を構成する事業が一部遅れている。	
	D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	

<7.未達成の指標への対応策>

未達成 指標 への 対応策	社会活動(趣味等)の開催箇所数 長寿支援課や社会福祉協議会、公民館等の実施主体との連携を図りながら、社会活動の場の拡大を促進してまいります。
------------------------	--

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・地域福祉の推進事業にはよく取り組んでいると考えます。今後も引き続き頑張っており取り組んでいただきたいと思います。 ・地域での見守り活動をする人や在宅の看取りに対応する病院など、多くの実績が報告されています。ありがとうございます。これからもノーマライゼーションの狙いが広がるような施策をよろしくお願いします。 ・多くの事業を行っていただき、指標もほぼ達成されているのでAよりのBにしました。認知症対策推進の「ハートフルセミナー」や、老人福祉センターの利用者が年々増加しており、よく頑張られていると感じました。 ・生活支援サービスの利用件数が増えています。提供団体の数は前年度よりも減っていますが大丈夫でしょうか。 ・笠岡市福祉計画なども新たに策定されました。重層的支援体制の整備のためにも、幅広い年齢層で福祉にふれる機会や学ぶ機会を他の課との連携により増やし、地域を担う人づくりに繋がればと思います。 ・認知症の方、知的障がいの方、精神障がいの方を街中で見かける機会が増えました。市民の理解が進み、自然に受け入れるまちづくりができると、本人も支える家族も助かると思います。 ・評価どおり概ね順調に進んでいると感じています。すべての方が「安らぐ」笠岡になるように、引き続き施策の推進をお願いします。 ・子供から高齢者まで誰もが何らかの障がいを抱えることがあっても偏見なく安心して暮らせる笠岡市になるために、今後も認知症や障がいの理解、相互理解や支えるご家族の理解や睡眠の確保などサポートしていただけたらと思います。ご承知かと思いますが特に睡眠に関しては様々な疾患や認知症や精神疾患の発症の原因になっているようです。声に出せない方もいらっしゃる中で様々な関わりの中からサポートをお願いします。また、社会問題となっているケアマネジャーの負担についてです。カスタマーハラスメントや長時間の勤務など支える側のサポートや声を拾える体制づくりもお願いします。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	4-2	施策名	健康づくり	主 担 当 課	健康推進課
戦略の柱	安定戦略 “安らぐ”			関 係 課	危機管理課 市民課 まるごと支援推進課 長寿支援課
基本 方針	市民の健康寿命の延伸に向けて、赤ちゃんから高齢者まで生涯を通じて、それぞれのライフステージに応じた健康づくりに励むことのできる環境をつくるとともに、生活習慣病や要介護状態を早期発見、早期対応できる体制を整え、安心して暮らせるまちを目指します。				

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
健康寿命※(男性)	単位	目標		80.17	79.7	79.7	79.7	79.8
	年	実績	79.6	79.70	79.9	79.9	—	—
		達成率		99.4%	100.3%	100.3%	—	—
健康寿命(女性)	単位	目標		84.65	85.3	85.6	85.8	86.1
	年	実績	84.8	84.40	84.2	84.6	—	—
		達成率		99.7%	98.7%	98.8%	—	—
平均寿命(男性)	単位	目標		81.52	80.9	81.0	81.2	81.3
	年	実績	80.7	80.90	81.10	81.2	—	—
		達成率		99.2%	100.2%	100.2%	—	—
平均寿命(女性)	単位	目標		87.84	88.0	88.2	88.3	88.5
	年	実績	87.7	87.60	86.90	87.4	—	—
		達成率		99.7%	98.8%	99.1%	—	—

※健康寿命とは、「健康寿命の算定方法の指針」に基づいて、「日常生活が自立している期間の平均」という介護保険情報を利用した算出方法で、介護受給者台帳における「要介護2以上」を「不健康」として定義し、過去3年間の人口及び死亡数を用いて算出。

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】自主的な健康づくりの促進(※①)

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
運動習慣者※の増加	単位	目標		45.0	46.8	49.2	51.0	54.0
	%	実績	36.8	40.4	42.2	45.2	—	—
		達成率		89.8%	90.2%	91.9%	—	—
健康ポイント事業への参加者	単位	目標		1,400	1,600	1,900	1,900	1,900
	人/年	実績	—	2,471	3,967	4,474	—	—
		達成率		176.5%	247.9%	235.5%	—	—
週1回以上スポーツをしている人の割合(市民意識調査)	単位	目標		—	38.0	—	42.0	42.0(R6)
	%	実績	34.9	—	38.5	—	—	—
		達成率		—	101.3%	—	—	—
通いの場への参加率	単位	目標		7.0	7.7	7.8	7.9	8.0
	%	実績	6.4	8.0	8.4	8.3	—	—
		達成率		114.3%	109.1%	106.4%	—	—

※運動習慣者とは、1日30分以上、週2回以上を1年行っている者のこと

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	1,530	千円	8,826	千円	13,502	千円	13,494	千円
うち 一般財源	1,500	千円	8,796	千円	13,452	千円	13,444	千円

1	健康増進計画の進行管理業務											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
市民			健康づくりを地域に広める団体を育成し、市民と協働して「地域でのふれあいを通して、いきいきと心豊かに暮らせるまち」づくりを推進する。			「いきいき笠岡21」健康づくり計画の実施 ・「いきいき笠岡21」評価推進委員会の活動支援 「いきいき笠岡21」健康かぶとがにウォーキング大会の実施 「いきいき笠岡21」評価項目と今後の目標値設定 ・「いきいき笠岡21」庁内プロジェクトチームの稼働						
令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	●健康づくり計画(第2期計画)の推進 ・かさおか健康ポイント 新型コロナウイルスの影響により実施していません。 ●食育の推進 ・食育ソフト、食育のホームページを普及啓発 ・栄養成分を表示する店舗の募集 ●保健団体の育成 ・保健団体の活動支援			⇒ ・かさおか健康ポイントの実施 参加者数:2,471名 ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ・かさおか健康ポイントの実施 参加者数:3,967名 ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ・かさおか健康ポイントの実施 参加者数:4,474名 ⇒ ⇒ ⇒		
	決算額	1,530	千円	決算額	8,826	千円	決算額	13,502	千円	決算額	13,494	千円
	うち一般財源	1,500	千円	うち一般財源	8,796	千円	うち一般財源	13,452	千円	うち一般財源	13,444	千円
	直接事業費											

【達成目標2】 病気の発症予防・重症化予防の推進(※②)

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 目標	R6 目標	R7 目標
特定健康診査の受診率	単位	目標		29.0	37.5	40.0	42.5	45.0
	%	実績	35.0	33.8	33.8	34.9	—	—
		達成率		116.6%	90.1%	87.3%	—	—
メタボリックシンドローム該当者及び予備軍の割合	単位	目標		26.4	25.8	25.2	24.6	24.0
	%	実績	30.3	31.9	30.8	31.9	—	—
		達成率		82.8%	83.8%	79.0%	—	—
糖尿病性腎症による年間新規透析導入患者の数	単位	目標		9	5	5	5	4
	人/年	実績	5	1	12	6	—	—
		達成率		900.0%	41.7%	83.3%	—	—
糖尿病有病者の割合	単位	目標			15.0	14.9	14.8	14.7
	%	実績	15.2	15.2	14.7	15.4	—	—
		達成率			102.0%	96.8%	—	—

達成目標2の事業費

令和2年度			令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	154,232	千円	154,362	千円	145,182	千円	144,225	千円
うち一般財源	126,782	千円	125,561	千円	117,905	千円	116,970	千円

2		生活習慣病及び介護予防事業											
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民(健診種類によって異なる)		生活習慣病予備軍の早期発見に努めるとともに、糖尿病など重点対策疾患を予防し、医療費の適正化を図る。 65歳以上虚弱高齢者に介護予防事業を実施して、高齢者の要介護(支援)状態を予防する。				・制度改正に伴う新たな効率的・効果的な健康診査・保健指導体制の充実 ・壮年期の生活習慣病予防のための意識の向上を目指したポピュレーションアプローチの強化 ・高齢者の健康診査と介護予防事業の連携強化							
		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度					
取組内容		●特定健診・特定保健指導の実施 ●保健指導の強化 ●健康相談・教育、訪問の実施 ●健康管理手帳の作成、交付 ●肝炎検査の実施 ●後期高齢者健診の実施 ●歯科保健事業の実施 ●高齢者の見守り訪問		⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒		⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒		⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒					
直接事業費		決算額	45,939	千円	決算額	45,777	千円	決算額	46,207	千円	決算額	47,918	千円
		うち一般財源	27,741	千円	うち一般財源	27,120	千円	うち一般財源	25,698	千円	うち一般財源	26,865	千円

3	がん検診事業											
事務事業の目的												
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
・会社、医療機関等でがん検診を受診しない市民ほか(検診により異なる)			各種がんの早期発見、早期治療により、がん死亡率の減少を図る。 また、早期がんの治療により医療費の削減が図れるため、市民の医療保険料の負担軽減につながる。				・「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針(平成10年3月老人保健課長通知)」に基づき、6種類のがん検診を医師会等と協議しながら実施する。 ・がん死亡率の低減に向けて、がん検診の受診率向上を図るため、集団検診・市内医療機関による個別検診を実施する。					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●各種がん検診の実施 ・女性のがんの節目検診(無料クーポン券発行)、償還払いの実施 ・受診しやすい環境づくり(医療機関による個別検診受診期間の拡大、検診料金の見直し、レディース健診の実施)			⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒		
直接事業費	決算額	54,103	千円	決算額	62,396	千円	決算額	57,435	千円	決算額	57,213	千円
	うち一般財源	49,626	千円	うち一般財源	55,246	千円	うち一般財源	52,919	千円	うち一般財源	52,654	千円

4	健康危機管理対策(感染症予防)事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民		高齢者のインフルエンザ・肺炎球菌予防接種を実施して、感染症の発症を予防する。 風しん抗体保有率の低い年代の男性に対し風しんの追加的対策を実施し風しんの発症を防止する。 また、新型インフルエンザなど新たな感染症に対応するための体制を整える。				・高齢者へのインフルエンザ予防接種の実施 ・高齢者への肺炎球菌予防接種の実施 ・風しん抗体保有率の低い年代の男性に対する風しん抗体検査および予防接種の実施							
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		・インフルエンザ予防接種の実施			⇒			⇒			⇒		
		○風しんの追加的対策の実施			○風しんの追加的対策の実施			○風しんの追加的対策の実施			○風しんの追加的対策の実施		
直接事業費		決算額	53,667	千円	決算額	45,642	千円	決算額	40,998	千円	決算額	38,466	千円
		うち一般財源	49,415	千円	うち一般財源	43,195	千円	うち一般財源	39,288	千円	うち一般財源	37,451	千円

5	公衆衛生対策業務															
事務事業の目的						事務事業の内容										
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)														
飼い犬と飼い主		狂犬病の発生を予防すると同時に蔓延を防ぎ、人間への感染を防止する。				狂犬病予防及び犬の登録										
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度						
取組内容	・ 畜犬の登録管理			⇒			⇒			⇒						
直接事業費	決算額	523		千円	決算額	547		千円	決算額	542		千円	決算額	628		千円
	うち一般財源	0		千円	うち一般財源	0		千円	うち一般財源	0		千円	うち一般財源	0		千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
直接事業費	155,762	千円	163,188	千円	158,684	千円	157,719	千円			
うち一般財源	128,282	千円	134,357	千円	131,357	千円	130,414	千円			

＜5.前年度の委員コメントに対する対応・回答＞

委員コメント	対応・回答
達成目標1の自主的な健康づくりの促進についてですが、素晴らしい指標であるとともに参加者の増加が顕著で素晴らしいと思いました。気になるのは笠岡市に産婦人科がなくなるということです。働き盛りの女性の検診や近くで産み育てられないことは定住にも影響があると思います。何かしらの働きかけをお願いしたいです。	→ 運動習慣のない人に対し運動する意識を生み習慣化するために、インセンティブを付与し、たくさんの方に参加していただくことができています。 笠岡市に産婦人科がなくなるということに関しては、市としても憂慮しています。だれもが安心して医療に係ることができるよう、笠岡市民病院など関係機関と対応を検討していきたいと思います。
アプリ版かさおか健康ポイントはヒットだと思います。引き続き健康増進に向けて期待しています。	→ 健康ポイント事業の参加者は目標以上となり、この事業によって健康意識が高まり、運動習慣が付いた人も増加しています。 この結果を他の指標の向上にもつなげることができるよう、引き続き事業を積極的に取り組み、市民の健康寿命の延伸を目指していきます。
健康ポイント事業の参加者が増え続けているので、財政負担が軽減できるような補助金などがあれば良いなと思います。	→ 運動習慣のない人に対し運動する意識を生み習慣化するために、インセンティブを付与し、たくさんの方に参加していただくことができていますが、今後運動習慣を継続し、自発的に取り組んでいただけるように、事業を工夫していきたいと思います。
・昨年に引き続き、健康づくり等の多くの指標は良いと思います。今後も引き続き頑張っ取り組んでいただきたいと思います。	→ 健康ポイント事業の参加者は目標以上となり、この事業によって健康意識が高まり、運動習慣が付いた人も増加しています。 この結果を他の指標の向上にもつなげることができるよう、引き続き事業を積極的に取り組み、市民の健康寿命の延伸を目指していきます。
健康ポイント事業への参加率が増え素晴らしい。運動習慣者がさらに増え、病気予防につながるとよいと思います。ニュースポーツ体験などで楽しむ中で新たに運動習慣が増えるかもしれません。デイサービスを利用していないこもりがちな高齢者は特に運動から遠のいています。関係課の連携の中で更なる開拓をお願いします。 健康づくりに大きな影響がある食育の推進も引き続きお願いします。子供はもちろん、ひとり暮らしの高齢者や高齢者夫婦への必要性を感じています。お弁当を買ったり、簡単な料理しか作らなかったりと栄養のバランスが偏ってきている傾向があるようです。高齢者給食サービス事業の利用や何かの折の指導があれば健康寿命も伸び助かると思います。	→ 健康ポイント事業では、たくさんの方に参加していただき運動習慣が付いた人も増加しています。より多くの人に参加していただけるよう、関係課と連携し事業を行ってまいります。 また、愛育委員、栄養委員など地域の方々と関わって行う健康教育、栄養教育により総合的に市民の健康寿命の延伸を目指していきます。
運動習慣者の増加はいいことだと思いますが、健康の見返りで十分なはずが、クーポン券目当てでやられている人も多い。自分の健康生活を考えると、見返りを求めないでも行うことができるような取組でありたい。	→ 運動習慣のない人に対し運動する意識を生み習慣化するために、インセンティブを付与し、たくさんの方に参加していただくことができていますが、今後運動習慣を継続し、自発的に取り組んでいただけるように、事業を工夫していきたいと思います。

＜6.令和5年度の振返り＞(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

＜7.未達成の指標への対応策＞

未達成指標への対応策	【糖尿病性腎症における年間新規透析導入患者の数】 糖尿病有病者はあまり変化がありませんが、新規の透析導入患者については、急激に人数が増加しています。令和5年度は、糖尿病重症化予防のため、医師会の先生のご協力を得ながら、普及啓発を行うとともに、健診結果で数値の高い方に対して、保健指導の充実にも努めてまいります。また、未然防止の対策として、特定健康診査の受診勧奨及び、食習慣や運動習慣などの生活習慣の改善につながるよう、健康ポイント等の普及啓発に努めてまいります。
------------	--

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・健康づくり等の多くの指標はほとんど良いと思います。頑張っていると思いますので、今後も引き続き取り組んでいただきたいと思います。 ・健康づくりに通じる健康ポイント事業に参加している方の増加が見られ、大変うれしく感じています。この事業を通して自発的な取組へと変化していけばいいですね。 ・健康ポイント事業への参加者がうなぎ上りで良いことなのですが、財政を逼迫しないか心配です。市民は商品券が良いのかもしれませんが、企業のご協力をいただき健康志向のものや防災用ストックで賞味期限の近くなった非常食などと交換では利用者が減ってしまうでしょうか。事業費が前年度と変わらないので、達成率が低くなったのでしょうか。 ・運動に合わせ食習慣にさらに力を入れて欲しいと思います。時短簡単な健康志向メニューの提案など。 ・健康ポイント事業への参加者が順調に伸びています。手軽に始められる本事業のような施策を引き続き期待しています。 ・健康寿命の為に運動は切っても切れないと思いますが、総合指標も達成されており素晴らしいと思います。笠岡市に資源は多くありながらも働く世代や、お仕事を引退される世代だけでなく子供たちも運動不足になりがちです。健康ポイントに意欲的に取り組まれているネットワークにより仲間を作られている方や引きこもりを防止されている事例をいくつも見聞きました。こういった市民に健康に過ごすためのイベントをこれからも期待しています。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	4－3	施策名	医療・救急体制の整備	主 担 当 課	健康推進課 警防課
戦略の柱	安定戦略 “安らぐ”				
基本 方針	医療関係機関等と連携しながら、地域医療体制、救急医療体制の整備に努め、住む場所や時間に限らず、必要な医療を市民が安心して受けることができるまちを目指します。			関 係 課	市民病院

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
救急出動件数(人口1万人当たり)	単位	目標		528	521	515	508	501
	件/年	実績	501	500	566	616	—	—
		達成率		105.6%	92.0%	83.6%	—	—
救命講習会を受講したことがある人の割合(管内人口に対する割合)	単位	目標		23.5	25.4	26.2	28.1	30.0
	%	実績	21.0	22.0	23.1	24.8	—	—
		達成率		93.6%	90.9%	94.7%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	医療体制の整備(※①②)
---------	--------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
管内医療機関への収容率	単位	目標		50.0	50.8	51.5	52.3	53.2
	%	実績	46.5	46.3	51.3	50.2	—	—
		達成率		92.6%	101.0%	97.5%	—	—
救急活動症例検討会等への救急隊員1人当たりの参加時間	単位	目標		6.0	8.0	10.0	13.0	15.0
	時間	実績	1.0	1.8	3.8	12.1	—	—
		達成率		30.0%	47.5%	121.0%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	10,671	千円	11,167	千円	11,185	千円	12,382	千円
うち 一般財源	9,923	千円	10,419	千円	10,434	千円	11,620	千円

1	救急医療体制整備事業													
事務事業の目的						事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)												
休日に受診を望む市民		日曜・祝祭日・年末年始の医療機関が休みの日でも、市内に内科と外科系それぞれ1医療機関が当番で開院し、急な受診を希望する市民の受診機会を確保する。歯科については、年末年始の受診機会を確保する。				・笠岡医師会と委託契約を締結し、休日当番医制度を実施する。 ・岡山県南西部圏域における二次救急医療体制の整備を図る。								
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度				
取組内容	●医師会・歯科医師会補助金 ・研究研修費用の助成			⇒				⇒				⇒		
	●在宅当番医制事業 ・休日の内科・外科系の診療体制の確保			⇒				⇒				⇒		
	●二次救急医療体制事業 ・県南西部圏域における二次救急体制の整備			⇒				⇒				⇒		
直接事業費	決算額	7,270	千円	決算額	7,231	千円	決算額	7,200	千円	決算額	7,178	千円		
	うち一般財源	6,522	千円	うち一般財源	6,483	千円	うち一般財源	6,449	千円	うち一般財源	6,416	千円		

2	救急業務推進事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
救急救命士及び救急隊			救急現場から医療機関へ患者を搬送するまでの間に救急救命士や救急隊員が行なう応急処置の質を向上させる				・救急業務推進協議会 ・症例検討会					

3	救急救命士等養成事業											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
消防職員		救急現場や救急車内での医師の指示の下、救命処置を施すことができる国家資格である救命救急士を養成し、救命率を向上させる			・救急救命士の資格取得 ・救急救命士の確保 ・高度かつ専門的な教育訓練を実施する。							
		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度				
取組内容	●各種研修会への参加 ・救急救命研修所へ1名派遣(救急救命九州研修所) ●病院実習(救急救命士研修) ・気管挿管実習(30症例1名)(川崎医科大学附属病院) ・ビデオ硬性挿管用喉頭鏡(5症例1名)倉敷中央病院 ・救命士就業前実習(笠岡市民病院1名) ・救急救命士再教育病院実習(笠岡市民病院16名・川崎医科大学附属病院20名・倉敷中央病院4名・金光病院6名)		⇒ ⇒ ・気管挿管実習(30症例3名)(倉敷中央病院、松田病院、岡山ろうさい病院) ・ビデオ硬性挿管用喉頭鏡(5症例1名)川崎医科大学附属病院 ・救命士就業前実習笠岡市民病院2名 ・救急救命士再教育病院実習笠岡市民病院 24名 笠岡第一病院 15名 金光病院 6名 川崎医科大学附属病院 29名 倉敷中央病院 26名		⇒ ⇒ ・気管挿管実習(30症例3名)(倉敷中央病院、川崎医科大学附属病院、岡山労災病院) ・ビデオ硬性挿管用喉頭鏡(5症例2名)(倉敷中央病院、川崎医科大学附属病院) ・救命士就業前実習(笠岡市民病院、川崎医科大学附属病院1名) ・指導救命士長期病院実習(倉敷中央病院、川崎医科大学附属病院各1名30日) ・再教育病院実習(笠岡市民病院 34名、笠岡第一病院 18名、笠岡中央病院 2名、安倍医院 1名、倉敷中央病院 23名、川崎医科大学附属病院 31名)		⇒ ⇒ ・気管挿管実習(30症例3名)(倉敷中央病院、川崎医科大学附属病院、松田病院) ・ビデオ硬性挿管用喉頭鏡(5症例2名)(川崎医科大学附属病院) ・救命士就業前実習(笠岡市民病院、川崎医科大学附属病院4名) ・再教育病院実習(笠岡市民病院 24名、笠岡第一病院 16名、金光病院 7名、倉敷中央病院 28名、川崎医科大学附属病院 24名)					
	決算額	2,657	千円	決算額	3,501	千円	決算額	3,618	千円	決算額	3,577	千円
直接事業費	うち一般財源	2,657	千円	うち一般財源	3,501	千円	うち一般財源	3,618	千円	うち一般財源	3,577	千円

4	救急資機材等整備事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
地域住民		救急資機材を整備し、救命率を向上させる					救命処置用資機材の更新整備					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●救急資機材の更新整備 (感染防護衣)			⇒救急資機材の更新整備 (感染防護衣)			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	727	千円	決算額	411	千円	決算額	347	千円	決算額	1,613	千円
	うち一般財源	727	千円	うち一般財源	411	千円	うち一般財源	347	千円	うち一般財源	1,613	千円

【達成目標2】 島しょ部における医療体制の整備(※①③)

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
島しょ部診療所(医科・歯科)数	単位	目標		9	9	9	9	9
	箇所	実績	9	9	9	9	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%	—	—
救急隊が救急患者へ接触するまでの時間	単位	目標		45	45	45	45	45
	分	実績	41	40	51	39	—	—
		達成率			112.5%	88.2%	115.4%	—

達成目標2の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	47,146	千円	45,595	千円	41,466	千円	45,603	千円
うち一般財源	47,146	千円	45,595	千円	41,466	千円	45,603	千円

5	へき地診療所事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
島しょ部住民		・島しょ部住民等の診療を行い、医療業務を円滑に実施する。				・六島、白石島、高島、飛島、北木島住民等の診療を行う。 ・患者輸送艇の運航							
取組内容	令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	★●患者輸送艇運航 ★○へき地診療所運営 ・H27.8 白石島診療所開所				⇒ ⇒			⇒ ⇒			⇒ ⇒		
直接事業費	決算額	17,605	千円	決算額	16,248	千円	決算額	15,769	千円	決算額	19,295	千円	
	うち一般財源	17,605	千円	うち一般財源	16,248	千円	うち一般財源	15,769	千円	うち一般財源	19,295	千円	

6	真鍋島直営診療所施設運営事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
島しょ部住民			・島しょ部住民等の診療を行い、医療業務を円滑に実施する。				・真鍋島住民等の診療を行う。					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	★○直営診療所運営			⇒			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	27,775	千円	決算額	27,213	千円	決算額	23,397	千円	決算額	25,079	千円
	うち一般財源	27,775	千円	うち一般財源	27,213	千円	うち一般財源	23,397	千円	うち一般財源	25,079	千円

7	離島救急患者輸送委託事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
島嶼部住民		救急患者が発生した際、住民の負担を軽減し、保健を向上させる				離島において救急患者が発生した際、救急患者輸送委託をした船舶で、患者を輸送し、輸送後救急隊が引継ぎ医療機関へ搬送する。						
令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度				
取組内容	★●離島救急患者輸送委託 106件			⇒ 135件			⇒ 134件			⇒ 69件 (令和5年1月1日～6月30日)64件 (令和5年7月1日～12月31日)5件		
直接事業費	決算額	1,766	千円	決算額	2,134	千円	決算額	2,300	千円	決算額	1,229	千円
	うち一般財源	1,766	千円	うち一般財源	2,134	千円	うち一般財源	2,300	千円	うち一般財源	1,229	千円

【達成目標3】市民病院の経営改善(※④)

達成目標3の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
病床稼働率	単位	目標			85.0	90.0	90.0	90.0
	%	実績	70.6	90.9	95.6	97.5	—	—
		達成率			112.5%	108.3%	—	—
医業収入に対する人件費率	単位	目標			75.0	61.8	63.4	70.0
	%	実績	89.5	71.5	60.6	63.7	—	—
		達成率			123.8%	97.0%	—	—
医業収支比率	単位	目標		75.5	80.8	94.1	94.4	83.8
	%	実績	67.9	84.5	93.8	95.0	—	—
		達成率		111.9%	116.1%	101.0%	—	—
経常収支比率	単位	目標		94.2	98.9	109.6	109.3	102.3
	%	実績	96.7	109.1	119.1	116.0	—	—
		達成率		115.8%	120.4%	105.8%	—	—

達成目標3の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	1,951,426	千円	2,011,487	千円	2,054,099	千円	1,960,966	千円
うち 一般財源	363,900	千円	382,000	千円	469,176	千円	474,805	千円

8	市民病院運営事業											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
地域住民		笠岡地区を中心に地域医療を担い、安心して暮らせるようにする		・内科、循環器内科、呼吸器内科、外科、消化器内科、整形外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、小児科、リハビリテーション科、放射線科による診療 ・各種健診事業 ・島しょ部診療所への医師の派遣								
令和2年度		令和3年度		令和4年度				令和5年度				
●病院事業 ・病棟再編(3病棟→2病棟) ・新型コロナウイルス感染症関連事業(新型コロナウイルス入院病棟設置、帰国者・接触者外来(発熱外来)設置、新型コロナウイルス基本型接種施設設置) ●市民病院改革プランの実施 ・施設基準の見直し (脳血管疾患等リハビリテーション科Ⅰ、地域包括ケア入院医療管理料1、急性期看護補助体制加算50対1、20対1医師事務作業補助体制加算1、がん治療連携指導料など)		⇒ ・民間病院を経営する理事長を病院事業管理者兼院長に招聘し経営改善と診療体制強化を実施 ・新型コロナウイルス感染症関連事業(新型コロナウイルス即応病床指定(フェーズ1 中等症11床)、発熱外来、新型コロナウイルス基本型接種施設) ⇒ ・施設基準等の見直し (リハビリマネジメント加算(A)イ(B)イ、オンライン診療、がん患者リハビリテーション料)		⇒ ・昨年度招聘した病院事業管理者のもと経営改善と診療体制強化を実施 ・新型コロナウイルス感染症関連事業(新型コロナウイルス感染症の重点医療機関の指定、新型コロナウイルス即応病床指定(フェーズ1 中等症11床)、発熱外来、新型コロナウイルス基本型接種施設) ⇒ ・施設基準等の見直し (感染対策向上加算2、腎臓移植に関する医療(自立支援医療)の指定、移植後抗体関連型拒絶反応治療における血漿交換療法、別添1の「第14の2」の1の(3)に規定する在宅療養支援病院など)				⇒ ・新型コロナウイルス感染症の感染症法5類移行後も引き続き発熱外来設置 ・施設基準等の見直し 新たに採用した外科医による肝臓移植患者の更生医療				
直接 事業費	決算額 (人件費含む)	1,951,426	千円	決算額 (人件費含む)	2,011,487	千円	決算額 (人件費含む)	2,054,099	千円	決算額 (人件費含む)	1,960,966	千円
	うち 笠岡市負担分	363,900	千円	うち 笠岡市負担分	382,000	千円	うち 笠岡市負担分	469,176	千円	うち 笠岡市負担分	474,805	千円

【達成目標4】市民への医療に関わる普及啓発の推進(※⑤⑥)

達成目標4の指標			目標・実績の推移					
指標名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
救命講習会の参加者数	単位	目標		1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
	人/年	実績	747	560	675	1,003	—	—
		達成率		46.7%	56.3%	83.6%	—	—
心肺蘇生法、AED取扱指導受講者数	単位	目標		2,200	2,200	2,200	2,200	2,200
	人/年	実績	408	892	1,113	904	—	—
		達成率		40.5%	50.6%	41.1%	—	—
救マーク認定事業所数	単位	目標		58	63	65	67	68
	事業所	実績	53	56	62	66	—	—
		達成率		96.6%	98.4%	101.5%	—	—
救急搬送人員に占める軽症者※の割合	単位	目標		41.0	39.0	36.5	35.3	34.0
	%	実績	41.8	40.6	40.6	40.4	—	—
		達成率		101.0%	96.1%	90.3%	—	—

※軽症者とは、入院を要しない傷病者をいう

達成目標4の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	649	千円	666	千円	685	千円	771	千円
うち一般財源	649	千円	666	千円	685	千円	771	千円

9	応急手当等普及・啓発事業											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
地域住民		市民による初期の応急処置によって救命率の向上を図る			・地域住民対象の講習会実施 ・事業所への応急手当普及啓発 ・コンビニエンスストアへAEDを設置							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●応急手当普及員の養成			⇒			⇒			⇒		
	●応急手当指導員の養成			⇒			⇒			⇒		
	●各事業所に対する応急手当の普及啓発活動の推進			⇒			⇒			⇒		
	●普通救命講習会(上級・Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ)の開催			⇒			⇒			⇒		
	●市内の24時間営業店舗(13箇所)及び島しょ部消防機庫(9箇所)へのAED設置・管理			●市内の24時間営業店舗(14箇所)及び島しょ部消防機庫(9箇所)へのAED設置・管理			●市内の24時間営業店舗(14箇所)及び島しょ部消防機庫(9箇所)へのAED設置・管理			●市内の24時間営業店舗(15箇所)及び島しょ部消防機庫(9箇所)へのAED設置・管理		
直接事業費	決算額	649	千円	決算額	666	千円	決算額	685	千円	決算額	771	千円
	うち一般財源	649	千円	うち一般財源	666	千円	うち一般財源	685	千円	うち一般財源	771	千円

10	救急車適正利用促進事業											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市民		緊急性が低い軽症の病気の人に対する出動回数を減らし、限られた救急車を有効に活用し、適切な行政サービスが行えるようにする。			救急車適正利用の広報・啓発							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●広報紙掲載 ・広報紙及びホームページでの適正利用啓発 ●ケーブルテレビによる啓発 ・ケーブルテレビによる適正利用啓発 ●各種講習会での啓発			⇒	⇒			⇒	⇒			
				⇒								
				⇒								
				⇒								
直接事業費	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円
	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	2,009,892	千円	2,068,915	千円	2,107,435	千円	2,019,722	千円
うち一般財源	421,618	千円	438,680	千円	521,761	千円	532,799	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
笠岡市の医療救急体制にご尽力いただきありがとうございます。救急搬送に関しての悲しいニュースを見て残念に思いました。様々な連絡もあるかと思いますが、迅速な対応できるようお願いします。笠岡市に産婦人科がなくなります。産み育てる女性の移住を増やしたいと考える笠岡市に産婦人科がないことは大きな痛手のように思います。市民病院では厳しいのでしょうか。ご検討いただけたらと思います。	→【警防課】 救急現場到着の遅延により市民の皆様方に多大なご迷惑とご心配をお掛けいたしました。職員間で情報共有と検証を行ってきたところですが、今後も職員の意識改革に努め、現場活動において迅速機敏な対応となるよう努めて参ります。
救急艇の導入により、島しょ部の皆さんの安心安全はかなり進んだと思います。引き続き、市民の「安らぐ」に向けて期待しています。	→【警防課】 令和5年7月1日(土)から、救急艇「みたけ」を運航し、島しょ部における救急活動を開始いたしました。 → 今後も引き続き、救急艇の安全運航に努めるとともに、島しょ部の皆様方の救命率向上のため、また、安らいだ暮らしをしていただけるよう、全力で救急活動に取り組んで参ります。
現着遅れの報道を拝見しました。日々大変だとは思いますが、市民の安心安全のために、今一度気を引き締めていただきたいと思います。	→【警防課】 救急車は命を救うため一刻を争う、重要な役割を果たしており、この度の事案を真摯に受け止め、今後、このような遅延を繰り返さないよう、職員が一丸となって再発防止に努めて参ります。
・令和3年度の評価がAで、今回の担当部署の自己評価がCと落ち込んでいます。多くの講習会等がコロナ禍により中止となったとありますが、それよりもよく頑張ったのではないかと思います。	→【警防課】 救急医療体制の整備を充実させ市民が安全で安心した暮らしを実現させるため、様々な講習会や検討会に取り組んでいるところです。 → 参加者が受講したい、受講してよかったと思うような講習会となるよう、内容を充実させるとともに、市民への応急手当等の普及・啓発の推進に努めて参ります。
救急出動件数が昨年度よりも増えてしまいましたが、軽症者の割合は減っていることから本当に必要な方の利用が多かった年だったということでしょうか。お疲れ様でした。 コロナ禍で忙しい中でも昨年度よりも講習会や検討会への参加率が増えたことに感謝いたします。状況を見ながら達成率に近づくようお願いします。 の救急患者へ接触するまでの時間がかかなり長くなっています。なにか理由があったのでしょうか。新たに救急艇「みたけ」が導入されました。今後に期待しています。 また市民病院が経営改善がさらに進んでいることは素晴らしいと思います。	→【警防課】 救急出動件数の増加に対し軽症者の搬送割合が減少したことについて、救急車の適正利用を広報誌やホームページなどでアナウンスしております。そうした促進の効果が少しではありますが現れてきたものではないかと考えます。 → 限りある救急車を緊急性の高い事案に優先して投入できるよう、継続して救急車の適正利用について呼びかけて参ります。 島しょ部における救急事案で、救急隊が救急患者へ接触するまでの時間については、救急委託船が出港する母港の位置や、救急現場である各島々の距離により大きく変わってくることから、救急患者へ接触するまでの平均時間に差異が生じたものと考えます。 新たに救急艇が導入されたことから、早期の接触及び迅速な観察が行えるよう、救急艇による訓練を積み重ね、島しょ部の救急体制に万全を期して参ります。
経常収支も安定してきているようです。これからもこの体制を維持して、市民の求められている「明るい病院」「親しまれる病院」を目指して、頑張ってください。	→ 地域の皆様の生命と健康を守るプライドを持ち、患者様ファーストと引き続き安定した病院経営の両立を目指します。

<6.令和5年度の振り返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

<7.未達成の指標への対応策>

未達成指標への対応策	未達成であった指標を分析してみますと、救命講習会や心肺蘇生法などの講習会への参加者数が目標値の達成とはなりませんでしたが、今後も継続して様々な媒体を活用し、講習会等への参加を積極的に呼びかけ、また、有意義で魅力ある効果的な講習会が開催されるよう、市民への応急手当等の普及・啓発の推進に努めて参ります。
------------	--

<8.委員による評価結果>

総合評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・前々回令和3年度の施策評価はA、前回令和4年度と今回令和5年度の施策評価はB評価となっていますが、市民病院の経営改善の数値は良くなっています。さらに離島救急患者輸送船「みたけ」が就航していますので、安心できます。今後も引き続き頑張っていたきたいと思います。 ・市民病院の改築も決まりありがとうございます。明るく親しみやすい雰囲気、院内での買い物もできるようになると多くの人が利用しやすくなりますね。 ・救急出動件数が増えています。高齢化で全国的にも増加の傾向のようですが、市民の理解が大切です。救急隊員の救急活動症例検討会などへの参加を熱心にしてくださりありがとうございます。現場で生かしていただければと思います。 ・救急艇みたけが島民の安心に繋がったようです。病院がない観光地に行く時には不安があります。観光客にも周知できればよいと思います。 ・市民病院の経営状態が改善し安心です。出産に関しては安心できるサポートをお願いします。 ・新しい救急艇の運用が始まり、離島の救急体制がさらに充実したように思います。引き続き、医療・救急体制の整備を期待しています。 ・救急出動に関しては誤報もあるかもしれませんが、少子高齢化に伴いますますます増えてくることも考えられます。昼夜ともに第一線で対応して下さる方々に感謝です。市民病院についてです。今後立て直しの話が上がっていますが、高度医療に関しては近隣の医療機関との連携があり、身近な主治医は診療所があり、市民病院の必要性はどんなところでしょうか。大変ご高齢のお医者様が診察されることで判断もつかず、医療事務の方にお薬のアドバイスを伺っている様子を目の当たりにし、存続の意義に疑問があります。療養型や夜間対応など今後本当に必要な診療のみで縮小規模で立て直すか、もしくは市内の医療機関の連携でまかなうことは難しいのでしょうか。市民病院の建て替えにかかる負債に費用対効果があるのか疑問が残ります。			

令和6年度 施策評価シート

＜1.施策の概要＞

施策No.	4-4	施策名	障がい者・障がい児福祉の充実	主担当課	地域福祉課
戦略の柱	安定戦略 “安らぐ”				
基本方針	ノーマライゼーションの理念の下、障がい者・障がい児が、必要とする障がい福祉サービス・障がい児通所支援サービス等の支援を受けつつ、住み慣れた地域社会で自立して生活し、全ての市民と共に参加できるまちを目指します。			関係課	建設管理課 都市計画課

＜2.総合指標＞

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
「障がい者福祉の充実」の満足度（市民意識調査）	単位	目標		—	2.6	—	2.8	2.8(R6)
		実績	2.5	—	0.8	—	—	—
	%	達成率	—	—	30.8%	—	—	—
障がい者の法定雇用率の対象事業所の障がい者の雇用率	単位	目標			1.98	1.99	2.00	2.01
		実績	1.96	2.00	1.90	2	—	—
	%	達成率			96.0%	113.1%	—	—

※障害者の法定雇用率の対象事業主の範囲は、従業員43.5人以上でしたが、令和6年4月1日から従業員45.0人以上に変更になっている。

＜3.施策を構成する事務事業の概要＞

【達成目標1】理解と交流の促進（※①②）

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
理解を深める研修、支援者の事例検討等への参加者数	単位	目標		139	139	139	139	139
		実績	89	89	302	163	—	—
	人／年	達成率		64.0%	217.3%	117.3%	—	—
障害関連イベント参加者数	単位	目標		269	489	389	389	389
		実績	89	326	815	529	—	—
	人／年	達成率		121.2%	166.7%	136.0%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	92,394	千円	57,481	千円	29,890	千円	33,483	千円
うち一般財源	27,087	千円	23,501	千円	20,978	千円	24,390	千円

1	障がい福祉制度事務											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
障がい者等 (障がい者、障がい児、難病患者、保護者)		障がい者等が必要な障がい福祉制度を利用することにより、自立した日常生活を営み福祉の増進を図る。		◆就労奨励補助金 →障がい者1人につき、地域活動支援センター事業を行う事業所等において生産活動を行った日数に200円を乗じた額を補助 ◆心身障害者扶養共済制度 →知的障がい者(児)を保護している者の万一の場合を考えての保険制度で、一定の掛け金を納めて年金を受け取る制度 ◆障がい者相談員等設置事務 →障がいの当事者や関係者に相談業務を相談者として委託し、相談者への必要な助言・指導・心のケアを図る。 ◆成年後見制度市長申し立て事務 →事情により親族申し立てができない障がい者等の権利擁護を図るため、市長が成年後見申し立てを行う。 ◆障がい福祉サービス事業所への交通費事業費補助事業 →島しょ部の利用者に障がい福祉サービスを提供する事業所への交通費・事業費の補助を行う。 ◆訪問入浴サービス事業 →市内に住所を有する在宅で入浴が困難な者に対して、事業者が自宅を訪問して入浴サービスを提供する。 ◆短期入所サービス拡大促進事業補助金 →重症心身障害児(者)、療養介護対象者及び遷延性意識障害者等が市内で安心して生活できるよう、医療型短期入所事業所の整備・拡充を促進した。 ◆障がい者集いの場施設整備事業 →福祉的就労利用後の集いの場を整備し、障がい者の就労後の居場所確保、保護者の就労支援に寄与した。 ◆避難行動要支援者管理システム運用事業 →情報を登録するとともに同意のもと自主防災組織等に情報提供し避難支援に役立てる。 ◆緊急通報システムNET119→音声言語のコミュニケーションが困難な方が、携帯電話やスマートフォンで火災や救急等の緊急通報を行うシステムを導入。 ◆各種受付事務 ◆障がい者(児)等緊急応援事業 →新型コロナウイルスにより経済的に影響のあった障がい者(児)等を応援するため商品券の配布、インフルエンザワクチン接種助成、手作りマスク配布等を実施した。								
				令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		
取組内容				・関係機関とのネットワークの強化 ・障害者支援制度の改善、拡充の要望 ・窓口業務の効率化 ・情報提供の強化 ・就労奨励補助金 支給実人数 183人 ・訪問入浴サービス事業 実人数 1人 ・短期入所サービス拡大促進事業補助金 事業所 1 ・障がい者集いの場 登録者12 ・避難行動要支援者 同意者数570 ・緊急通報システムNET119 登録者数10 ・障がい者(児)等緊急応援事業 手作りマスク配布対象者 1,176人 商品券配布対象者 3,454人 インフル助成対象者 111人		⇒ ⇒ 支給実人数 190人 ⇒ 実人数 3人 ⇒・短期入所サービス拡大促進事業補助金 事業所 1 ・障がい者集いの場 登録者12 ・避難行動要支援者 同意者数566 ・緊急通報システムNET119 登録者数11 ・障がい者(児)等緊急応援事業 商品券配布対象者 3,463人		⇒ ⇒ 支給実人数 199人 ⇒ 実人数 3人 ⇒・短期入所サービス拡大促進事業補助金 事業所 2 ・障がい者集いの場 登録者12 ・避難行動要支援者 同意者数577 ・緊急通報システムNET119 登録者数11		⇒ ⇒ 支給実人数 204人 ⇒ 実人数 1人 ⇒・短期入所サービス拡大促進事業補助金 事業所 2 ・障がい者集いの場 登録者13 ・避難行動要支援者 同意者数432 ・緊急通報システムNET119 登録者数11		
直接事業費	決算額	92,394	千円	決算額	57,481	千円	決算額	29,890	千円	決算額	33,483	千円
	うち一般財源	27,087	千円	うち一般財源	23,501	千円	うち一般財源	20,978	千円	うち一般財源	24,390	千円

【達成目標2】障がい者・障がい児への支援の充実(※③)

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
訪問系サービスの月間実利用者数	単位	目標		94	95	95	95	96
	人／月	実績	77	83	100	82	—	—
		達成率		87.9%	105.3%	86.3%	—	—
日中活動系サービスの月間実利用者数	単位	目標		410	428	430	433	436
	人／月	実績	389	405	423	432	—	—
		達成率		98.8%	98.8%	100.5%	—	—
障がい児通所支援の月間実利用者数	単位	目標		208	215	220	222	222
	人／月	実績	223	254	294	327	—	—
		達成率		122.1%	136.7%	148.6%	—	—
就労支援を利用して、一般就労に移行した延べ人数	単位	目標		86	88	90	92	94
	人	実績	84	89	91	92	—	—
		達成率		103.5%	103.4%	102.2%	—	—
就労継続支援事業所と連携している(農福連携)農業者数	単位	目標			12	12	13	15
	所	実績	10	10	10	11	—	—
		達成率			83.3%	91.7%	—	—

達成目標2の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	1,416,877	千円	1,487,772	千円	1,571,780	千円	1,677,671	千円
うち一般財源	383,948	千円	380,961	千円	425,153	千円	456,423	千円

2	障がい福祉サービス事業											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
障がい者(児)		障がい者等がその有する能力及び適性に応じ、自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、必要な障がい福祉サービスに係る給付その他の支援を行い、もって障がい者及び障がい児の福祉の増進を図る。		◆障がい福祉サービス費給付→障害者総合支援法による障がい福祉サービス費の給付◆障がい児サービス費給付→児童福祉法による障がい児通所サービス費の給付◆補装具費給付→義肢、装具、車いす等の給付◆自立支援医療→精神通院医療、更生医療、育成医療の医療給付◆地域生活支援事業→市が創意工夫により、利用者の状況に応じて柔軟に実施する事業◆障がい者虐待防止事業→障がい者虐待防止センターの設置、事例対応を行う。◆障がい者就労促進事業→障がい者の一般就労を支援するため、民間企業を含め関係機関と連携を図る。								
令和元年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度				
取組内容	●訪問系、居宅系、日中活動系サービス事業		⇒			⇒			⇒			
	●相談支援事業		⇒			⇒			⇒			
	●意思疎通支援事業		⇒			⇒			⇒			
	●社会参加促進事業		⇒			⇒			⇒			
取組内容	●日常生活用具給付事業		⇒			⇒			⇒			
	給付件数 1,555件		⇒給付件数 1,496件			⇒給付件数 1,580件			⇒給付件数 1,620件			
	●日中一時支援事業		⇒			⇒			⇒			
	実利用人数 61人		⇒実利用人数 57人			⇒実利用人数 64人			⇒実利用人数 61人			
取組内容	●移動支援事業・生活支援事業		⇒			⇒			⇒			
	実利用人数 133人		⇒実利用人数 121人			⇒実利用人数 135人			⇒実利用人数 153人			
	●地域活動支援センター事業		⇒			⇒			⇒			
	・障がい者虐待防止事業		⇒			⇒			⇒			
取組内容	ピアサロン事業 利用者計524人		⇒ピアサロン事業 利用者計269人			⇒ピアサロン事業 利用者計314人			⇒ピアサロン事業 利用者計274人			
	決算額		1,414,843		千円		決算額		1,484,744		千円	
	うち一般財源		383,161		千円		うち一般財源		379,740		千円	
	決算額		1,414,843		千円		決算額		1,568,626		千円	
直接事業費	うち一般財源		383,161		千円		うち一般財源		423,694		千円	
	決算額		1,414,843		千円		決算額		1,568,626		千円	
	うち一般財源		383,161		千円		うち一般財源		423,694		千円	
	決算額		1,414,843		千円		決算額		1,568,626		千円	

3	要保護児童対策事業																		
事務事業の目的 対象(誰を)					事務事業の内容					事務事業の内容									
															意図(どのようにしたいのか)				
被虐待児童及び支援を必要とする児童とその保護者					被虐待児及び困り感を持った児童が一人の人間として人権の尊重される生活を送ることができるようにする。					各関係機関が連携し、情報の共有化を図ることで、それぞれの機関が同一の認識のもとで責任を持って支援を行なう。子育て不安やストレス、親子関係等の問題等に対し、保護者が安心感をもてる環境を提供しながら、専門職による対応・支援等の児童家庭相談を行う。児童虐待防止月間に合わせて啓発を行う。4歳児の発達に関する相談及び支援を行う。									
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度								
取組内容	●要保護対策事業 ・被虐待児の早期発見と安全を確保				⇒			⇒			⇒								
	●4歳児発達支援事業 ・特性に応じた成長、発達の支援、教育機関等へのコーディネート				⇒			⇒			⇒								
創●要保護児童管理システム構築																			
<児童虐待(新規登録)件数:41件>					<児童虐待(新規登録)件数:38件>					<児童虐待(新規登録)件数:30件>					<児童虐待(新規登録)件数:23件>				
直接事業費	決算額	2,034		千円	決算額	3,028		千円	決算額	3,154		千円	決算額	3,977		千円			
	うち一般財源	787		千円	うち一般財源	1,221		千円	うち一般財源	1,459		千円	うち一般財源	1,517		千円			

【達成目標3】	地域で暮らすための環境整備(※④)
---------	-------------------

達成目標3の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
公共施設の新規バリアフリー化件数	単位	目標		4	5	5	3	5
	件／年	実績	7	4	4	3	—	—
		達成率		100.0%	80.0%	60.0%	—	—

達成目標3の事業費			令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
うち一般財源	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円

4	住みよいまち環境整備事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
・市民 ・障がいのある人		・障がいについての理解の促進を図る。 ・障がいのある人が住み慣れた地域で暮らし続けることができるよう環境整備をする。					・障がいについての理解の促進のため、市民への啓発・広報事業を行う。 ・公共施設や建築物のバリアフリー化を推進し、ユニバーサルデザインのまちづくりをする。 ・福祉制度等の音訳や情報支援機器の活用促進等により、効果的に情報が得られる環境づくりをする。					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●市民への啓発・広報事業 ●声の広報等発行事業(広報かさおか、議会だより、社協だより) ●朗読奉仕員養成事業 (初級講座受講者:4人) ●駅前視覚障がい者用信号機事業 《議会棟トイレ洋式化、吉田文化会館・城見公民館・金浦公民館・飛島公民館トイレ、カプトガニ博物館トイレ・保健センター2階トイレバリアフリー化》			⇒ ⇒ ⇒ 〈初級講座受講者:0人〉※中級3人 ⇒ 〈本庁舎1階男子トイレ改修、定住促進センター監査事務局横トイレ改修・本庁舎エレベーター改修、図書館トイレ改修〉			⇒ ⇒ ⇒ 〈初級講座受講者:3人〉※中級2人 ⇒ 〈本庁舎新館出入口改修、定住促進センター監査事務局横トイレ改修、市営住宅樋守団地バリアフリー化工事、甲弩集会所上下水道接続工事〉			⇒ ⇒ ⇒ 〈初級講座受講者:3人〉※中級3人 ⇒ 市営住宅樋守団地バリアフリー化工事、大井児童館トイレ改修工事、ばあー階段手すり設置		
	直接事業費	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0
	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	1,509,271	千円	1,545,253	千円	1,601,670	千円	1,711,154	千円
うち一般財源	411,035	千円	404,462	千円	446,131	千円	480,813	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
日々途切れなく障がい者・障がい児福祉にご尽力いただきありがとうございます。多種多様な価値観とともに障がいや特性も細分化されていますが、取り巻く環境が複雑になる中でも支援を必要とされている中でのご対応に感謝しています。近隣市町村との連携は昨年教えていただいたのですが、福山市との連携はありますでしょうか。一人暮らしの方で一時、精神的な不安のある人の一時的なシェルターなど笠岡市にあるのでしょうか。コロナの影響が自死などに至らなくても様々な困難な方を見かけます。そういった方に対する支援等あれば教えてください。もしあれば啓発していただけたらと思います。	→ 福山市との連携としては備後圏域の取り組みで法人監査の情報交換などを行っています。県が異なることから制度の運用についていくらか異なるところがあり、岡山県側と比べると連携が少ないのが現状です。 また、一時的なシェルター施設が市内に数カ所あり、困難な方への対応は相談支援センターをはじめ各課で連携して行っています。今後も周知啓発を行ってまいります。
障がいをお持ちの方はもちろん、その家族の方も相当な苦勞をされていると推測しています。そのような方々の助けとなるように、引き続き施策を行っていただきたい。	→ 昨年度末に障がい福祉計画を見直し、相談支援や就労支援の充実を重点施策として位置づけています。引き続き障がい者やその家族に寄り添った施策に努めます。
障がい者支援はハードな業務でありながら、市民の満足度が得がたく、結果も見えづらいですが、引き続き関係機関との連携を取りながら進めてください。	→ 昨年度より精神障がい者にも対応した包括ケアシステムの庁内協議体制ができ、事業所が連携して運営する自立支援協議会の活動が活発になってきています。今後も連携を取りながら進めてまいります。
「障がい者福祉の充実」の満足度がかなり低下しているのが気になりますが、対応策をしっかりと立てられているのでニーズにあったサービスに繋がることと思います。 児童虐待はどのくらい解決しているのでしょうか。忙しい、生活苦さまざまな理由で精神的にも体力的にも追い込まれている保護者に寄り添い、子どもへの虐待が一件でもなくなることを望みます。 理解と交流の促進についてはかなりの達成率です。引き続き推し進めていってください。	→ 児童虐待は、貧困や育児の孤立化、子どもの特性など、様々な要因から引き起こされます。養育が気になる家庭やその子どもへの支援については、社会福祉士や家庭相談員、保健師などの専門職が連携をしながらケースの状況に合わせた対応を行っています。そのようななかで、養育状況が改善されるケースもあり、令和5年度は51件のケースが終結となりました。これからも、養育者の気持ちに寄り添った丁寧な支援を心がけてまいります。 理解と交流の促進については引き続き自立支援協議会等を通じて推進していきたいと考えています。
就労体験から、一般就労へ移行された方が増えているようです。取組の成果だと思いますので、これからもみんなが協働できる社会を目指してください。	→ 今後は障がい者雇用率も引き上げとなり、一般就労される障がい者が増えていくと考えますので引き続き支援に努めてまいります。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の 進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
------------	--	---

<7.未達成の指標への対応策>

未達成 指標 への 対応策	・訪問系サービスの月間実利用者数 人材の確保が難しくなり、居宅介護事業の実利用者数が減少したことから数値が低下した。 今後の対応として自立支援協議会等で人材確保の取組を進めることにより対応していきたい。 ・公共施設の新規バリアフリー化件数 公共施設のバリアフリー化がコロナ禍の交付金事業で進んだこと、交付金事業も終わり予算の確保が難しくなったことから件数が低下した。 今後の対応としてバリアフリーの指標の見直しを進めることにより対応していきたい。 ・就労継続支援事業所と連携している(農福連携)農業者数 就労継続支援事業所の人手が少なく、受け入れが難しいことから数値が目標ほど増えなかった。 今後の対応として事業所との連携を進めることにより対応していきたい。
------------------------	---

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・障がい者・障がい児への支援の充実では数値は良くなっています。しかし障がい関連のイベントへの参加者は少なくなっています。今後も引き続き頑張っており取り組んでいただきたいと思います。 ・「住みよいまち環境整備事業」について、市営住宅のバリアフリー化などされているようですが、直接事業費に上がってこないのはなぜでしょうか。 ・ノーマライゼーションの精神にのっとり、全ての人が同等に生活できる社会を目指したいですね。家族内での生活だけでなく、地域内の生活、広い社会の中での共に生きていけるよう施策も頑張ってください。 ・総合指標となる、障害者の法定雇用率の対象事業所の障がい者の雇用率が調査中となりました。結果が出ていたら教えてください。 ・公共施設の新規バリアフリー化について、交付金事業終了に伴い予算確保困難のため指標の見直しを進めるとありますが、現状特に問題視されている場所はないのでしょうか。 ・サポートが必要となる人の増加と支える側の減少という現状を打破する解決策をお願いいたします。 ・評価どおり概ね順調に進んでいると感じています。さらにノーマライゼーションが進み、すべての方が住みやすい街になるように、引き続き施策の推進をお願いします。 ・障害者福祉にご尽力いただきありがとうございます。農福連携は今後も必要な課題であると思います。障害福祉課など必要に応じて連携を図っていただきながら、偏見等があれば理解を促していただき、今後障がいを持った子供たちも自立して生きて行かれる土壌づくりにも必要に思います。未来を悩んで相談できないご家族はまだまだいらっしゃいます。どうか学校教育にも情報が行き届くように連携をお願いいたします。未達成項目に対する改善策をあげて下さり、来年度に期待いたします。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	4－5	施策名	高齢者福祉・介護の充実	主 担 当 課	長寿支援課
戦略の柱	安定戦略 “安らぐ”				
基本 方針	団塊の世代が後期高齢者となり、高齢者人口が最多となる状況に備え、高齢者が住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、住まい・医療・介護・介護予防・生活支援を一体的に提供する地域包括ケアの推進に取り組みます。			関 係 課	まると支援推進 課 健康推進課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
要介護認定率	単位	目標		22.0	22.0	22.2	22.3	22.4
	%	実績	21.4	21.2	21.1	21.6	—	—
		達成率		103.8%	104.3%	102.8%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	地域包括ケアの推進(※①)
---------	---------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
75歳以上の実態把握件数※	単位	目標			500	500	500	500
	件	実績	578	597	627	777	—	—
		達成率			125.4%	155.4%	—	—
認知症サポーター延べ養成数	単位	目標		5,490	5,640	5,790	6,040	6,090
	人	実績	5,290	5,533	5,806	6,023	—	—
		達成率		100.8%	102.9%	104.0%	—	—

※75歳以上の単身または老々世帯で、医療や介護情報を基に虚弱となる可能性があると考えられる世帯を対象

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	85,699	千円	89,913	千円	88,771	千円	91,199	千円
うち 一般財源	25,768	千円	28,456	千円	30,797	千円	33,818	千円

1	地域包括ケアの推進														
事務事業の目的						事務事業の内容									
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)												
医療や介護、生活支援が必要な住民及びその家族			在宅での安全・安心な生活を継続するために、医療や介護のみならず福祉サービスを含めた様々な支援が日常生活の場で適切に提供できる体制を整備する。			医療や介護、生活支援が必要な住民に、必要とされる量のサービスが適切なタイミングで提供できる介護保険サービス及び介護保険外のサービスを連携させたくみづくりを行う。 認知症への理解を深めるとともに、当事者が早期発見、早期治療ができる体制づくりを行います。									

【達成目標2】在宅生活継続に向けた支援強化(※②③)

達成目標2の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
いきいき百歳体操の実施箇所数	単位	目標		80	78	78	79	80
	箇所	実績	72	74	76	78	—	—
		達成率	90.0%	92.5%	97.4%	100.0%	—	—
自立支援ヘルパー派遣延べ利用人数	単位	目標		36	36	36	36	36
	人	実績	64	25	41	45	—	—
		達成率	177.8%	69.4%	113.9%	125.0%	—	—
緊急通報装置設置台数	単位	目標		140	140	140	140	140
	台	実績	144	119	96	113	—	—
		達成率	102.9%	85.0%	68.6%	80.7%	—	—

達成目標2の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	310,516	千円	300,040	千円	299,606	千円	290,018	千円
うち一般財源	102,517	千円	98,117	千円	90,707	千円	90,239	千円

2	在宅生活継続に向けた支援強化											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
高齢者			高齢者の心身の状態が悪化した場合でも、在宅での生活を継続できるよう医療・介護・生活支援等の体制整備を行う			介護予防の必要性の高い高齢者や要支援認定者ができる限り自立した生活を維持できるよう、医療・介護・生活支援等の多種多様なサービスを提供する。						
		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度				
取組内容		●介護予防・生活支援サービス事業 ●訪問型サービス及び通所型サービスの提供 ●自立支援ヘルパー派遣事業		⇒ ⇒ ⇒		⇒ ⇒ ⇒		⇒ ⇒ ⇒				
直接事業費	決算額	296,553	千円	決算額	286,564	千円	決算額	282,409	千円	決算額	273,982	千円
	うち一般財源	91,854	千円	うち一般財源	88,113	千円	うち一般財源	79,025	千円	うち一般財源	78,579	千円

3	高齢者生活支援事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
高齢者		できる限り在宅で、安心していきいきと暮らすことができるよう支援を行う。				高齢者が健康で生きがいをもった生活ができるよう、健康づくり事業等の委託や補助を行う。 在宅で支援を要する高齢者に、生活支援のための助成や給付を行う。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●ことぶき大学の開催 ●生きがい対応型デイサービス事業 配食の費用補助と安否確認 ＜ことぶき大学受講者延べ数 2,429人＞			⇒ ⇒ ⇒ ＜ことぶき大学受講者延べ数 2,575人＞			⇒ ⇒ ⇒ ＜ことぶき大学受講者延べ数 3,374人＞			⇒ ⇒ ⇒ ＜ことぶき大学受講者延べ数 3,413人＞		
直接事業費	決算額	13,963	千円	決算額	13,476	千円	決算額	17,197	千円	決算額	16,036	千円
	うち一般財源	10,663	千円	うち一般財源	10,004	千円	うち一般財源	11,682	千円	うち一般財源	11,660	千円

【達成目標3】	島しょ部での生活や介護サービスの充実(※④)
---------	------------------------

達成目標3の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
島しょ部にある介護事業者数及び島しょ部訪問事業者数	単位	目標		9	9	9	9	9
	事業者	実績	9	9	9	10	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	111.1%	—	—
健康長寿愛らんど事業への参加者	単位	目標		2,600	2,600	2,600	2,600	2,600
	人／年	実績	1,698	1,666	2,003	1,921	—	—
		達成率		64.1%	77.0%	73.9%	—	—

参考: 事業対象者等(島しょ部)					
	65歳～	事業所	愛らんど	乗船券	緊急通報
高島	46	1	8.3	1	0
飛島	59	0	18.4	23	0
白石島	266	2	18.4	51	6
北木島	436	2	9.9	215	4
真鍋島	109	1	12.2	38	1
六島	29	0	6.8	2	0
計	945	6	74	330	11

- ・事業所は、島しょ部に設置のもの
(デイサービス5, グループホーム1)
- ・愛らんど事業は、参加者/実施回数

達成目標3の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	27,631	千円	29,415	千円	31,288	千円	38,298	千円
うち一般財源	16,578	千円	17,687	千円	20,800	千円	28,141	千円

4	島しょ部介護・福祉推進事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
島しょ部の高齢者		できる限り在宅で安心して暮らせるようにする。				島しょ部における介護・福祉サービスの確保と事業所への支援を行う。 高齢者の健康維持と介護予防に取り組む。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●陸地部への通院の帰りの船で利用できる無料乗船券の支給 ●北木島高齢者共同生活住居の運営 ●緊急通報装置設置事業 ●陸地部から専門職等を確保するための交通費補助 ●島しょ部の介護サービス事業所への家賃及び改修費補助 ●専門職による総合相談及び運動器機能低下の予防・向上のための支援(健康長寿愛らんど事業)			⇒	⇒		⇒	⇒		⇒	⇒	
				⇒			⇒					
				⇒			⇒					
				⇒			⇒					
				⇒			⇒					
				⇒			⇒					
直接事業費	決算額	27,631	千円	決算額	29,415	千円	決算額	31,288	千円	決算額	38,298	千円
	うち一般財源	16,578	千円	うち一般財源	17,687	千円	うち一般財源	20,800	千円	うち一般財源	28,141	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	423,846	千円	419,368	千円	419,665	千円	419,515	千円
うち一般財源	144,863	千円	144,260	千円	142,304	千円	152,198	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
笠岡市の高齢化が早くまたニーズの高い中で途切れない支援の推進ありがとうございます。独居の高齢者など見えないからこそ孤独死にならないような見守りや健康維持をお願いします。また認知症サポーター養成講座は様々な形で多く開催されることを願います。少子高齢化の中で子供たちにこそ認知症高齢者とともに共存する世界を偏見なく体験していただきたいと思います。引き続きよろしく願いいたします。	→ ○独居高齢者 生活スタイルが変わり、独居や身よりのない高齢者の増加が問題となっていますが、早い段階で実態を把握し、入院や施設入所、また権利擁護など様々な分野で支援が行えるよう関係機関と協力してまいります。
高齢化が進むことにより、ますます重要度が増していると思います。引き続き施策の推進をお願いします。	→ 高齢者が住み慣れた地域で自立した生活がいつまでも送れるよう、福祉施策を推進します。
高齢者虐待の件数が年々増えてきているようで心配です。	→ 高齢者が安心して地域で生活が送れるよう、高齢者虐待の普及啓発・早期発見に努め、虐待情報を得た際は速やかに関係機関と連携し対応方針を定め、高齢者の権利擁護を図ります。

指標の数値は良くなっているように思います。今後も引き続き頑張っており取り組んでいただきたいと思います。	→	引き続き様々な福祉の取り組みにより、高齢者支援を行ってまいります。
多くの指標で達成されています。認知症サポーターの養成数、オレンジサポーターも年々増えており安心です。緊急通報装置の設置台数が伸び悩んでいますが、使い勝手がよく、メリットを理解してもらえたら必然的に利用者が増えると思います。利用料については同じタイプのものかわかりませんが、他市町では、月で無料から1,000円前後のようです。少しお高いように感じのですが。 長寿支援課、地域包括ケア推進室の方が親身になって相談に乗ってください支えられています。支える家族としてお礼申し上げます。	→	○緊急通報装置 ひとり暮らし高齢者などが増えていく中、在宅で安心して生活できるよう、折に触れ広報を行い普及に努めてまいります。また、近年、新たな器機やシステムも出てきていますので、情報収集を進め、財政的な負担も考慮しながら検討していきたいと思っています。
100歳体操やいきいき体操も着実にその成果が見られるようになりましたが、ボランティアの方も毎週では、少しきつくも感じます。習ったことを高齢者がカード形式で自主的に家庭で行うなどの習慣はできないのでしょうか。	→	貴重なご意見をありがとうございます。高齢者が家庭で自主的に運動する習慣をつけるため、イラストなどが書かれたカード運動カードを活用するのも効果的だと思います。また、ビデオ教材など提供したり、家庭での取組を支援できるよう、地域の声を聞きながら取り組みを検討したいと思っています。

＜6.令和5年度の振り返り＞(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

＜7.未達成の指標への対応策＞

未達成指標への対応策	○愛らんど事業 個別訪問などを通じて事業の周知と参加希望者の掘り起こしを行います。 ○緊急通報装置設置台数 新システム導入も検討しつつ、必要な事業のため継続したいと考えております。
------------	---

＜8.委員による評価結果＞

総合評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・指標の数値は良くなっているように思います。今後も引き続き頑張っており取り組んでいただきたいと思います。 ・老々介護の現実が多く見られるようになりました。そうした支援の方法施策はどのようなものがあるのでしょうか。100歳体操の参加者が増えていることは喜ばしいことですが、自ら進んで歩け歩け運動をされている光景もよく見受けられます。 ・75歳以上の実態把握が進んでおり安心です。地域で見守るの必要ですが、支える側の負担が大きくなりすぎるのも気の毒です。持続可能なサポート体制に向かっていくよう願います。 ・認知症サポーターの延べ養成数が年々増えていますが、活動されている人数はどの位でしょうか。 ・緊急通報装置設置の新システム導入が高齢者にとって使いやすいものになればと思います。実際に利用されたことはどのくらいあるのでしょうか。 ・敬老会を地域で行うことに負担に感じている方がいらっしゃいます。何か方策があれば良いのですが。 ・今後も在宅生活の維持ができる支援を継続的にお願いいたします。2点質問なのですが、ヘルパー事業所やケアマネジャーの疲弊や事業所閉鎖をよく聞きますが笠岡市は大丈夫なのでしょうか。達成目標1の指標で、75歳以上の実態把握件数ですが、目標数値は毎年変わらない22.2ですが、実際の笠岡市の団塊世代の高齢化もあり妥当な目標数値なんでしょうか。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	4-6	施策名	社会保障	主 担 当 課	市民課 生活福祉課 長寿支援課
戦略の柱	安定戦略 “安らぐ”				
基本 方針	誰もが求める安心で豊かな生活の実現に向け、社会保険制度の周知徹底に努め、その適切な運営により自立を支援し、社会全体で負担を分かち合い、全体で支えあう社会を目指します。			関 係 課	税務課 収納対策課 まるごと支援推進課 健康推進課 恵風荘

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R7 目標	R7 目標
人口1,000人当たりの生活保護者数	単位	目標		7.3	7.3	7.2	7.8	7.7
	人	実績	7.4	7.6	8.1	8.0	—	—
		達成率		96.1%	90.1%	90.0%	—	—
自立支援により状況が改善した生活保護世帯数	単位	目標		6	8	10	10	12
	世帯／年	実績	2	3	6	7	—	—
		達成率		50.0%	75.0%	70.0%	—	—
国民健康保険年間保険給付費	単位	目標		39.8	39.9	40.0	40.1	40.2
	億円	実績	36.5	37.8	37.8	38.4	—	—
		達成率		105.3%	105.6%	104.2%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	生活保護者・生活困窮者の支援(※①②)
---------	---------------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
人口1,000人当たりの生活保護者数	単位	目標		7.3	7.3	7.2	7.8	7.7
	人	実績	7.4	7.6	8.1	8.0	—	—
		達成率		96.1%	90.1%	90.0%	—	—
自立支援により状況が改善した生活保護世帯数	単位	目標		6	8	10	10	12
	世帯／年	実績	2	3	6	7	—	—
		達成率		50.0%	75.0%	70.0%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	606,218	千円	623,928	千円	650,620	千円	641,262	千円
うち 一般財源	118,960	千円	164,490	千円	167,443	千円	166,654	千円

1	生活保護事業業務											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
生活保護受給者		経済的・社会的に自立した生活ができるようにする。			生活保護受給者が自立できるよう、関係機関と連携して支援を行う。							
令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度				
取組内容	・生活保護事業 ・就労支援事業 ・生活相談事業 生活保護世帯数 315世帯 (3月末現在) 就労支援等による自立世帯数 6世帯			生活保護世帯数 326世帯 (3月末現在) 就労支援等による自立世帯数 3世帯			生活保護世帯数 319世帯 (3月末現在) 就労支援等による自立世帯数 3世帯			生活保護世帯数 309世帯 (3月末現在) 就労支援等による自立世帯数 5世帯		
直接事業費	決算額	566,811	千円	決算額	588,654	千円	決算額	611,173	千円	決算額	601,453	千円
	うち一般財源	118,635	千円	うち一般財源	164,470	千円	うち一般財源	167,436	千円	うち一般財源	166,646	千円

2	恵風荘管理運営事業													
事務事業の目的							事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)												
入所者		施設の安全管理と衛生管理を徹底し、入所者の基本的人権と健康で文化的な生活を保障し、その人らしい豊かな生活の実現に最大限努力する。					・安全管理・衛生管理・健康管理の徹底 ・基本的人権を保障し主体性を尊重した自己実現の支援 ・多様な障がいのある入所者のニーズに応じたサービスの提供 ・社会資源としてのネットワークの構築と地域に根ざした施設の実現							
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		・定員確保 職員研修 虐待防止入所者数 32人(3月末現在) 救護施設協議会等研修 3回 職員会議・処遇検討会議 毎月1回 入所者との会議 代表者会議、全体会議 毎月1回 各種クラブ活動 年47回			⇒ 入所者数 33人(3月末現在) 救護施設協議会等研修 3回 職員会議・処遇検討会議 毎月1回 入所者との会議 代表者会議、全体会議 毎月1回 各種クラブ活動 年41回			⇒ 入所者数 33人(3月末現在) 救護施設協議会等研修 3回 職員会議・処遇検討会議 毎月1回 入所者との会議 代表者会議、全体会議 毎月1回 各種クラブ活動 年49回			⇒ 入所者数 35人(3月末現在) 救護施設協議会等研修 2回 中国四国地区救護施設研究協議大会 1回 職員会議・処遇検討会議 毎月1回 入所者との会議 代表者会議、全体会議 毎月1回 各種クラブ活動 年46回			
直接事業費		決算額	39,082	千円	決算額	35,254	千円	決算額	39,440	千円	決算額	39,801	千円	
		うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	

3	災害援護等事業業務													
事務事業の目的 対象(誰を)					事務事業の内容 意図(どのようにしたいのか)					事務事業の内容				
災害により被災した市民及び行旅人					災害によって被災した市民を激励し、市民福祉及び生活の安定に資する。 行旅人に対して、行旅中必要な最低限度の援護を行う。					「市災害見舞金等給付規則」に基づき見舞金を給付する。 「市災害弔慰金の支給等に関する条例」に基づき、自然災害によって死亡された遺族に弔慰金を支給し、また被災世帯への援護資金の貸付等を行う。 行旅人に対しては、行旅に必要な最低限度の旅費を支給し、また行旅中市内で発症した急病等について必要な援護を行う。				
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		・災害援護事業 ・行旅病人・死亡人援護事業 災害発生件数 4件 行旅人旅費支給件数 48件 災害復興住宅利子補給金 1件			行旅人旅費支給件数 41件			行旅人旅費支給件数 34件			行旅人旅費支給件数 32件			
直接事業費		決算額	325	千円	決算額	20	千円	決算額	7	千円	決算額	8	千円	
		うち一般財源	325	千円	うち一般財源	20	千円	うち一般財源	7	千円	うち一般財源	8	千円	

【達成目標2】国民健康保険医療費の適正化(※③)

達成目標2の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
国民健康保険年間保険給付費	単位	目標		39.8	39.9	40.0	40.1	40.2
	億円	実績	36.5	37.8	37.8	38.4	—	—
		達成率		105.3%	105.6%	104.2%	—	—

達成目標2の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	5,657,770	千円	5,742,115	千円	5,786,872	千円	5,871,644	千円
うち 一般財源	1,945,903	千円	1,920,607	千円	1,960,723	千円	1,991,927	千円

4 国保給付適正化事業

事務事業の目的				事務事業の内容									
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
国保加入者				医療の現状を国保加入者に啓発し、適正な受診ができるようにする。				適正受診の広報、医療費通知、レセプト点検、第三者傷害求償を積極的に実施し適正な保険給付を行う。					
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		●医療費通知 ●レセプト点検 ●第三者求償事務 ●後発医薬品の利用促進 ○医療費適正化のための啓発		⇒			⇒			⇒			
直接事業費		決算額	5,668	千円	決算額	5,639	千円	決算額	5,687	千円	決算額	5,033	千円
		うち一般財源	3,598	千円	うち一般財源	3,594	千円	うち一般財源	3,773	千円	うち一般財源	1,754	千円

5 国保資格管理・給付業務

事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
国保加入者				国保加入者の資格管理、保険給付を行い安心して受診できるようにする。				国保被保険者証、高齢受給者証等各種医療受給者証の交付を行う。 国保加入者に係る医療費の給付を行う。				
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組 内容	●資格証明書・短期証交付業務 ・国保資格関係業務・給付事業 ・国保高額療養費の給付 ・特定疾病資格管理・給付 ・退職者医療資格管理 ・前期高齢者の資格管理 ・相互扶助精神の理解を得ながら現状にあった対応			⇒			⇒			⇒		
直接 事業費	決算額	4,860,799	千円	決算額	4,951,899	千円	決算額	4,960,492	千円	決算額	5,018,473	千円
	うち 一般財源	1,156,059	千円	うち 一般財源	1,137,468	千円	うち 一般財源	1,141,390	千円	うち 一般財源	1,147,537	千円

6	市税等賦課業務															
事務事業の目的				事務事業の内容												
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)														
納税義務者及び被保険者		適正で公正な課税(料)を行い, 自主財源を確保する。		・各保険税(料)の算定のための市県民税未申告調査 ・国民健康保険税・後期高齢者医療保険料・介護保険料の賦課, 減免												
令和2年度		令和3年度		令和4年度			令和5年度									
取組内容	●課税システムによる電子化した課税情報の活用		⇒	⇒			⇒			⇒						
	●市県民税の未申告者に関する調査		⇒	⇒			⇒			⇒						
	・未申告者の呼び出し訪問及び臨戸訪問 (最終未申告 86世帯)			(最終未申告 79世帯)			(最終未申告 83世帯)			(最終未申告 81世帯)						
	●職員の説明力, 交渉力の向上		⇒	⇒			⇒			⇒						
	●研修会への積極的参加		⇒	⇒			⇒			⇒						
直接事業費	決算額		28, 631	千円	決算額		23, 230	千円	決算額		24, 823	千円	決算額		25, 108	千円
	うち一般財源		28, 631	千円	うち一般財源		23, 230	千円	うち一般財源		24, 823	千円	うち一般財源		25, 108	千円

7		収納・滞納整理業務											
事務事業の目的							事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)										
納税義務者			納期限までに納付				・督促状各納期毎送付, 催告状, 電話催告, 夜間・休日特別徴収, 岡山県市町村税整理組合・岡山県滞納整理推進機構との連携						
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		・催告文書, 呼び出し文書の送付			⇒			⇒			⇒		
		・財産調査の徹底			⇒			⇒			⇒		
		・滞納処分滞納整理の強化			⇒			⇒			⇒		
		・岡山県との連携強化			⇒			⇒			⇒		
		・岡山県市町村税整理組合等の有効活用			⇒			⇒			⇒		
		・全庁的な徴収体制の強化			⇒			⇒			⇒		
		・コンビニ収納の利用促進			⇒			⇒			⇒		
		・コールセンターからの電話催告			⇒			⇒			⇒		
		・延長業務を行い徴収体制の強化			⇒			⇒			⇒		
		・期間入札公売開催			⇒								
直接事業費		決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円
		うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円

8	後期高齢者医療業務												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
75歳以上の人及び65歳以上で障がい1～3級等で認定を受けた人		対象者が安心して医療が受けられるようにする。				対象者に被保険者証を交付する。 対象者の資格異動に関する申請を受け付ける。 高額療養費及び限度額申請の勧奨をする。 広域連合への納付金支払い。							
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●後期高齢者医療事務事業 ・後期高齢者医療資格管理・給付申請			⇒			⇒			⇒			
直接事業費	決算額	757,615	千円	決算額	756,315	千円	決算額	790,737	千円	決算額	817,528	千円	
	うち一般財源	757,615	千円	うち一般財源	756,315	千円	うち一般財源	790,737	千円	うち一般財源	817,528	千円	

9	国民年金業務													
事務事業の目的							事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)												
国民年金被保険者 笠岡市老齢福祉年金 受給権者				公的年金受給権の確保を図る			国民年金第1号被保険者の資格取得・喪失，保険料免除申請等の受付事務 老齢基礎・障がい基礎年金等の裁定請求受付事務 笠岡市老齢福祉年金受給権者への年金支給事務							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度				
取組 内容	・障がい基礎・老齢福祉年金受給者の所得状況報告			⇒				⇒				⇒		
	・国民年金保険料免除													
	・笠岡市老齢福祉年金			⇒				⇒				⇒		
	・老齢・障がい基礎年金等の裁定請求													
	・国民年金に関する相談			⇒				⇒				⇒		
	・国民年金書届受付			⇒				⇒				⇒		
・国民年金被保険者台帳管理			⇒				⇒				⇒			
直接 事業費	決算額	5,057	千円	決算額	5,032	千円	決算額	5,133	千円	決算額	5,502	千円		
	うち 一般財源	0	千円	うち 一般財源	0	千円	うち 一般財源	0	千円	うち 一般財源	0	千円		
【達成目標3】適切な介護保険サービスの充実と適正な運営(※④)														

達成目標3の指標

指標名				目標・実績の推移					
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	R7目標
要介護認定率	単位	目標			22.0	22.0	22.2	22.3	22.4
	%	実績		21.4	21.2	21.1	21.6	—	—
		達成率			103.8%	104.3%	102.8%	—	—

達成目標3の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	5,460,852	千円	5,431,543	千円	5,392,352	千円	5,534,937	千円
うち一般財源	1,824,438	千円	1,797,361	千円	1,786,324	千円	1,855,509	千円

10	適切な介護保険サービスの充実と適正な運営											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
要介護・要支援認定者		適正な介護保険事業の運営を図るとともに、サービスの質の向上を図る。					適正な介護保険サービスを確保し、質を向上させるとともに、要介護認定調査・審査会においても公平公正な運営を行います。 介護保険サービス事業者を指導監督し、適正な保険給付の執行を図ります。					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●介護保険事業 ・適正な介護保険サービスの確保と質的向上			⇒			⇒			⇒		
	●介護給付適正化事業 ・介護給付適正化システムの活用			⇒			⇒			⇒		
	●介護相談員派遣事業 ・事業内容についての検討			⇒			⇒			⇒		
	●地域密着型サービス事業者等指導監督			⇒			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	5,460,852	千円	決算額	5,431,543	千円	決算額	5,392,352	千円	決算額	5,534,937	千円
	うち一般財源	1,824,438	千円	うち一般財源	1,797,361	千円	うち一般財源	1,786,324	千円	うち一般財源	1,855,509	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
直接事業費	11,724,840	千円	11,797,586	千円	11,829,844	千円	12,047,843	千円			
うち一般財源	3,889,301	千円	3,882,458	千円	3,914,490	千円	4,014,090	千円			

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
生活保護に関してコロナの影響もあり不安定な方も多く見受けられます。自立支援とともに必要な人の洗い出しも関係各所とともにお願いしたいです。社会保障をの維持に努めていただきありがとうございます。	→ 生活保護者は少し減少しましたが、コロナ禍や物価高騰等の影響もあり、思うような改善が出来ませんでした。関係部署・機関と連携し、生活に困窮されている方々に対しては、個々の状況に応じた支援を行えるよう、相談させていただいております。声なき声を拾うために、広報、ホームページを利用して相談ができることを周知し、民生委員からも情報収集を行います。また、ご本人からの相談が難しければ、こちらから電話や自宅を訪問させていただくなど、積極的にアプローチいたします。それでも困窮状態が改善されない場合は、生活保護を受けていただき、自立に向けた支援をしながら、安定した生活を送ってもらうことができるように取り組んでまいります。
生きる尊厳を守るため、引き続き施策を進めてください。	→ 今後も市民の方に寄り添って施策をすすめてまいります。
生活保護者が年々増えているようです。物価高騰などの影響で仕方ないのかもしれませんが、適切な認定をお願いします。	→ R4年度に比べ保護者数は減少しましたが、物価高騰等の影響もあり相談者数については横ばいの状況にあります。保護の要否については、個々の世帯や資産の状況等をしっかりと調査し決定してまいります。
人口1000人当たりの生活保護者数が増えているのが気がかりですが、自立支援により状況が改善した生活保護世帯数が増えているのは良かったと思います。	→ 物価高騰等の影響があり、目標値までの自立には至りませんでした。今後は社会情勢の変化も加味し、実情に応じた目標値を設定し、自立支援についてはみんな就労支援センターと連携し引き続き支援を行ってまいります。
人口1,000人当たりの生活保護者数が増えてしまいましたが、そんな中でも自立支援により状況が改善した生活保護世帯が増えたことは喜ばしいことです。担当課の寄り添ったサポートの成果だと思います。 必要な世帯には生活保護を、同時に自立支援のサポートをお願いします。	→ 稼働能力のある被保護者に対して、みんな就労支援センターと連携し定期的に面談を行い、就職活動の確認や必要なアドバイスを行います。生活の上でも問題があれば積極的に相談にのり、心配事、困りごとの解消により、就労活動にも専念していただけるよう取り組みます。

国民健康保険の給付費年間約40億円、大変な数値ですね。行政支援の市民の健康生活を支える事業も大切な施策と感じました。自立支援により、生活が安定した家族が増えていることは、大きな成果だと思います。今後も努力していただきたい。	→ 今後も被保護者が心身ともに健やかに過ごせるよう、また各能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよう支援してまいります。
---	---

＜6.令和5年度の振返り＞(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

＜7.未達成の指標への対応策＞

未達成指標への対応策	生活保護者数について、病状調査を行い就労可能なものについては、就労支援員やハローワークと連携し、自立出来るよう支援していく。 自立支援については、被保護者が精神的身体的不調を抱えている事が多く、本人の状態により、可能な範囲での就労の支援を行いたいと考えております。
------------	---

＜8.委員による評価結果＞

総合評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・人口1000人当たりの生活保護者数は横ばいですが、自立支援により状況が改善した生活保護世帯数が増えているのは良かったと思います。 ・生活保護世帯について、就労支援等による自立世帯数が伸び悩んでいるようですが、何か対策を考えられていますか。 ・生活保護世帯数は、人口比率から推測すると、約320人くらいだと思いますが、就労支援を行えたのは何割ぐらいでしょうか。 ・自立支援により状況が改善した生活保護世帯が増えました。大変な業務だと思いますが引き続きよろしくお願いいたします。 ・国民健康保険年間保険給付費はこの先増え続けるのだと思いますが大丈夫でしょうか。 ・評価どおり概ね順調に進んでいると感じています。誰もが求める安心で豊かな生活の実現に向けて、引き続き施策の推進をお願いします。 ・生活保護者数に関しては、被保護者の精神的身体的不調を抱えている方が多いと思います。また、保護を受けていなくてもそういった方がいることを伺います。とてもセンシティブな関わりと調査が必要で支援もデリケートな問題も多いと思いますが、今後とも必要に応じた支援をお願いいたします。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	4-7	施策名	身近な上水道	主 担 当 課	水道課
戦略の柱	安定戦略 “安らぐ”			関 係 課	
基本 方針	本市水道事業の基本理念のもとで、「安全」「強靱」「持続」の3つの観点から、水道基準に適合した水を、いつでも、どこでも、誰でも、合理的な対価で持続的に受け取ることができるように、効率的かつ安定的な経営を実現するための施策を示し、事業を推進します。				

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
水道水を安心して使用できている市民 (市民意識調査)	単位	目標		—	62.0	—	63.0	63.0(R6)
	%	実績	61.8	—	57.1	—	—	—
		達成率		—	92.1%	—	—	—
有収率	単位	目標		92.0	92.0	92.0	92.0	92.0
	%	実績	90.2	89.6	90.0	93.5	—	—
		達成率		97.4%	97.8%	101.6%	—	—
経常収支比率(経常収益/経常費用)	単位	目標			100%以上	100%以上	100%以上	100%以上
	%	実績	94.1	115.0	108.4	93.2	—	—
		達成率			108.4%	93.2%	—	—
企業債残高対給水収益比率(企業債残高/給水収益)	単位	目標			41%程度	44%程度	80%程度	50%程度
	%	実績	28.7	34.2	66.2	100.6	—	—
		達成率			161.5%	245.4%	—	—

※経常収支比率は、給水収益等の収益で、維持管理費等の費用をどの程度賄えているかを表す指標です。経常収支の黒字を示す100%以上が必要です。

※企業債残高対給水収益比率は、給水収益に対する企業債(借金)残高の割合であり、企業債残高の規模を表す指標です。企業会計が置かれている状況を把握・分析し、適切な数値が継続的な検証が必要です。

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	安全な水道水の供給(※①)
---------	---------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
水質検査箇所密度	単位	目標		2.2	2.2	2.2	2.2	2.2
	箇所/100km	実績	2.2	2.2	2.2	2.2	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%	—	—
水質基準不適合率	単位	目標		0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	%	実績	0.0	0.0	0.0	0.0	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	1,756	千円	1,742	千円	21,105	千円	1,746	千円
うち 一般財源 (水道事業 財源)	1,756	千円	1,742	千円	21,105	千円	1,746	千円

1		水質管理事業											
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
水道利用者		・計画的な水質検査を実施することにより、安心安全な水を安定的に提供する。				・水質検査計画に基づき、適切な水質検査を行う。 ・水質(残留塩素、色度、濁度)常時監視装置を順次導入する。 ・施設の日々巡回点検の実施により異常の早期発見を目指す。							
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		⇒●水質管理 ・水質検査計画(年間計36回)に基づいた水質検査の実施 ・施設の日々巡回点検の実施		⇒ ・水質検査計画(年間計36回)に基づいた水質検査の実施 ・施設の日々巡回点検の実施			⇒ ・水質検査計画(年間計36回)に基づいた水質検査の実施 ・施設の日々巡回点検の実施			⇒ ・水質検査計画(年間計36回)に基づいた水質検査の実施 ・施設の日々巡回点検の実施			
直接事業費	決算額	1,756 千円		決算額	1,742 千円		決算額	21,105 千円		決算額	1,746 千円		
	うち一般財源(水道事業財源)	1,756 千円		うち一般財源(水道事業財源)	1,742 千円		うち一般財源(水道事業財源)	21,105 千円		うち一般財源(水道事業財源)	1,746 千円		
【達成目標2】強靱な水道システムの構築(※②③)													

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
配水施設(基幹配水池)耐震化率	単位	目標		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	%	実績	100.0	100.0	100.0	100.0	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%	—	—
配水施設(基幹管路)耐震適合率	単位	目標		20.6	23.0	23.0	24.2	25.3
	%	実績	19.5	19.9	27.4	30.0	—	—
		達成率		96.6%	119.1%	130.4%	—	—
災害時応援協定締結団体数(累計)	単位	目標		11	11	11	11	11
	団体	実績	11	11	11	11	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%	—	—

達成目標2の事業費								
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	844,767	千円	813,352	千円	1,098,976	千円	683,522	千円
うち一般財源(水道事業)	503,127	千円	441,473	千円	629,401	千円	368,818	千円

2		水道施設整備事業												
事務事業の目的					事務事業の内容									
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)												
水道利用者					・老朽化した水道施設の改良工事を実施し、漏水事故を未然に防ぎ、利用者に安心で安定した給水を確保する。 ・配水池及び配水管の耐震化を行い災害に強い水道を目指す。 ・老朽管の更新を行うと同時に耐震管路化を図る。 ・配水池の耐震化工事を実施する。 ・未給水地区解消事業を推進し普及率の向上を図る。 ・道路改良事業等に併せて配水管の改良を行う。									
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		●配水池耐震補強事業 ・神外接合井(1期)工事 ●老朽配水管改良工事 ・小平井・吉浜・神島・西大島新田・大島中地区 ●配水管新設改良工事 － ●道路改良事業に伴う配水管改良工事 ・篠坂・入田・有田・東大戸・西大戸・甲弩・走出・笠岡・広浜・神島地区 ○笠岡市水道事業経営戦略策定及び水道事業ビジョンの見直し			⇒ ・神外接合井(2期)工事 ●海底送・配水管更新事業 ・海底送水管(北木島～小飛島間) 布設替工事 ⇒ ・小平井・有田・神島・用之江・大島中地区 ⇒ － ⇒ ・篠坂・入田・有田・東大戸・西大戸・甲弩・走出・尾坂・神島地区			●海底送・配水管更新事業 ・海底送水管(北木島～小飛島間) 布設替工事 ⇒ ・小平井・有田・神島・用之江・西大島地区 ⇒ － ⇒ ・篠坂・入田・有田・東大戸・西大戸・甲弩・走出・尾坂・神島地区			●老朽配水管改良工事 ・園井・小平井・吉田・神島外浦・大島地区 ●配水管新設改良工事 ・富岡・茂平・山口地区 ●道路改良事業に伴う配水管改良工事 ・用之江・茂平・甲弩・大島中地区			
直接事業費		決算額	713,626	千円	決算額	711,968	千円	決算額	928,560	千円	決算額	550,374	千円	
		うち一般財源(水道事業財源)	374,623	千円	うち一般財源(水道事業財源)	341,648	千円	うち一般財源(水道事業財源)	462,013	千円	うち一般財源(水道事業財源)	237,744	千円	

3		水道施設維持管理事業										
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
水道利用者		・配水管等の的確な漏水調査と速やかな修繕により、有収率の維持向上を図り水道供給コストの低減化と安定した給水を行う。 ・水質検査の実施、適切な施設の維持管理により、利用者が安心して使用できる水を提供する。				・経年老朽管等の漏水を早期に発見・修繕し漏水量を低減し、有収率の向上を図る。 ・給水装置工事事業者に工事施工に当たっての適正な指導・監督を行う。 ・施設の巡回点検・保守点検・修理の実施により、施設の延命化を図る。						
		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度				
取組内容		●漏水調査 ・笠岡・中央町・富岡・神島・神島外浦・拓海町・平成町・カプト西町・カプト南町地区 ●漏水修繕<357件>		⇒ ・絵師・広浜・馬飼・緑町・西大島新田・甲弩・走出・園井・今立・大井南・相生・小平井・金浦 ⇒<325件>		⇒ ・高島・白石島・北木島・真鍋島・飛島・六島・大島中・西大島・みの越 ⇒<408件>		⇒ ・吉田・山口・関戸・新賀・尾坂・東大戸・西大戸 ⇒<228件>				
直接事業費	決算額	131,141	千円	決算額	101,384	千円	決算額	170,416	千円	決算額	133,148	千円
	うち一般財源(水道事業財源)	128,504	千円	うち一般財源(水道事業財源)	99,825	千円	うち一般財源(水道事業財源)	167,388	千円	うち一般財源(水道事業財源)	131,074	千円
【達成目標3】		持続可能な水道事業運営(※④⑤)										

達成目標3の指標

指 標 名				目標・実績の推移					
				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
収納率(現年度)	単位	目標			99.6	99.6	99.6	99.6	99.6
	%	実績		99.4	99.6	99.7	99.7	—	—
		達成率			100.0%	100.1%	100.1%	—	—

達成目標3の事業費

		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費		1,938	千円	2,132	千円	2,479	千円	2,644	千円
うち一般財源(水道事業財源)		1,938	千円	2,132	千円	2,479	千円	2,644	千円

4 水道料金等の徴収事務												
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
水道料金等を滞納している者			「新たな滞納を作らない」という目標の基に、現年度の目標収納率を99.4%とし、現年度・過年度分の未収金を縮減する。			1 電話催告・個別訪問等による徴収を行い、常習的、悪質な滞納者には給水停止を執行する。 2 現年度分滞納者に対し即座に催告・給水停止予告書を送付し多期に渡る滞納を防ぐ。 3 過年度滞納者に対し履行可能な分納誓約書を取る。 4 口座振替の推進及びコンビニ収納の有効活用を図る。						
令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●水道事業会計健全化事業			⇒ ・コンビニ収納、スマホ決済の有効な活用			⇒ ・コンビニ収納、スマホ決済の有効な活用			⇒ ・コンビニ収納、スマホ決済の有効な活用		
	<現年度分収納率:99.4%>			<現年度分収納率:99.6%>			<現年度分収納率:99.7%>			<現年度分収納率:99.7%>		
直接事業費	決算額	1,851	千円	決算額	2,108	千円	決算額	2,151	千円	決算額	2,027	千円
	うち一般財源(水道事業財源)	1,851	千円	うち一般財源(水道事業財源)	2,108	千円	うち一般財源(水道事業財源)	2,151	千円	うち一般財源(水道事業財源)	2,027	千円

5 水道総務事業												
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)									
関係職員			・水道事業の安定的運営のため、専門的な知識・技術をもつ職員を育成する。			・豊富な知識・経験を持つ熟練職員による指導を行う。 ・日本水道協会等が実施する技術講習会等に積極的に参加し、人材育成を図る。 ・技術を継承するため、人材の確保を図る。						
令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●人材育成 ・日本水道協会、備後圏域、県南西部地域等において実施される技術講習会等への参加			⇒			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	87	千円	決算額	24	千円	決算額	328	千円	決算額	617	千円
	うち一般財源(水道事業財源)	87	千円	うち一般財源(水道事業財源)	24	千円	うち一般財源(水道事業財源)	328	千円	うち一般財源(水道事業財源)	617	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度		
直接事業費	848,461	千円		817,226	千円		1,122,560	千円		687,912	千円	
うち一般財源(水道事業財源)	506,821	千円		445,347	千円		652,985	千円		373,208	千円	

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
上水道の維持に日々努めていただきありがとうございます。子供たちの未来に直結する大きな事業ですが、世代負担をバランスよく考えていただきたいこと。また民間には引き渡さないで引き続きお願いしたいと思います。	→ 引き続き、世代負担のバランスを考慮しながら、安心・安全な水を将来にわたってお届けできるよう、水道事業の経営を行ってまいります。
生きる尊厳を守るため、引き続き施策を進めてください。	→ 生活に欠かすことのできない水をお届けするため、引き続き、経営戦略等の計画に沿って施策を進めてまいります。
経営状況も有収率も申し分ないように思います。施設の計画的な更新をお願いします。	→ 引き続き、計画的に施設の更新を実施してまいります。
・令和3年度はA評価で、今回も遜色なく達成されていると思います。	→ この経営状況を維持できるよう、引き続き、各事業に取り組んでまいります。

年に36回も水質検査を行ってくださっているとのこと「安全」で安心です。また整備や維持管理もしっかりしてくださっており、「強靱」かつ「持続」可能な上水道であると感謝します。老朽化が進んでいるので仕方ないのですが水質管理事業、水道施設整備事業の事業費がかなり多くなっています。また、水道施設維持管理事業も増えており、さらに一般財源の割合も高くなっています。ご説明をお願いします。 水道水を安心して使用できると感じている市民の割合が減ってしまいました。しっかりと取り組んでいただいているのに不思議ですが、理由は何なのでしょう。世界でも大きな課題となっている水質汚染。SDGsの6番目「安全な水とトイレをすべての人に」という目標にちなんで市民ができることなどを共に考えることも必要だと思います。	→ 令和4年度に水質管理事業の事業費が増加した要因は、犬塚加圧室の水質監視装置設置工事を実施したことによるもので、水道施設維持管理事業の事業費が増加した要因は、北木島～小飛島間の海底送水管の布設替工事等を実施したこと等によるものです。また、水道施設維持管理事業の事業費が増加した要因は、漏水調査の対象地区を増やしたことや海底送水管等の漏水に対して積極的に修繕を行い、水道施設の維持管理に努めたことによるものです。なお、この増加した費用には特定財源の措置がないため、自己財源の割合が高くなりました。 水道水については、令和5年度に岡山県内で水道水から高い数値の有機フッ素化合物検出されて問題になりましたので、ご心配されている方もおられると思います。引き続き、水質基準に適合した安心・安全な水をお届けできるよう、しっかりと取り組むとともに、ホームページ等を通じて市民のみなさまに本市の水道の状況をお知らせしてまいります。
水道検査100%、不適合もなしという実態に、大変な努力を要したと思います。安定した事業を推進するための収納率も高く、今後も維持管理を行い事業の安定化を図ってください。	→ 今後も安定した経営に努めてまいります。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

事業の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	---	---

<7.未達成の指標への対応策>

未達成指標への対応策	令和5年度の経常収支比率が100%を下回った要因は、物価高騰対策として水道料金の基本料金6か月分の減免を実施したことによるものです。今後は減免の予定がないため、100%以上となる見込みです。引き続き、健全経営に努めてまいります。 企業債残高対給水収益比率につきましては、令和2年度に経営戦略を策定し、更新工事の事業費に充てる企業債を事業費の25%程度、借入額の上限を給水収益の350%と設定して計画的に企業債の借入を行っています。令和4年度は、海底送水管の布設替工事に充てるため、借入額が増加し、令和5年度は、基本料金の減免により給水収益が減り、比率が高くなっています。
------------	---

<8.委員による評価結果>

総合評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	A	(参考) 昨年度の評価結果	A
コメント	・前々回令和3年度から今回令和5年度の施策評価まで3年連続A評価でした。指標は良くなっていますが、将来的な上水道管の交換費用が大きくなるのが心配です。 ・水道料金を値下げしないとお聞きし、施設の維持や更新に充てられると安心しています。 ・他都市においては、上水道の不適が取り沙汰されていますが、笠岡市の市民アンケートによれば100%近く良いが報告されています。今後とも件端水の維持にご努力ください。 ・経常収支比率は下回りましたが、水道料金の基本料金の減免は大変助かりました。 ・県内の水道水汚染のニュースで我が市は大丈夫だろうかと気になりましたが、HPで確認できるので少し安心しています。しかし夏場に蛇口をひねると温かい水が出て来ます。夕方日が沈んでも生ぬるい水で、温暖化と水質の関係も気になっています。 ・水道管の劣化をAIによる診断というニュースを見ました。人手不足が課題とのことでしたので職員の負担も減り、またコスト削減にも繋がったようで良かったと思います。 ・重要な生活インフラですので、引き続き安全で安定的な上水道の提供を期待しています。 ・上下水道に関しては配管の維持や水質の検査などためめ努力をありがとうございます。フッ素化合物についての全国的な心配は今後笠岡市民も気にされている方も多いと思います。今後も安心安全な水の供給と経営をお願いします。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策No.	4-8	施策名	健全な下水道運営	主担当課	下水道課
戦略の柱	安定戦略 “安らぐ”			関係課	
基本方針	社会情勢及び財政情勢の変化に即し、効率的かつ安定した下水道運営による持続的な下水道サービスを提供します。				

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
汚水処理人口※普及率(汚水処理施設を利用できる人口／行政人口×100)	単位	目標		80.6	81.4	82.1	82.9	83.8
	%	実績	79.8	80.3	81.2	82.1	—	—
		達成率		99.6%	99.8%	100.0%	—	—

※汚水処理人口とは、公共下水道、特定環境保全公共下水道、漁業集落排水施設、及び合併処理浄化槽を利用できる人口

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	下水道処理人口普及率の向上(※①)
---------	-------------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
下水道処理人口※普及率(処理区域内人口／行政人口×100)	単位	目標		58.6	58.7	59.0	59.0	59.0
	%	実績	58.5	58.9	59.5	59.9	—	—
		達成率		100.5%	101.4%	101.5%	—	—

※下水道処理人口とは、笠岡処理区と北部処理区の公共下水道事業の処理区域内で下水道施設を利用できる人口

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	681,523	千円	503,594	千円	803,183	千円	407,906	千円
うち一般財源	57,235	千円	55,287	千円	56,402	千円	50,992	千円

1	公共下水道整備事業(笠岡処理区)												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
公共下水道(笠岡処理区)整備区域内住民		清潔で快適な生活環境を確保するとともに、公共用水域の水質保全と浸水の防除を図る。				公共下水道事業(笠岡処理区)について、全体計画区域1,382ha(計画処理人口29,000人)のうち、事業計画区域944ha(事業計画処理人口27,600人)を整備する。							
取組内容	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
	●公共下水道事業の実施			⇒			⇒			⇒			
	面整備(茂平・神島外等枝線) 累計整備面積:827.0ha			面整備(用之江等枝線) 累計整備面積:835.9ha			面整備(用之江等枝線) 累計整備面積:844.3ha			面整備(用之江等枝線) 累計整備面積:845.9ha			
直接事業費	決算額	437,544	千円	決算額	324,359	千円	決算額	649,078	千円	決算額	302,220	千円	
	うち一般財源	54,969	千円	うち一般財源	52,979	千円	うち一般財源	54,052	千円	うち一般財源	48,597	千円	

2	特定環境保全公共下水道整備事業(北部処理区)											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
公共下水道(北部処理区)整備区域内住民		清潔で快適な生活環境を確保するとともに、公共用水域の水質保全を図る。				公共下水道事業(北部処理区)について、計画区域125ha(計画処理人口2,540人)のうち、事業計画区域33.4ha(事業計画処理人口750人)を整備する。						
取組内容	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
	●公共下水道事業の実施 ・甲賀地区 累計整備面積:25.5ha			⇒ ・甲賀地区 累計整備面積:25.6ha			⇒ ・甲賀地区 累計整備面積:26.9ha			⇒ ・甲賀地区 累計整備面積:27.9ha		
	決算額	243,979	千円	決算額	179,235	千円	決算額	154,105	千円	決算額	105,686	千円
	うち一般財源	2,266	千円	うち一般財源	2,308	千円	うち一般財源	2,350	千円	うち一般財源	2,395	千円
【達成目標2】		災害・老朽化対策(※②)										

達成目標2の指標

指 標 名				目標・実績の推移					
				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
下水道総合地震対策実施率	単位	目標				15.5	20.5	25.6	25.6
	%	実績 達成率		1.9	13.7	44.5	55.2	—	—
						287.1%	269.3%	—	—

達成目標2の事業費

	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
直接事業費	262,516	千円		276,623	千円		301,506	千円		330,256	千円	
うち一般財源	31,342	千円		34,237	千円		42,731	千円		59,183	千円	

3	管渠等維持管理業務											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
公共下水道の管渠及び排水設備		管渠及び排水設備の維持管理の適正化を行うと共に、下水道管渠管理システムによる管渠及び排水設備の維持管理の効率化・迅速化を図る				管渠修繕工事及び管渠清掃調査等を実施する。また、下水道管渠管理システムにより、管渠及び排水設備の維持管理の効率化・迅速化を図る。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●下水道管渠管理システムの有効活用 ・管渠及び排水設備の維持管理			⇒			⇒ ・管渠及び排水設備の維持管理			⇒ ・管渠及び排水設備の維持管理		
直接事業費	決算額	22,307	千円	決算額	21,756	千円	決算額	21,016	千円	決算額	16,897	千円
	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円

4	漁業集落排水施設維持管理業務												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
漁業集落排水施設を利用する島民		漁港及び周辺海域の自然環境の保全に努め、島民の快適な生活環境の充実を図る				適正な運転管理を行うことにより、水質汚濁防止法による規制値内の処理水を放流する							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	★・処理施設の適正な維持管理			⇒ ・保守点検業務 ・運転操作業務 ・水質試験業務			⇒ ・保守点検業務 ・運転操作業務 ・水質試験業務			⇒ ・保守点検業務 ・運転操作業務 ・水質試験業務			
	決算額	10,438	千円	決算額	10,050	千円	決算額	11,018	千円	決算額	10,458	千円	
直接事業費	うち一般財源	8,301	千円	うち一般財源	5,595	千円	うち一般財源	5,221	千円	うち一般財源	4,482	千円	

5	下水道処理施設維持管理業務												
事務事業の目的							事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
公共下水道を使用する市民		海域の自然環境の保全に努め、市民の快適な生活環境の充実を図る。					処理場:適正な運転管理を行うことにより、水質汚濁防止法による規制値内の処理水を放流する						
取組内容	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
	・処理施設の適正な維持管理			⇒ ・保守点検業務 ・運転操作業務 ・水質試験業務			⇒ ・保守点検業務 ・運転操作業務 ・水質試験業務			⇒ ・保守点検業務 ・運転操作業務 ・水質試験業務			
	決算額	229,771	千円	決算額	244,817	千円	決算額	269,472	千円	決算額	302,901	千円	
	うち一般財源	23,041	千円	うち一般財源	28,642	千円	うち一般財源	37,510	千円	うち一般財源	54,701	千円	
【達成目標3】下水道使用料収入の向上(※③)													

達成目標3の指標

指 標 名			目標・実績の推移						
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標	
水洗化率(水洗化人口／処理区域内人口×100)	単位	目標		90.0	90.0	90.0	90.0	90.1	
	%	実績	90.0	90.6	90.5	90.1	—	—	
		達成率		100.7%	100.6%	100.1%	—	—	
下水道使用料徴収率(徴収額／下水道使用料確定額×100)	単位	目標		99.7	99.7	99.7	99.7	99.7	
	%	実績	99.5	99.7	99.8	99.8	—	—	
		達成率		100.0%	100.1%	100.1%	—	—	
経常収支比率(経常収益／経常費用×100)	単位	目標			100.0以上	100.0以上	100.0以上	100.0以上	
	%	実績	105.4	104.0	102.7	104.3	—	—	
		達成率			102.7%	104.3%	—	—	

※経常収支比率は、使用料収入等の収益で、維持管理費用等をどの程度賄えているかを表す指標です。経常収支の黒字を示す100%以上が必要です。

達成目標3の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	36,532	千円	34,549	千円	41,604	千円	44,572	千円
うち一般財源	10,676	千円	9,297	千円	9,778	千円	9,352	千円

6	下水道経営事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
下水道事業		長期持続的な下水道サービスを提供するため、地方公営企業法を適用し、安定した下水道事業経営の実現を図る。				法適用を行い、安定した下水道経営の実現のために、歳入歳出の両面における経営の健全性の向上を図るとともに、経営の計画性・透明性の向上を図るなど、経営基盤の強化を行う。							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	・公営企業会計システム運用 ○下水道使用料及び受益者負担金の債権管理			・公営企業会計システム運用 ⇒			・公営企業会計システム運用 ⇒			・公営企業会計システム運用 ⇒			
直接事業費	決算額	491	千円	決算額	491	千円	決算額	854	千円	決算額	854	千円	
	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	

7	下水道普及業務											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
処理開始区域内の住民		公共下水道へ接続することにより、地域の生活環境の向上を図る。			下水道事業の説明会や広報誌、ホームページなどを通じてPRを行うと共に未接続世帯の訪問を行い、下水道接続への理解を促し、水洗化率の向上を図る。また、排水設備工事の申請や検査、及び公共樹設置依頼等に迅速な対応を行い普及促進を図る。							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●水洗化率向上へのPR活動 ・未接続世帯に対する戸別訪問による水洗化への啓発 訪問戸数 約20軒(コロナ禍による訪問活動の自粛のため) ・公共樹設置 24基			⇒ 訪問戸数 約200軒 ・公共樹設置 18基			⇒ 訪問戸数 約200軒 ・公共樹設置 23基			⇒ 訪問戸数 198軒 ・公共樹設置 21基		
	決算額	10,029	千円	決算額	6,876	千円	決算額	12,262	千円	決算額	15,806	千円
直接事業費	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円

8	浄化槽普及事業													
事務事業の目的						事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)												
公共下水道事業・集落排水事業の区域外の地域及び同事業認可区域内で7年以内に供用開始が見込めない地域に住居を有する市民				合併処理浄化槽の設置により、トイレの水洗化をはじめ、快適な生活環境の向上を図る。				浄化槽設置後、現地検査により補助金の交付を行う。 また、事業実績により、国県補助金の申請事務を行う。						
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度				
取組内容	●笠岡市合併処理浄化槽設置整備事業補助金交付			⇒			⇒			⇒				
	1 国・県補助分 5人槽 18基 7人槽 29基 8～10人槽 4基 2 特例措置(単市)分 2基			1 国・県補助分 5人槽 30基 7人槽 30基 8～10人槽 1基 2 特例措置(単市)分 1基			1 国・県補助分 5人槽 27基 7人槽 33基 8～10人槽 1基 2 特例措置(単市)分 2基			1 国・県補助分 5人槽 22基 7人槽 27基 8～10人槽 1基 2 特例措置(単市)分 1基				
直接事業費	決算額	26,012	千円	決算額	27,182	千円	決算額	28,488	千円	決算額	27,912	千円		
	うち一般財源	10,676	千円	うち一般財源	9,297	千円	うち一般財源	9,778	千円	うち一般財源	9,352	千円		

＜4.施策の直接事業費(3の合計)＞

		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費		980,571	千円	814,766	千円	1,146,293	千円	782,734	千円
うち一般財源		99,253	千円	98,821	千円	108,911	千円	119,527	千円

＜5.前年度の委員コメントに対する対応・回答＞

委員コメント		対応・回答
下水道の維持に日々努めていただきありがとうございます。上水道と重複しますが、子供たちの未来に直結する大きな事業ですが、世代負担をバランスよく考えていただきたいこと。また民間には引き渡さないで引き続きお願いしたいと思います。何とぞよろしくお願い致します。		→ 民間委託につきましては、終末処理場等の運営業務について、専門性が高いことから一部委託を行っています。今後の下水道事業の運営につきましても、社会情勢の変化等を加味しながら適時各種計画を見直し、適正に事業を実施してまいります。
「7下水道普及業務」の取組内容のうち、訪問戸数が「約200軒」となっています。訪問記録を残されていないのでしょうか。		→ 継続的に水洗化率向上に向けて、訪問活動等を行っています。過去の訪問地区、訪問件数の記録につきましては、履歴として残しています。令和2年度:24件、令和3年度:187件、令和4年度:210件です。

・この指標に現れていない下水道管の交換費用が大きいと思いますので、それが心配です。	→	今後の下水道管路施設の更新に向けて、令和3年度から既設老朽管の調査診断業務を実施しています。今後、調査診断結果を基に改築更新計画を策定し、計画的に下水道管の更新工事を行う予定としています。
下水道総合地震対策実施率が急激に上がり安心要素になりました。経常収支比率については徐々に下がってきているのが気になります。 水道水を安心して使用できると感じている市民の割合が減ってしまいました。SDGsの6番目「安全な水とトイレをすべての人に」という目標にちなんで市民ができることなどを共に考えることも必要だと思います。例えば、食べ残しや飲み残しをしない、水切りネットなどを使用して生活排水をきれいに、シャンプー・リンスの適量使用、米のとぎ汁の再利用や天ぷら油を捨てないなど。下水にも関わってくる内容がありますので、水道課と合同で市民と共に考える機会を持っていただくべきかと思いますがいかがでしょうか。	→	下水道総合地震対策事業を計画的に進めて行くことにより、対策実施率の向上を図って行きます。経常収支比率につきましては、各種計画を適時見直し実施する事により、目標値を下回らないように努めてまいります。市民の皆さまに対する広報活動につきましては、下水道課において毎年夏休みに笠岡終末処理場を開放して、「夏休み施設見学会」を実施し、下水道の浄化の仕組みや下水道の適正な利用法について説明を行っています。今後は、関係課と協働しながら広報活動を行って行きたいと考えています。
下水道事業については、広い地域の中での改善は、多年にわたって敷設していかなければなりません。下水道普及計画にのっとり、拡がっていくことを望みます。	→	下水道事業は、かなりの時間と費用を要します。今後も計画的に下水道整備事業を行うことにより、下水道普及率の向上を図って行きます。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の 進捗度 A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--	---

<7.未達成の指標への対応策>

未達成 指標 への 対応策	各地域毎に応じた効率的な整備手法で、今後も引続き計画的に事業を進めて行きます。
------------------------	---

<8.委員による評価結果>

総合 評価 A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	A	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・指数がよく、今回令和5年度の施策評価はA評価となっていますが、この指標に現れていない下水道管の交換費用が大きいと思いますので、それが心配です。 ・下水道使用料の値上げをしなくても、安定した経営が可能でしょうか。 ・下水道普及事業は長い年月が必要となりますが、全世帯に対して、現在どのくらいの普及率なのでしょう。 ・すべての項目で目標をクリアされているのでA評価にしましたが、担当部署の自己評価がBという点が気になりました。理由は何でしょうか？ ・下水道管路施設の更新についても上水道で利用されたAI診断など使われるのでしょうか。 ・管轄外だと思いますが、干拓の寺間遊水池のCODが悪化しています。専門的知識をお持ちの職員さんがいらついたらお知恵を貸していただければと思います。 ・指標をすべて達成しており、素晴らしいと思います。引き続き、効率的かつ安定した下水道運営による持続的な下水道サービスを続けてください。 ・今後も健全な整備を行っていただき、修繕等の費用計画等も今後の指標に上がってくると助かります。		

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	4－9	施策名	消防体制の整備	主担 当課	消防総務課
戦略の柱	安定戦略 “安らぐ”				
基本 方針	住民の生命、身体及び財産を火災から保護し、安全・安心に暮らせる地域社会の実現に向けて、笠岡市消防団並びに自主防災組織等と連携を図り、市内の消防体制の強化に加え、地域防災力の強化、危険物施設等の保安対策を進めます。			関係 課	警防課 予防課 通信指令課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
人口1万人当たりの出火率(管内)	単位	目標		9.50	9.00	8.50	8.00	7.50
	件	実績	9.87	7.19	7.66	6.73	—	—
		達成率		132.1%	117.5%	126.3%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	管内消防体制の強化(※①)
---------	---------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
消防施設設備の整備数（消防組合） （笠岡市消防団）	単位	目標		9	9	9	9	9
				38	38	38	38	38
	棟	実績	9	9	9	9	—	—
			39	39	39	39	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%	—	—
消防車両等の整備数（消防組合） （笠岡市消防団）	単位	目標		25	25	25	25	25
				51	51	51	51	51
	台	実績	25	25	25	25	—	—
			51	51	51	51	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%	—	—
消防学校等派遣者数(消防組合)	単位	目標		66	65	72	77	65
		実績	53	69	59	75	—	—
	人／年	達成率		104.5%	90.8%	104.2%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	219,738	千円	51,330	千円	92,679	千円	417,343	千円
うち 一般財源	57,338	千円	28,830	千円	19,079	千円	58,343	千円

1	指令台の更新												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
地域住民及び消防職員		火災等の被害を最小限に抑えるため、火災等を早期に覚知し、消防機関が素早く現場に到着するとともに、現場においては、情報の収集及び指揮命令の伝達を迅速かつ的確に行う。				指令台の支援データ更新を随時行い、円滑な指令業務を行うため装置の保守点検を実施する。また消防指令施設の機能強化を図り、情報の収集及び指揮命令の伝達強化を行いました。							
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		・指令台維持管理 ・新元号対応改修 ・指令設備直流電源装置用電池交換		⇒			⇒			・高機能消防指令施設及び消防救急デジタル無線部分更新 ・指令台維持管理			
直接事業費		決算額	10,120	千円	決算額	10,120	千円	決算額	10,120	千円	決算額	406,460	千円
		うち一般財源	10,120	千円	うち一般財源	10,120	千円	うち一般財源	10,120	千円	うち一般財源	47,460	千円

2	消防無線のデジタル化											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
地域住民及び消防職員		消防救急無線のデジタル化を図り、消防活動の円滑な推進に努めるとともに、地域住民の避難誘導等の伝達を的確に行う。				火災等の被害を最小限に抑えるとともに、情報の収集及び指揮命令の伝達を迅速かつ的確に行うことが重要であるため、消防救急デジタル無線の調達を行う。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・維持管理			⇒			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円
	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円

3	梯子車の更新											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
地域住民		中高層建築物等での迅速かつ的確な消火・救助活動を行う。				災害対応が迅速に行えるように、はしご付消防自動車の点検整備を図る。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・現場出動 ・操作訓練 ・消防訓練等の実施 ・点検整備 ・オーバーホール (新規から7年→5年→3年で実			⇒			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	39,435	千円	決算額	682	千円	決算額	731	千円	決算額	469	千円
	うち一般財源	39,435	千円	うち一般財源	682	千円	うち一般財源	731	千円	うち一般財源	469	千円

4	高規格救急車の更新											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
地域住民		高度な応急処置の実施ができる高規格救急車を導入し、救命率の向上を図る。				現有車両の点検整備及び老朽車両を年次的に更新整備する。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・救急訓練等の実施 ・点検整備			⇒ ⇒ ・仕様書の作成 ・起債申請 ・入札 ・仮契約 ・組合議会での議決後、本契約 ・完成検査(鴨方署)			⇒ ⇒			⇒ ⇒		
直接事業費	決算額	870	千円	決算額	33,747	千円	決算額	352	千円	決算額	2,045	千円
	うち一般財源	870	千円	うち一般財源	11,247	千円	うち一般財源	352	千円	うち一般財源	2,045	千円

5	各種研修の実施											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
消防職員		災害対応に関する実践的な知識、ノウハウ、スキルを修得し、災害対応力の向上を図る				・消防大学校入校 ・各種研修受講 ・関連資格取得						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・研修事業の実施 ・消防大学校(救助科・救急科)入校要望 ・救急救命研修所派遣要望 ・消防学校入校要望 ・各種研修・資格取得の実施 ・指導救命士の養成			⇒ ・消防大学校(救急科)入校要望 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ・消防大学校(警防科)入校要望 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ・感染防止対策強化研修入校要望 ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒		
直接事業費	決算額	6,846	千円	決算額	6,781	千円	決算額	7,778	千円	決算額	8,369	千円
	うち一般財源	6,846	千円	うち一般財源	6,781	千円	うち一般財源	7,778	千円	うち一般財源	8,369	千円

6	消防車両等の整備											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
地域住民及び消防職員		管内における火災鎮圧、救急業務、人命救助、その他の災害応急対策を確実に遂行するとともに、消防の責任を十分に果たすために、必要な消防車両等の更新整備を図り、住民に安心安全の行政サービスを行う。					老朽化した消防車両及び資機材等の更新整備を図る。					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・仕様書の作成 ・起債申請 ・入札 ・仮契約 ・組合議会での議決後、本契約 ・中間検査 ・完成検査 (鴨方消防署ポンプ車、鴨方消防署救助工作車)						(笠岡消防署タンク車)					
直接事業費	決算額	162,467	千円	決算額	0	千円	決算額	73,698	千円	決算額	0	千円
	うち一般財源	67	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	98	千円	うち一般財源	0	千円

【達成目標2】地域の消防活動の強化(※②)

達成目標2の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
消防団員数	単位 人	目標		947	955	960	920	970
		実績	948	944	913	902	—	—
		達成率		99.7%	95.6%	94.0%	—	—
女性消防団員数	単位 人	目標		21	21	38	38	21
		実績	19	21	36	34	—	—
		達成率		100.0%	171.4%	89.5%	—	—
婦人防火クラブ数	単位 クラブ	目標		50	50	50	50	50
		実績	50	50	50	50	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%	—	—
幼年・少年消防クラブ数	単位 クラブ	目標		20	20	20	17	18
		実績	19	19	19	16	—	—
		達成率		95.0%	95.0%	80.0%	—	—

達成目標2の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	178,865	千円	108,485	千円	18,424	千円	18,074	千円
うち 一般財源	4,133	千円	2,610	千円	2,027	千円	2,114	千円

8		自主防災組織等育成事業											
事務事業の目的							事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民		災害時における「自助」「共助」「公助」を確立し、笠岡市の減災力向上を図る。					・市内自主防災組織を対象とした研修会の開催 ・自衛消防隊の指導						
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		●自主防災組織への支援 ●自衛消防隊の育成 (防火対象物・危険物施設) ●婦人防火クラブ研修会 ●幼年・少年消防クラブ研修会 及び防火講話			⇒			⇒			⇒		
直接事業費		決算額	1,983	千円	決算額	1,916	千円	決算額	1,658	千円	決算額	1,895	千円
		うち一般財源	1,983	千円	うち一般財源	1,916	千円	うち一般財源	1,658	千円	うち一般財源	1,895	千円

9	消防団活性化事業											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
住民及び消防団員		消防団員が活動しやすい環境をつくりだすために、消防団の装備・施設の充実強化と処遇の改善を行うことにより、住民の安全確保を図る。		・処遇の改善 ・消防団員の確保 ・消防団装備の整備充実 ・消防団員の交流による防災力向上 ・消防技術と知識の伝承								
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●協力事業所表示制度の促進			⇒			⇒			⇒		
	・消防機庫建設事業(笠岡2部, 神内3部, 大島1部, 神外2部, 白石1部) ・消防ホース乾燥塔建設(笠岡4部, 神外1部, 大島3部) ・消防車両等整備事業 消防ポンプ自動車(笠岡4部, 城見3部) 小型動力ポンプ積載車(大井1部, 大島3部) 小型動力ポンプ(今井1部, 神内3部, 大島4部) ・消防団設備整備事業(切創防止用保護衣48着)			・消防機庫建設事業(笠岡2部, 神外2部, 白石1部) ・消防車両等整備事業 小型動力ポンプ積載車(陶山1部) 小型動力ポンプ(吉田1部, 真鍋3部) ・消防団設備整備事業(発電機及び投光器9セット) ・安全装備品整備事業(雨衣上下)			・消防機庫建設事業(白石1部) ・消防車両等整備事業 小型動力ポンプ積載車(神外2部) ・安全装備品整備事業(雨衣上下)			・消防機庫建設事業(白石2部解体) ・消防車両等整備事業 小型動力消防ポンプ(団本部) 小型動力ポンプ積載車(大井3部, 新山1部)※新山1部は総務省無償貸付 ・消防ホース乾燥塔建設(大井2部) ・安全装備品整備事業(雨衣上下)		
直接事業費	決算額	176,882	千円	決算額	106,569	千円	決算額	16,766	千円	決算額	16,179	千円
	うち一般財源	2,150	千円	うち一般財源	694	千円	うち一般財源	369	千円	うち一般財源	219	千円

【達成目標3】住宅防火対策の推進(※③)

達成目標3の指標				目標・実績の推移					
指 標 名				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
住宅用火災警報器設置率	単位	目標			62.0	67.0	75.0	80.0	82.0
	%	実績		57.2	62.0	72.9	78.0	—	—
		達成率			100.0%	108.8%	104.0%	—	—
住宅防火診断	単位	目標			10	23	25	27	29
	世帯／年	実績		7	7	4	13	—	—
		達成率			70.0%	17.4%	52.0%	—	—

達成目標3の事業費								
	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	10	千円	10	千円	10	千円	10	千円
うち一般財源	10	千円	10	千円	10	千円	10	千円

10	住宅防火対策事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
地域住民		火災発生件数を減少させるとともに、火災による死傷者の軽減を図り、市民が安全で安心して暮らせるようにする。					・住宅火災件数の減少及び死傷者数の軽減を図るため、住宅用火災警報器の設置を推進する。 ・積極的な広報活動と住宅防火診断等を継続的に実施する。					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●住宅用火災警報器設置推進啓発 ・啓発チラシ配布による設置よびかけ(街頭、イベント会場) ・5年計画で全戸対象に設置・維持管理を戸別訪問によるよびかけで実施することを継続 ●一人暮らしの高齢者及び要配慮者世帯の防火診断			⇒			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	10	千円	決算額	10	千円	決算額	10	千円	決算額	10	千円
	うち一般財源	10	千円	うち一般財源	10	千円	うち一般財源	10	千円	うち一般財源	10	千円

【達成目標4】防火対象物の防火安全対策及び危険物施設の保安対策(※④)

達成目標4の指標

指標名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
防火対象物立入検査	単位	目標		280	310	310	310	310
	棟/年	実績	260	269	302	326	—	—
		達成率		96.1%	97.4%	105.2%	—	—
危険物施設立入検査	単位	目標		130	140	140	150	150
	施設/年	実績	120	68	82	112	—	—
		達成率		52.3%	58.6%	80.0%	—	—
重大違反防火対象物	単位	目標		0	0	0	0	0
	棟	実績	1	1	1	2	—	—
		達成率		0.0%	0.0%	0.0%	—	—
保安・防火講習受講者数	単位	目標		120	120	120	120	120
	人/年	実績	120	113	108	116	—	—
		達成率		94.2%	90.0%	96.7%	—	—

達成目標4の事業費

令和2年度			令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	106	千円	53	千円	63	千円	61	千円
うち一般財源	106	千円	53	千円	63	千円	61	千円

11	防火対象物等防火・防災対策事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
防火対象物及び危険物施設を所有する事業者		事業所への立入査察を通して、事業者の適正な防火管理を指導し、火災発生を防止する。					事業所への立入査察、指導					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●事業所への立入検査 ・年間の査察計画を立て、立入査察の実施 (防火対象物及び危険物施設) ・危険物施設で地下貯蔵タンクを保有する事業所に対する漏洩事故防止の強化 ・催し物における露店等の立入査察の実施 ・初期消火訓練大会の実施			⇒			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	106	千円	決算額	53	千円	決算額	63	千円	決算額	61	千円
	うち一般財源	106	千円	うち一般財源	53	千円	うち一般財源	63	千円	うち一般財源	61	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
直接事業費	398,719	千円	159,878	千円	111,176	千円	435,488	千円			
うち一般財源	61,587	千円	31,503	千円	21,179	千円	60,528	千円			

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
日頃より消防体制の整備にご尽力いただきありがとうございます。消防団の世代交代も地域により進捗状況が違っているように思います。どのように把握されていますか。防災組織が薄い地域への働きかけもお願いできたらと感じます。	→ 15年前(平成21年)の数値と比較しますと、いずれの分団においても所属団員の平均年齢が上昇しており、各分団の団員の年齢構成においても、15年前は30～40歳代が多数を占めていましたが、40～50歳代が多数を占める形に移行しつつあります。 特に島しょ部については、若い世代や人口の流入が他の地域に比べて少ないことから、世代交代が困難な地域となっています。 火災予防広報の回数を増やし、防災組織が薄い地域だけでなく管内住民の方々に火災予防を広くPRするとともに、広報誌等を活用し火災予防の啓発を呼び掛け、防火意識の向上に努めてまいります。
なり手不足が顕在化してきた消防団は、少し制度の曲がり角にきているようにも思います。対応を期待しています。	→ 笠岡市消防団については、現在の定数(980人)となったのが昭和62年の人口(約61,000人)を基に算出されたもので、当時は980名の団員がいたものと推察されます。令和6年4月現在、団員数は882人となっており、人口は45,000人を下回っています。この間、人口は約26%減少しましたが、団員数は10%の減少に留まっています。これは歴代の笠岡市消防団員の努力によるものが大きい要因であると考えられます。 消防団員に限られたことではありませんが、市の人口が逡減していく中で、人材確保を行うのは困難なことであり認識していますので、現状の人口に見合った定数の見直しを行っていかれたらと考えております。
井原消防組合では、住民への啓発にInstagramを活用していると聞きました。若い世代には有効かと思いますが、笠岡でも検討などされていますか。	→ 笠岡地区消防組合でも、令和4年8月1日よりイベント等の行政情報のほか、出来事・魅力などの情報を広く発信する目的でInstagramの運用を行っています。 今後、さらに多くの皆さんにこうしたSNSの存在を知ってもらうことが必要であると考えております。

・指標は前年の数値とあまり変わっていないように思います。消防団員数は減少しながらも、女性消防団員数は徐々に増えています。	→	指標(実績)の数値としては、制度上定数が決まっており、現状ではこれ以上の数値の増減をさせないことが望ましいものもありますのでご理解いただけたらと思います。 その上で、その定数自体が現状に沿ってないものがあるのは否めませんので、数値だけ追って内容が伴わない状態にならないよう見直しをする必要があると考えています。
コロナ禍でもできる限りのことをしてくださったのが分かりました。ありがとうございます。 また笠岡の出火率が目標値をクリアしているのは呼びかけなどのおかげだと思います。今後認知症患者や高齢者が更に増加するので引き続きよろしくお願いいたします。 消防団員数の減少は気になりますが、女性消防団員の増加や北川小学校少年消防クラブの結成など新たな担い手が増え喜ばしいことです。ドローンなど新しい装備の積極的活用の様子など市民にも見る機会があるとよいと思います。	→	一般市民参加型の各種訓練をはじめ、幼年・少年消防クラブ等の各種研修、イベント等を充実させ、子供から大人まで幅広い年齢層の方々が消防業務に興味を持っていたけような活動を実施していきたいと考えております。
婦人防火クラブや幼年少年消防クラブでは、団員が増えつつあり、防火予防の意識改革に繋がります。しかし、実際の消火活動は難しいと思います。地区消防団に女性団員の加入もあると聞いていますが、実際の消火活動に参加できているのでしょうか。	→	婦人防火クラブ員や幼年消防クラブ員に消防職員や消防団員が行うような放水等の消火活動を行っていただくことは想定しておらず、火災予防広報や啓発活動を行っていただいております。 女性消防団員については、自分の地域で火災が発生した場合、消火活動に携わっていただくことは十分にあり得ます。ホースの先に付いているノズルから水を出すことだけが消火活動ではありませんので、通報や避難誘導、炊き出しといった後方支援など、様々な形で消火活動や予防広報などの活動に従事していただいております。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

<7.未達成の指標への対応策>

未達成指標への対応策	【達成目標2】地域の消防活動の強化 未達指標①(消防団員数) 親睦事業や福祉共済制度などの福利厚生の部分の存在を広く周知することで、消防団員の人員確保に寄与できればと思います。 また、その寄与度が増加するよう、消防団の活性化を主たる目的とした活性化委員にて、各分団から選出された委員とともに消防団員の福利厚生の一層の充実について検討していきます。 未達指標②(幼年・少年消防クラブ数) 笠岡市再編整備計画により6クラブが廃止、3クラブが新結成されました。 今後も地域防災の担い手となる人材を育成するため、引き続きクラブの結成を呼び掛け、地域防災の充実強化を図ってまいります。 【達成目標3】住宅防火対策の推進 未達指標③(住宅防火診断) 目標達成に至りませんでした。住宅用火災警報器設置率は年々向上しています。 今後も、目標値を達成できるよう積極的な広報活動等と住宅防火診断を実施してまいります。 【達成目標4】防火対象物の防火安全対策及び危険物施設の保安対策 未達指標④(危険物施設立入検査、保安・防火講習受講者数) 両指標ともコロナ禍以前の数値に戻りつつあります。今後も、目標値を達成できるよう積極的に防火安全対策並びに保安対策の徹底を図ります。
------------	---

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・消防団員数や女性消防団員数は若干減少しながらも、他の数値はよくなっています。今後も引き続き頑張っていきたいと思います。 ・少し持ち直したとはいえ、住宅防火診断の件数が少ないのが気になります。 ・消防体制は100%位の整備であるが、誤報での出勤、そして多くの島々への救急救命と苦労も多かったと思います。地域消防の団員数の減少は気になりますね。 ・地域の消防活動に関わる人数が減少していますが、高齢化や少子化が進んでいるので致し方ないと思います。団員でない市民も地域防災について自分ごととして捉える機会が増えればと願います。 ・重大違反防火対象物が1から2に増えています。日頃から市民が気をつけなくてはならないような状態なのでしょうか。 ・高機能消防司令施設及び消防救急デジタル無線部分更新、司令台維持管理は年々毎にされるのですか。 ・次期総合計画からで良いので、通報から現場到着までの時間が指標に加えられたら良いように思います。 ・総合指標1の人工1万人あたりの出荷率が年々減ってきており市民活動の成果が上がっているように感じました。地域において自主防災組織や消防活動の強化があり、少ない増減はありますが継続的な育成が素晴らしいと思います。起こってほしくないですが万が一実際に災害や火事などに備えることができることありがたいです。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	4-10	施策名	地域防災の推進	主 担 当 課	危機管理課
戦略の柱	安定戦略 “安らぐ”				
基本 方針	市民の生命、身体及び財産並びに市政に重大な影響を及ぼす全ての危機を未然に防止し、こうした事態が発生した場合には被害を最小限に食い止めるため、地域の防災組織と連携し、市民の安心・安全を確保します。			関 係 課	建設管理課 建設事業課 都市計画課 農政水産課 地域福祉課 消防総務課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
消防団員数	単位	目標			955	960	920	970
	人	実績	948	944	913	902	—	—
		達成率			95.6%	94.0%	—	—
緊急情報メール、LINE配信サービス登録者数	単位	目標			11,000	13,000	15,000	17,000
	人	実績	6,979	9,710	11,245	12,882	—	—
		達成率			102.2%	99.1%	—	—
家庭で防災対策をしている割合（市民意識調査）	単位	目標		—	30.0	—	35.0	40.0(R4)
	%	実績	22.0	—	28.1	—	—	—
		達成率		—	93.7%	—	—	—
「地域防災の推進」の満足度（市民意識調査）	単位	目標		—	10.0		12.5	15.0(R6)
	%	実績	7.0	—	5.5	—	—	—
		達成率		—	55.0%	—	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	平常時に対策が整っている危機管理（※①）
---------	----------------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
食糧の備蓄	単位	目標		25,800	24,000	26,500	29,000	31,500
	食	実績	18,983	19,233	19,727	18,080	—	—
		達成率		74.5%	82.2%	68.2%	—	—
公共建築物の耐震化率	単位	目標		98.0	93.0	93.2	93.2	98.0
	%	実績	92.0	92.0	93.2	93.2	—	—
		達成率		93.9%	100.2%	100.0%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	42,484	千円	30,402	千円	28,574	千円	18,872	千円
うち 一般財源	32,755	千円	7,138	千円	9,712	千円	14,465	千円

1	建築物等の設置規制に関する業務												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市内に建築行為を行う物および建築物を所有する者		・市民の生命・財産を保護し、公共の福祉の増進を図る。 ・災害時における被害を未然に防ぎ、被害拡大の防止を図る。				・建築確認申請の受理、許可 ・建設リサイクルに関する受理 ・岡山県福祉のまちづくり条例に関する物件の受理 ・建築物耐震診断事業に関する補助 ・木造住宅耐震改修事業に関する補助 ・住宅リフォーム助成 ・空き家等除却事業							
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	●建築確認及び指導 確認申請受付 市11件・民143件 ●建築物の耐震診断、耐震改修事業 耐震診断助成 6件・耐震改修助成 1件 ●建築物の耐震診断、耐震改修に関する普及啓発事業 ・住宅リフォーム助成 191件 ●空き家等除却事業 空き家等除却助成 10件 ●アスベスト改修事業 アスベスト改修助成 1件			⇒ 確認申請受付 市14件・民165件 ⇒ 耐震診断助成 9件・耐震改修助成 2件 ⇒ 住宅リフォーム助成 181件 ⇒ 空き家等除却助成 4件			⇒ 確認申請受付 市 10件・民 121件 ⇒ 耐震診断助成 9件 耐震改修助成 1件 ⇒ 住宅リフォーム助成 102件 ⇒ 特定空家等除却助成 3件			⇒ 確認申請受付 市 14件・民 95件 ⇒ 耐震診断助成 7件 ⇒ 住宅リフォーム助成60件 (うち居住誘導区域内15件) ⇒ 特定空家等除却助成 3件			
	直接事業費	決算額	42,484	千円	決算額	30,402	千円	決算額	28,574	千円	決算額	18,872	千円
	うち一般財源	32,755	千円	うち一般財源	7,138	千円	うち一般財源	9,712	千円	うち一般財源	14,465	千円	

【達成目標2】 自助・共助の体制がとれた自主防災組織(※②)

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
防災士の人数	単位	目標		73	81	95	103	111
	人	実績	65	73	81	94	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	98.9%	—	—
地域密着型訓練の参加者数	単位	目標		6,000	5,000	5,000	5,000	5,000
	人／年	実績	485	282	1,185	3,835	—	—
		達成率		4.7%	23.7%	76.7%	—	—

達成目標2の事業費			令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費			77,175	千円	54,564	千円	31,649	千円	29,637	千円
うち一般財源			67,630	千円	51,334	千円	26,225	千円	24,217	千円

2	危機管理業務											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市民の生命と財産		災害時の被害を少なくする。二次災害を最小限にする。		・各種防災訓練について、地域の特色を考慮した訓練を実施する。 ・防災訓練の実施について、市民参加型訓練とし、市民の防災意識の高揚を図る。 ・災害時における市民への情報伝達の徹底を図る。								
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●危機に関する調査研究 ●関係機関との連携 ●笠岡市地域防災計画の推進 ●備蓄品の充実・適正管理 ●笠岡市総合ハザードマップの全戸配布 ●同報系デジタル無線の整備・施設保守点検委託業務 緊急告知FMラジオの貸与(ラジオ新規配付42台) ●災害応急復旧工事 ●避難所看板整備事業(21箇所) ●災害情報配信システム整備事業 ●国土強靱化地域計画策定 ●災害時拠点ヘリポート整備事業(六島)			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒(ラジオ新規配付16台) ⇒ ●避難所看板整備事業(21箇所) ⇒(運営)			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒(ラジオ新規配付7台) ⇒ ⇒ ●災害時携帯用無線整備事業			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒(ラジオ新規配付10台) ⇒ ⇒ ⇒(追加で4台整備) ●マンホールトイレ用備品整備事業		
	直接事業費	決算額	74,501	千円	決算額	51,911	千円	決算額	29,610	千円	決算額	27,598
	うち一般財源	66,292	千円	うち一般財源	50,007	千円	うち一般財源	25,205	千円	うち一般財源	23,198	千円

3	自主防災活動支援事業											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市民		災害時における「自助」「共助」「公助」を確立し、笠岡市の減災力向上を図る。		市内自主防災組織を対象とした研修会、講演会を開催したり、防災資機材を配布することによって、災害時に必要な物品の整備や知識の取得を図る。また、地域別防災マップ作成支援事業についてモデル地区を選定し実施することによって、自主防災組織全体の意識を向上させ、自主防災組織相互の連携を図る。								
		令和元年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		●防災資機材の配布 ●地域密着型訓練の開催 ・地域密着型訓練を17回実施 ・地域別防災マップ作成支援事業を県モデル事業において西東地区で開催 ●各地域での訓練指導		⇒ ⇒ ・地域密着型訓練を16回実施 ・地域別防災マップ作成支援事業を本町地区で開催 ⇒ ●防災士資格取得支援(8名取得)			⇒ ⇒ ・地域密着型訓練を16回実施 ・地域別防災マップ作成支援事業を園井地区で開催、県モデル事業において高島地区で開催 ⇒ ●防災士資格取得支援(8名取得)			⇒ ⇒ ・地域密着型訓練を60回実施 ・地域別防災マップ作成支援事業を今立地区で開催、県モデル事業において鳥ノ江・夏目地区で開催 ⇒ ●防災士資格取得支援(13名取得)		
直接事業費	決算額	2,674	千円	決算額	2,653	千円	決算額	2,039	千円	決算額	2,039	千円
	うち一般財源	1,338	千円	うち一般財源	1,327	千円	うち一般財源	1,020	千円	うち一般財源	1,019	千円

【達成目標3】	浸水・高潮被害を防ぐ安心できる備え(※③)
---------	-----------------------

達成目標3の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
海岸保全施設整備率(市管理)	単位	目標		94.0	97.0	99.0	99.0	100.0
	%	実績	89.0	94.0	97.0	99.0	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%	—	—
海岸保全施設点検実施率(市管理)	単位	目標		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	%	実績	100.0	100.0	100.0	100.0	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%	—	—
海岸保全施設(水門)点検数(市管理)	単位	目標			5	9	9	10
	箇所	実績	0	2	7	9	—	—
		達成率			140.0%	100.0%	—	—

達成目標3の事業費

	令和元年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	604,319	千円	386,941	千円	559,973	千円	513,094	千円
うち 一般財源	78,312	千円	72,495	千円	88,650	千円	110,896	千円

4	河川・排水路新設改良事業											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
河川・排水路背後地に在住の住民		洪水から住民の生命・財産を守る			計画の策定、要望書の受理、測量・調査・設計業務の発注、地元説明会の開催、用地の取得、物件の補償、工事の発注、工事の監督監理、検査確認							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●河川・排水路新設改良事業(河川整備事業) ・要望受理・現地調査・改良工事着手			⇒			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	339,243	千円	決算額	159,128	千円	決算額	154,135	千円	決算額	172,022	千円
	うち一般財源	1,243	千円	うち一般財源	528	千円	うち一般財源	3,635	千円	うち一般財源	34,922	千円

5	農業用施設維持管理業務(再掲)											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
農業用施設利用者		農業用施設利用者が安全・安心して利用できるようにする。			・農林水産業施設管理事業 ・農林水産業施設維持事業 ・農林水産施設(単独)災害復旧事業							

6		① 海岸保全施設整備事業											
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)										
海岸付近に在住の市民及び住宅			高潮・台風時期の潮位上昇に伴う浸水被害を防止する。			高潮時の海水を防ぐ水門・胸壁, 降雨時の内水排除用のポンプ設置, このための設計, 積算, 工事監督							
		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度					
取組内容		●海岸保全施設整備事業 ・横江漁港高潮対策事業 ★・豊浦港高潮対策事業 ★・湛江漁港高潮対策事業 ★・前浦港高潮対策事業		⇒ ・横江漁港高潮対策事業 ★・湛江漁港高潮対策事業 ★・豊浦港高潮対策事業		⇒ ・横江漁港高潮対策事業 ★・湛江漁港高潮対策事業 ★・金風呂漁港高潮対策事業 ★・豊浦港高潮対策事業		⇒ ・横江漁港高潮対策事業 ★・湛江漁港高潮対策事業 ★・金風呂漁港高潮対策事業					
直接事業費		決算額	144, 100	千円	決算額	90, 306	千円	決算額	207, 277	千円	決算額	125, 213	千円
		うち一般財源	0	千円	うち一般財源	106	千円	うち一般財源	477	千円	うち一般財源	213	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	723,978	千円	471,907	千円	620,196	千円	561,603
うち一般財源	178,697	千円	130,967	千円	124,587	千円	149,578

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
地域での防災に関するイベントが行われている印象です。防災意識を高く持つことは重要なことだと思いますので、引き続き地域防災の推進に努めてください。	→ 防災意識の向上は地域全体の安全を確保するために非常に重要であり、今後も防災イベント等を継続的に取り組んでまいります。
消防団員の確保は今の時代には難しいかもしれませんが、地域共生社会の推進のためにも「自らの地域は自ら守る」という精神の若者の確保をお願いします。	→ ・若年層の確保について これまで成人式でのピラ配り、広報誌等の作成を行っております。今後、SNSでの情報発信も必要だと感じています。
・地域密着型訓練の参加者数は大幅に増えていますが、目標数にはまだいかなようです。来年度はさらに増加するものと思います。	→ 訓練参加者数は増加していますが、目標数に達していない点については、課題として認識しております。今後の対策として、①広報活動の強化、②地域団体との連携、③参加しやすい環境の整備等を検討しています。
事業については概ね達成・改善していますが、「地域防災の推進」の満足度(市民意識調査)が2年前より下がりました。 地域密着型訓練の参加者数については昨年度より増えましたがコロナ禍のため目標達成率23.7%に留まりました。南海トラフなどの災害への不安や危機感から自主防災・地域防災に関心はあるが、アクションを起こせていないことで不安に思う人もいるのかもしれません。市民も巻き込んでのマイタイムライン作成等自分事として捉えることのできる防災推進をお願いします。	→ 「地域防災の推進」に関する市民意識調査の満足度が下がっている点について、深く受け止めております。また、地域密着型訓練の参加者数が昨年度より増加したものの、目標達成率が23.7%に留まったことについても課題として認識しております。市民が防災に関心を持ちながらも、実際の行動に移せていない状況を鑑み、以下の取り組みを推進してまいります。①市民参加型の防災プログラムの強化(マイタイムライン作成訓練)②地域密着型訓練の充実(地域のニーズに基づいた実践的な訓練プログラムを提供)③地域コミュニティとの連携強化(自主防災組織や地域の団体と連携し、共同で防災訓練やワークショップを開催)。これらの施策を通じて、市民の不安を解消し、地域防災の推進を図ってまいります。
地域防災の推進には、市民の意識改革を図らなければならない。まちづくり協議会にも、防犯・防災部会を組織している地区も増えていると思います。少しずつでも、その意識向上を図ってほしい。	→ 地域防災の推進において、市民の意識改革が重要であるというご指摘は、私どもも深く共感しております。まちづくり協議会においても、防犯・防災部会を組織する地区が増えていることは非常に心強いことです。今後は、まちづくり協議会の防犯・防災部会と連携し、地域住民が参加しやすい防災訓練や勉強会を実施し、市民一人ひとりが防災を「自分事」として捉え、積極的に取り組む意識の醸成を目指してまいります。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の 進捗度	A:施策を構成する事業が順調に進行している。 B:施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C:施策を構成する事業が一部遅れている。 D:施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
------------	--	---

<7.未達成の指標への対応策>

未達成 指標 への 対応策	【消防団員数】 新規団員の確保も必要だが、入団して数年の退団者数を減少させることが重要だと考える。消防団活動の重要性及び福利厚生の充実を図る必要がある。 【緊急情報メール、LINE配信サービス登録者数】 目標に達しなかったことを受け、今後は出前講座や防災訓練の際に、登録方法の説明やその場での利用登録を促し、登録者数の増加を目指す。 【食料の備蓄】 岡山県から示されている備蓄目標数を達成するように努めているが、限られた予算の中で、目標数の備蓄が達成出来ない。昨年度から年次的に県目標を達成可能なよう予算確保したため、着実に備蓄を進めていきたい。 【防災士の人数】 今後は出前講座の際に、防災士の認知度を高めるためのPRを実施し、防災士受験希望者の増員を目指す。 【地域密着型訓練の参加者数】 市民が防災に関心を持ちながらも、実際の行動に移せていない状況を鑑み、以下の取り組みを推進してまいります。①市民参加型の防災プログラムの強化(マイタイムライン作成訓練)②地域密着型訓練の充実(地域のニーズに基づいた実践的な訓練プログラムを提供)③地域コミュニティとの連携強化(自主防災組織や地域の団体と連携し、共同で防災訓練やワークショップを開催)。これらの施策を通じて、市民の不安を解消し、地域防災の推進を図ってまいります。
------------------------	--

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・防災士の人数や地域密着型訓練の参加者数は増えていることや他の数値も良く、頑張っており取り組んでいることは評価できます。今後も引き続き頑張ってくださいと思います。 ・消防団員数の増加を目指しておられますが、現実的にはなかなか難しいと思うのですが、少ないなりの活動は考えられますか。 ・災害が地域に発生すると、避難場所の確保、備蓄品の提供が大切であるが、備蓄品の数量が少ないように感じます。備蓄率の向上を図ることが課題だと思います。 ・南海トラフの影響がないとは言えない今、非常食用の備蓄や地域密着型の訓練の必要性は高いと感じています。また、マンホールトイレ用備品整備事業とはどのようなものですか。 ・緊急情報メール、LINEどちらも登録しているのですが、同じ内容のものが届くのでどちらかを登録解除したほうが良いでしょうか。費用が余分に市にかかっているようなら・・・と考えますが、複数の通信方法があったほうが良いのでしょうか。 ・地域防災の要である消防団員の確保に向けて努力をお願いします。 ・未達成目標の記載が明確で課題をしっかりと捉えられてると感じます。来年度に活かされていることを期待しています。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	4-11	施策名	防犯・交通安全の環境づくり	主 担 当 課	協働のまちづくり課
戦略の柱	安定戦略 “安らぐ”				
基本 方針	市民の防犯、交通安全、消費者被害の防止に対する関心や意識を高め、日々安心して過ごすことができる健全な地域社会の構築を基本として、市と市民の協働による安心して生活できるまちを目指します。			関 係 課	学校教育課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
人口千人当たりの犯罪発生件数	単位	目標		3.0	3	2.8	2.8	2.7
	件／年	実績	3.1	2.9	2.8	3.8	—	—
		達成率		103.4%	107.1%	73.7%	—	—
人口1万人当たりの交通事故(人身)発生件数	単位	目標		19.0	19	18	18	18
	件／年	実績	19	18.0	16.8	20.3	—	—
		達成率		105.6%	113.1%	88.7%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	犯罪・消費者被害のない環境づくり(※①③)
---------	-----------------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
防犯活動登録団体数	単位	目標		46	46	46	44	47
	団体	実績	46	46	46	44	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	95.7%	—	—
笠岡市消費生活問題研究協議会の会員数	単位	目標		120	120	120	120	120
	人	実績	117	109	100	94	—	—
		達成率		90.8%	83.3%	78.3%	—	—
消費生活相談窓口の利用件数	単位	目標		360	360	360	360	360
	件／年	実績	321	293	291	362	—	—
		達成率		81.4%	80.8%	100.6%	—	—
法律相談窓口の利用件数	単位	目標		53	53	53	53	53
	件／年	実績	49	50	50	52	—	—
		達成率		94.3%	94.3%	98.1%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	6,246	千円	6,779	千円	6,401	千円	6,251	千円
うち 一般財源	5,147	千円	5,669	千円	5,178	千円	6,199	千円

1	安全な消費生活事業											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市民		消費生活環境の変化の中、消費者を守るルールについて、消費者である市民が正しく理解し、消費者被害の防止と救済の両面から、安全・安心に生活ができる環境を整える。			消費生活に係る相談及び苦情の処理 消費生活に係る情報の収集及び提供 消費生活に係る啓発活動及び消費者教育 市民・消費者団体と協働で取り組む各種研究と啓発活動							
		令和元年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		●消費生活センター運営 ●各メディアを通じての広報・啓発 ●市民活動による調査広報 ●食生活に関する研究活動 ●リフォーム活動 ●廃油石けん、肥料などの環境活動 ●くらしと消費生活展 ＜消費者被害防止出前講座1回＞		⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ＜消費者被害防止出前講座13回＞			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ＜消費者被害防止出前講座12回＞			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ＜消費者被害防止出前講座6回＞		
直接事業費	決算額	3,743	千円	決算額	4,401	千円	決算額	4,070	千円	決算額	3,989	千円
	うち一般財源	2,644	千円	うち一般財源	3,291	千円	うち一般財源	2,847	千円	うち一般財源	3,937	千円

2	安全・安心まちづくり協働推進事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民		犯罪をなくし、安全・安心に暮らせるようにする。				笠岡防犯連合会及び笠岡市内暴力追放推進連合会と協力した啓発活動、登下校時の見守り活動や防犯パトロールなど地域の安全安心自主活動団体との連携、青色回転灯装備パトロールカーの活用、出前講座、相談窓口開設							
		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度					
取組内容		●市民・団体と協働で取り組む笑顔の見守り活動 ●安全安心団体への活動補助 ●青色回転灯装備パトロールカー実施者の更新 ●出前講座の開催 ●広報車による啓発 ●法律相談・行政相談 ＜法律相談受付件数 49件＞ ＜行政相談受付件数 5件＞		⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ＜法律相談受付件数 50件＞ ＜行政相談受付件数 6件＞		⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ＜法律相談受付件数 50件＞ ＜行政相談受付件数 6件＞		⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ＜法律相談受付件数 52件＞ ＜行政相談受付件数 7件＞					
直接事業費		決算額	2,503	千円	決算額	2,378	千円	決算額	2,331	千円	決算額	2,262	千円
		うち一般財源	2,503	千円	うち一般財源	2,378	千円	うち一般財源	2,331	千円	うち一般財源	2,262	千円
【達成目標2】		交通事故のない環境づくり(※②)											

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指標名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
交通安全教室実施回数	単位	目標		21	21	30	30	45
	回／年	実績	21	27	28	25	—	—
		達成率		128.6%	133.3%	83.3%	—	—
高齢者の交通安全教室参加人数	単位	目標		0	0	100	150	200
	人／年	実績	0	0	18	80	—	—
		達成率		#DIV/0!	#DIV/0!	80.0%	—	—
交通事故相談窓口の利用件数	単位	目標		6	6	6	6	6
	件／年	実績	6	0	5	3	—	—
		達成率		0.0%	83.3%	50.0%	—	—

達成目標2の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	2,937	千円	6,140	千円	4,306	千円	4,420	千円
うち 一般財源	2,837	千円	5,980	千円	4,156	千円	4,320	千円

3	交通安全対策事業											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市民		1件でも交通事故・交通違反が減るように、多くの人に交通安全と交通ルールに関心をもってもらふ。また、交通事故に遭遇した方を救済する。		・交通安全教室の開催、街頭指導や見守り活動及び推進大会等の啓発活動、新入学児童を対象とした交通安全用品の配布、交通事故のトラブル相談の実施 ・交通安全団体との連携推進								
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●交通安全市民運動推進大会 ●交通安全教室 ●交通安全テント村 ●セーフティードライバースクール ●交通安全フェスティバル ●自転車など点検整備 ●早朝街頭指導 ●交通事故相談 <交通事故相談受付件数6件>			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ <交通事故相談受付件数0件>			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ <交通事故相談受付件数5件>			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ <交通事故相談受付件数3件>		
直接事業費	決算額	2,937	千円	決算額	6,140	千円	決算額	4,306	千円	決算額	4,420	千円
	うち一般財源	2,837	千円	うち一般財源	5,980	千円	うち一般財源	4,156	千円	うち一般財源	4,320	千円

＜4.施策の直接事業費(3の合計)＞

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	9,183	千円	12,919	千円	10,707	千円	10,671	千円
うち 一般財源	7,984	千円	11,649	千円	9,334	千円	10,519	千円

＜5.前年度の委員コメントに対する対応・回答＞

委員コメント	対応・回答
笠岡市の防犯・交通安全の環境づくりにご尽力いただきありがとうございます。実績の正確な数値であることの見直しをお願いします。子供たちが安全の講習を聞いて帰り、話を聞いています。防犯や交通安全も年々変わってきていますが、出前講座で引き続き周知をお願いいたします。	→ 防犯や交通安全に関する出前講座の依頼先も多様化しており、効果的な啓発活動の手段として定着してきていると考えられます。引き続き市内各所で活用していただけるよう積極的に対応していきたいと考えております。
痛ましい事件や事故が未然に防げるよう、引き続き努めてください。	→ 笠岡警察署と情報共有しながら、青色防犯パトロールなど市民の方にもご協力いただきながら、これからも事故防止に努めてまいります。
公共交通の状況を鑑みると、高齢になったとはいえ、笠岡で車を使わない生活はなかなか難しいと思うので、事故防止の啓発などをしっかりお願いします。	→ 市民の皆さんの移動手段の確保にも取り組みながら、引き続き市民の皆さんや関係機関と連携して、事故防止の啓発活動を実施していくこととしています。
人口一万人当たりの交通事故発生件数は着実に少なくなっています。そして交通安全教室実施回数は少しずつ増えています。今後も引き続き取り組んでいただきたいと思います。	→ 引き続き事故発生件数の抑制に努めてまいりたいと考えます。

犯罪発生、交通事故件数ともに前年度よりも減少しました。相談窓口の減少は広報などが予防となり相談する機会の減からかもしれません。引き続き、好評の動画や笠岡放送との連携で予防につながるようお願いいたします。 オレオレ詐欺や還付金詐欺など様々な手口の特殊詐欺の対策として迷惑電話防止機能付き電話機購入費用の補助をしてくれる「特殊詐欺等被害防止対策機器設置事業補助金交付事業」の現状はいかがでしょうか。必要とされるところに届くことを願います。 またヘルメットの努力義務化、セニアカーの増加等、笠岡の交通状態も変わってきました。引き続きよろしくお願い申し上げます。	→ 手口が巧妙化、多様化している特殊詐欺の状況を見ながら、効果的と考えられる対策に取り組んでいきたいと考えています。また、必要とされる市民の方に制度を周知・利用していただくための広報活動等にも様々な機会を利用して力を入れていきたいと考えています。
スマホなどによる消費者被害も増えているように思います。市としてスマホの扱い方講習もありましたが、初級程度でもその対策などにも触れていただくとよいと思います。	→ ご認識のとおりで、最近ではスマホによる投資詐欺も急増しております。まちづくり協議会でもスマホ教室を実施している地域があり、詐欺被害防止の出前講座を実施したりしています。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
---------------	--	-----------------

<7.未達成の指標への対応策>

未達成指標への対応策	啓発活動を行っていることの周知にも努め、啓発活動を実施できる場所や団体等の新規開拓を工夫するなど目標数値を目指します。また、防犯活動登録団体数については城見交番・金浦交番・吉浜交番が笠岡西交番に統合再編され、所管の防犯団体が合併したことによる減少など、状況の変化により目標達成ができなかったり、長年にわたり達成できていない指標もあり、目標数値の見直しも検討します。
-------------------	---

<8.委員による評価結果>

総合評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・人口千人当たりの犯罪発生研修や人口一万人当たりの交通事故発生件数が、今まで下がっていたものが今回増加しています。他の数値も良くなったり、悪くなったりしているものもあり、今後も引き続き良くなるように取り組んでいただきたいと思います。 ・消協の会員数が年々減っていますが、何か対策を考えられていますか。 ・子ども達の見回り活動は、日常のことなので、市民がその時いる場所で子どもの登下校に目をやるのが大切だと思います。校門まで迎えに行き、自宅近くの場所まで引率するのは多少過保護感が漂います。 ・犯罪、交通事故の件数が増加しました。スマホを見ながらの車の運転や、マナー違反の自転車など見かけることが増えました。更なる啓発活動をお願いします。 ・まちづくり出前講座一覧に防災も入っているので、防犯(ネットトラブルやスマホ、パソコンを使った詐欺など)についての講座が加わると良いかと思います。 ・詐欺の手口が巧妙化しています。引き続きの啓発活動を期待しています。 ・防犯や交通安全、消費生活問題も時代に応じて変化が大きいと感じています。研究会が達成目標の指数になるのも今後の時代に合わせた数値目標が必要に感じます。また犯罪も低年齢化しているため周知する年齢層に応じた対策の周知を明確に働きかけられるように期待します。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	4－12	施策名	廃棄物・環境保全	主 担 当 課	環 境 課
戦略の柱	安定戦略 “安らぐ”				
基本 方針	笠岡市の豊かな自然環境を守り、また、SDGsの目標にもある「住み続けられるまちづくり」を目指すため、ごみの減量化・資源化、地球温暖化対策等を進めるとともに、市民の意識啓発・学習活動等に取り組み、自然共生社会の実現を目指します。			関 係 課	西 部 衛 生 西 部 環 境 農 政 水 産 課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
1人1日当たりごみ排出量	単位	目標		869.4	856.7	868.8	853.5	837.8
	g	実績	925.2	899.3	846.2	813.9	—	—
		達成率		96.7%	101.2%	106.7%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	ごみの減量化・資源化の推進及び廃棄物の適正排出(※①②)
---------	------------------------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
ごみのリサイクル率	単位	目標		21.8	20.7	17.0	17.5	17.9
	%	実績	17.9	17.6	16.4	15.5	—	—
		達成率		80.7%	79.3%	91.2%	—	—
ごみの減量化・資源化に取り組んでいる市民の割合(市民意識調査)	単位	目標		—	91.0	—	92.0(R6)	—
	%	実績	87.5	—	83.6	—	—	—
		達成率		—	91.9%	—	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	261,955	千円	248,619	千円	270,272	千円	263,324	千円
うち 一般財源	160,736	千円	151,052	千円	171,019	千円	167,256	千円

1	ごみ収集業務												
事務事業の目的							事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)										
市民			市民の排出したごみを収集し、健康で快適な生活環境の向上を図る。				市民の排出した廃棄物(可燃物・粗大・不燃物)の収集。業務に使用する車両、船舶、施設の管理及び収集作業の安全管理、一般廃棄物処理手数料の徴収、一般廃棄物収集運搬業許可及び指導						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容	●ごみ収集施設設置補助			⇒			⇒			⇒			
	●有料粗大ごみ収集業務			⇒			⇒			⇒			
	●ふれあい収集業務			⇒			⇒			⇒			
	●廃棄物収集業務			⇒			⇒			⇒			
	●廃棄物収集業務委託			⇒			⇒			⇒			
直接事業費	決算額	113,249	千円	決算額	103,425	千円	決算額	116,750	千円	決算額	111,818	千円	
	うち一般財源	92,944	千円	うち一般財源	84,328	千円	うち一般財源	99,955	千円	うち一般財源	93,054	千円	

2	ごみ減量化・リサイクル推進事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民及び事業者		ごみの減量化、資源化に協力していただき、ごみの排出量の削減を図る。				ごみ処理容器設置事業等補助金交付、ごみ減量化等対策策定、一般廃棄物処理計画策定、資源ゴミ回収補助、廃棄物減量等推進審議会開催・運営、環境衛生団体の指導育成、一般廃棄物の処理(委託契約を含む)、一般廃棄物の処理手数料の徴収							
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●マイバック持参運動の普及事業			⇒									
	●生ごみ処理容器購入補助			⇒			⇒			⇒			
	●指定ごみ袋配布事業			⇒			⇒			⇒			
	○ごみ袋配布の見直し			⇒			⇒			⇒			
	●資源回収推進団体・資源回収推進業者補助事業			⇒			⇒			⇒			
	●廃棄物減量推進員制度			⇒			⇒			⇒			
	●ごみ減量化啓発・広報事業			⇒			⇒			⇒			
	●リサイクル啓発事業												
	●ごみ処理広域化実施計画策定業務												
	●用地選定業務			⇒			⇒			⇒			
直接事業費	決算額	62,267	千円	決算額	64,803	千円	決算額	74,119	千円	決算額	67,330	千円	
	うち一般財源	50,315	千円	うち一般財源	50,508	千円	うち一般財源	57,170	千円	うち一般財源	52,733	千円	

3	し尿収集業務											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市民及び事業者		排出したし尿を収集し、健康で快適な生活環境の向上を図る。				し尿の収集。島嶼部へ収集車を運搬するし尿船の管理。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	○し尿収集業務			⇒			⇒			⇒		
	○し尿収集業務委託			⇒			⇒			⇒		
	○し尿収集手数料滞納の解消			⇒			⇒			⇒		
	★○島嶼部対応用し尿船の管理			⇒			⇒			⇒		
	○し尿収集車の維持管理			⇒			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	86,439	千円	決算額	80,391	千円	決算額	79,403	千円	決算額	84,176	千円
	うち一般財源	17,477	千円	うち一般財源	16,216	千円	うち一般財源	13,894	千円	うち一般財源	21,469	千円

【達成目標2】	地球温暖化対策の推進(※③)
---------	----------------

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
再生可能エネルギー導入容量	単位	目標			89,000	89,500	93,000	100,000
	KW	実績	80,541	81,513	84,796	91,366	—	—
		達成率			95.3%	102.1%	—	—

達成目標2の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	1,670	千円	4,388	千円	2,878	千円	3,621	千円
うち 一般財源	1,389	千円	2,827	千円	1,871	千円	2,448	千円

4		温室効果ガス削減事業 (太陽光発電関連事業)											
事務事業の目的					事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市民 ほか		再生可能エネルギー導入やエネルギー有効利用をを促進し、地球温暖化防止に直結するCO2を削減するとともに、市民の意識啓発を図る。			●設置型リチウムイオン電池設置補助(R2年から) ●公共施設の屋根、土地、遊水池での太陽光発電推進事業								
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		創 ● ☆住宅用太陽光発電システム等設置補助 ・太陽光発電システム 補助額:2万円/kW(上限5万円) 交付件数:29件 ・太陽熱利用システム 補助額:工事費の10%(上限3万円) 交付件数:11件 ●公共施設の屋根、休耕地、遊水池における太陽光発電による売電を継続中			住宅太陽光システム設置補助金については終了 ⇒ 交付件数:7件 ・蓄電池(上限12万円) 交付件数:37件 ⇒			⇒ 交付件数:4件 ・蓄電池(上限12万円) 交付件数:24件 ⇒			⇒ 交付件数:4件 ・蓄電池(上限12万円) 交付件数:24件 ⇒		
直接事業費		決算額	1,670	千円	決算額	4,388	千円	決算額	2,878	千円	決算額	3,621	千円
		うち一般財源	1,389	千円	うち一般財源	2,827	千円	うち一般財源	1,871	千円	うち一般財源	2,448	千円

【達成目標3】自然と共生した社会の保全(※④)

達成目標3の指標				目標・実績の推移					
指標名				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標	R7目標
海域、河川及び大気汚染に係る環境基準達成率	単位	目標				71.8	74.4	74.4	76.9
	%	実績		66.7	64.1	71.8	69.2	—	—
		達成率				100.0%	93.0%	—	—
自然環境学習会の参加者数	単位	目標			170	190	190	190	200
	人/年	実績		170	48	80	16	—	—
		達成率			28.2%	42.1%	8.4%	—	—

達成目標3の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	6,486	千円	5,538	千円	5,687	千円	5,959	千円
うち一般財源	5,804	千円	5,304	千円	5,559	千円	5,849	千円

5	環境保全施策推進事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市民		現在及び将来の市民の健康で文化的な生活の確保に寄与する。				地球環境保護、公害防止計画及び企業立地の環境保全対策策定、公害の発生源の監視及び規制指導、環境基本計画の策定、環境審議会の開催・運営、自然保護、環境に係る調査・測定、大気・水質・騒音・振動・悪臭防止、環境に係る届出受付、公害苦情に関する対応						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	●環境に対する調査・測定 ・公害苦情に関すること ・環境に係る各種届出 ・公害発生源の監視・規制指導			⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒		
	●環境保全啓発の出前講座 ●事業者などへの啓発 ●自動車騒音常時監視 ・公害苦情処理件数 19件			⇒ ⇒ ⇒ ・公害苦情処理件数 44件			⇒ ⇒ ⇒ ・公害苦情処理件数 27件			⇒ ⇒ ⇒ ・公害苦情処理件数 19件		
直接事業費	決算額	3,508	千円	決算額	3,324	千円	決算額	3,656	千円	決算額	3,939	千円
	うち一般財源	3,508	千円	うち一般財源	3,324	千円	うち一般財源	3,656	千円	うち一般財源	3,939	千円

6	森林整備事業，緑化運動																			
事務事業の目的 対象(誰を)						事務事業の内容 意図(どのようにしたいのか)						事務事業の内容								
森林所有者及び 周辺に在住の市民 農林業者等						松くい虫による被害等を防止するとともに，森 林資源の保全と国土の保全を図る。 農作物の被害の防止及び生活環境の改善を 図る。						・被害木の伐倒駆除。 ・道路沿いの危険木処理。								
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度									
取 組 内 容	●森林整備事業 ・危険木の伐採を実施 危険木 80.00m3					⇒ ・危険木の伐採を実施 危険木 30.00m3					⇒ ・危険木の伐採を実施 危険木 10.00m3					⇒ ・危険木の伐採を実施 危険木 8.00m3				
	●緑化運動 ・緑の募金によるヤブツバキの植 栽 募金総額54,000円 植栽場所 飛島外周道路脇										●緑化運動 ・緑の募金によるヤマザクラ，カワ ズザクラの植栽 募金総額50,133円 植栽場所 飛島外周道路脇									
直接 事業費	決算額	1,352		千円		決算額	514		千円		決算額	233		千円		決算額	220		千円	
	うち 一般財源	670		千円		うち 一般財源	280		千円		うち 一般財源	105		千円		うち 一般財源	110		千円	

7	公衆衛生対策業務											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市民		市民の健康で文化的な生活の確保に寄与する。		そ族及び害虫駆除, 島嶼部に係る排水溝渠の清掃, 公衆便所の管理業務								
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	公衆衛生業務 公衆便所における, 故障等の修理, 苦情の対応。排水溝の清掃に使用する油剤等の配付。害虫等の調査。			⇒			⇒			⇒		
直接事業費	決算額	1, 626	千円	決算額	1, 700	千円	決算額	1, 798	千円	決算額	1, 800	千円
	うち一般財源	1, 626	千円	うち一般財源	1, 700	千円	うち一般財源	1, 798	千円	うち一般財源	1, 800	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	270,111	千円	258,545	千円	278,837	千円	272,904	千円
うち一般財源	167,929	千円	159,183	千円	178,449	千円	175,553	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
日々廃棄物、環境保全のためご尽力いただきありがとうございます。廃棄物や環境保全に努めることをポジティブに市民が参加できるシステム作りの構築に期待します。	→ 不法投棄防止を啓発するボランティア清掃「ごみゼロ運動」やリユースバザー「笑顔の花フェア」などの事業を実施しています。より多くの市民の皆様に参加していただけるようPRします。
廃棄物・環境保全は、怠ればボディブローのように効いてくると思います。ごみ減量化に向けた取組を期待しています。	→ 現在、本市のゴミの排出量は減少傾向にありますが、今後増加に転じ負担が増えることも考えられます。引き続き推移を注視しごみ減量化が進むよう取り組みます。
ごみの排出量が年々減ってきており、意識啓発が行き届いてきているのだと感じました。	→ 市民の皆様、廃棄物減量推進員の皆様のご協力の結果と考えております。引き続き市民の皆様にご理解ご協力いただけるよう啓発に努めます。
・1人1日当たりゴミ排出量は毎年着実に少なくなっています。さらに再生可能エネルギー導入量は目標値まではいっていませんが、これも着実に増えています。今後も引き続き取り組んでいただきたいと思います。	→ ゴミ排出量については、今後も揺りもどしのないよう引き続き啓発を行います。 再生可能エネルギーについては、すでに市の公共施設や土地に太陽光発電が多く設置されていますので、今後も法令等に沿って進めます。
1人1日当たりのごみ排出量は目標達成し好成績です。計算方法を教えてください。またゴミのリサイクル率については市民の頑張りを図る数値でもあります。ゴミのリサイクル率の数値の算出方法をぜひご考案いただきたいです。 スマートフォンゴミ分別アプリは転入された方、リサイクルを始めようとされている方等には便利かと思います。利用具合を教えてください。 公害苦情処理件数が3年度に比べ減っていますが、3年度と合わせご説明ください。	→ 各中間処理施設の年報などをもとに、(可燃ごみ+不燃ごみ+資源ごみ+粗大ごみ+直接搬入+集団回収)を総人口で割り、さらに365(日)で割ることで算出しています。 リサイクル率は総資源化量を(集団回収+直接資源化量+焼却以外の中間処理量+直接焼却量)で割ることで算出しています。 令和6年5月末時点のアプリ累計ダウンロード数は2,010件です。 公害苦情処理件数は、年度によって差異はございます。3年度と4年度に関しましては騒音の苦情が減少しております。
最近の温暖化や自然災害など、多く報道され、自然環境を守り、資源活用の推進が大切だと思います。市民の意識改革を図っていただき、自然共生社会の実現を目指してください。	→ 本市では、地域や学校へ出向き地球温暖化、ごみ減量化・資源化、海ごみ問題などの環境問題について、まちづくり出前講座を実施しております。より多くの方に受講していただき、環境問題への意識を高めていただけるよう努めます。

＜6.令和5年度の振返り＞(担当部署自己評価)

施策の 進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
------------	--	---

＜7.未達成の指標への対応策＞

未達成 指標 への 対応策	【達成目標3(自然環境学習会への参加者数)への対策】 行事への参加啓発を行い参加者の増加を目指す。
------------------------	--

＜8.委＞

総合 評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・1人1日当たりゴミ排出量は毎年着実に少なくなっていますが、ゴミのリサイクル率は下がってきています。今後も良くなるように引き続き取り組んでいただきたいと思います。 ・ごみのリサイクル率が年々減少していますが、何か対策を考えられていますか。排出量自体が減っているから良いのでしょうか。 ・市民によるゴミ収集場所の管理力も向上している感じがします。そして、リサイクル資源回収用体も増え、ゴミの減量化・資源化が市民意識調査に現れています。 ・1人1日あたりのゴミ排出量が年々減って来ており、市民の意識が高まって来ているように感じます。 ・外国人のゴミの出し方が間違っていることが多く、地域から困っている声を耳にしています。説明の回数を増やしたり、必要な地区には外国語での説明など掲示されれば少しは改善しないでしょうか。 ・し尿収集業務の事業費がかなり高くなっていますが理由を教えてください。 ・自然環境学習会の参加者数が激減しています。参加の機会が増えることを願います。 ・1人1日当たりごみ排出量は、年々減少しており、ごみの分別意識も高いように感じます。 ・ゴミに対する市の負担は大きく、意識改革が必要のように思います。一部の意識の高い人だけの問題ではなく、防災のように危機感を持っていただけるアプローチが必要のように思います。			

2	地域情報化推進事業															
事務事業の目的						事務事業の内容										
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)														
市民		CATVを活用し、地域情報格差(デジタルデバイド)をなくす。				地域情報化基本計画の推進と事業主体となる笠岡放送(CATV事業者)を通じて、情報共有や地域交流の取り組みと地域情報格差の解消に向けた取り組みを行っていく。										
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度						
取組内容		●ブロードバンドを利用したデジタル化普及促進 ・データ放送の拡大 ●地上デジタルに対応した新しい地域交流の促進 ・データ放送による地域情報・行事の提供				⇒ ⇒			⇒ ⇒ ●山陽新聞社と連携したスマホ教室の実施			⇒ ⇒ ●携帯電話会社の協力を得て、地区集会所でワンボックスカーの中でスマホ教室を実施				
直接事業費	決算額	0		千円	決算額	0		千円	決算額	0		千円	決算額	0		千円
	うち一般財源	0		千円	うち一般財源	0		千円	うち一般財源	0		千円	うち一般財源	0		千円

3	ウェブページ運用管理事業												
事務事業の目的							事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)										
市民			市民にとって利用しやすいウェブページの導入と情報提供・情報開示を行っていく。 笠岡市の魅力や政策を市内外へ情報発信していく。				ホームページ更新システム導入に向けた再構築と運用管理を行っていく。 更にシステムを利用した、市民サービスの向上とアクセシビリティの改善を図っていく。						
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		●利用しやすいウェブページの運営・管理 ・リニューアル版ホームページの周知			⇒ ⇒			⇒ ⇒ ●ホームページのリニューアルに向けた検討			⇒ ●ホームページのリニューアル		
直接事業費		決算額	2,019	千円	決算額	2,019	千円	決算額	2,217	千円	決算額	9,669	千円
		うち一般財源	2,019	千円	うち一般財源	2,019	千円	うち一般財源	2,217	千円	うち一般財源	9,669	千円

4	行政情報化推進事業											
事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
事務処理を行う職員 各種の庁内情報		迅速かつ正確な処理を可能とし、効率的な事務の執行を図る体制を確保する。 既存の各種情報処理システムの安定稼働を図るとともに、必要に応じシステムの改修や開発を行い、正確・迅速な処理を行う。		総合行政情報システム、住民基本台帳ネットワークシステム、電子自治体システム等の安定稼働を確保するとともに、その基盤となる庁内LANの保守運用、端末となるパソコンの整備・保守を行う。また、社会保障・税番号制度に対応すべく、既存のシステムの改修等を行い、情報連携に向けて総合運用テスト等の準備を引き続き行う。 また、情報系のネットワークとインターネットを完全分離し、安全な環境でインターネットを利用する仕組みを構築している。								
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		・総合行政システム、住民基本台帳ネットワークシステム、電子自治体システム等の整備・保守 ・テレワーク環境整備		⇒ ⇒			⇒総合行政システム・情報セキュリティシステムのリプレイス ⇒ ⇒サスティックのリプレイス ⇒びったりサービス導入			⇒ ⇒ ⇒		
直接事業費	決算額	170,284	千円	決算額	138,481	千円	決算額	201,028	千円	決算額	182,588	千円
	うち一般財源	135,023	千円	うち一般財源	131,173	千円	うち一般財源	195,018	千円	うち一般財源	177,189	千円

5	入札事務電子化事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
事務処理を行う職員 入札参加業者		紙での入札から、電子入札に切り替えることにより、事務の軽減と入札参加業者の負担軽減を図る。					おかやま電子入札共同利用システムを導入し、建設工事、建設コンサル業務の一般競争入札をまず、電子入札に切り替え、その後指名競争入札にも範囲を拡大する。					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組 内容	建設工事、建設コンサル業務の 指名競争入札に電子入札の範囲 を拡大。			⇒			⇒建設工事、建設コンサル業務 の一般競争入札及び指名競争入 札で電子入札を実施			⇒		
直接 事業費	決算額	1,515	千円	決算額	1,436	千円	決算額	1,345	千円	決算額	1,288	千円
	うち 一般財源	1,515	千円	うち 一般財源	1,436	千円	うち 一般財源	1,345	千円	うち 一般財源	1,288	千円

【達成目標2】	公衆無線LAN(Wi-Fi)の整備促進(※②)											
---------	-------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

達成目標2の指標				目標・実績の推移					
指 標 名				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
Wi-Fi スポットの整備箇所数	単位	目標			18	18	35	47	20
	箇所	実績		16	17	35	47	—	—
		達成率			94.4%	194.4%	134.3%	—	—

達成目標2の事業費											
令和2年度				令和3年度				令和4年度			
直接事業費	558	千円		670	千円			3,069	千円	2,947	千円
うち一般財源	558	千円		670	千円			1,057	千円	2,947	千円

6	市内主要施設等Wi-Fi スポット整備事業										
事務事業の目的							事務事業の内容				
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)								
国内外から笠岡市を訪れる観光客等			インターネット環境の充実を図ることによって、国内外から訪れる観光客等の利便性の向上を図る				市内の主要公共施設及び定期船乗り場や、駅などの公共交通機関の拠点にWi-Fi スポットを整備することで、インターネット環境を充実させ、国内外から訪れる観光客等の利便性の向上を図る。				
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度	
取組内容	・Wi-Fi スポットの整備場所の検討 ・Wi-Fi スポットの整備作業⇒本庁 ・設備の維持管理			⇒ ⇒市民病院 ⇒			⇒ ⇒中央公民館ほか4館を整備 ⇒			⇒笠岡東公民館ほか6館を整備	
直接事業費	決算額	558	千円	決算額	670	千円	決算額	3,069	千円	決算額	2,947
	うち一般財源	558	千円	うち一般財源	670	千円	うち一般財源	1,057	千円	うち一般財源	2,947

【達成目標3】情報セキュリティの向上(※③)

達成目標3の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
市職員のセキュリティ研修終了率	単位	目標		100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	%	実績	99.6	99.8	10.0	95.6	—	—
		達成率		99.8%	10.0%	95.6%	—	—

達成目標3の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	0	千円	0	千円	0	千円	67	千円
うち 一般財源	0	千円	0	千円	0	千円	67	千円

7 情報セキュリティ対策推進事業

事務事業の目的			事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)						
市職員		セキュリティ対策の充実や職員の活用能力向上に努める。 情報資産の機密性、完全性及び可用性を維持することを考慮した業務システムの整備・更新と適切な運用を図る。	情報連携の事務を担当する職員を対象にeラーニングによる情報連携に向けた研修を実施することで、セキュリティ対策の充実や職員の活用能力向上を高めることを目指して行く。					
取 組 内 容	令和2年度 ・eラーニングによる情報セキュリティ研修の実施		令和3年度 ⇒		令和4年度 ⇒ ⇒電子自治体推進セミナー(情報セキュリティ)		令和5年度 ⇒ ⇒実践的サイバー防御演習(CYDER)の受講	
直接 事業費	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	67
	うち 一般財源	0	千円	うち 一般財源	0	千円	うち 一般財源	67

【達成目標4】マイナンバーカードの普及と利活用(※④)

達成目標4の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
マイナンバーカード交付率	単位	目標			100	100	100	100
	%	実績	24.5	38.2	66.5	78.3	—	—
		達成率			66.5%	78.3%	—	—
マイナンバーカードを利用した住民票等のコンビニ交付率	単位	目標			20	23	23	25
	%	実績	7.1	13.7	19.6	21.9	—	—
		達成率			98.0%	95.2%	—	—
ぴったりサービス(業務件数)	単位	目標			26	28	28	35
	件	実績	14	14	15	24	—	—
		達成率			57.7%	85.7%	—	—

※国が策定した全体スケジュールにおけるマイナンバーカードの交付枚数の想定に沿った計画を策定するため、2022年度末には100%となっています。

達成目標4の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	0	千円	0	千円	31,235	千円	28,497	千円
うち 一般財源	0	千円	0	千円	1	千円	497	千円

8	マイナンバーカード普及及び利活用促進												
事務事業の目的							事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
マイナンバーカード取得者(市民)		マイナンバーカードを活用することで、市役所へ来なくても申請手続き等がオンラインで出来るようになる					マイナンバーカードの普及及び利活用については、広報やホームページさらにLINE申請システムを通じてPRを行い利用促進を図る。						
取組内容	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
							市内商業施設と公民館でマイナンバーカードの交付申請支援			郵便局へのマイナンバーカード申請サポート・電子証明書更新の委託			
直接事業費	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	31,235	決算額	28,497			
	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	1	うち一般財源	497			

【達成目標5】電子会議(ZOOM)を利用したデジタル化への対応(※⑤)

達成目標5の指標				目標・実績の推移				
指 標 名				R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R7 目標
電子会議の利用機器(利用件数)	単位	目標				500	500	500
	件/年	実績		191	144	418	430	—
		達成率				83.6%	86.0%	—

達成目標5の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	0	千円	0	千円	74	千円	96	千円
うち一般財源	0	千円	0	千円	0	千円	96	千円

9	会議のオンライン化												
事務事業の目的							事務事業の内容						
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)										
市職員			会議をオンライン化することで、移動に係る時間を省略できるとともに旅費の節約ができる。また、会議室の有効活用を図る。				ZOOM等のオンライン会議システムを導入し、分散勤務・テレワークを推進し、感染症拡大防止、職員の働き方改革、業務効率化を図る。						
	令和2年度				令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容								ZOOMPROライセンスの追加購入			⇒調整会議のオンライン化(R5.5)		
直接事業費	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	74	千円	決算額	96	千円	
	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	96	千円	

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	174,496	千円	142,726	千円	211,322	千円	197,424	千円
うち一般財源	139,235	千円	135,418	千円	199,747	千円	191,582	千円

＜5.前年度の委員コメントに対する対応・回答＞

委員コメント	対応・回答
電子会議の推進は進めていただきたいと思います。ウィズコロナは継続のため、市役所の機能が停止しないよう、また市役所職員さんが遅くまで残って働かれている方も多くお見受けするので働き方改革も含めて推奨していただきたいと思います。また、情報のセキュリティ対策は厳しく見守っていただけるようお願いいたします。	→ 令和5年5月から、庁内の調整会議(原則毎週火曜日)は電子会議で行うように変更しました。情報のセキュリティ対策は重要な業務であると思っており、令和5年度では本市のセキュリティポリシーの改正案を作成し、令和6年度に成案となるよう現在調整中です。
DX推進のための重要な施策だと思いますので、取組の充実をお願いします。市職員のセキュリティ研修終了率が低いですが、理由は何でしょうか。	→ 担当職員が職員全体のセキュリティ研修の申込みを忘れていたためです。
・公式ウェブサイトアクセス数は令和3年の約7割と少なくなっています。さらに市職員のセキュリティ研修終了率が令和3年の10分の1と少なく成っています。この項目について、今後はもっと取り組みをしていただきたいと思います。	→ 公式ウェブサイトのアクセス数につきましては、ホームページの大規模改修を行い、リンク切れページの改善や、トップページレイアウトの工夫や検索手段を増やしたことによって見やすく分かりやすいものとなっており、利用しやすい環境を整えております。 セキュリティ研修終了率が低い理由は上記のとおりです。令和5年度からは、引き続きJ-LISのセキュリティ研修を全職員に受講してもらいます。さらに、令和6年度からはそれとは別にランサムウェア対策のメール訓練を実施しています。
Wi-Fi整備も進みました。市民、観光客に広く利用されることを願います。 マイナンバー、ぴたりサービスなど便利なサービスが整いつつありますが、具体的な使い方が分からない、手続きはしたけれど情報漏洩が心配といった声もありますので、市民が安心して便利に使えるようサポートをお願いいたします。 未達成の指標への対応策を具体的に示されているので安心です。	→ 令和5年11月からLINE申請システムを導入し、マイナンバーカードを活用した電子申請システムが利用できる環境は徐々に整いつつあります。今後は、情報漏洩が起きないようなシステムであることと、手続きの仕方が分かる動画などを作成し、利用しやすい環境を整えていこうと考えています。
Wi-Fiの整備事業も進み、各公民館の講座等にもいろいろ工夫ではじめました。市民の誰もが利用しやすくなりましたが、高齢者の方々には、まだ、理解ができていない面があります。各公民館での学習・会議にどのように使えばよいか館としての説明・学習が必要のようです。デジタル推進課が進めているスマホ体験教室も始まり、参加した方から好評の声がでていました。	→ 高齢者を対象としたスマホ教室のため、公民館まで行けないという声もあり、城見地区の各集会所で行ってみた。アンケート結果も分かりやすく良かったという声が多く聞かれた。今年度からは補助制度の内容も少し変わり、令和5年度までの基礎編は各スマホ取扱店で行うこととなり、市が主催する場合は応用編(マイナンバーの利用方法やLINEの使い方など)が補助対象となっている。

＜6.令和5年度の振返り＞(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

＜7.未達成の指標への対応策＞

未達成 指標 への 対応策	・オープンデータの公開件数 年度末に行おうと考えていたが、選挙関係の事務等が発生し手が回らなかった。データも古い物が多く掲載されており、最新のデータを掲載しようと考えている。 ・市職員のセキュリティ研修終了率 12月から1月に実施したが、年末年始で忙しく研修を受けられない人が見参された。そのため、実施時期を前倒しし受講しやすい期間に行うようにする。 ・マイナンバーカード交付率、マイナンバーカードを利用した住民票等のコンビニ交付率 マイナンバーカード交付率やコンビニ交付率の増加については、マイナンバーカードを活用したオンライン手続きやコンビニ交付のメリットについて、各担当課のホームページ及び笠岡市LINEを活用することにより周知を図ることで増加につなげたい。 ・びったりサービス(業務件数) 昨年度に比べ業務件数は増加したが目標達成には至らなかった。次年度は三原市のように一連の手続きが全て電子化できるように変更を行うとともに、業務数も増やしていきたい。 ・電子会議の利用機器(利用件数) ZOOMを利用した電子会議の主催件数は昨年度より微増したが目標には届かなかった。協働のまちづくり課が所有しているアカウントの使用頻度が少ないため、利用頻度を上げるように申し入れる。
------------------------	--

＜8.委員による評価結果＞

総合 評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・公式ウェブサイトアクセス数はだんだんと少なくなっていますが、Wi-Fiスポットの整備箇所数は着実に増えています。今後もさらに取り組みをしていただきたいと思います。 ・職員のセキュリティ研修の申込みを忘れていたとの記載がありますが、改善策など講じられたのでしょうか。 ・Wi-Fiなどの設置は増えており、大変ありがたく感謝しています。市内の至る所での利用が増えると市民及び来笠者にとって情報取得の大きな力となります。会議のオンライン化の研修も進んでいると思いますが、人々の本当の心が伝わるのは、対面式の会議ではないでしょうか。 ・LINEでイベントなどへの申し込み、アンケート返答が出来るのが便利で良いと感じています。 ・ホームページのリニューアルで見やすくなったと思いますが、事業費がかなりかかっています。内部では難しいのでしょうか。 ・古いパソコンからは笠岡市のHPに繋がらなくなりました。スマホ利用者が多いと思いますが、少し不便になりました。他の市町から笠岡市に飛ぶこともできません。 ・LINEを使った申請や情報提供が可能となり市民の利便性が増したと思います。 ・コロナは落ち着きましたが、感染症がなくなったわけではありません。市役所職員の方々の健康管理も踏まえても、市役所業務の滞ることなく行えるためにも電子会議の効率化は今後も継続的に進めていただきたいと思います。Wi-Fi整備に関しても観光客が安心して来れるように、災害のことも踏まえてしっかりと整備をお願いします。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	5－2	施策名	健全な財政運営	主 担 当 課	財 政 課
戦略の柱	計画推進戦略				
基本 方針	将来にわたって安定した市政運営を行い、将来世代に大きな財政負担を残さないように、市全体の負債額を適正な水準で維持するとともに、基金の確保、歳入・歳出状況を踏まえた事業の見直し等による、健全な財政運営を目指します。			関 係 課	

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
実質公債費比率	単位	目標		9.0	9.0	9.0	9.0	9.0
	%	実績	6.4(見込み)	6.5	7.2	7.8		—
		達成率		138.5%	125.0%	115.4%	—	—
将来負担比率	単位	目標		80.0	80.0	80.0	80.0	80.0
	%	実績	59.5(見込み)	51.0	50.1	48.2		—
		達成率		156.9%	159.7%	166.0%	—	—
経常収支比率	単位	目標		92.0	92.0	92.0	92.0	92.0
	%	実績	91.2(見込み)	87.1	93.6	97.4		—
		達成率		105.6%	98.3%	94.5%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】	負債額の適正化(※①)
---------	-------------

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
普通会計建設地方債残高	単位	目標		175.0	180.0	200.0	210.2	200.0
	億円	実績	166.9(見込み)	175.9	182.1	195.7	—	—
		達成率		99.5%	98.8%	102.2%	—	—
市全体の建設地方債残高	単位	目標		300.0	300.0	310.0	318.1	340.0
	億円	実績	282.4(見込み)	287.7	293.4	304.7	—	—
		達成率		104.3%	102.2%	101.7%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	30,702	千円	30,364	千円	21,618	千円	0	千円
うち 一般財源	30,702	千円	30,364	千円	21,618	千円	0	千円

1	建設地方債発行額の上限設定											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
建設地方債発行額		市債(市の借金)の発行額を圧縮し、将来の財政負担を軽減する。				一般会計の単年度の建設地方債発行上限額を10億円に設定する。防災・減災対策等の事業については、市民の安全安心を確保するため別枠とする。						
令和2年度		令和3年度				令和4年度			令和5年度			
取組内容	●市債発行額の適正化 ・予算編成において、防災・減災対策は別枠として適正規模の建設地方債発行に努める。 ・元利償還金が普通交付税に算入されないものについては、発行を縮減する。				⇒			⇒			⇒	
直接事業費	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円
	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円

2	繰上償還の実施											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
市債		利子支払い額の抑制及び市債残高の縮減			普通交付税の算入に影響のない市債について、年度末の決算見込に応じて繰上償還を行う。							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	繰上償還の実施			⇒			⇒			近年の借入利率の上昇を受け、繰上償還を行わず、新規の借入抑制を行った。		
直接事業費	決算額	30,702	千円	決算額	30,364	千円	決算額	21,618	千円	決算額	0	千円
	うち一般財源	30,702	千円	うち一般財源	30,364	千円	うち一般財源	21,618	千円	うち一般財源	0	千円
【達成目標2】適正な基金残高の確保(※②)												

達成目標2の指標

指標名				目標・実績の推移				
				R2実績	R3実績	R4実績	R5実績	R6目標
財政調整基金残高	単位	目標			7.5	7.5	11.5	8.3
	億円	実績	5.2(見込み)	10.0	13.2	10.9	—	—
		達成率		133.3%	176.0%	94.8%	—	—
公共施設整備費引当基金残高	単位	目標			1.2	1.5	1.7	2.3
	億円	実績	1.1(見込み)	1.4	2.0	2.2	—	—
		達成率		116.7%	133.3%	129.4%	—	—

達成目標2の事業費

令和2年度			令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	14,823	千円	284,803	千円	60,203	千円	20,820	千円
うち一般財源	14,823	千円	284,803	千円	60,203	千円	20,820	千円

1	財政調整基金の積み増し											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
財政調整基金		単年度の財政運営は、歳入に見合った歳出とし、年次的に積み増しを行い適正な残高を維持する。			目標金額を20億円として積み立てる。							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・基金運用ルールの堅持			⇒			⇒			⇒		
	新型コロナウイルス対策や収入見込みの減による財源不足のため、約420百万円の取崩を行った。決算剰余により256百万円の積立を行った。			普通交付税など収入見込みの増により、約250百万円の予算積立を行った。決算剰余により230百万円の積立を行った。			財源不足のため、約137百万円の取崩を行った。決算剰余により450百万円の積立を行った。			財源不足のため、約578百万円の取崩を行った。決算剰余により330百万円の積立を行った。		
直接事業費	決算額	1,337	千円	決算額	250,886	千円	決算額	1,952	千円	決算額	7,299	千円
	うち一般財源	1,337	千円	うち一般財源	250,886	千円	うち一般財源	1,952	千円	うち一般財源	7,299	千円

2	公共施設整備費引当基金の積み増し											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
公共施設整備費引当基金		大規模ハード事業や公共施設の更新・長寿命化事業における多額の単年度負担に対応するため、年次的な積み増しを行う。				大規模事業等の計画に備えて、毎年積立を行う。						
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	公共施設整備費引当基金への積立			⇒			⇒			⇒		
	予算積立により13,486の積立を行った。施設改修のため、3,003取崩を行った。			予算積立により33,917の積立を行った。施設改修のため、200取崩を行った。			予算積立により58,251の積立を行った。			予算積立により13,521の積立を行った。		
直接事業費	決算額	13,486	千円	決算額	33,917	千円	決算額	58,251	千円	決算額	13,521	千円
	うち一般財源	13,486	千円	うち一般財源	33,917	千円	うち一般財源	58,251	千円	うち一般財源	13,521	千円

【達成目標3】	歳出の縮減(※③)
---------	-----------

達成目標3の指標			目標・実績の推移					
指標名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
事務事業の見直しによる効果額	単位	目標			42.0	42.0	42.0	42.0
	百万円	実績	42.0	134.7	115.0	91.0	—	—
		達成率			273.8%	216.7%	—	—
経常経費充当一般財源額(退職手当除く)	単位	目標		120.0	120.0	120.0	120.0	120.0
	億円	実績	120.4	124.3	126.8	132.1	—	—
		達成率		96.5%	94.6%	90.8%	—	—

達成目標3の事業費									
令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度
直接事業費	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	
うち一般財源	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	

3	補助金等事業の見直し															
事務事業の目的						事務事業の内容										
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)														
補助金等事業		限られた財源の中で、積極的且つ効果的に施策を進めるための選択と集中を行う。				補助金等の既存事業の見直しについて、調書作成・担当課ヒアリング等により見直しを図る。										
令和2年度		令和3年度				令和4年度				令和5年度						
取組内容	補助金等事業の見直し				⇒				⇒				⇒			
直接事業費	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円				
	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円				

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

令和2年度				令和3年度				令和4年度				令和5年度	
直接事業費	45,525	千円		315,167	千円			81,821	千円			20,820	千円
うち一般財源	45,525	千円		315,167	千円			81,821	千円			20,820	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
健全な財政運営にご尽力いただきありがとうございます。災害やコロナなど突発的な事象にも対応できる健全な財政運営を引き続きお願いいたします。	→ 財政調整基金については、令和5年度において物価高騰の影響等による取崩額が多くなり、年度末残高では前年度末から減となりました。財政運営適正化計画により基金残高の目標を20億円と定め、災害等の緊急の財政需要に対応できるよう残高の確保に努めてまいります。
新病院の建設が控えていますし、篠坂インターの開設やJR周辺開発に伴う費用負担など、大きな支出が予定されていると思いますが、長期的な視点での笠岡市の財政は大丈夫でしょうか。	→ 毎年、財政運営適正化計画を策定し、今後10年間の推計を見通しながら財政運営を行っております。今後も中長期的な視点で必要な事業の優先順位を見極め、健全な財政運営を行ってまいります。
・昨年度はもう少しでA評価だったと思いますが、今回も財政調整基金残高が増えるなど、改善への取り組みが評価できます。	→ 財政調整基金については、令和5年度において物価高騰の影響等による取崩額が多くなり、年度末残高では前年度末から減となりました。財政運営適正化計画により基金残高の目標を20億円と定め、災害等の緊急の財政需要に対応できるよう残高の確保に努めてまいります。
財政調整基金の残高目標20億円に向けての積立、公共施設整備費引当基金等着実に増やしてくださり安心です。今後大きな事業が控えていますので大変かと思いますがよろしく願いいたします。 事務事業の見直しによる効果額が3年度4年度と目標値を大きく超えています。ご説明ください。	→ 事務事業の見直しによる効果額につきましては、補助金の見直しや経費の縮減等による効果額を計上しておりますが、主に補助金において、適正な事業規模への見直しや廃止等により効果額が目標値を大きく超えた結果となりました。
基金残高は増加しており、行政としての努力が実りつつあります。たくさんの課題がある中、財政運用については、有効に充当していただきたい。	→ 公共施設整備費引当基金等への継続した予算積立などにより、基金残高は増加してきています。本市の発展・市民満足度の向上に向け、毎年真に必要な事業を精査し、事業実施に有効に活用してまいります。

＜6.令和5年度の振返り＞(担当部署自己評価)

施策の 進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
------------	--	---

＜7.未達成の指標への対応策＞

未達成 指標 への 対応策	普通会計建設地方債残高については、地方債発行額の縮減、繰上償還等により地方債残高および公債費負担の抑制を図っていく。
------------------------	--

＜8.委員による評価結果＞

総合 評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・前回令和4年度の施策評価はBで、もう少しでA評価でした。しかし今回令和5年度のヒアリングを聞くと、財政調整基金残高や公共施設整備費引当基金残高がまだ少ないとの回答があり、施策評価はBとなりました。この金額をもっと増やしていただきたいと思います。 ・歳出の縮減については、物価高や人件費アップ等による固定経費が大幅増になっているため、仕方のないところがありますが、是非とも改善をしていただきたいと思います。 ・物価高騰など、財政悪化の要因を説明していただきましたが、それにしてもあまりに急激な悪化に感じられます。 ・市民病院改築、小中一貫教育における新校舎建設、市役所建て替えなどが計画されていますが、同時では財政困難となります。一番大事なのは、命の保障、市民病院改築だと考えます。教育については今の分離的での教育内容の一貫でいいと思います。 ・財政調整基金の残高が10.9億円になり、貯金が少ない状況だご説明いただきました。今後大きな事業がたくさん控えていますので市民目線で見ると心配です。これからの笠岡にとっての優先順位を考えていただき、かつふるさと納税や土地売却などしっかり稼いでいただくよう願います。 ・事務事業の見直しも引き続きしっかりお願いします。 ・財政調整基金残高が目標の20億円を下回っています。不足の事態に対応するためにも、同基金の積み増しが必要であると感じます。 ・実質公債比率はよくなっており、取り崩しは引き続き増えているとのことですが三島市長の頃に比べよくなっているということであれば今に始まったことではなく、今後も継続的に稼いだり支出を防ぐ必要があると感じる。市民に不安要素を煽られるような未来がないようなニュースは今後移住者が増えたり今出ている笠岡市民が戻ってきたいと思うだろうか。隠蔽する必要もないが、玉野市や様々な市町村のように、市長の一存で一気に活性化が減り、未来も希望も持てない、誇りも持てない活気のない市にしてほしくない。少数の市民が率先して行っていることを支援できるような市政、財政運営であってほしい。市民は見ています。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	5－3	施策名	財源の確保	主 担 当 課	財政課 収納対策課
戦略の柱	計画推進戦略				
基本 方針	将来にわたって安定的な財源を確保するため、公平公正な賦課と税収の確保、市の公有財産の適正な管理とともに、時代状況を踏まえた自主財源確保の実現を目指します。			関係課	税務課 ふるさと寄附課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
自主財源の確保(総合計)	単位	目標		306	512	506	506	498
	百万円	実績	338	393	297	438	—	—
		達成率		128.4%	58.0%	86.6%	—	—
市県民税等の未申告件数	単位	目標		115	84	82	81	80
	件/年	実績	86	79	83	81	—	—
		達成率		145.6%	101.2%	101.2%	—	—
市税収納率(国民健康保険税除く)	単位	目標		96.41	97.70	97.90	97.93	98.00
	%	実績	96.40	98.11	98.32	98.35	—	—
		達成率		101.8%	100.6%	100.5%	—	—
債権未収金額	単位	目標		474	478	454	450	410
	百万円	実績	617	427	390	366	—	—
		達成率		111.0%	122.6%	124.0%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】自主財源の確保と強化(※①②)

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
新たな財源の確保	単位	目標		42	42	42	42	42
	百万円	実績	11	11	28	38	—	—
		達成率		26.2%	66.7%	90.5%	—	—
土地売却収入	単位	目標		20	20	20	20	20
	百万円	実績	26	41	81	177	—	—
		達成率		205.0%	405.0%	885.0%	—	—
土地建物貸付収入	単位	目標		43	43	43	41	43
	百万円	実績	42	42	38	41	—	—
		達成率		97.7%	88.4%	95.3%	—	—
ふるさと笠岡思民寄附件数	単位	目標		40,000	40,000	40,000	40,000	40,000
	件/年	実績	37,898	42,998	29,664	28,399	—	—
		達成率		107.5%	74.2%	71.0%	—	—
ふるさと笠岡思民寄附金額 うち基金積立金額	単位	目標		800	800	800	800	800
		実績	508	600	405	445	—	—
	百万円	目標		800	800	800	800	800
		実績	508	600	405	445	—	—
		達成率		75.0%	50.6%	55.6%	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	523, 048	千円	609, 742	千円	407, 655	千円	494, 256	千円
うち 一般財源	523, 030	千円	609, 712	千円	407, 614	千円	494, 218	千円

1	新たな財源の確保											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
新たな財源		事業実施に見合った財源を確保する。					国等の補助金・助成金の積極的な活用やクラウドファンディング、広告収入等の財源を確保する。					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・国等の補助金・助成金の確保			⇒			⇒			⇒		
直接 事業費	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	0	千円
	うち 一般財源	0	千円	うち 一般財源	0	千円	うち 一般財源	0	千円	うち 一般財源	0	千円

2	土地売払収入												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
保有する必要性のない公有財産		積極的に売却処分を進め、財源の確保を行う。				処分可能財産の掘り起こしを行うとともに、公有財産利活用検討委員会を中心に処分に向けた検討を進め、民間等への売却処分を図る。							
令和2年度		令和3年度				令和4年度			令和5年度				
取組内容	・処分可能財産の掘り起こし ・公有財産活用検討チームを中心に処分の検討			⇒ ⇒			⇒ ⇒			⇒ ⇒			
直接事業費	決算額	4, 016	千円	決算額	1, 934	千円	決算額	1, 060	千円	決算額	2, 691	千円	
	うち一般財源	4, 016	千円	うち一般財源	1, 934	千円	うち一般財源	1, 060	千円	うち一般財源	2, 691	千円	

3	土地建物貸付収入												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
供用予定のない 公有財産		民間等への貸付による有効活用を図り、財源 の確保を行う。				供用予定のない財産については、民間等への貸付による有効活用を図る。							
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取 組 内 容	供用予定のない財産の貸付			⇒			⇒			⇒			
直接 事業費	決算額	10,174	千円	決算額	7,375	千円	決算額	908	千円	決算額	1,873	千円	
	うち 一般財源	10,174	千円	うち 一般財源	7,375	千円	うち 一般財源	908	千円	うち 一般財源	1,873	千円	

4	ふるさと納税推進事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
市外の住民			寄附してもらい財源を確保する			納税サイト等を活用することで寄附金による財源を確保するとともに、返礼品の送付による地場産業の育成、さらに全国へのシティセールスを展開する。							
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		・新たな記念品の開発 ・新たなふるさと納税ポータルサイトへの登録 ・ガバメントクラウドファンディングの推進 ・企業版ふるさと納税の推進→		⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒			
直接事業費		決算額	508,858	千円	決算額	600,433	千円	決算額	405,687	千円	決算額	489,692	千円
		うち一般財源	508,840	千円	うち一般財源	600,403	千円	うち一般財源	405,646	千円	うち一般財源	489,654	千円

【達成目標2】適正な市税収納の推進(※③)

達成目標2の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
市県民税等の未申告件数	単位	目標		115	84	82	81	80
	件/年	実績	86	79	83	81	—	—
		達成率		145.6%	101.2%	101.2%	—	—
償却資産(固定資産税)の未申告件数	単位	目標		220	295	290	65	280
	件/年	実績	305	91	65	66	—	—
		達成率		241.8%	453.8%	439.4%	—	—
市税収納率(国民健康保険税除く)	単位	目標		96.41	97.70	97.90	97.93	98.00
	%	実績	96.40	98.11	98.32	98.35	—	—
		達成率		101.8%	100.6%	100.5%	—	—
国民健康保険税収納率	単位	目標		79.74	89.92	89.82	90.37	91.12
	%	実績	89.12	92.28	92.18	92.74	—	—
		達成率		115.7%	102.5%	103.3%	—	—
市税滞納分の収納額	単位	目標			38	41	35	24
	百万円	実績	43	60.60	39	32	—	—
		達成率			97.4%	128.1%	—	—

達成目標2の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	12,921	千円	15,661	千円	10,996	千円	12,886	千円
うち一般財源	12,921	千円	15,661	千円	10,996	千円	12,886	千円

2	税徴収強化事業											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
担税能力がある 納税義務者		必ず納付に導く										
						催告書を年2回送付、財産調査の徹底、差押・搜索の強化、コールセンターによる電話催告、窓口延長(毎週木曜日)、岡山県滞納整理推進機構・岡山県市町村税整理組合との連携、税務職員併任人事による搜索、休日臨戸訪問						
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組 内容	・ 電話催告、催告書等の送付			⇒				⇒				
	・ 財産調査・差押・搜索の徹底			⇒								
	・ 岡山県との連携			⇒								
	・ 岡山県市町村税整理組合の有効活用			⇒								
	・ 他市町と連携強化（併任職員派遣）			⇒								
直接 事業費	決算額	12, 921	千円	決算額	15, 661	千円	決算額	10, 996	千円	決算額	12, 886	千円
	うち 一般財源	12, 921	千円	うち 一般財源	15, 661	千円	うち 一般財源	10, 996	千円	うち 一般財源	12, 886	千円

【達成目標3】	債権を含めた市有財産の適正管理(※④)
---------	---------------------

達成目標3の指標			目標・実績の推移					
指 標 名			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
債権未収金額	単位	目標		474	478	454	450	410
	百万円	実績	617	427	390	366	—	—
		達成率		111.0%	122.6%	124.0%	—	—

達成目標3の事業費

令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度	
直接 事業費	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円
うち 一般財源	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円	0	千円

3	債権管理対策事業																
事務事業の目的 対象(誰を)						事務事業の内容 意図(どのようにしたいのか)						事務事業の内容 債権管理の適正化を図るため、徴収計画・徴収目標を策定する。 収納対策課が各債権所管課に助言を行うとともに、滞納者との交渉に同席する。 徴収見込みがない不良債権を放棄する。 債権管理に係る研修を開催する。また、各債権所管課の職員に対して、他団体主催の研修への参加を促す。					
庁内全体の債権						管理を徹底し、早期完納に導く											
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度						
取組内容		・ 収納対策本部会議の開催 ・ ワーキンググループ会議の開催 ・ 各債権所管課への助言 ・ 滞納者との交渉に同席、同行 ・ 債権管理研修の開催、参加 ・ 債権放棄の適否を審査（債権管理検討委員会）			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒ ⇒						
直接事業費		決算額		0	千円	決算額		0	千円	決算額		0	千円	決算額		0	千円
		うち一般財源		0	千円	うち一般財源		0	千円	うち一般財源		0	千円	うち一般財源		0	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度	
直接 事業費	535,969	千円	625,403	千円	418,651	千円	507,142	千円		
うち 一般財源	535,951	千円	625,373	千円	418,610	千円	507,104	千円		

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
財源の確保について日々ご尽力いただきありがとうございます。これほどまでにふるさと納税の影響が大きいものとは思いませんでした。笠岡ブランドから農業の推進など様々なことの必要性や時代の流れに対応することの大切さがよくわかりました。引き続き、時代を読みながら稼げる笠岡市を支えてくださるようお願いしています。	→ 事業者と連携して、よりニーズにあった返礼品の開発を行うなどし、ふるさと納税を通じて、笠岡市の魅力が伝わるよう努めてまいります。
ふるさと納税に制度見直しによる逆風が吹いていますが、財源確保と笠岡市のPRが行える一石二鳥の制度だと思いますので、引き続き自治間競争に勝てるようによろしくお願いします。	→ 引き続き、ふるさと納税を通じて、笠岡市の魅力などを伝えるシティプロモーション、地場産業の育成、寄附金による財源の確保に努めてまいります。
ふるさと納税に財源確保の期待が大きいように感じましたが、年によって額の変動が激しいようで、少し不安に思います。	→ 笠岡市に寄附いただいた方に定期的に市の情報や返礼品を発信し、リピート率を増加させ、安定的に財源が確保できるよう努めてまいります。
自主財源の確保(総合計)が昨年度よりも減っているのが気がかりです。	→ 新たな財源の確保のため、地方創生のための新規事業の国庫補助申請、クラウドファンディングの活用による事業実施など積極的に行ってまいります。また、廃園・廃校などの用途がなくなった公有財産については、施設の売却を検討し、自主財源の確保に繋げてまいります。
ふるさと納税についてはご苦勞の中模索してくださっておりご尽力に感謝いたします。米の市場に乗り切れていないとのことでした。六島麦酒は品切れするほど人気のようなので、追加でお願いしたいところですが難しいのでしょうか。宿泊券はペアが主流のようですがお一人でのニーズは少ないのでしょうか。他市町では離れて暮らす家族を見守るサービスなどもあるようです。地元縁のある方が必要とするような返礼品はニーズがないのでしょうか。白石島のシーカヤック体験などの体験型もあると面白そうです。 10月からのルール見直しは大変かと思いますが、頑張ってください。 市税収納については着実に推進されているので良いと思います。	→ 六島麦酒の品切れにつきまして、引き続き事業者とも協議してまいります。 宿泊券については、お一人様用もニーズがあるかと思しますので、新たな返礼品として検討いたします。 「離れて暮らす家族を見守るサービス」として電球の点灯/消灯状況により1日の動きを検知する見守りサービスが返礼品としてございます。また、地元縁のある方が必要とするような返礼品についてもお墓掃除や草刈りの代行サービスといった返礼品があります。
公有財産については、教育改革などの計画もあり、地域移管の要望もあるかと思いますが、全体を移管するより、地域に移管する部分と民間への売却も市にとっては大きな財源確保になると思います。	→ 廃園・廃校などの用途がなくなった公有財産については、公共施設等総合管理計画の観点から、施設の解体や売却を検討することで施設総量の縮減及び財源確保に繋げていきたい。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

<7.未達成の指標への対応策>

未達成指標への対応策	【新たな財源の確保】 国等の補助金・助成金の申請が減っているため、事業の企画提案を行い、新規事業について補助金等を確保してまいります。 【ふるさと笠岡思民寄附金額】 事業者と定期的に協議を行い、新規返礼品の開発に努め、商品数を増やすことでアクセス数を上昇させ、ふるさと笠岡思民寄附金額を確保してまいります。
------------	--

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A:計画どおり進行している。 B:おおむね計画どおり進行している。 C:計画より一部遅れている。 D:計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・自主財源の確保(総合計)やふるさと納税等が前回令和4年度から増えているので少し安心しました。今後もさらに取り組みをしていただきたいと思います。 ・制度変更が頻繁にあるふるさと納税や、限りある公有財産の処分に依存しているように見えますので、新たな財源の確保が望まれます。 ・数年前の厳しい状況より今がもっと厳しいとの話もありましたが、公有財産が色々眠っている実態があります。活用できてこそ、その資産は生きるのです。人の手も入らず眠り続ける資産は古くなり、価値の低下を招くだけだと思います。財源に換え、有効に活用したらいいと思います。 ・笠岡市から巣立っていく人たちに向け、笠岡市のふるさと納税のことを知っていただき、納税の際思い出してもらいきっかけになればと思います。(成人式とか高校卒業時、小学校などの税金の勉強の時間など) ・笠岡市のふるさと納税、楽天でのレビューの評価がとても高く嬉しく、担当部署の丁寧な対応の賜物だと思いました。 ・耕作放棄地を農地転用(住宅や駐車場、民間の資材置き場など)することは難しそうですが、笠岡市には家を建てる場所も少ないので何とかならないものなのではないでしょうか。 ・ふるさと笠岡思民寄附件数が減少傾向にあります。自主財源の確保は概ね増加傾向です。引き続きの財源確保を期待しています。 ・財源の確保は達成されてる部分が多く、今後も期待しています。災害が多くなりお米の仕入れも困っていることが増えており、何が起こりうるかわからないご時世です。今後も引き続き土地の売却、ふるさと納税など時代を読みながら戦略を進めてください。			

令和6年度 施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	5－4	施策名	計画管理	主 担 当 課	企画政策課
戦略の柱	計画推進戦略				
基本 方針	総合計画の目標達成に向け、限られた行政資源の有効活用と効率的な行政運営を 実践します。			関 係 課	デジタル推進課 人事課 財政課

<2.総合指標>

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
施策評価の総合評価がA(計画どおり進行して いる)の施策数	単位	目標		3	4	4	4	5
	施策	実績	3	3	3	5	—	—
		達成率		100.0%	75.0%	125.0%	—	—

<3.施策を構成する事務事業の概要>

【達成目標1】行政評価の有効活用(※①)

達成目標1の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
「市民の意見や提案が市政に反映されている」と 感じている市民の割合(市民意識調査)	単位	目標		—	17.0	—	17.5	17.5(R6)
	%	実績	16.5	—	14.2	—	—	—
		達成率		—	83.5%	—	—	—

達成目標1の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	1,474	千円	1,835	千円	1,460	千円	69	千円
うち 一般財源	1,474	千円	1,835	千円	1,460	千円	69	千円

1 行政運営管理業務

		事務事業の目的				事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
職員		担当する施策や事務事業の目的を明確にしたうえで目標を設定し、施策評価において検証することで進行管理を行い、業務改善を進める。				・実施している施策について、外部委員を含めた委員による施策評価を実施して、事業効果の検証や進行管理を行う。 ・施策評価結果を市政報告書としてまとめる。 ・市民意識調査により、市民ニーズを把握し、施策や事務事業、仕事のやり方を常に改善していく。							
		令和2年度		令和3年度			令和4年度			令和5年度			
取組内容		施策評価の実施 36施策(うち7リンク)実施18施策) A評価:3施策、B評価:30施策 C評価:3施策、D評価:なし 施策評価報告書の作成 ・市民意識調査の実施		⇒ 36施策(うち7リンク)実施17施策) A評価:3施策、B評価:29施策 C評価:4施策、D評価:なし ⇒ ○第7次総合計画後期基本計画策定			⇒ 36施策(うち7リンク)実施17施策) A評価:3施策、B評価:29施策 C評価:4施策、D評価:なし ⇒ ・市民意識調査の実施			⇒ 36施策(うち7リンク)実施10施策) A評価:5施策、B評価:31施策 C評価:なし、D評価:なし ⇒			
直接事業費		決算額	1,474	千円	決算額	1,835	千円	決算額	1,460	千円	決算額	69	千円
		うち一般財源	1,474	千円	うち一般財源	1,835	千円	うち一般財源	1,460	千円	うち一般財源	69	千円

【達成目標2】行政改革の推進(※②)

達成目標2の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
行財政改革年間効果額	単位	目標		5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
	億円	実績	7.4	15.5	12.3	7.8	—	—
		達成率		310.0%	246.0%	156.0%	—	—

達成目標2の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	110,832	千円	745,464	千円	150,114	千円	1,109,977	千円
うち 一般財源	110,832	千円	745,464	千円	150,114	千円	1,109,977	千円

2 行政改革推進事業

事務事業の目的				事務事業の内容								
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
行政経営				持続可能な行政経営の基礎となる財政基盤の安定、行政システムの見直し、取り組むべき施策や事業の効率的かつ効果的な推進を図る。 行政改革大綱に基づき、実施計画を作成し、計画的に推進するとともに、PDCAサイクルの中で見直し、改善に取り組む。笠岡市行政改革推進本部を中心に全庁的に推進し、さらに笠岡市行政改革推進委員会において、市民の意見を反映しつつ、進行管理を行う。								
令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度			令和6年度			
⇒行政改革大綱に基づく取組の推進		⇒行政改革大綱に基づく取組の推進		⇒行政改革大綱に基づく取組の推進		⇒行政改革大綱に基づく取組の推進			⇒行政改革大綱に基づく取組の推進			
取組内容												
直接事業費	決算額	110,832	千円	決算額	745,464	千円	決算額	150,114	千円	決算額	1,109,977	千円
	うち一般財源	110,832	千円	うち一般財源	745,464	千円	うち一般財源	150,114	千円	うち一般財源	1,109,977	千円
【達成目標3】適正な公共施設の維持・管理(※③)												

【達成目標3】適正な公共施設の維持・管理(※③)

達成目標3の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
ハコモノ施設総量の増減	単位	目標		△ 1,690	△ 1,260	△ 1,041	△ 1,495	△ 2,016
	㎡	実績	△ 351	△ 1,377	△ 3,791	△ 287	—	—
		達成率		81.5%	300.9%	27.6%	—	—

達成目標3の事業費

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接 事業費	23,875	千円	39,006	千円	188,586	千円	13,244	千円
うち 一般財源	13,201	千円	7,706	千円	57,686	千円	3,800	千円

3	ハコモノ施設総量の増減											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
公共施設 (ハコモノ施設)		財政状況や人口減少に応じて施設総量を縮減し、安定した財政運営を目指す。					・施設総量を縮減するとともに新規整備を抑制し、施設の複合化と効率化を図る。 ・PPP等の事業手法を用いた施設運営への民間活力の導入に向けた検討を行う。					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・ハコモノ施設の建替、施設の除去、複合化の検討 ・PPP等による民間活力活用を検討			⇒ ⇒			⇒ ⇒			⇒ ⇒		
直接事業費	決算額	23,875	千円	決算額	39,006	千円	決算額	188,586	千円	決算額	13,244	千円
	うち一般財源	13,201	千円	うち一般財源	7,706	千円	うち一般財源	57,686	千円	うち一般財源	3,800	千円
【達成目標4】職員の育成(※④)												

達成目標4の指標

指 標 名			目標・実績の推移					
			R2 実績	R3 実績	R4 実績	R5 実績	R6 目標	R7 目標
研修の実施種類	単位	目標		11	15	15	15	15
	種類	実績	11	11	15	15	—	—
		達成率		100.0%	100.0%	100.0%	—	—

達成目標4の事業費

令和2年度			令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	20,895	千円	21,975	千円	29,165	千円	37,635	千円
うち一般財源	20,878	千円	21,003	千円	28,107	千円	36,529	千円

4	人事管理事業												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)			意図(どのようにしたいのか)										
職員			職員を適材適所に配置するとともに、その職責に応じた人事管理を行う。福利厚生事業の充実を図り、職場環境の整備に努める。			・定員の適正化及び適材適所の人事配置 ・人事評価制度の適正な運用及び有効活用 ・給与の適正化及び給与支給事務							
		令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容		・業務の目的と特性に応じた組織編制 ・定員管理計画による計画的な組織配置と採用 ・適材適所の職員配置と能力に応じた任用 ・人事評価の実施・検証			⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒(※) ⇒(※) ⇒(※) ⇒ (※)「第8次笠岡市定員適正化計画」を策定			⇒ ⇒ ⇒ ⇒「人事評価制度」の見直し(R5・6年度)		
直接事業費	決算額	16,106	千円	決算額	17,229	千円	決算額	22,517	千円	決算額	21,704	千円	
	うち一般財源	16,106	千円	うち一般財源	17,229	千円	うち一般財源	22,517	千円	うち一般財源	21,704	千円	

5	人材育成事業											
事務事業の目的							事務事業の内容					
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
職員		管理監督者のマネジメント能力を向上させるとともに、職員の意識改革により能力のレベルアップを図り、職務に関する課題の解決に向けて、積極的に挑戦する人づくりを進める。					・人材育成基本方針に沿った研修の実施 ・人事評価結果を活用して職員の能力開発を促進する研修の実施 ・資格取得に関する助成					
	令和2年度			令和3年度			令和4年度			令和5年度		
取組内容	・研修計画に基づく職員研修 ・管理・監督者による職員研修を通しての指導育成 ・職員一人一人の自己研鑽への支援 ・さまざまな組織との人事交流			⇒ ⇒ ⇒ ⇒			⇒(※) ⇒(※) ⇒(※) ⇒(※) (※)「笠岡市人材育成基本方針」を改定			⇒ ⇒ ⇒ ⇒マレーシア・コタバル市への職員派遣		
直接事業費	決算額	4,789	千円	決算額	4,746	千円	決算額	6,648	千円	決算額	15,931	千円
	うち一般財源	4,772	千円	うち一般財源	3,774	千円	うち一般財源	5,590	千円	うち一般財源	14,825	千円

<4.施策の直接事業費(3の合計)>

	令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度	
直接事業費	808,280	千円	369,325	千円	6,648	千円	1,160,925	千円
うち一般財源	776,008	千円	237,367	千円	5,590	千円	1,150,375	千円

<5.前年度の委員コメントに対する対応・回答>

委員コメント	対応・回答
市民の意見や提案が市政に反映されていると感じている市民の割合が低下しました。市民の声を拾う機会が必要でしょうか。広報での「市長への提案」、Eメールの状況はいかがでしょうか？市の会議についても公募にて多くの希望者が参加できればと思います。 今回も施策評価会議に参加させていただきました。市役所の皆様のご尽力を感じ、感謝する機会となっています。昨年度は3日を通して多くの課よりご説明いただいたのですが、今回は1日で限られた課の説明しか聞けませんでした。不明点に関してはとても親切にお答えいただき、詳しく文書でご返答いただいた課もあり担当課の熱心さが伝わりました。 文書のみでの評価では数値、達成率のみでの評価となり申し訳なく感じました。取り組み内容、実績値など具体的にあるとありがたいです。評価前に質問もできませんのでコメント欄に書かせていただいた次第です。また今回は達成率の計算など誤りが多かったのも、文書のみでの評価の課に関しては誤った達成率で判断された可能性もあったのではないかと心配しています。目標値については第7次笠岡市総合計画と同じ数値の記載をお願いします。少しでも適正な評価につながるよう来年度に反映していただければと思います。引き続き、笠岡市民のためよろしく願いいたします。	各課のHPや意見箱、市長への提案等で様々なご意見をいただき、担当課で共有し、改善できるものは行っていますが、令和6年度の市民意識調査では設問の改善を行っていききたいと思います。また、各課が独自に行っているアンケート等も活用してよりよい施策に活かしていきます。 来年度は評価数を増やし、より多くの取組を説明いたします。目標値については、総合計画と同じ数値にしていますが、入力誤りのないよう再度点検します。
行政施策については、評価検討委員会において、4段階の評価をしています。ビジョンを作り、それに向かっての目標値を掲げ、それに向かって努力していくものです。時として、昨年度の達成率から目標値を査定しがちであるが、あくまでも、高いビジョンに向かっての値であると思います。	長期計画に基づいて最終目標を設定していますが、途中の年度計画は最終目標に向かって段階を経て達成するように設定しております。

<6.令和5年度の振返り>(担当部署自己評価)

施策の 進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
------------	--	---

<7.未達成の指標への対応策>

未達成 指標 への 対応策	・ハコモノ施設総量の縮減 全庁を挙げた推進体制として「公共施設マネジメント推進チーム」を整備するとともに、必要とされる施設の優先順位づけを行い、各部署で所管している施設の統廃合や集約化を通して、笠岡市公共施設等総合管理計画に基づいた公共施設の削減を推進していく。
------------------------	--

<8.委員による評価結果>

総合 評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果	B
コメント	・施策評価の総合評価がAの施策数は多くなっています。また行政改革年間効果額は令和3年度より少なくなっていますが、目標より増えています。今後もさらに取り組みをしていただきたいと思います。 ・行財政改革の年間効果額の算出方法が疑問です。毎年これだけの効果があれば、財政難にならないような気がします。 ・市政の計画施策を評価していますが、評価計算式を作成しているのであれば、その計算にそって四段階評価したのであれば、そのままの評価を答申すれば良いと考えます。 ・ハコモノ施設の縮減に向かう方針を出されていますが、地域からの利用希望などある場合はどうなるのでしょうか。 ・人口がどんどん減っている中、公共施設等の改修など長いスパンで考え、無駄なくしていただければと思います。 ・職員がさらに総合計画の目標に関心を持って、施策を行う必要性を感じます。 ・総合計画に基づき進行していると思います。必要に応じて指標を変えていかなければいけません。官公民一体と力を合わせていかないと乗り越えていけないと思います。しっかりと市民の声を聴いていただき、施策を反映していただきたいと思います。			